

令和 4 年度
東広島市市民満足度調査
報 告 書

令和 4 年 11 月
東広島市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収状況	1
4. 標本誤差	1
5. 報告書の見方	2
II 基本的な属性	3
III 調査の分析	5
1. 現在の住環境について	5
2. 市政運営について	27
3. 市が実施している施策の満足度と重要度について	30
4. SDGsについて	41
5. 男女共同参画について	45
6. 東広島市の特産品について	56
7. 消費生活について	59
8. ごみの減量・資源化について	67
9. 地域コミュニティ活動の参加状況について	72
10. 住民自治協議会について	91
11. 困りごとがあった時の相談先について	93
12. 市内の大学との連携について	96
13. 運動・スポーツについて	101
14. 生涯学習について	112
15. 防災について	120
<資料編>	128

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第五次東広島市総合計画」を計画的かつ効率的に推進するため、市の施策に係る市民のニーズや満足度を把握するとともに、今後の施策展開における基礎資料として活用することを目的として実施した。

2. 調査の設計

(1) 調査地域	東広島市全域
(2) 調査対象	東広島市内に居住している18歳以上の男女個人
(3) 標本数	2,500人
(4) 抽出方法	層化無作為抽出法(住民基本台帳からの抽出)
(5) 調査方法	郵送配布・郵送回収およびインターネット回答によるアンケート調査
(6) 調査期間	令和4年7月7日(木)～令和4年8月22日(月)

3. 回収状況

(1) 配布数	2,500件(うち未着数8件)
(2) 有効回収数	1,140件
(3) 有効回収率	45.7% (※前回調査: 45.1%)

4. 標本誤差

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体(東広島市の18歳以上の男女)の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の<算出式>と<早見表>を次に示す。

統計学上の標本誤差は、比率算出の基数(回答サンプル数)及び回答の比率によって誤差幅が異なる。今回調査の誤差幅は、±2.96%以内となる。

<算出式>

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数(東広島市の18歳以上の男女)
n = 比率算出の基数(回答サンプル数)
p = 回答の比率(0 ≤ p ≤ 1)

<早見表>

回答比率(p) 標本数(n)	5%または 95%程度	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
100	±4.36	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00
200	±3.08	±4.24	±5.66	±6.48	±6.93	±7.07
500	±1.95	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
1,000	±1.38	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
1,140	±1.29	±1.78	±2.37	±2.71	±2.90	±2.96
5,000	±0.62	±0.85	±1.13	±1.30	±1.39	±1.41
10,000	±0.44	±0.60	±0.80	±0.92	±0.98	±1.00

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

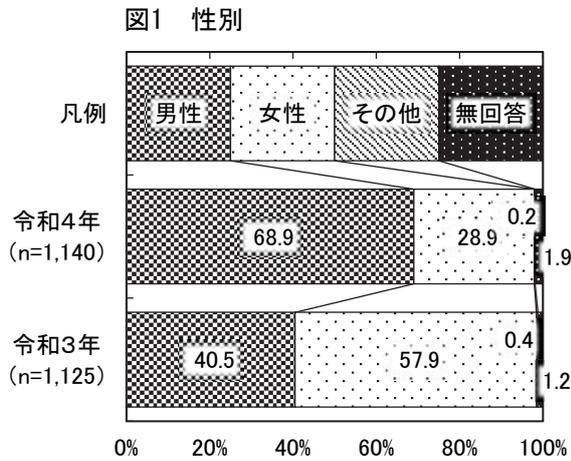
5. 報告書の見方

- (1) 図表中に示す n は、回答数総数のことである。
- (2) 割合は n を 100.0% として算出し、図表中の構成比(%)は、小数点第 2 位以下を四捨五入したため、合計が 100.0% にならない場合がある。
- (3) 回答が 2 つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は 100.0% を超える場合がある。
- (4) 統計学上 50 サンプル以下の集計(回答者数)は信憑性が低いため、原則としてクロス集計については、50 サンプル以上を記述(コメント)の対象としている。
 ※居住地別の「志和地区」、「福富地区」、「豊栄地区」、「河内地区」は 50 サンプル未満であるが、コメントの対象としている。
 ※限定質問で全体のサンプル数が少ない場合は、コメントの対象としている。
- (5) 属性別(クロス集計)の記述では、全体及び属性間の集計結果と比較し、特徴または傾向がみられるものを記している。
- (6) 経年変化分析については、令和 3 年度調査結果(前回調査結果)を起点として変化分析を示し、参考値としてそれ以前の年度の調査結果をあわせて掲載している。
- (7) 表・グラフの属性別データは、無回答を除いて掲載しているため、回答数総数と属性の内訳の合計は一致しない。

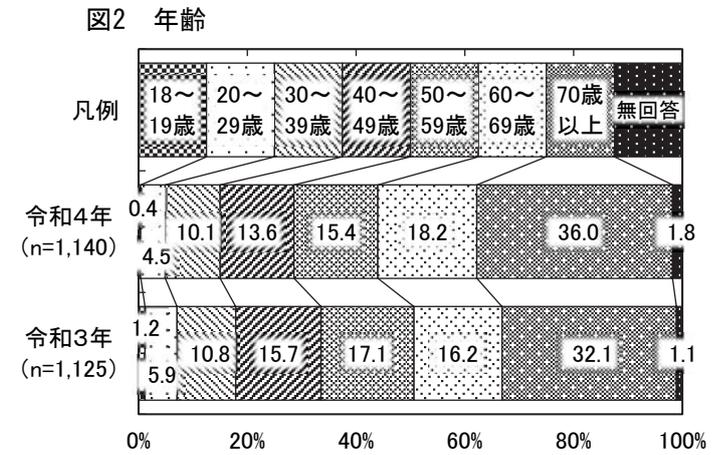
II 基本的な属性

それぞれの項目ごとに、当てはまるものを1つだけ選んで○をお付けください。

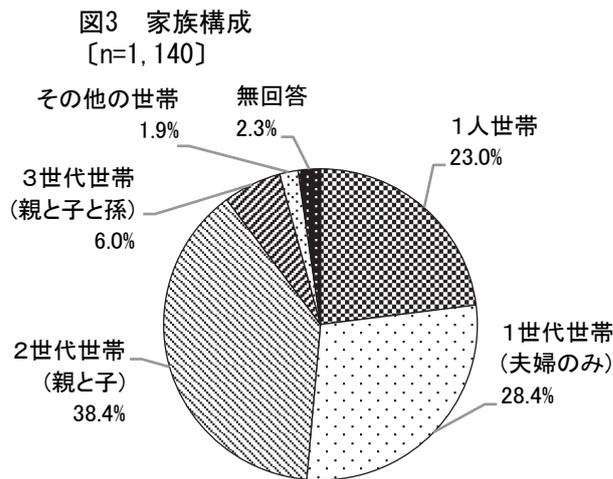
(1) 性別



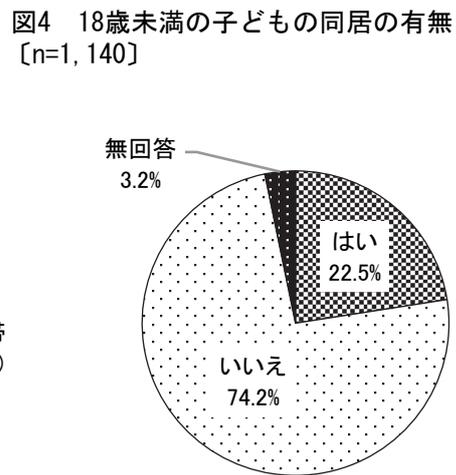
(2) 年齢



(3) 家族構成

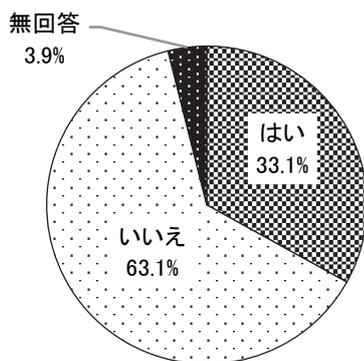


(4) 18歳未満の子どもの同居の有無



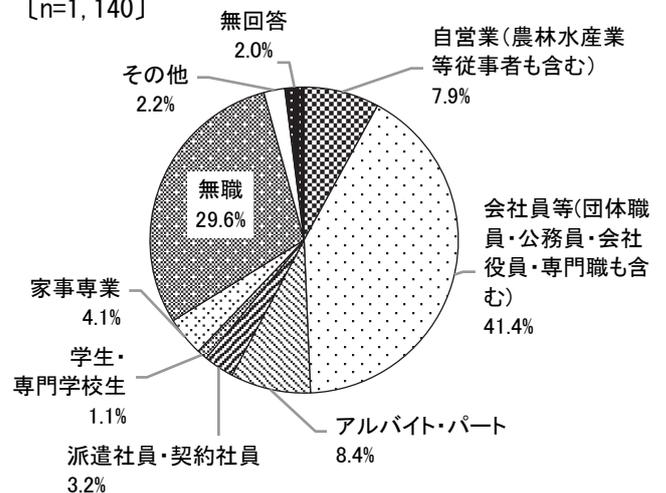
(5) 65歳以上の方の同居の有無

図5 65歳以上の方の同居の有無 [n=1, 140]



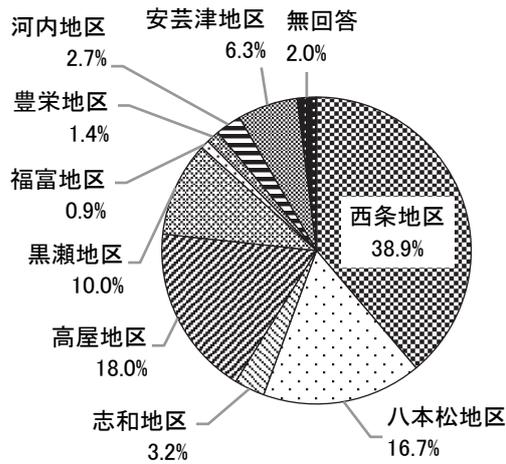
(6) 職業

図6 職業 [n=1, 140]



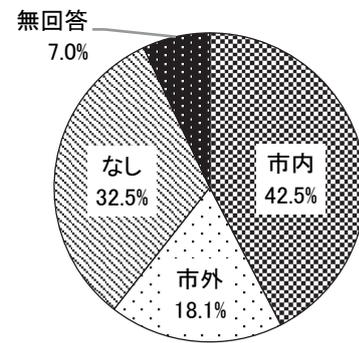
(7) 居住地区

図7 居住地区
[n=1, 140]



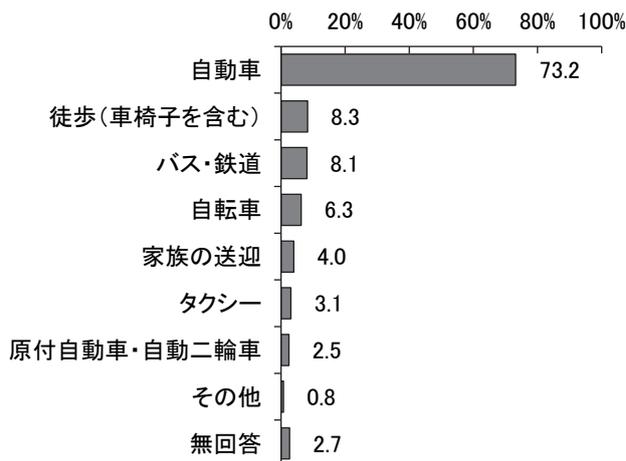
(8) 通勤、通学先

図8 通勤・通学先
[n=1, 140]



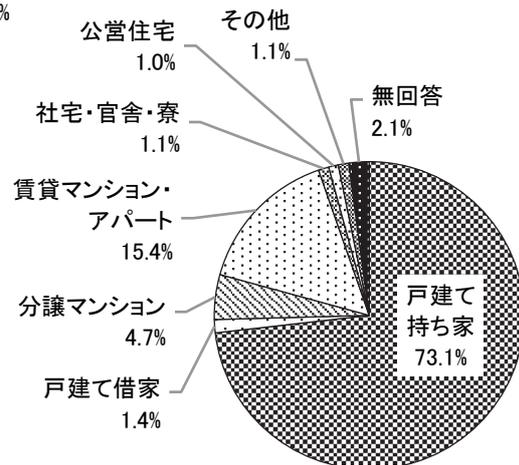
(9) 主な移動手段

図9 主な移動手段<複数回答>
[n=1, 140]



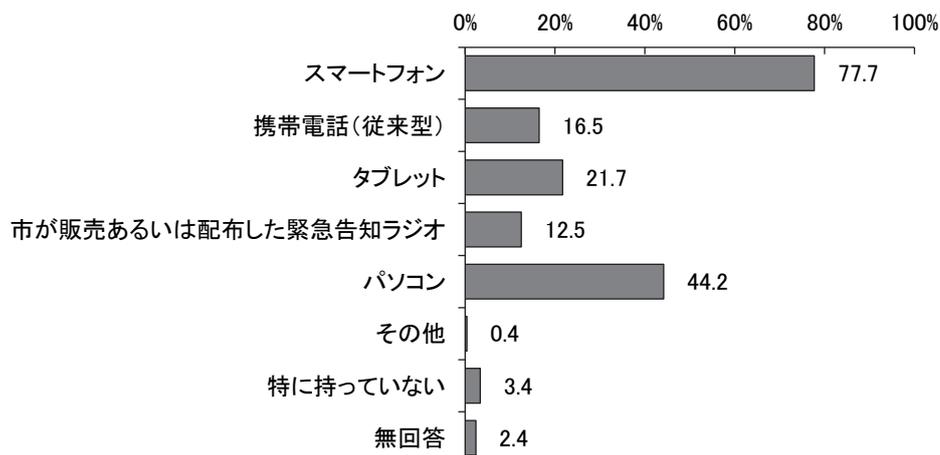
(10) 居住形態

図10 居住形態
[n=1, 140]



(11) お持ちの端末

図11 お持ちの端末<複数回答>
[n=1, 140]



Ⅲ 調査の分析

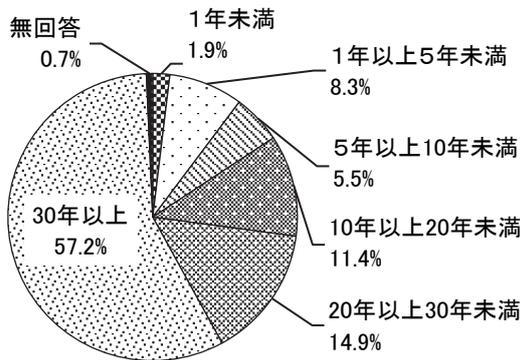
1. 現在の住環境について

(1) 居住年数

問1 あなたは、東広島市にお住まいになって何年位になりますか。
 (1つだけ選んで○をお付けください)※合併前の旧市・旧町を含めてお答えください。

居住年数については、「30年以上」が57.2%で最も高く、次いで、「20年以上30年未満」が14.9%、「10年以上20年未満」が11.4%、「1年以上5年未満」が8.3%、「5年以上10年未満」が5.5%、「1年未満」が1.9%となっている。10年以上は、83.5%を占めている。

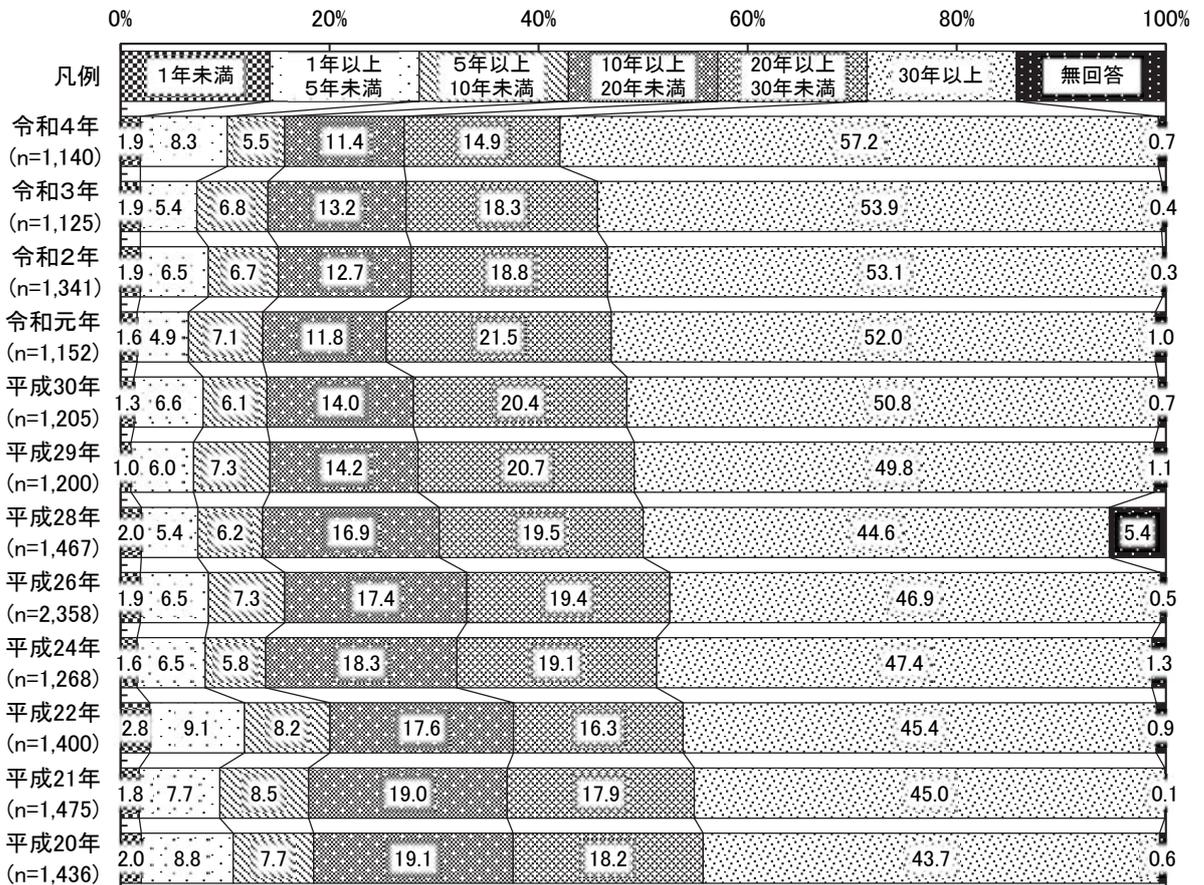
図1-1 居住年数 [n=1,140]



【経年変化】

令和3年度調査(前回)との比較では、顕著な変化はみられなかった。

図1-2 居住年数／経年変化



【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、「30年以上」は『女性』が『男性』より4.8ポイント高い。

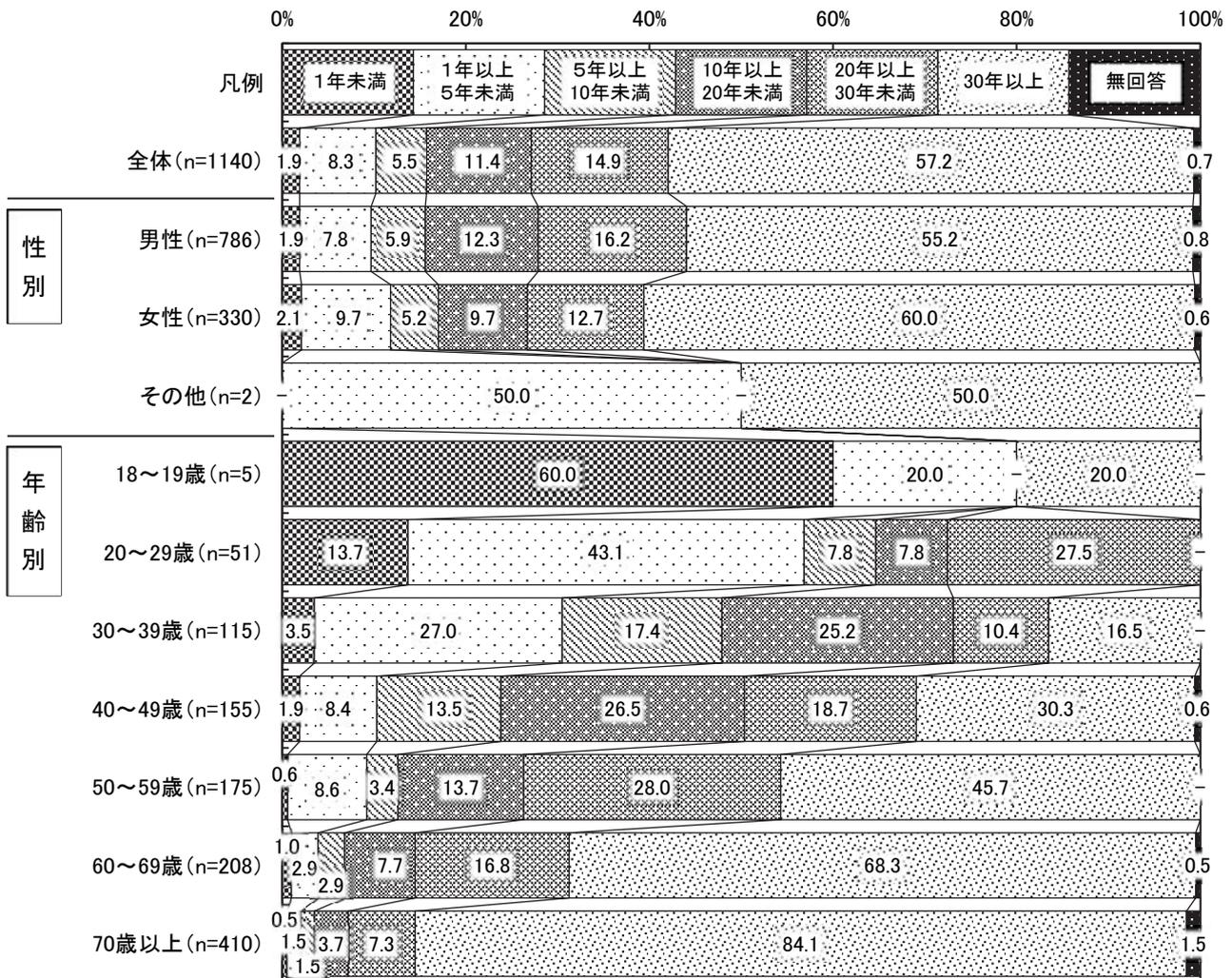
年齢別では、「1年未満」は『20～29歳』が13.7%と11.8ポイント、「1年以上5年未満」は『20～29歳』が43.1%と34.8ポイント、『30～39歳』が27.0%と18.7ポイント、それぞれ全体より高く、年齢が上がるほど低くなっている。

「5年以上10年未満」は『30～39歳』が17.4%と11.9ポイント全体より高く、各年齢層の中で最も高い。「10年以上20年未満」は『40～49歳』が26.5%と15.1ポイント、『30～39歳』が25.2%と13.8ポイント、それぞれ全体より高い。「20年以上30年未満」は『20～29歳』が27.5%と12.6ポイント、『50～59歳』が28.0%と13.1ポイント、それぞれ全体より高い。

「30年以上」は『70歳以上』が84.1%と26.9ポイント全体より高く、各年齢層の中で最も高い。「30年以上」は年齢が上がるほど高くなっている。

※性別の『その他』および年齢別の『18～19歳』はサンプル数が少ないので、コメントしない。以下同様。

図1-3 居住年数／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

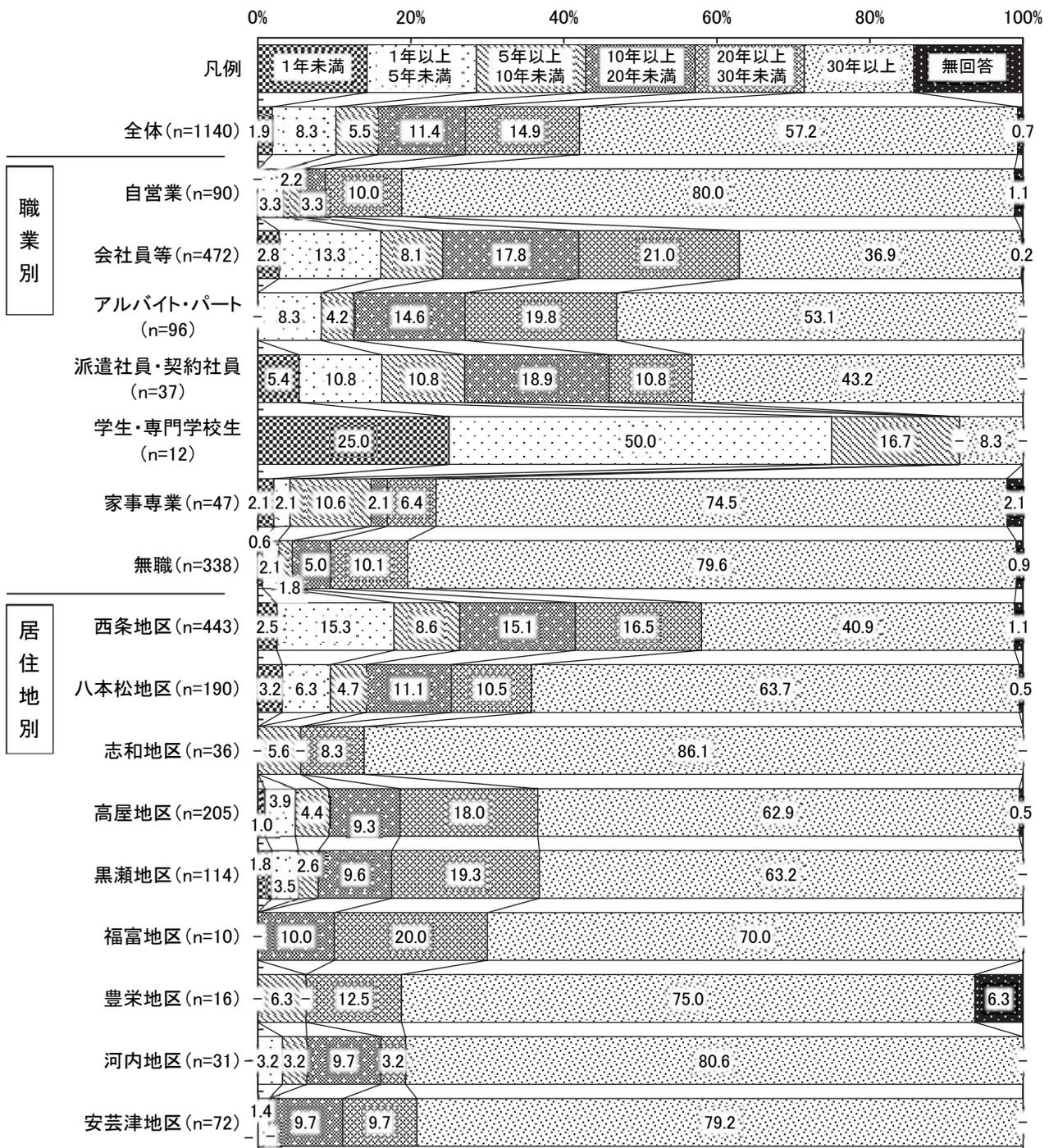
職業別では、「30年以上」は『自営業』が80.0%と22.8ポイント、『無職』が79.6%と22.4ポイント、それぞれ全体より高い。

居住地別では、「1年以上5年未満」は『西条地区』が15.3%と7.0ポイント、「20年以上30年未満」は『福富地区』が20.0%と5.1ポイント、それぞれ全体より高い。

「30年以上」は『志和地区』が86.1%、『河内地区』が80.6%、『安芸津地区』が79.2%と、これらの地区では全体より20ポイント以上高い。

※『派遣社員・契約社員』『学生・専門学校生』『家事専業』はサンプル数が少ないので、コメントしない。
以下同様。

図1-4 居住年数／職業別・居住地別



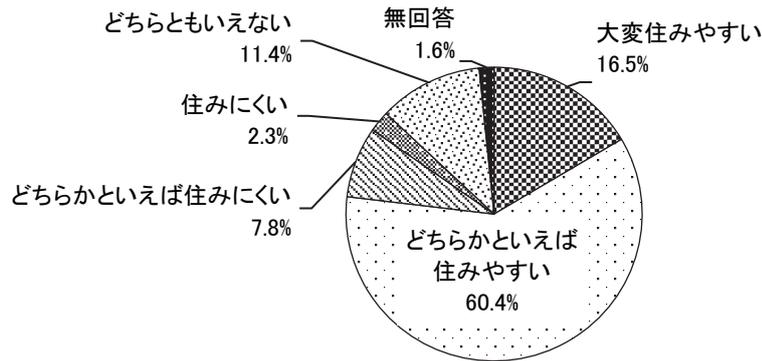
(2) 住み心地

問2 あなたは、東広島市の「住み心地」についてどう感じていますか。
(1つだけ選んで○をお付けください)

住み心地については、「大変住みやすい」が16.5%、「どちらかといえば住みやすい」が60.4%で、「住みやすい」（「大変住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）は、76.9%と8割弱を占める。

「どちらかといえば住みにくい」は7.8%、「住みにくい」は2.3%であった。

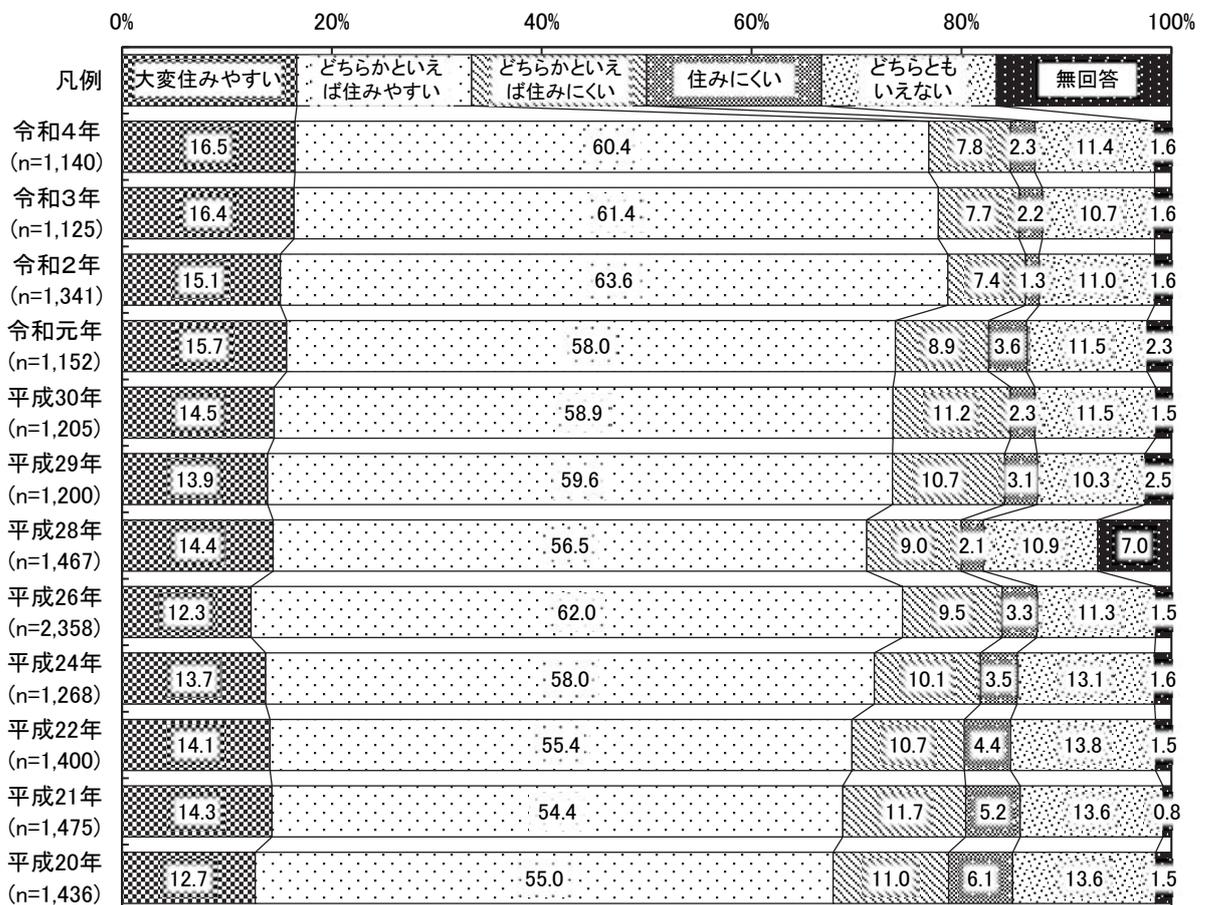
図2-1 住み心地 [n=1, 140]



【経年変化】

令和3年度調査(前回)との比較では、顕著な変化はみられなかった。

図2-2 住み心地／経年変化



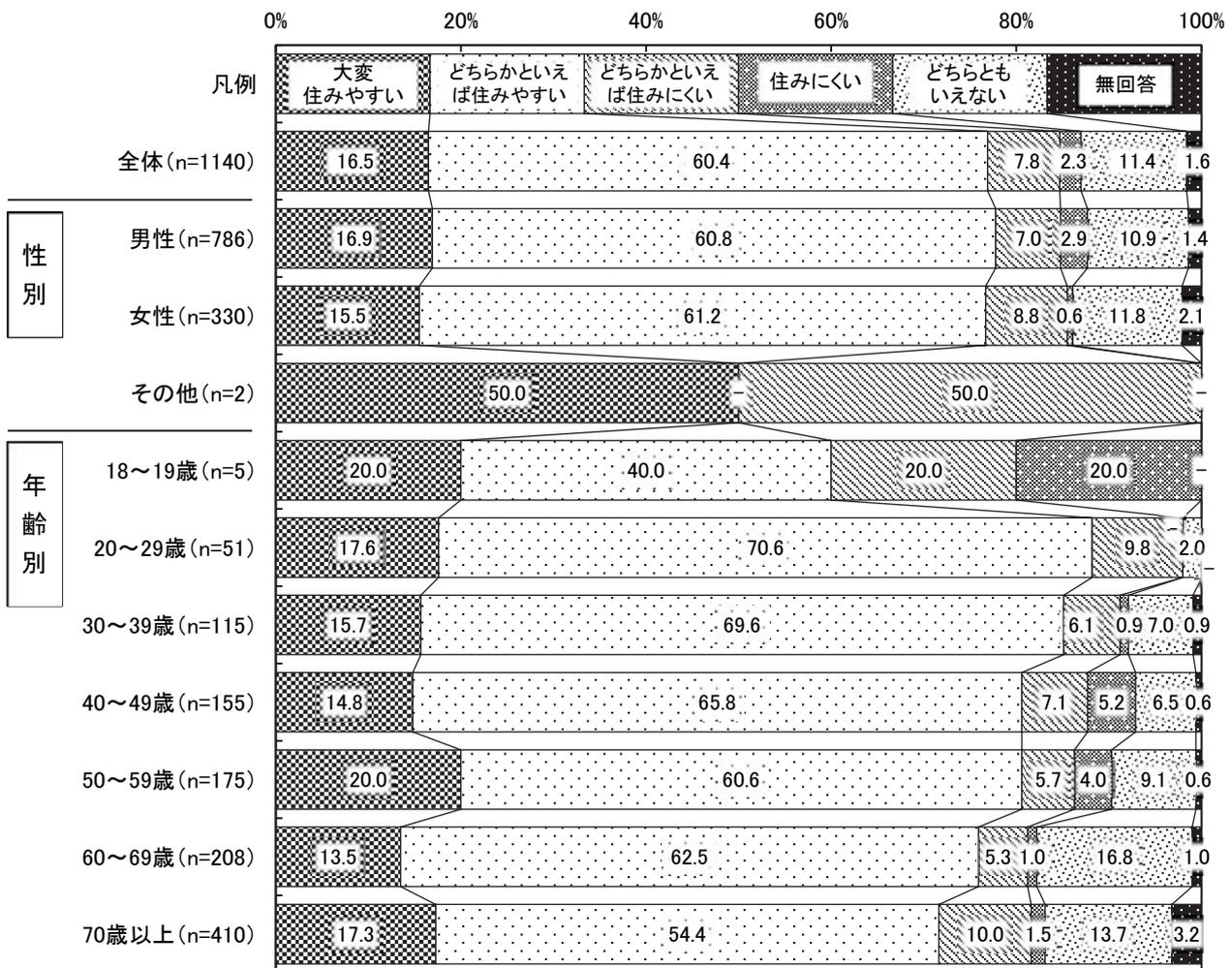
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“住みやすい”（「大変住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）は『男性』77.7%、『女性』76.7%と男女とも7割を超えている。

年齢別では、“住みやすい”は『20～29歳』が88.2%と11.3ポイント全体より高く、年齢が上がるほど低くなっている。

“住みにくい”（「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の合計）の値については、年齢別で顕著な差は見られない。

図2-3 住み心地／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

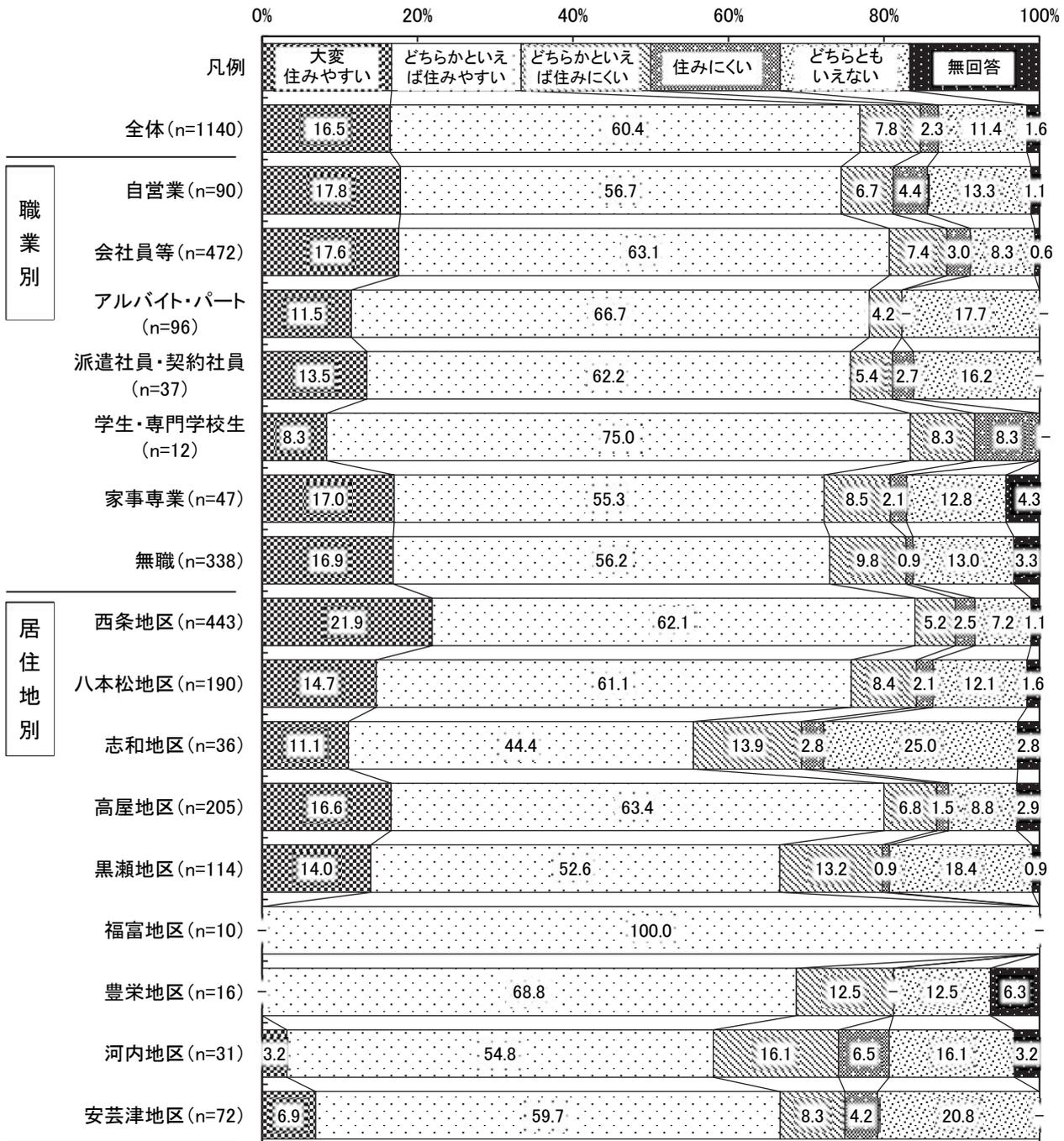
職業別では、顕著な差はない。

居住地別では、「大変住みやすい」は『西条地区』が21.9%と5.4ポイント全体より高い。

“住みやすい”は『福富地区』が100.0%と23.1ポイント、『西条地区』が84.0%と7.1ポイント、それぞれ全体より高い。

“住みにくい”は『河内地区』が22.6%と12.5ポイント、『志和地区』が16.7%と6.6ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図2-4 住み心地／職業別・居住地別



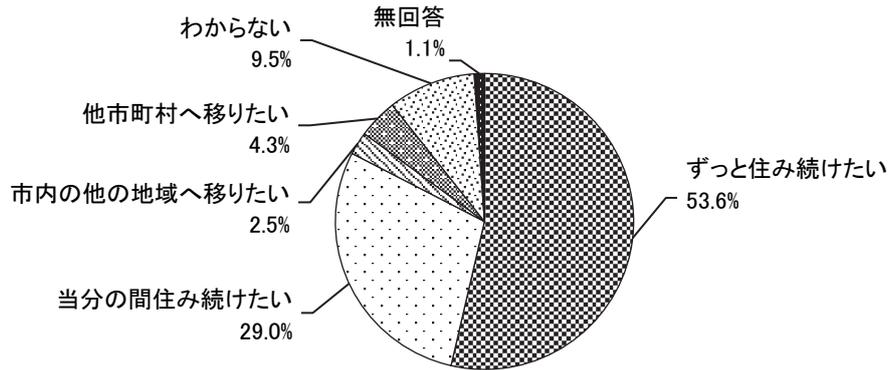
(3) 居住意向

問3 あなたは、今後も東広島市に住み続けたいと思いますか。
(1つだけ選んで○をお付けください)

居住意向については、「ずっと住み続けたい」が53.6%で最も高く、次いで、「当分の間住み続けたい」が29.0%で、“住み続けたい”（「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」の合計）は、82.6%と8割以上を占める。

「他市町村へ移りたい」は4.3%、「市内の他の地域へ移りたい」は2.5%であった。

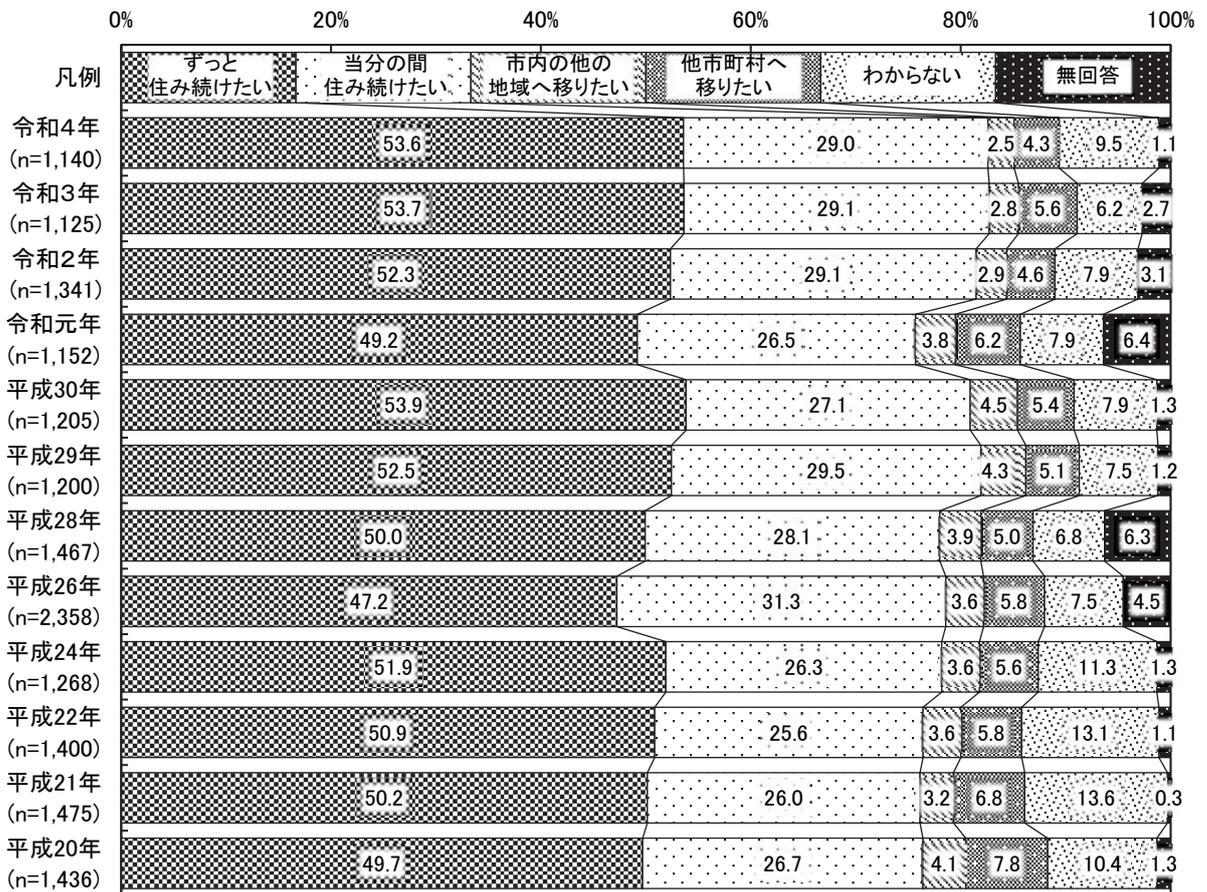
図3-1 居住意向 [n=1,140]



【経年変化】

令和3年度調査(前回)との比較では、顕著な変化はみられなかった。

図3-2 居住意向／経年変化



【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

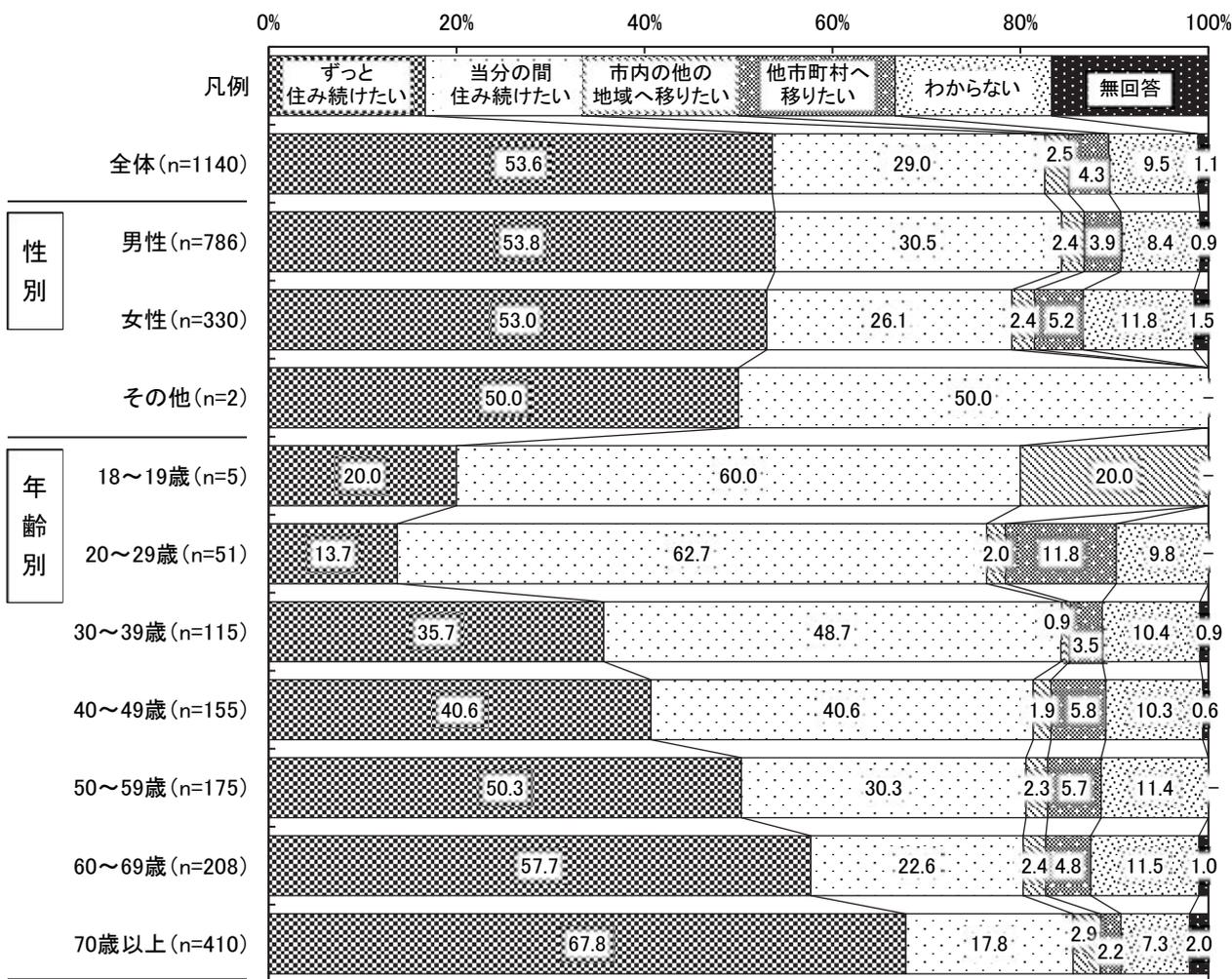
性別では、“住みたい”（「ずっと住みたい」と「当分の間住みたい」の合計）は『男性』84.3%、『女性』79.1%と『男性』が『女性』より5.2ポイント高い。

年齢別では、「ずっと住みたい」は『70歳以上』が67.8%と各年齢層の中で最も高く、年齢が上がるほど高くなっている。「当分の間住みたい」は『20～29歳』が62.7%と33.7ポイント、『30～39歳』が48.7%と19.7ポイント、『40～49歳』が40.6%と11.6ポイント、それぞれ全体より高い。

「他市町村へ移りたい」は『20～29歳』が11.8%と7.5ポイント全体より高い。

“住みたい”の値については『20～29歳』が76.4%と6.2ポイント全体より低く、各年齢層の中で最も低い。

図3-3 居留意向／性別・年齢別

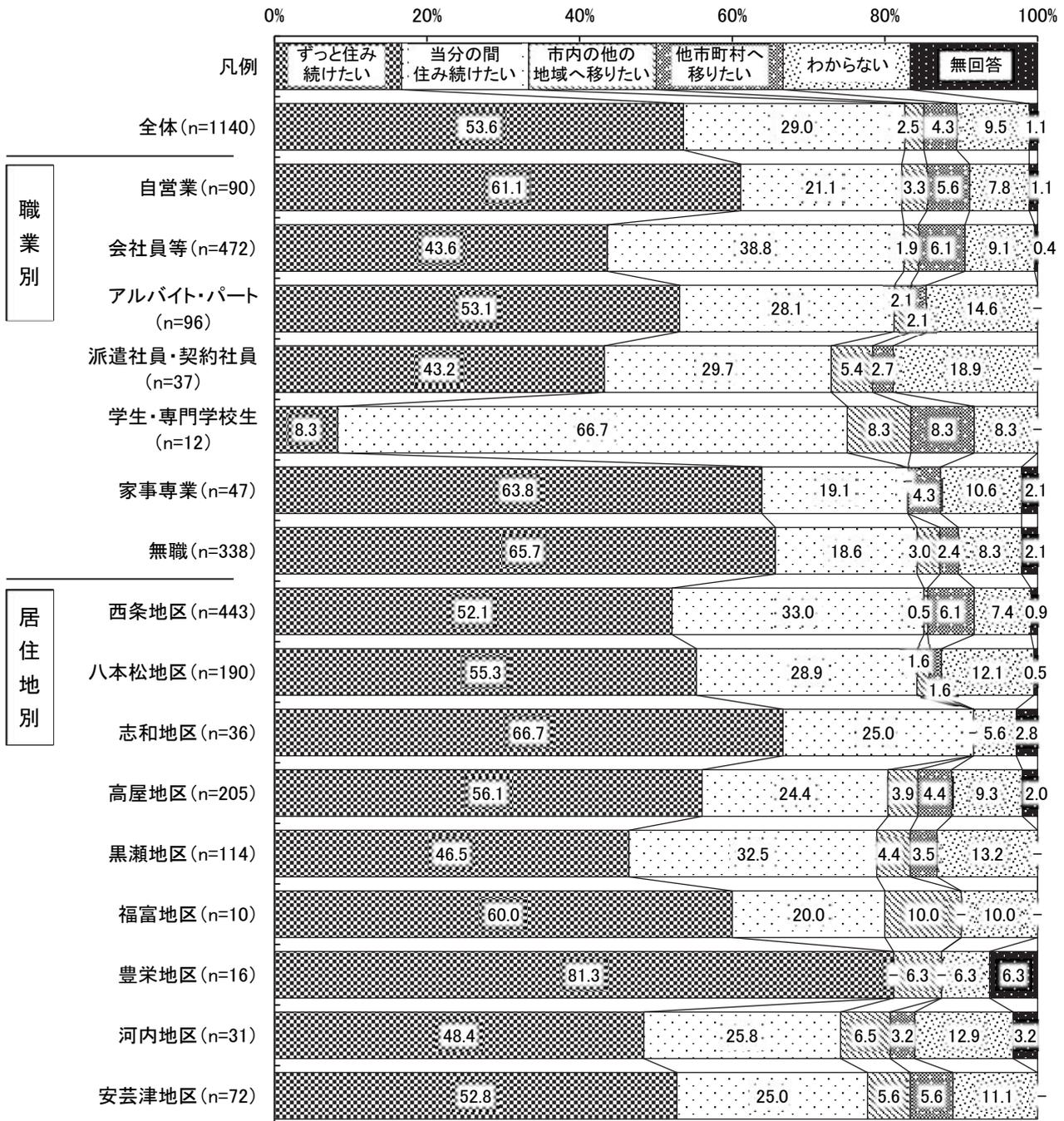


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“住み続けたい”については顕著な差は見られないが、「ずっと住み続けたい」は『無職』が65.7%と12.1ポイント、『自営業』が61.1%と7.5ポイント、それぞれ全体より高い。

居住地別では、「ずっと住み続けたい」は『豊栄地区』が81.3%と27.7ポイント、『志和地区』が66.7%と13.1ポイント、『福富地区』が60.0%と6.4ポイント、それぞれ全体より高い。

図3-4 居住意向／職業別・居住地別



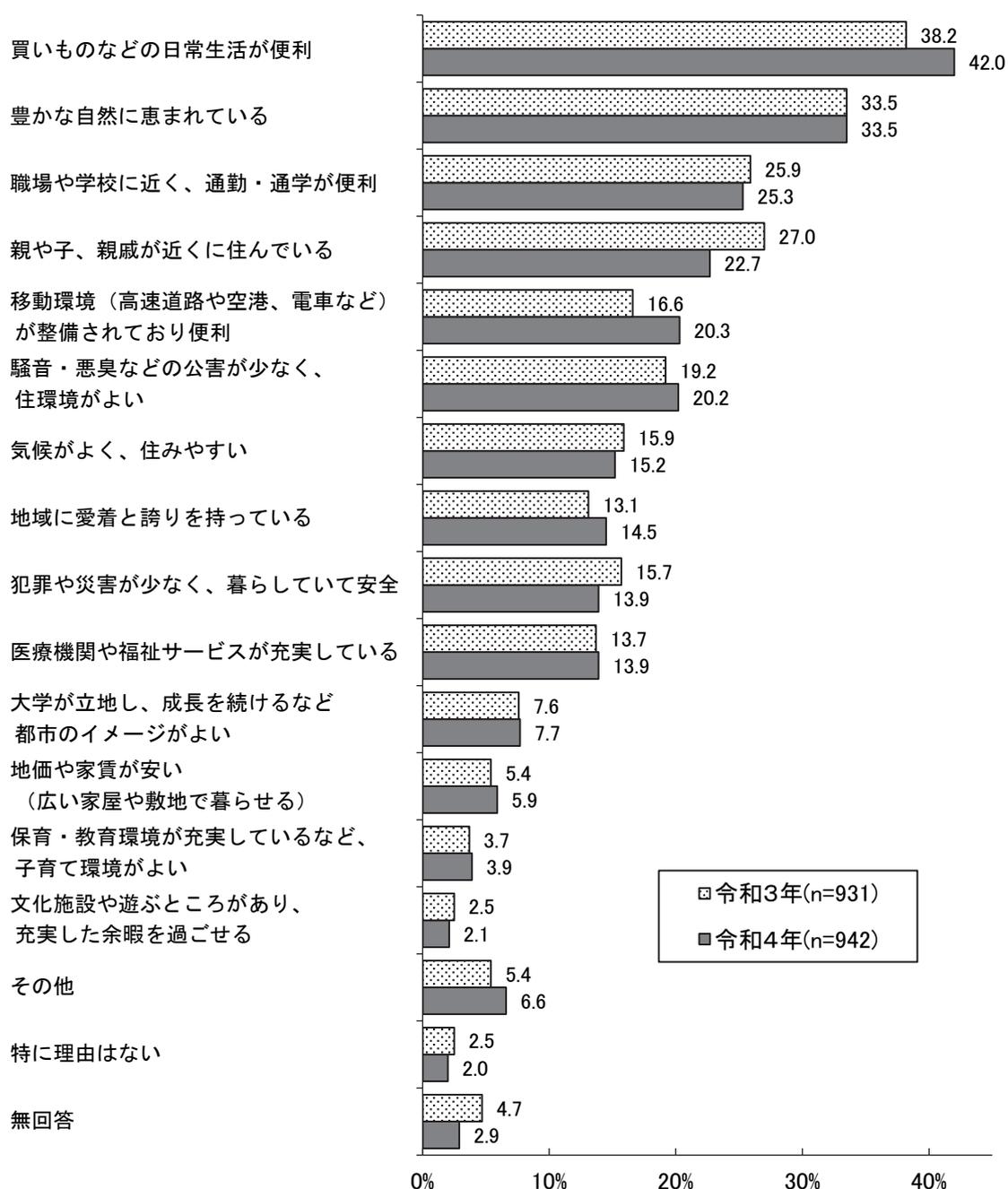
(4) 住み続けたい理由

問3で、「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」とお答えの方におたずねします。
 問3-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

問3で、「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」の回答者(該当件数942件)に住み続けたい主な理由についてたずねると、「買い物などの日常生活が便利」が42.0%と最も高く、次いで、「豊かな自然に恵まれている」が33.5%、「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」が25.3%、「親や子、親戚が近くに住んでいる」が22.7%、「移動環境(高速道路や空港、電車など)が整備されており便利」が20.3%、「騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい」が20.2%となっている。

図3-5 住み続けたい理由<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

「親や子、親戚が近くに住んでいる」は『女性』が『男性』より10.2ポイント高い。反対に『男性』が『女性』より高い項目としては、「移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利」が9.4ポイント、「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」が7.2ポイント、それぞれ『女性』より高くなっている。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「買い物などの日常生活が便利」は『20～29歳』が56.4%と14.4ポイント、『50～59歳』が51.8%と9.8ポイント、『30～39歳』が48.5%と6.5ポイント、それぞれ全体より高い。

「豊かな自然に恵まれている」は『60～69歳』が39.5%と6.0ポイント全体より高い。

「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」は60歳未満の各年齢層で高く、特に『40～49歳』が51.6%と26.3ポイント、『20～29歳』が51.3%と26.0ポイント、それぞれ全体より高く差が大きい。

「親や子、親戚が近くに住んでいる」は『30～39歳』が37.1%と14.4ポイント全体より高い。

「移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利」は『50～59歳』が30.5%と10.2ポイント、『40～49歳』が27.0%と6.7ポイント、それぞれ全体より高い。

「地価や家賃が安い」は『20～29歳』と『30～39歳』がそれぞれ10ポイント以上全体より高い。

表3-1 住み続けたい理由／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：％

		買い物などの日常生活が便利	豊かな自然に恵まれている	職場や学校に近く、通勤・通学が便利	親や子、親戚が近くに住んでいる	移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利	騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい	気候がよく、住みやすい	地域に愛着と誇りを持っている	医療機関や福祉サービスが充実している	犯罪や災害が少なく、暮らしていて安全	大学のイメージがよい	（広い家屋や敷地で暮らせるなど）地価や家賃が安い	保育・教育環境が充実しているなど、子育て環境がよい	文化施設や遊ぶところがあり、充実した余暇を過ごせる	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=942)		42.0	33.5	25.3	22.7	20.3	20.2	15.2	14.5	13.9	13.9	7.7	5.9	3.9	2.1	6.6	2.0	2.9
性別	男性 (n=663)	42.7	33.5	27.5	20.1	23.2	19.9	15.2	15.5	13.7	13.4	8.9	6.5	3.5	2.1	6.5	2.4	1.7
	女性 (n=261)	39.5	33.3	20.3	30.3	13.8	19.9	15.3	12.3	13.4	15.7	5.0	4.6	4.2	1.5	7.3	1.1	6.1
	その他 (n=2)	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-
年齢別	18～19歳 (n=4)	50.0	25.0	50.0	-	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-
	20～29歳 (n=39)	56.4	17.9	51.3	17.9	23.1	5.1	12.8	5.1	7.7	7.7	2.6	17.9	5.1	7.7	2.6	-	-
	30～39歳 (n=97)	48.5	26.8	41.2	37.1	18.6	12.4	9.3	6.2	5.2	8.2	4.1	16.5	9.3	5.2	6.2	-	1.0
	40～49歳 (n=126)	45.2	33.3	51.6	23.0	27.0	7.1	8.7	15.1	3.2	6.3	7.9	6.3	7.1	2.4	4.0	2.4	2.4
	50～59歳 (n=141)	51.8	28.4	39.0	21.3	30.5	15.6	7.1	9.9	7.8	13.5	9.9	7.1	2.8	2.1	5.7	0.7	2.8
	60～69歳 (n=167)	34.7	39.5	16.8	22.2	21.6	26.3	19.8	19.2	15.0	10.8	6.0	4.2	2.4	0.6	10.8	1.2	2.4
	70歳以上 (n=351)	36.5	36.5	7.4	20.8	14.2	26.8	20.2	17.7	22.2	21.1	9.1	2.0	1.7	0.9	6.8	3.7	4.3

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」は『会社員等』が42.7%と17.4ポイント全体より高い。
 「地域に愛着と誇りを持っている」は『自営業』が28.4%と13.9ポイント全体より高い。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「買い物などの日常生活が便利」は『西条地区』、「豊かな自然に恵まれている」は『福富地区』、『河内地区』、『志和地区』がそれぞれ全体より10ポイント以上高い。

「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」は『西条地区』、「騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい」は『志和地区』、『豊栄地区』、『河内地区』がそれぞれ全体より10ポイント以上高い。

「気候がよく、住みやすい」は『安芸津地区』、『黒瀬地区』が、「地域に愛着と誇りを持っている」は『福富地区』、『豊栄地区』、『河内地区』が、「犯罪や災害が少なく、暮らしていて安全」は『黒瀬地区』がそれぞれ全体より10ポイント以上高くなっている。

表3-2 住み続けたい理由／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：%

		買い物などの日常生活が便利	豊かな自然に恵まれている	職場や学校に近く、通勤・通学が便利	親や子、親戚が近くに住んでいる	移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利	騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい	気候がよく、住みやすい	地域に愛着と誇りを持っている	医療機関や福祉サービスが充実している	犯罪や災害が少なく、暮らしていて安全	都市のイメージがよい	大学が立地し、成長を続けるなど	（広い家屋や敷地で暮らせるなど） 地価や家賃が安い	保育・教育環境が充実しているなど、子育て環境がよい	文化施設や遊ぶところがあり、充実した余暇を過ごせる	その他	特に理由はない	無回答
全体(n=942)		42.0	33.5	25.3	22.7	20.3	20.2	15.2	14.5	13.9	13.9	7.7	5.9	3.9	2.1	6.6	2.0	2.9	
職業別	自営業(n=74)	27.0	37.8	10.8	25.7	18.9	29.7	13.5	28.4	10.8	14.9	12.2	-	-	-	13.5	1.4	6.8	
	会社員等(n=389)	49.6	29.0	42.7	22.9	27.2	12.6	11.3	12.1	6.7	10.0	6.9	8.2	4.9	3.3	5.1	1.5	1.5	
	アルバイト・パート(n=78)	39.7	41.0	29.5	26.9	11.5	24.4	17.9	14.1	11.5	11.5	5.1	7.7	9.0	1.3	7.7	-	2.6	
	派遣社員・契約社員(n=27)	44.4	18.5	22.2	18.5	22.2	11.1	7.4	11.1	7.4	37.0	18.5	18.5	11.1	-	3.7	-	3.7	
	学生・専門学校生(n=9)	44.4	22.2	66.7	-	-	11.1	11.1	-	-	11.1	11.1	22.2	-	11.1	-	-	-	
	家事専業(n=39)	38.5	43.6	12.8	30.8	25.6	7.7	17.9	10.3	15.4	12.8	7.7	2.6	-	-	12.8	5.1	5.1	
	無職(n=285)	36.8	36.8	4.9	22.1	14.7	28.8	19.6	16.1	25.6	18.2	7.4	3.5	1.8	1.4	6.0	3.2	3.5	
	地域別	西条地区(n=377)	58.1	25.2	35.8	20.4	25.5	12.2	10.3	9.8	15.4	8.8	8.8	7.7	5.0	4.0	5.8	1.3	1.9
八本松地区(n=160)	41.9	33.8	28.1	24.4	17.5	19.4	12.5	17.5	16.9	16.3	11.9	6.3	5.0	1.9	4.4	1.3	2.5		
志和地区(n=33)	9.1	57.6	9.1	18.2	9.1	48.5	18.2	18.2	3.0	12.1	-	6.1	6.1	-	18.2	9.1	-		
高屋地区(n=165)	33.9	37.6	18.2	23.6	28.5	24.8	14.5	16.4	15.2	17.6	9.7	3.6	1.8	0.6	6.1	2.4	4.2		
黒瀬地区(n=90)	32.2	30.0	15.6	31.1	6.7	24.4	26.7	12.2	8.9	26.7	2.2	5.6	1.1	-	7.8	1.1	3.3		
福富地区(n=8)	12.5	75.0	-	25.0	12.5	25.0	25.0	37.5	-	12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	
豊栄地区(n=13)	15.4	38.5	7.7	7.7	-	38.5	15.4	30.8	-	15.4	7.7	7.7	-	-	15.4	-	15.4		
河内地区(n=23)	4.3	73.9	8.7	26.1	17.4	30.4	4.3	26.1	4.3	-	-	4.3	4.3	-	30.4	4.3	-		
安芸津地区(n=56)	17.9	42.9	10.7	23.2	10.7	25.0	41.1	23.2	8.9	19.6	-	1.8	-	-	1.8	5.4	5.4		

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が10未満はしない（居住地別の福富地区を除く）。

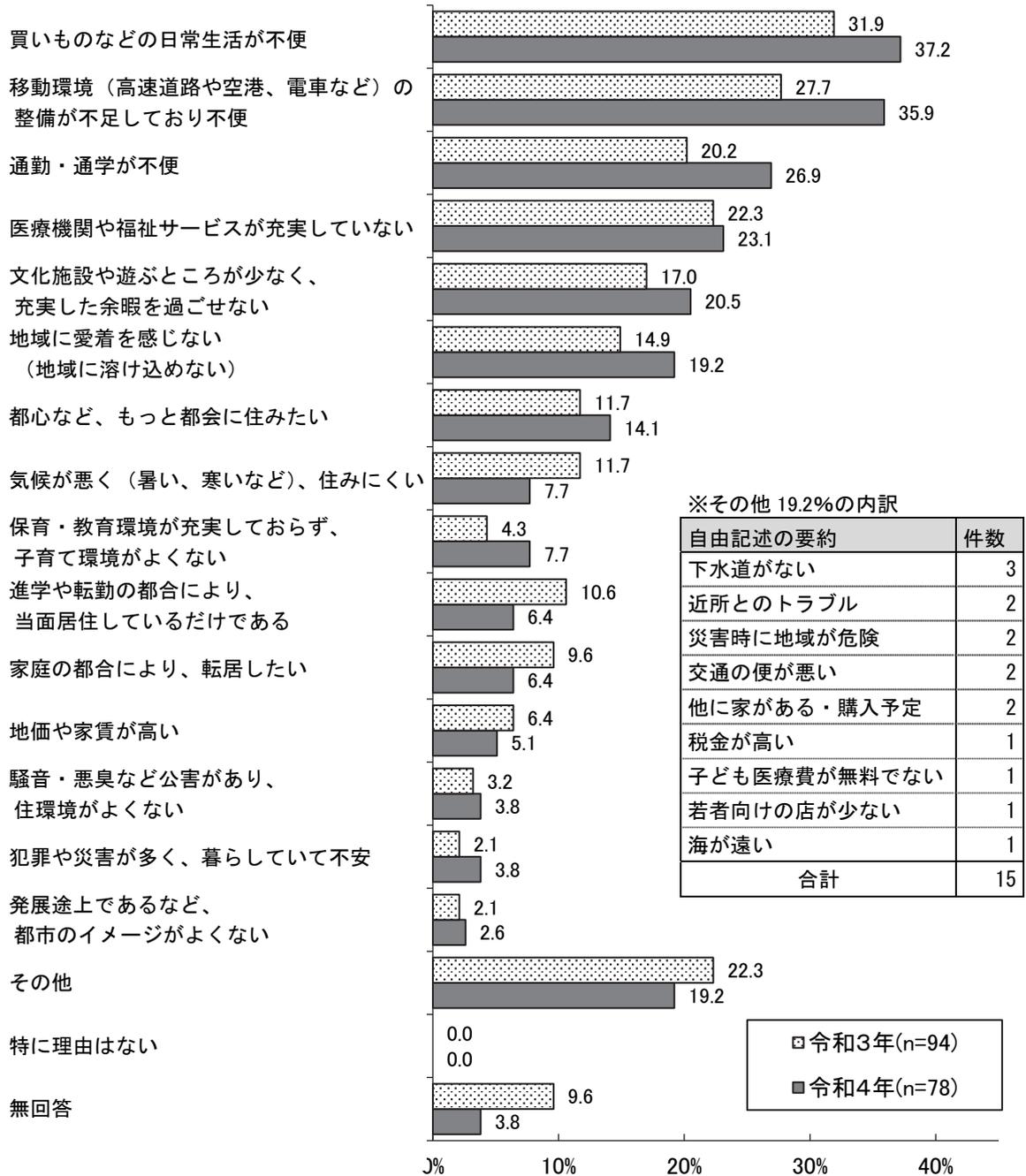
(5) 移転・転出したい理由

問3で、「3 市内の他の地域へ移りたい」「4 他市町村へ移りたい」とお答えの方におたずねします。
 問3-2 移転・転出したい主な理由は何ですか。(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

問3で「3 市内の他の地域へ移りたい」「4 他市町村へ移りたい」の回答者(該当件数78件)に移転・転出したい主な理由をたずねると、「買い物などの日常生活が不便」が37.2%と最も高く、次いで、「移動環境(高速道路や空港、電車など)の整備が不足しており不便」が35.9%、「通勤・通学が不便」が26.9%、「医療機関や福祉サービスが充実していない」が23.1%となっている。

図3-6 移転・転出したい理由<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

『女性』が『男性』より高い項目としては、「通勤・通学が不便」が18.0ポイント、「都心など、もっと都会に住みたい」が26.0ポイント、それぞれ『男性』より高い。

反対に、『男性』が『女性』より高い項目としては、「買いものなどの日常生活が不便」が12.0ポイント、「移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便」が20.0ポイント、それぞれ『女性』より高くなっている。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「買いものなどの日常生活が不便」は『60～69歳』が53.3%と16.1ポイント、『70歳以上』が47.6%と10.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便」は『50～59歳』が64.3%と28.4ポイント全体より高い。

表3-3 移転・転出したい理由／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：％

		買いものなどの日常生活が不便	移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便	通勤・通学が不便	医療機関や福祉サービスが充実していない	文化施設や遊ぶところが少なく、充実した余暇を過ごせない	地域に愛着を感じない （地域に溶け込めない）	都心など、もっと都会に住みたい	保育・教育環境が充実しておらず、子育て環境が良くない	気候が悪く（暑い、寒いなど）、住みにくい	家庭の都合により、転居したい	進学や転勤の都合により、当面居住しているだけである	地価や家賃が高い	騒音・悪臭など公害があり、住環境が良くない	暮らして不安	犯罪や災害が多く、都市のイメージが良くない	発展途上であるなど、都市のイメージが良くない	その他	特に理由はない	無回答
全体(n=78)		37.2	35.9	26.9	23.1	20.5	19.2	14.1	7.7	7.7	6.4	6.4	5.1	3.8	3.8	2.6	19.2	-	3.8	
性別	男性(n=50)	40.0	44.0	22.0	22.0	20.0	18.0	6.0	8.0	10.0	4.0	8.0	4.0	6.0	4.0	2.0	22.0	-	4	
	女性(n=25)	28.0	24.0	40.0	24.0	24.0	20.0	32.0	8.0	4.0	8.0	4.0	8.0	-	-	4.0	8.0	-	4	
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
年齢別	18～19歳(n=1)	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	
	20～29歳(n=7)	28.6	57.1	28.6	14.3	57.1	14.3	28.6	-	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30～39歳(n=5)	-	-	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	20.0	-	-	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-
	40～49歳(n=12)	25.0	41.7	33.3	41.7	16.7	8.3	33.3	8.3	8.3	-	8.3	25.0	-	8.3	8.3	8.3	8.3	-	-
	50～59歳(n=14)	28.6	64.3	28.6	21.4	21.4	14.3	-	7.1	7.1	14.3	7.1	7.1	14.3	-	-	21.4	-	-	
	60～69歳(n=15)	53.3	26.7	26.7	13.3	13.3	26.7	6.7	-	13.3	-	6.7	-	-	-	-	20.0	-	13.3	
	70歳以上(n=21)	47.6	23.8	19.0	19.0	9.5	19.0	9.5	14.3	9.5	4.8	4.8	-	4.8	4.8	-	23.8	-	4.8	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が10未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「買いものなどの日常生活が不便」は『無職』が61.1%と23.9ポイント全体より高く、「移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便」は『会社員等』が47.4%と11.5ポイント全体より高くなっている。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「通勤・通学が不便」は『高屋地区』が47.1%と20.2ポイント全体より高い。

表3-4 移転・転出したい理由／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：％

	買いものなどの日常生活が不便	移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便	通勤・通学が不便	医療機関や福祉サービスが充実していない	文化施設や遊ぶところが少なく、充実した余暇を過ごせない	地域に愛着を感じない（地域に溶け込めない）	都心など、もっと都会に住みたい	保育・教育環境が充実しておらず、子育て環境がよくない	気候が悪く（暑い、寒いなど）、住みにくい	家庭の都合により、転居したい	進学や転勤の都合により、当面居住しているだけである	地価や家賃が高い	騒音・悪臭など公害があり、住環境がよくない	暮らしていて不安	犯罪や災害が多く、都市のイメージがよくない	その他	特に理由はない	無回答		
全体 (n=78)	37.2	35.9	26.9	23.1	20.5	19.2	14.1	7.7	7.7	6.4	6.4	5.1	3.8	3.8	2.6	19.2	-	3.8		
職業別	自営業 (n=8)	37.5	25.0	-	-	12.5	37.5	-	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-	25.0	-	12.5		
	会社員等 (n=38)	23.7	47.4	31.6	23.7	23.7	15.8	15.8	5.3	7.9	5.3	7.9	10.5	2.6	2.6	2.6	18.4	-	2.6	
	アルバイト・パート (n=4)	75.0	25.0	50.0	-	50.0	-	25.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	派遣社員・契約社員 (n=3)	33.3	33.3	66.7	66.7	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	学生・専門学校生 (n=2)	-	50.0	50.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	家事専業 (n=2)	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職 (n=18)	61.1	22.2	16.7	27.8	11.1	22.2	11.1	11.1	-	5.6	-	-	11.1	5.6	-	22.2	-	5.6	
地域別	西条地区 (n=29)	27.6	27.6	20.7	27.6	24.1	24.1	17.2	6.9	6.9	3.4	10.3	10.3	3.4	-	3.4	13.8	-	3.4	
	八本松地区 (n=6)	-	50.0	33.3	16.7	-	33.3	16.7	33.3	-	-	16.7	-	-	-	-	16.7	-	16.7	
	志和地区 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高屋地区 (n=17)	35.3	23.5	47.1	17.6	23.5	11.8	17.6	11.8	17.6	5.9	5.9	5.9	-	5.9	-	23.5	-	-	
	黒瀬地区 (n=9)	33.3	77.8	22.2	11.1	33.3	-	11.1	-	11.1	11.1	-	-	22.2	-	11.1	33.3	-	-	
	福富地区 (n=1)	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	豊栄地区 (n=1)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	河内地区 (n=3)	100.0	33.3	-	66.7	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	
	安芸津地区 (n=8)	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	12.5	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が10未満はしない。

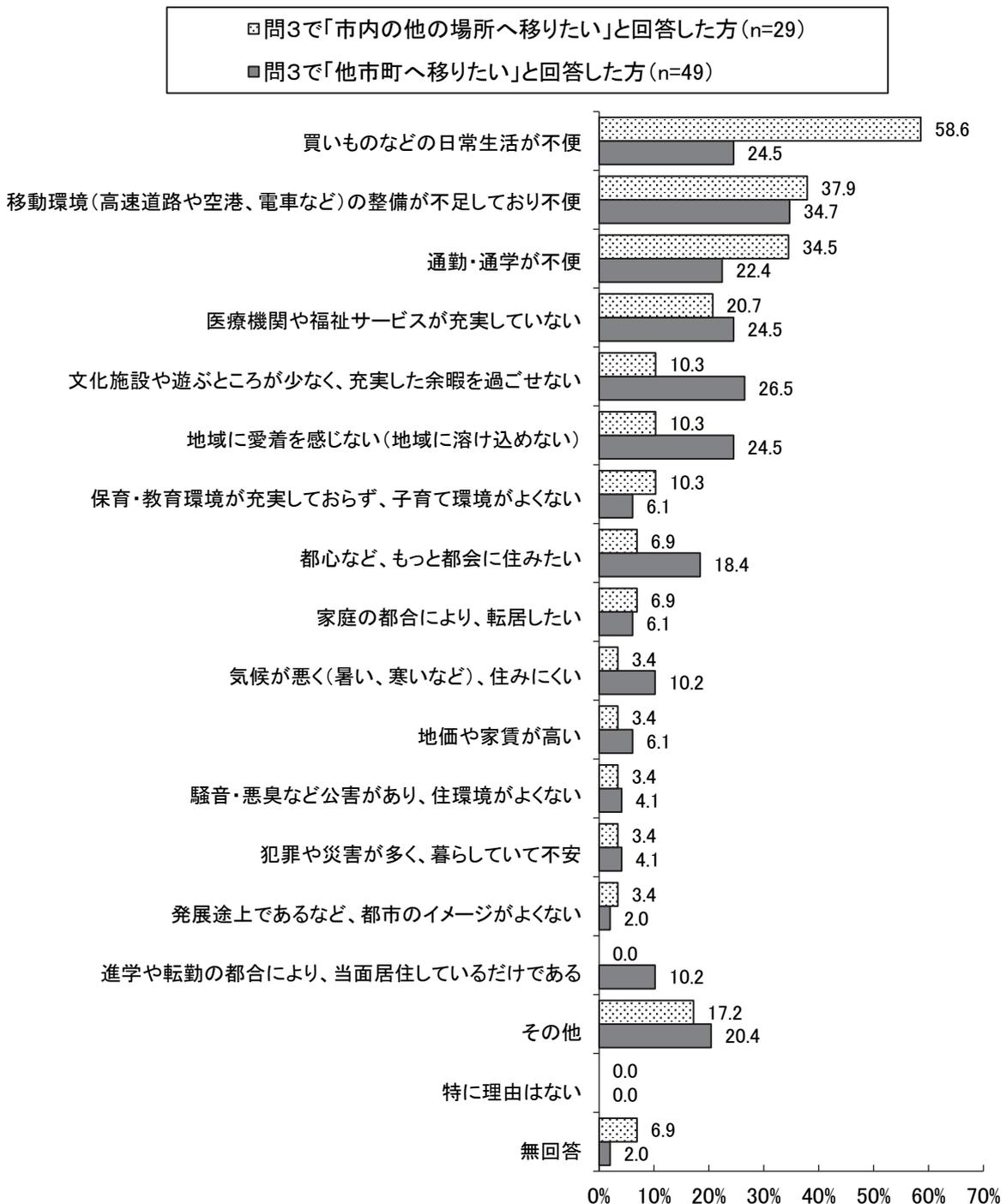
【属性別の傾向】＜移りたい場所別＞

移転・転出したい理由について、問3で『市内の他の場所へ移りたい』と回答した方では、「買いものなどの日常生活が不便」が58.6%と最も高く、次いで、「移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便」が37.9%、「通勤・通学が不便」が34.5%と高い。

問3で『他市町へ移りたい』と回答した方では「移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便」が34.7%と最も高く、次いで「文化施設や遊ぶところが少なく、充実した余暇を過ごせない」が26.5%と高くなっている。

図3-7 移転・転出したい理由／移りたい場所別＜複数回答＞

単位：％



※参考【属性別の傾向】問3で「市内の他の地域へ移りたい」と回答した方のみ

表3-5 移転・転出したい理由／性別・年齢別・職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：％

		買 い も の な ど の 日 常 生 活 が 不 便	移 動 環 境 （ 高 速 道 路 や 空 港 、 電 車 な ど ） の 整 備 が 不 足 し て お り 不 便	通 勤 ・ 通 学 が 不 便	医 療 機 関 や 福 祉 サ ー ビ ス が 充 実 し て い な い	文 化 施 設 や 遊 ぶ と こ ろ が 少 な く 、 充 実 し た 余 暇 を 過 ご せ な い	地 域 に 愛 着 を 感 じ な い （ 地 域 に 溶 け 込 め な い ）	保 育 ・ 教 育 環 境 が 充 実 し て お ら ず 、 子 育 て 環 境 が よ く な い	都 心 な ど 、 も っ と 都 会 に 住 み た い	家 庭 の 都 合 に よ り 、 転 居 し た い	発 展 途 上 で あ る な ど 、 都 市 の イ メ ー ジ が よ く な い	地 価 や 家 賃 が 高 い	騒 音 ・ 悪 臭 な ど 公 害 が あ り 、 住 環 境 が よ く な い	気 候 が 悪 く （ 暑 い 、 寒 い な ど ） 、 住 み に く い	犯 罪 や 災 害 が 多 く 、 暮 ら し て い て 不 安	進 学 や 転 勤 の 都 合 に よ り 、 当 面 居 住 し て い る だ け で あ る	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答	
全体(n=29)		58.6	37.9	34.5	20.7	10.3	10.3	10.3	6.9	6.9	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	-	17.2	-	6.9	
性別	男性(n=19)	63.2	47.4	26.3	15.8	5.3	10.5	10.5	-	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	-	-	15.8	-	10.5	
	女性(n=8)	37.5	25.0	62.5	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
年齢別	18～19歳(n=1)	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳(n=1)	-	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30～39歳(n=1)	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	40～49歳(n=3)	66.7	66.7	66.7	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	50～59歳(n=4)	50.0	75.0	50.0	-	-	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	
	60～69歳(n=5)	80.0	40.0	60.0	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0
	70歳以上(n=12)	58.3	16.7	8.3	25.0	-	-	25.0	8.3	8.3	-	-	-	8.3	8.3	-	-	25.0	-	8.3
職業別	自営業(n=3)	100.0	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	
	会社員等(n=9)	55.6	77.8	66.7	-	-	11.1	-	11.1	-	-	11.1	-	-	-	-	-	11.1	-	11.1
	アルバイト・パート(n=2)	100.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	
	派遣社員・契約社員(n=2)	-	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	学生・専門学校生(n=1)	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
	家事専業(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無職(n=10)	50.0	20.0	10.0	40.0	-	10.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	10.0	-	-	-	20.0	-	10.0
地域別	西条地区(n=2)	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
	八本松地区(n=3)	-	33.3	33.3	33.3	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	志和地区(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	高屋地区(n=8)	62.5	37.5	62.5	-	25.0	-	12.5	-	-	-	12.5	-	12.5	-	-	-	25.0	-	
	黒瀬地区(n=5)	40.0	60.0	40.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	20.0	-	
	福富地区(n=1)	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	豊栄地区(n=1)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	河内地区(n=2)	100.0	50.0	-	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	安芸津地区(n=4)	50.0	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0

※参考【属性別の傾向】問3で「他市町へ移りたい」と回答した方のみ

表3-6 移転・転出したい理由／性別・年齢別・職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：％

		移動環境（高速道路や空港、電車など）の整備が不足しており不便	文化施設や遊ぶところが少なく、充実した余暇を過ごせない	買い物などの日常生活が不便	医療機関や福祉サービスが充実していない	地域に愛着を感じない（地域に溶け込めない）	通勤・通学が不便	都心など、もっと都会に住みたい	気候が悪く（暑い、寒いなど）、住みにくい	進学や転勤の都合により、当面居住しているだけである	保育・教育環境が充実しておらず、子育て環境がよくない	地価や家賃が高い	家庭の都合により、転居したい	騒音・悪臭など公害があり、住環境がよくない	犯罪や災害が多く、暮らしていて不安	都市のイメージがよくない	発展途上であるなど、都市のイメージがよくない	特に理由はない	無回答	
全体(n=49)		34.7	26.5	24.5	24.5	24.5	22.4	18.4	10.2	10.2	6.1	6.1	6.1	4.1	4.1	2.0	20.4	-	2.0	
性別	男性(n=31)	41.9	29.0	25.8	25.8	22.6	19.4	9.7	12.9	12.9	6.5	3.2	3.2	6.5	6.5	-	25.8	-	-	
	女性(n=17)	23.5	23.5	23.5	23.5	23.5	29.4	35.3	5.9	5.9	5.9	11.8	11.8	-	-	5.9	5.9	-	5.9	
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳(n=6)	50.0	66.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳(n=4)	-	25.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-
	40～49歳(n=9)	33.3	22.2	11.1	33.3	-	22.2	44.4	11.1	11.1	11.1	33.3	-	-	11.1	11.1	11.1	11.1	-	-
	50～59歳(n=10)	60.0	30.0	20.0	30.0	10.0	20.0	-	10.0	10.0	10.0	-	20.0	20.0	-	-	-	20.0	-	-
	60～69歳(n=10)	20.0	10.0	40.0	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	30.0	-	10.0
	70歳以上(n=9)	33.3	22.2	33.3	11.1	44.4	33.3	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	11.1	-	-	22.2	-	-
職業別	自営業(n=5)	40.0	20.0	-	-	40.0	-	-	20.0	20.0	-	-	20.0	-	-	-	-	20.0	-	20.0
	会社員等(n=29)	37.9	31.0	13.8	31.0	17.2	20.7	17.2	10.3	10.3	6.9	10.3	6.9	3.4	3.4	3.4	20.7	-	-	
	アルバイト・パート(n=2)	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	派遣社員・契約社員(n=1)	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学生・専門学校生(n=1)	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	家事専業(n=2)	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職(n=8)	25.0	25.0	75.0	12.5	37.5	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5	12.5	-	25.0	-	-
地域別	西条地区(n=27)	29.6	25.9	25.9	29.6	22.2	22.2	18.5	7.4	11.1	7.4	11.1	3.7	3.7	-	3.7	11.1	-	3.7	
	八本松地区(n=3)	66.7	-	-	-	66.7	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-
	志和地区(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高屋地区(n=9)	11.1	22.2	11.1	33.3	22.2	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	-	11.1	-	11.1	-	-	22.2	-	-
	黒瀬地区(n=4)	100.0	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-	-
	福富地区(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	豊栄地区(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	河内地区(n=1)	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	安芸津地区(n=4)	50.0	50.0	50.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-

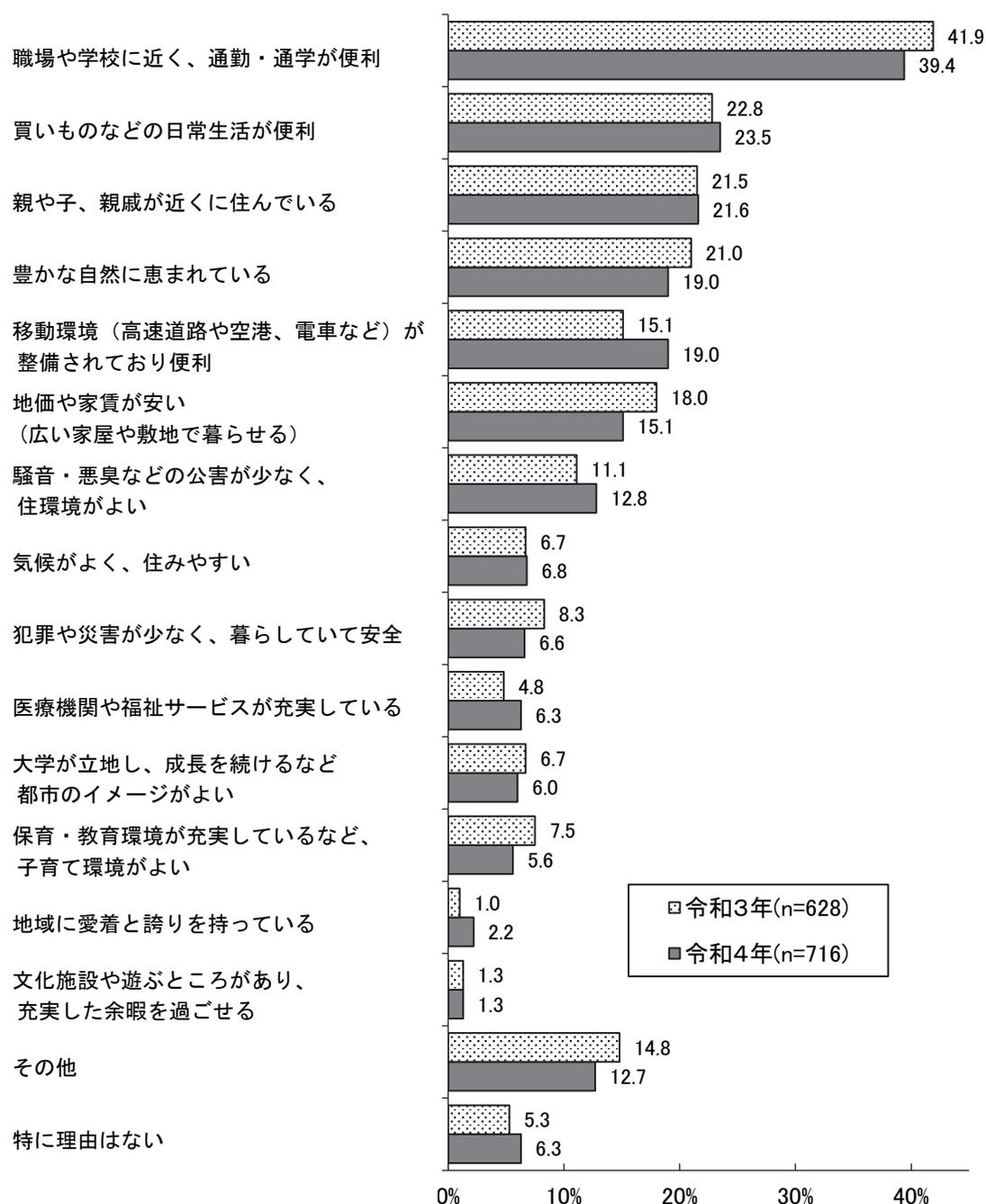
(6) 転居する際に重視したこと

過去に、東広島市に転居して来られた方におたずねします。
 ※生まれてから、東広島市内にずっとお住まいの方は問5へお進みください。
 問4 転居して来られる際に重視したことは何ですか。
 (主な理由を3つまで選んで○をお付けください)

東広島市に転居して来られた方に対し、転居に際して重視したことをみると、「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」が39.4%と最も高く、次いで、「買い物などの日常生活が便利」が23.5%、「親や子、親戚が近くに住んでいる」が21.6%、「豊かな自然に恵まれている」と「移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利」が19.0%となっている。

図4-1 転居する際に重視したこと<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

『男性』が『女性』より高い項目としては、「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」が16.6ポイント、「移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利」が8.1ポイント、それぞれ『女性』より高い。

反対に『女性』が『男性』より高い項目としては、「親や子、親戚が近くに住んでいる」が10.0ポイント、「豊かな自然に恵まれている」が6.4ポイント、それぞれ『男性』より高くなっている。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」は『20～29歳』が70.0%と30.6ポイント、『40～49歳』が52.6%と13.2ポイント、「買いものなどの日常生活が便利」は『20～29歳』が47.5%と24.0ポイント、『30～39歳』が34.5%と11.0ポイント、それぞれ全体より高い。

「騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい」は『70歳以上』が25.7%と12.9ポイント全体より高くなっている。

表4-1 転居する際に重視したこと／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：％

		職場や学校に近く、通勤・通学が便利	買いものなどの日常生活が便利	親や子、親戚が近くに住んでいる	移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利	豊かな自然に恵まれている	（広い家屋や敷地で暮らせる） 地価や家賃が安い 住環境がよい	騒音・悪臭などの公害が少なく、 気候がよく、住みやすい	犯罪や災害が少なく、 暮らして安全	医療機関や福祉サービスが 充実している	大学が立地し、成長を続けるなど 都市のイメージがよい	保育・教育環境が充実しているなど、 子育て環境がよい	地域に愛着と誇りを持っている	文化施設や遊ぶところがあり、 充実した余暇を過ごせる	その他	特に理由はない	
全体(n=716)		39.4	23.5	21.6	19.0	19.0	15.1	12.8	6.8	6.6	6.3	6.0	5.6	2.2	1.3	12.7	6.3
性別	男性(n=509)	44.2	24.6	19.1	21.4	17.1	15.3	12.8	6.9	6.3	7.1	7.3	5.3	2.8	1.6	10.4	6.1
	女性(n=196)	27.6	21.9	29.1	13.3	23.5	14.8	13.3	5.6	7.1	4.1	3.1	6.6	0.5	0.5	17.9	7.1
	その他(n=1)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	18～19歳(n=4)	100.0	25.0	-	25.0	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳(n=40)	70.0	47.5	7.5	17.5	10.0	20.0	5.0	5.0	7.5	2.5	2.5	5.0	2.5	-	2.5	7.5
	30～39歳(n=84)	48.8	34.5	22.6	16.7	11.9	17.9	7.1	2.4	4.8	-	4.8	7.1	1.2	1.2	9.5	6.0
	40～49歳(n=114)	52.6	21.1	25.4	21.9	15.8	8.8	4.4	5.3	0.9	5.3	8.8	7.9	2.6	1.8	10.5	7.0
	50～59歳(n=123)	43.9	25.2	20.3	21.1	17.1	17.9	10.6	2.4	4.1	6.5	2.4	7.3	-	1.6	8.9	8.1
	60～69歳(n=130)	31.5	18.5	20.8	20.0	17.7	20.8	7.7	6.9	4.6	3.8	6.2	3.8	3.1	2.3	17.7	7.7
	70歳以上(n=210)	24.8	19.0	24.3	17.1	27.1	11.0	25.7	11.0	12.4	11.4	8.1	4.3	2.9	0.5	15.7	4.3

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」は『会社員等』が49.9%と10.5ポイント、「騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい」は『無職』が24.2%と11.4ポイント、それぞれ全体より高い。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「買いものなどの日常生活が便利」は『西条地区』、「移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利」は『高屋地区』、「豊かな自然に恵まれている」は『志和地区』、「地価や家賃が安い（広い家屋や敷地で暮らせる）」は『黒瀬地区』がそれぞれ全体より10ポイント以上高い。

表4-2 転居する際に重視したこと／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：％

	職場や学校に近く、通勤・通学が便利	買いものなどの日常生活が便利	親や子、親戚が近くに住んでいる	移動環境（高速道路や空港、電車など）が整備されており便利	豊かな自然に恵まれている	（広い家屋や敷地で暮らせる）地価や家賃が安い	騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい	気候がよく、住みやすい	犯罪や災害が少なく、暮らして安全	医療機関や福祉サービスが充実している	大学が立地し、成長を続けるなど都市のイメージがよい	保育・教育環境が充実しているなど、子育て環境がよい	地域に愛着と誇りを持っている	文化施設や遊ぶところがあり、充実した余暇を過ごせる	その他	特に理由はない	
全体(n=716)	39.4	23.5	21.6	19.0	19.0	15.1	12.8	6.8	6.6	6.3	6.0	5.6	2.2	1.3	12.7	6.3	
職業別	自営業(n=36)	27.8	13.9	27.8	22.2	19.4	13.9	13.9	8.3	8.3	5.6	2.8	5.6	5.6	-	19.4	2.8
	会社員等(n=341)	49.9	28.7	18.8	22.3	14.1	15.8	8.2	2.6	2.9	3.8	6.2	6.5	2.6	1.8	8.5	7.9
	アルバイト・パート(n=72)	37.5	16.7	30.6	12.5	23.6	16.7	9.7	9.7	8.3	4.2	2.8	6.9	1.4	1.4	20.8	2.8
	派遣社員・契約社員(n=22)	45.5	27.3	22.7	31.8	13.6	18.2	-	13.6	9.1	4.5	18.2	13.6	-	-	4.5	-
	学生・専門学校生(n=11)	100.0	36.4	-	9.1	9.1	27.3	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	家事専業(n=27)	22.2	22.2	29.6	7.4	37.0	14.8	18.5	11.1	3.7	3.7	3.7	7.4	-	-	18.5	7.4
	無職(n=182)	23.1	18.7	22.5	17.6	24.7	13.7	24.2	11.0	12.6	13.2	7.7	2.7	1.6	1.1	14.3	6.0
地域別	西条地区(n=307)	49.2	33.9	19.5	22.1	14.7	11.7	9.8	5.5	5.5	7.2	5.9	4.6	1.3	2.3	11.7	3.9
	八本松地区(n=129)	47.3	21.7	24.8	14.7	20.2	16.3	14.7	4.7	7.0	6.2	10.1	7.0	3.9	0.8	8.5	7.0
	志和地区(n=15)	13.3	-	26.7	6.7	53.3	13.3	20.0	13.3	20.0	-	-	-	-	-	13.3	6.7
	高屋地区(n=136)	30.1	14.7	19.1	33.1	22.8	15.4	16.9	8.1	6.6	6.6	5.9	9.6	2.9	0.7	16.9	6.6
	黒瀬地区(n=77)	18.2	15.6	19.5	2.6	19.5	32.5	19.5	7.8	7.8	3.9	3.9	3.9	-	-	10.4	11.7
	福富地区(n=2)	-	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	豊栄地区(n=3)	33.3	-	66.7	-	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-
	河内地区(n=11)	27.3	9.1	27.3	-	18.2	-	-	-	-	9.1	-	-	9.1	-	27.3	18.2
	安芸津地区(n=24)	25.0	12.5	50.0	4.2	8.3	4.2	4.2	16.7	4.2	-	-	4.2	4.2	-	12.5	12.5

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が10未満はしない。

【属性別の傾向】＜居住年数別＞

居住年数が『10年未満』と『10年以上30年未満』は「職場や学校に近く、通勤・通学が便利」がそれぞれ全体より5ポイント以上高い。また、『10年未満』については、「買いものなどの日常生活が便利」が35.3%と11.8ポイント、『地価や家賃が安い』が21.0%と5.9ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住年数が『30年以上』では「騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい」が18.7%と5.9ポイント高くなっている。

表4-3 転居する際に重視したこと／居住年数別＜複数回答＞

単位：%

		職場や学校に近く、通勤・通学が便利	買いものなどの日常生活が便利	親や子、親戚が近くに住んでいる	移動環境（高速道路や空港、電車などが整備されており便利	豊かな自然に恵まれている	（広い家屋や敷地で暮らせる）	地価や家賃が安い	騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい	気候がよく、住みやすい	犯罪や災害が少なく、暮らしていて安全	医療機関や福祉サービスが充実している	大学が立地し、成長を続けるなど都市のイメージがよい	保育・教育環境が充実しているなど、子育て環境がよい	地域に愛着と誇りを持っている	文化施設や遊ぶところがあり、充実した余暇を過ごせる	その他	特に理由はない
全体(n=716)		39.4	23.5	21.6	19.0	19.0	15.1	12.8	6.8	6.6	6.3	6.0	5.6	2.2	1.3	12.7	6.3	
居住年数	10年未満(n=167)	49.1	35.3	24.0	21.0	16.2	21.0	10.2	5.4	4.8	4.8	3.6	5.4	0.6	1.8	7.8	3.0	
	10年以上30年未満(n=253)	44.7	24.5	20.6	22.9	17.8	13.8	7.9	6.3	4.0	5.9	7.1	7.1	2.0	2.4	8.7	7.1	
	30年以上(n=294)	29.3	16.0	21.4	14.6	21.8	12.9	18.7	8.2	9.9	7.1	6.5	4.4	3.4	-	19.0	7.5	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

2. 市政運営について

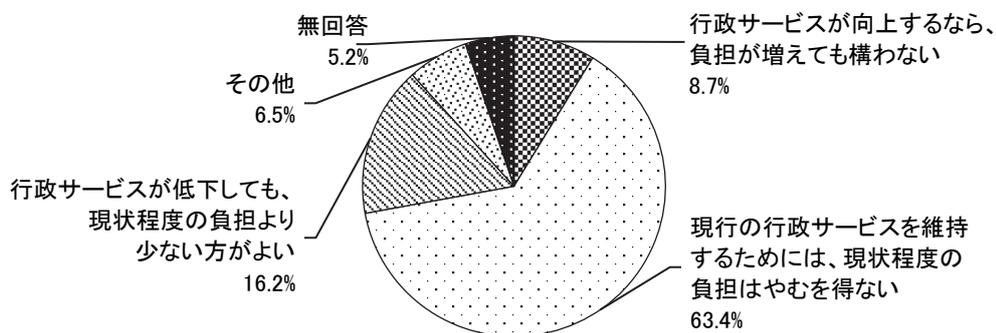
(1) 今後の行政サービスのあり方

問5 国を始めとした全国的な財政状況の悪化に伴い、従来どおりの行政サービスの維持さえ難しくなることも予想されます。あなたは、今後の行政サービスのあり方について、どのようにお考えですか。(1つだけ選んで○をお付けください)

今後の行政サービスのあり方については、「現行の行政サービスを維持するためには、現状程度の負担はやむを得ない」が63.4%と最も高く、6割以上を占める。次いで、「行政サービスが低下しても、現状程度の負担より少ない方がよい」が16.2%となっている。

「行政サービスが向上するなら、負担が増えても構わない」は8.7%であった。

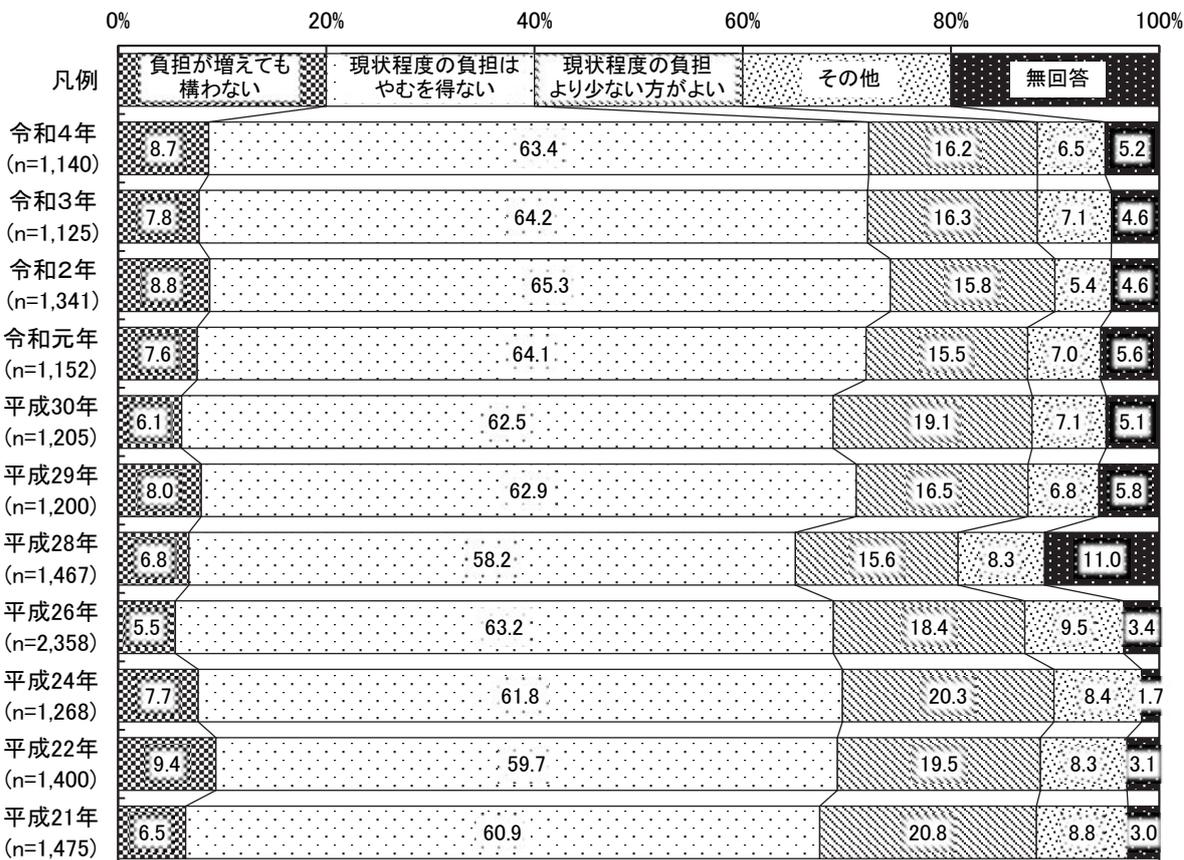
図5-1 今後の行政サービスのあり方 [n=1,140]



【経年変化】

令和3年度調査(前回)との比較では、顕著な変化はみられなかった。

図5-2 今後の行政サービスのあり方／経年変化



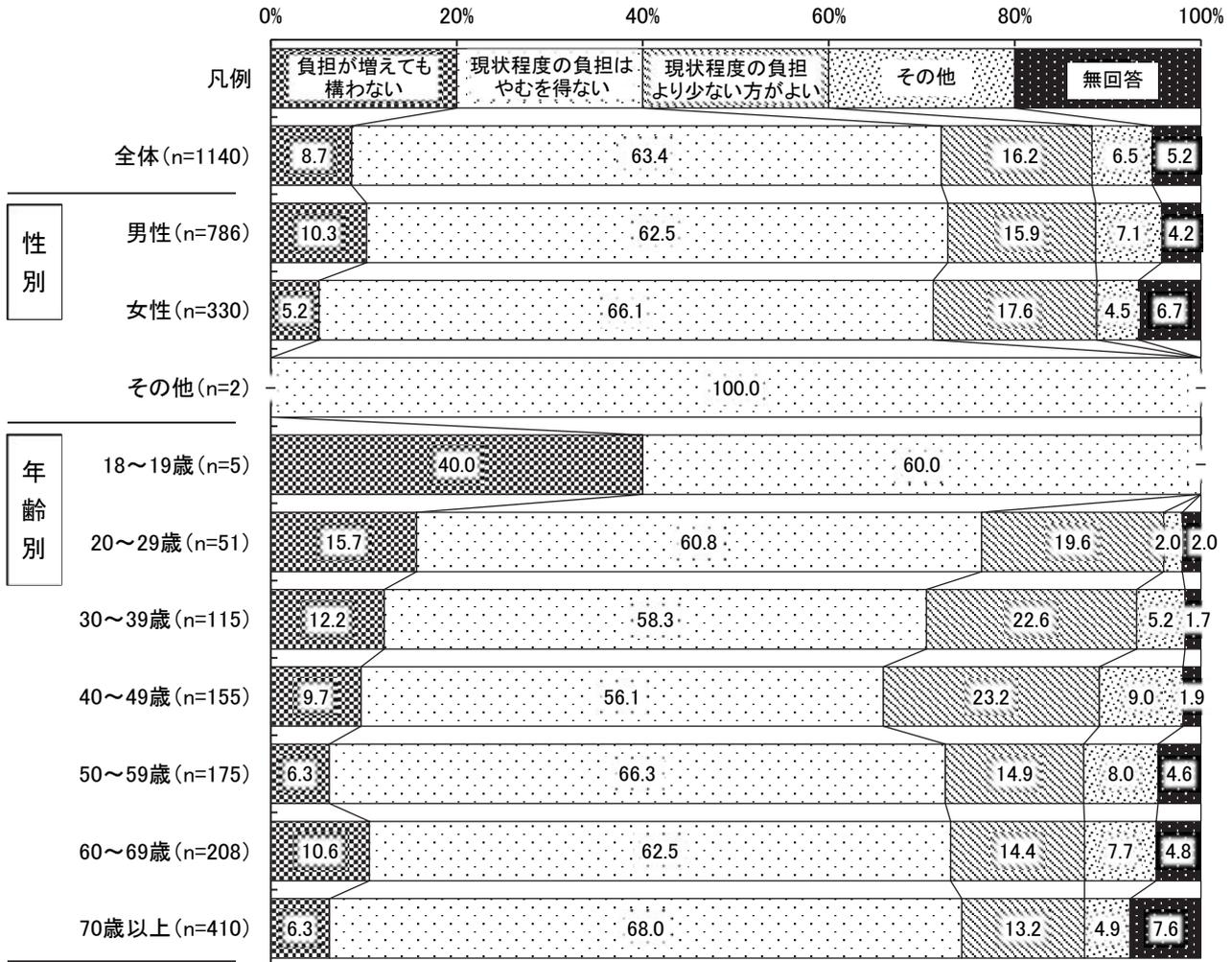
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、「負担が増えても構わない」は『男性』が『女性』より5.1ポイント高い。

年齢別では、「行政サービスが向上するなら、負担が増えても構わない」は『20～29歳』で15.2%と7.0ポイント全体より高い。

「行政サービスが低下しても、現状程度の負担より少ない方がよい」は『40～49歳』が23.2%と7.0ポイント、『30～39歳』が22.6%と6.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図5-3 今後の行政サービスのあり方／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

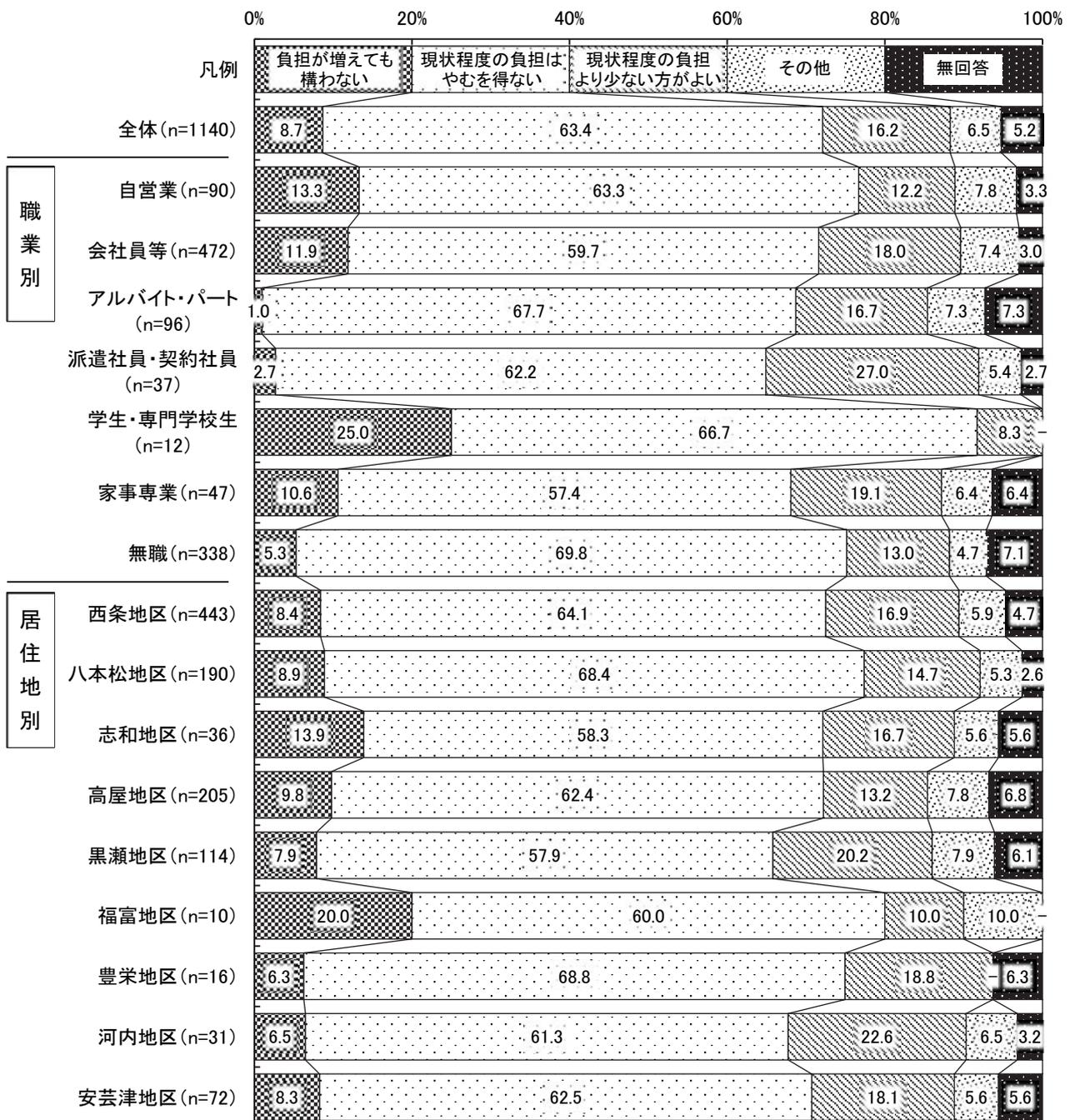
職業別では、「現行の行政サービスを維持するためには、現状程度の負担はやむを得ない」は『無職』が69.8%と6.4ポイント全体より高く、「行政サービスが低下しても、現状程度の負担より少ない方がよい」は『派遣社員・契約社員』が27.0%と10.8ポイント全体より高い。

居住地別では、「行政サービスが向上するなら、負担が増えても構わない」は『福富地区』が20.0%と11.3ポイント、『志和地区』が13.9%と5.2ポイント、それぞれ全体より高い。

「現行の行政サービスを維持するためには、現状程度の負担はやむを得ない」は『豊栄地区』が68.8%と5.4ポイント、『八本松地区』が68.4%と5.0ポイント、それぞれ全体より高い。

「行政サービスが低下しても、現状程度の負担より少ない方がよい」は『河内地区』が22.6%と6.4ポイント全体より高くなっている。

図5-4 今後の行政サービスのあり方／職業別・居住地別



3. 市が実施している施策の満足度と重要度について

(1) 施策の満足度と重要度

問6 次の表は、東広島市が実施している各施策を示しています。
あなたは、次の各項目の施策について、現在、どれくらい満足されていますか。
また、今後のまちづくりを進めていくうえで、どれくらい重要だと思われますか。
(各項目の満足度・重要度それぞれ1つずつ選んで○をお付けください)

各施策の満足度と重要度については、次のようなステップで回答結果を整理し、分析した。

① 満足度と重要度の集計

【単純集計結果】

施策ごとに満足度と重要度の集計結果を示している。満足度と重要度は以下に示す加重平均値を算出する方法で点数化している。

1. 満足度

満足：2点、やや満足：1点、どちらともいえない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点とし、項目ごとの回答結果をもとに下記のとおり算出した。

$$\text{満足度} = (\text{「満足」の件数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の件数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の件数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の件数} \times -2 \text{点}) / (\text{回答者件数} - \text{無回答件数})$$

2. 重要度

重要：2点、やや重要：1点、どちらともいえない：0点、あまり重要ではない：-1点、重要ではない：-2点とし、項目ごとの回答結果をもとに下記のとおり算出した。

$$\text{重要度} = (\text{「重要」の件数} \times 2 \text{点} + \text{「やや重要」の件数} \times 1 \text{点} + \text{「あまり重要ではない」の件数} \times -1 \text{点} + \text{「重要ではない」の件数} \times -2 \text{点}) / (\text{回答者件数} - \text{無回答件数})$$

② ニーズ度の算出

重要度と満足度との加重平均値の差を「ニーズ度」として算出した。

$$\text{ニーズ度} = \text{重要度} - \text{満足度}$$

③ 満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度それぞれの加重平均値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、50の施策を散布図上に示したものが相関図である。

④ 全体の集計結果

施策ごとの満足度と重要度の回答結果およびその点数化した際の得点は下記の通りである。

表6-1 満足度集計結果

単位：％、点

施策名	サンプル数	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや 不満	不満	満足+ やや満足	満足度 得点
1-1 産学金官の連携による新産業の創出	1,047	3.2	17.0	64.7	11.7	3.3	20.2	0.051
1-2 地元企業の創出・強化	1,032	1.9	15.6	60.2	17.3	4.9	17.5	-0.078
1-3 商業・サービス業の集積・強化	1,042	2.5	21.7	52.7	17.7	5.5	24.2	-0.019
1-4 産業集積の推進	1,033	2.2	19.4	56.9	16.7	4.7	21.6	-0.024
1-5 農業の強化	1,049	1.1	9.9	51.9	24.8	12.3	11.1	-0.372
1-6 森林の保全・整備	1,042	1.5	10.4	56.5	21.8	9.8	11.9	-0.279
1-7 漁業・養殖業の推進	1,028	1.3	7.1	74.1	13.1	4.4	8.4	-0.123
1-8 地域資源を活かした観光地づくり	1,038	2.0	19.4	48.1	22.3	8.3	21.4	-0.154
1-9 労働・雇用環境の充実	1,037	1.6	11.0	53.1	25.3	9.0	12.6	-0.289
2-1 住みよい都市の形成	1,047	2.7	22.9	41.1	25.8	7.5	25.6	-0.126
2-2 緑あふれる環境整備	1,055	4.5	27.6	45.2	17.8	4.9	32.0	0.088
2-3 良好な住宅ストックの形成	1,046	3.5	15.6	60.3	15.4	5.2	19.1	-0.031
2-4 公共交通網の充実	1,070	3.6	15.3	25.4	34.8	20.8	19.0	-0.538
2-5 道路網の整備	1,068	3.5	21.3	27.9	30.1	17.2	24.7	-0.364
2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進	1,074	6.9	33.5	38.8	14.7	6.1	40.4	0.205
2-7 良質な水の供給・整備	1,065	9.9	31.9	41.1	12.0	5.1	41.8	0.295
2-8 汚水処理の推進	1,075	7.6	25.4	42.3	14.9	9.8	33.0	0.062
2-9 環境汚染の防止	1,064	4.5	20.3	60.3	11.2	3.7	24.8	0.108
2-10 自然環境・動植物の保全	1,063	3.7	18.2	56.9	17.1	4.1	21.8	0.001
2-11 地球温暖化防止の推進	1,059	2.3	12.7	63.6	16.6	4.7	15.0	-0.088
2-12 市民主体の地域社会の形成	1,062	2.6	16.9	63.0	13.1	4.4	19.5	0.002
2-13 市民参画の推進	1,056	2.2	10.4	72.6	10.5	4.3	12.6	-0.043
2-14 多文化共生の推進	1,057	2.1	12.5	74.9	7.0	3.5	14.6	0.026
2-15 国際貢献・留学生支援	1,063	2.3	13.9	76.4	4.5	2.9	16.2	0.081
3-1 人権・平和行政の推進	1,052	2.7	13.1	73.4	8.4	2.5	15.8	0.051
3-2 保育サービスの充実	1,048	2.5	19.2	59.9	13.9	4.5	21.7	0.012
3-3 教育環境の整備・充実	1,052	4.2	19.8	57.8	13.1	5.1	24.0	0.048
3-4 学校教育の充実	1,053	4.0	17.2	60.4	14.2	4.3	21.2	0.025
3-5 青少年健全育成の推進	1,048	2.2	11.7	72.9	10.1	3.1	13.9	-0.001
3-6 生涯学習活動の充実	1,056	2.6	16.2	67.7	10.5	3.0	18.8	0.047
3-7 芸術・文化の活性化	1,051	3.2	21.0	67.5	7.0	1.2	24.3	0.180
3-8 歴史・文化財の保護と活用	1,048	2.9	16.2	71.8	7.5	1.6	19.1	0.112
3-9 スポーツ環境の形成	1,058	2.8	19.4	62.0	13.1	2.6	22.2	0.066
4-1 大学や学生との交流・連携推進	1,048	3.1	12.0	73.2	8.9	2.9	15.1	0.035
4-2 移住・定住の促進	1,049	1.6	8.9	71.7	14.4	3.4	10.5	-0.092
4-3 都市拠点・地域拠点の機能強化	1,045	1.5	12.8	64.9	16.1	4.7	14.4	-0.096
4-4 地域の景観の保全・形成	1,050	2.8	15.0	65.0	13.6	3.6	17.7	-0.004
4-5 広域・高速交通体系の強化	1,049	4.4	25.3	39.9	21.6	8.8	29.6	-0.051
4-6 情報通信技術の整備・活用	1,050	2.6	12.1	62.8	17.2	5.3	14.7	-0.107
5-1 防災の強化・推進	1,058	2.8	18.9	51.5	19.5	7.3	21.7	-0.095
5-2 市民の安全・安心社会の形成	1,054	2.6	19.6	60.8	13.3	3.7	22.2	0.041
5-3 消防・救急・救助体制の強化	1,052	6.2	26.6	53.3	9.9	4.0	32.8	0.211
5-4 地域医療の構築	1,054	5.0	24.7	45.0	17.3	8.1	29.7	0.013
5-5 健康づくりの推進	1,051	4.1	20.8	60.2	12.3	2.6	24.9	0.116
5-6 高齢者支援の推進	1,058	3.9	14.8	60.0	14.2	7.1	18.7	-0.058
5-7 障害者支援の推進	1,042	2.8	13.1	67.9	11.7	4.5	15.8	-0.021
5-8 地域福祉の形成	1,048	2.7	9.6	73.0	10.5	4.2	12.3	-0.039
5-9 子育て支援の充実	1,046	2.5	13.6	62.2	14.3	7.4	16.1	-0.105
6-1 市民本位のサービスの提供・充実	1,042	2.8	11.9	65.2	15.2	5.0	14.7	-0.077
6-2 行政経営の向上	1,039	2.5	9.5	69.1	12.3	6.5	12.0	-0.109

※サンプル数は、総サンプル数の1,140件から無回答を除いた値。

52,573	3.2	17.1	58.9	15.1	5.7	20.3	-0.030
--------	-----	------	------	------	-----	------	--------

表6-2 重要度集計結果

単位：％、点

施策名	サンプル数	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり 重要ではない	重要 ではない	重要+ やや重要	重要度 得点
1-1 産学金官の連携による新産業の創出	1,034	24.5	30.8	39.7	3.5	1.6	55.2	0.729
1-2 地元企業の創出・強化	1,029	31.6	36.0	29.0	2.2	1.3	67.5	0.944
1-3 商業・サービス業の集積・強化	1,029	28.5	39.1	29.3	2.3	0.9	67.5	0.919
1-4 産業集積の推進	1,019	27.4	33.8	35.1	2.6	1.2	61.1	0.836
1-5 農業の強化	1,041	37.8	31.3	26.6	3.1	1.2	69.2	1.016
1-6 森林の保全・整備	1,031	29.8	33.4	32.1	3.7	1.1	63.1	0.871
1-7 漁業・養殖業の推進	1,021	18.4	26.9	47.7	5.3	1.7	45.3	0.551
1-8 地域資源を活かした観光地づくり	1,032	26.1	39.6	28.6	4.4	1.4	65.7	0.847
1-9 労働・雇用環境の充実	1,033	41.6	33.6	22.8	1.4	0.6	75.2	1.143
2-1 住みよい都市の形成	1,037	38.6	36.5	22.9	1.4	0.7	75.1	1.110
2-2 緑あふれる環境整備	1,043	26.3	38.6	30.0	3.7	1.3	64.9	0.848
2-3 良好な住宅ストックの形成	1,036	17.7	32.7	42.7	5.1	1.8	50.4	0.593
2-4 公共交通網の充実	1,055	47.6	35.7	13.8	2.4	0.5	83.3	1.276
2-5 道路網の整備	1,054	47.2	38.0	12.6	1.9	0.3	85.2	1.299
2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進	1,057	38.6	37.5	21.7	2.0	0.3	76.1	1.121
2-7 良質な水の供給・整備	1,057	50.3	30.4	17.7	1.2	0.4	80.7	1.290
2-8 汚水処理の推進	1,066	42.8	32.1	22.9	1.8	0.5	74.9	1.149
2-9 環境汚染の防止	1,055	37.8	32.2	27.6	1.7	0.7	70.0	1.048
2-10 自然環境・動植物の保全	1,053	31.6	35.3	30.2	2.3	0.6	67.0	0.952
2-11 地球温暖化防止の推進	1,053	37.2	28.3	30.0	2.3	2.2	65.5	0.961
2-12 市民主体の地域社会の形成	1,050	18.7	34.7	40.5	4.5	1.7	53.3	0.641
2-13 市民参画の推進	1,045	14.1	27.4	50.1	5.7	2.7	41.4	0.444
2-14 多文化共生の推進	1,051	12.3	26.1	51.0	7.3	3.3	38.3	0.366
2-15 国際貢献・留学生支援	1,052	12.9	25.5	50.5	7.3	3.8	38.4	0.364
3-1 人権・平和行政の推進	1,045	21.7	28.5	43.7	3.5	2.5	50.2	0.634
3-2 保育サービスの充実	1,044	34.6	32.8	30.9	1.1	0.7	67.3	0.995
3-3 教育環境の整備・充実	1,047	38.2	32.9	27.6	0.7	0.7	71.1	1.073
3-4 学校教育の充実	1,048	40.9	30.8	26.7	0.9	0.7	71.8	1.105
3-5 青少年健全育成の推進	1,046	29.9	31.9	35.9	1.5	0.7	61.9	0.889
3-6 生涯学習活動の充実	1,046	18.7	35.1	41.3	3.2	1.7	53.8	0.660
3-7 芸術・文化の活性化	1,041	15.2	31.2	46.4	4.9	2.3	46.4	0.521
3-8 歴史・文化財の保護と活用	1,043	15.4	29.8	47.6	5.2	2.0	45.3	0.515
3-9 スポーツ環境の形成	1,051	17.4	34.3	41.8	5.0	1.5	51.7	0.610
4-1 大学や学生との交流・連携推進	1,045	14.0	28.6	49.8	5.5	2.2	42.6	0.467
4-2 移住・定住の促進	1,042	15.8	35.2	43.4	4.0	1.5	51.1	0.598
4-3 都市拠点・地域拠点の機能強化	1,037	19.5	34.6	41.3	3.7	1.0	54.1	0.680
4-4 地域の景観の保全・形成	1,044	17.8	34.1	42.0	4.6	1.4	51.9	0.623
4-5 広域・高速交通体系の強化	1,043	35.8	37.1	23.8	2.4	1.0	72.9	1.043
4-6 情報通信技術の整備・活用	1,044	25.0	32.1	37.3	4.6	1.1	57.1	0.754
5-1 防災の強化・推進	1,052	49.7	30.5	19.0	0.6	0.2	80.2	1.290
5-2 市民の安全・安心社会の形成	1,046	38.9	32.1	27.4	1.1	0.4	71.0	1.080
5-3 消防・救急・救助体制の強化	1,043	49.1	29.3	21.0	0.5	0.1	78.4	1.268
5-4 地域医療の構築	1,051	55.3	28.7	15.7	0.3	0.0	84.0	1.390
5-5 健康づくりの推進	1,044	34.2	35.3	28.0	1.8	0.7	69.5	1.006
5-6 高齢者支援の推進	1,049	40.0	33.0	23.7	2.2	1.0	73.0	1.088
5-7 障害者支援の推進	1,045	34.2	32.0	30.5	2.0	1.3	66.1	0.956
5-8 地域福祉の形成	1,046	29.3	30.7	35.2	2.7	2.1	60.0	0.825
5-9 子育て支援の充実	1,046	42.9	29.1	26.3	1.2	0.5	72.0	1.127
6-1 市民本位のサービスの提供・充実	1,036	23.6	32.9	39.8	2.7	1.1	56.5	0.752
6-2 行政経営の向上	1,032	25.3	29.7	42.5	1.5	1.0	55.0	0.769

※サンプル数は、総サンプル数の1,140件から無回答を除いた値。

52,189	30.5	32.6	32.8	2.9	1.2	63.0	0.881
--------	------	------	------	-----	-----	------	-------

⑤ 満足度と重要度の集計

【満足度】

満足度は、「2-7 良質な水の供給・整備」0.295、「5-3 消防・救急・救助体制の強化」0.211、「2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進」0.205、「3-7 芸術・文化の活性化」0.180、「5-5 健康づくりの推進」0.116、などが上位にあがっている。

一方、「2-4 公共交通網の充実」-0.538、「1-5 農業の強化」-0.372、「2-5 道路網の整備」-0.364、「1-9 労働・雇用環境の充実」-0.289、「1-6 森林の保全・整備」-0.279、などの満足度が低くなっている。

【重要度】

重要度は、「5-4 地域医療の構築」1.390、「2-5 道路網の整備」1.299、「2-7 良質な水の供給・整備」1.290、「5-1 防災の強化・推進」1.290、「2-4 公共交通網の充実」1.276、などが上位にあがっている。

一方、「2-15 国際貢献・留学生支援」0.364、「2-14 多文化共生の推進」0.366、「2-13 市民参画の推進」0.444、「4-1 大学や学生との交流・連携推進」0.467、「3-8 歴史・文化財の保護と活用」0.515、などの重要度が低くなっている。

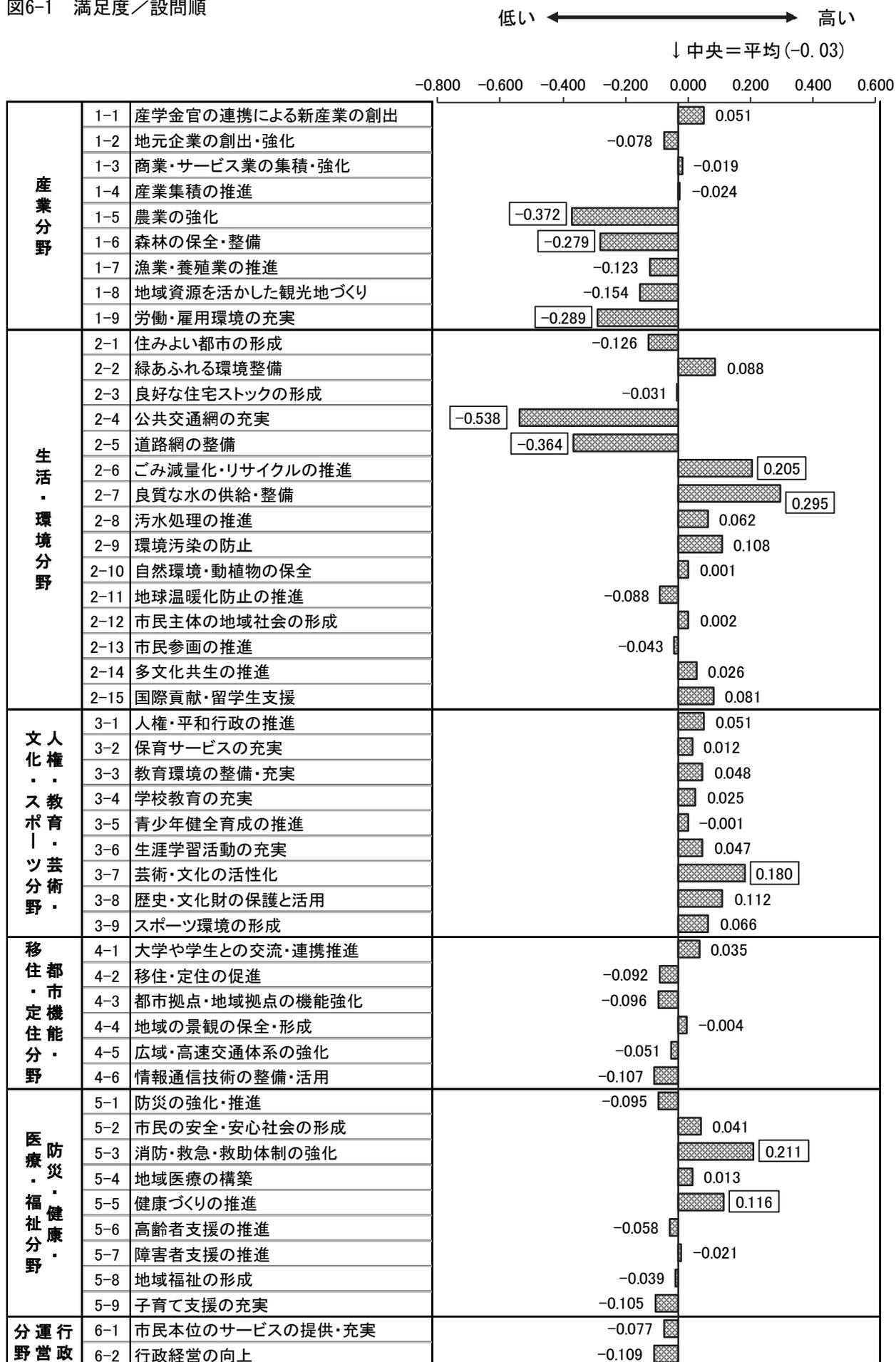
⑥ ニーズ度による分析 (36頁 図6-3参照)

【ニーズ度】

ニーズ度は、「2-4 公共交通網の充実」1.814、「2-5 道路網の整備」1.663、「1-9 労働・雇用環境の充実」1.433、「1-5 農業の強化」1.388、「5-1 防災の強化・推進」1.384、などが上位にあがっている。

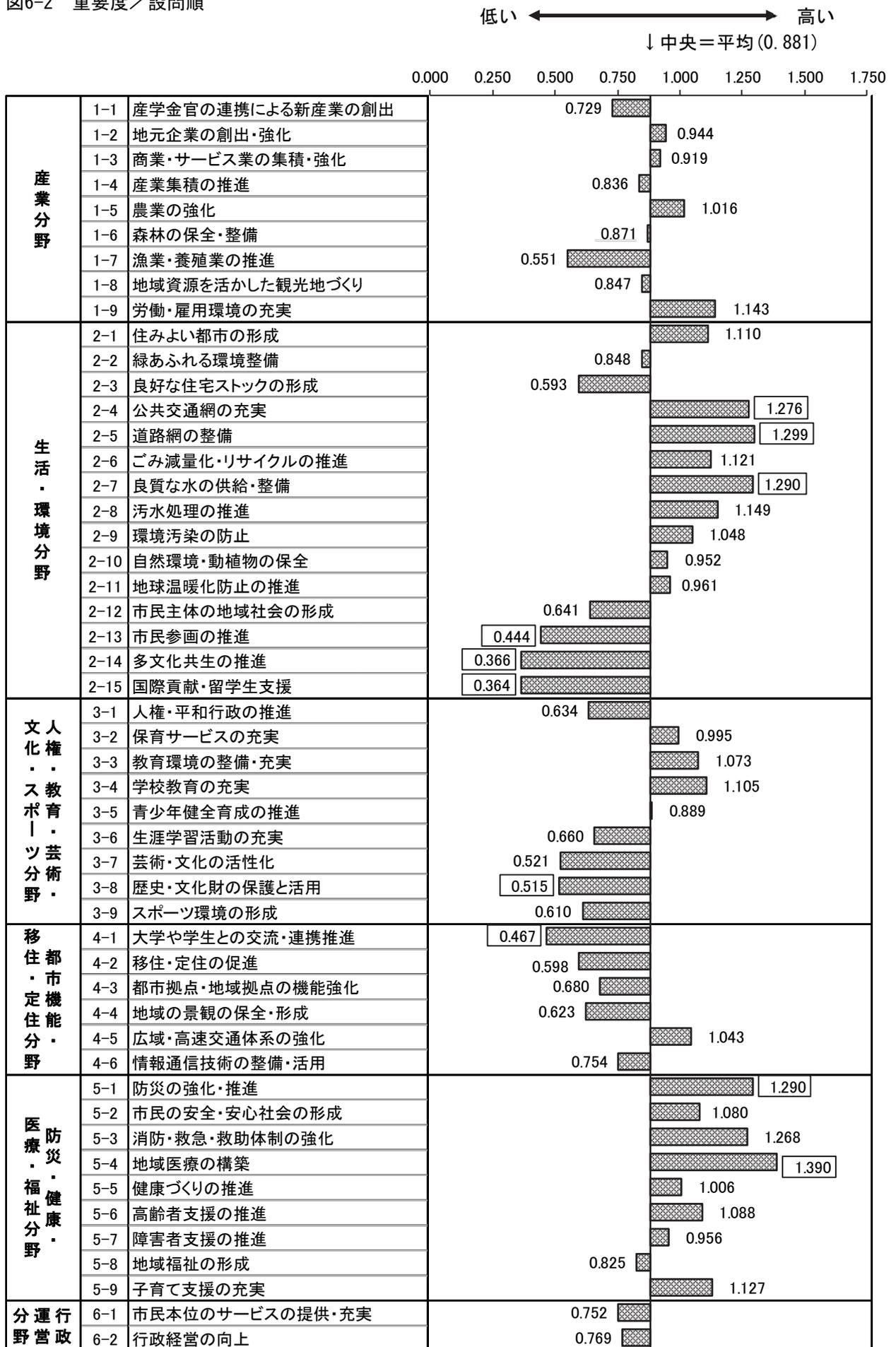
一方、「2-15 国際貢献・留学生支援」0.283、「2-14 多文化共生の推進」0.340、「3-7 芸術・文化の活性化」0.341、「3-8 歴史・文化財の保護と活用」0.403、「4-1 大学や学生との交流・連携推進」0.432、などのニーズ度が低くなっている。

図6-1 満足度／設問順



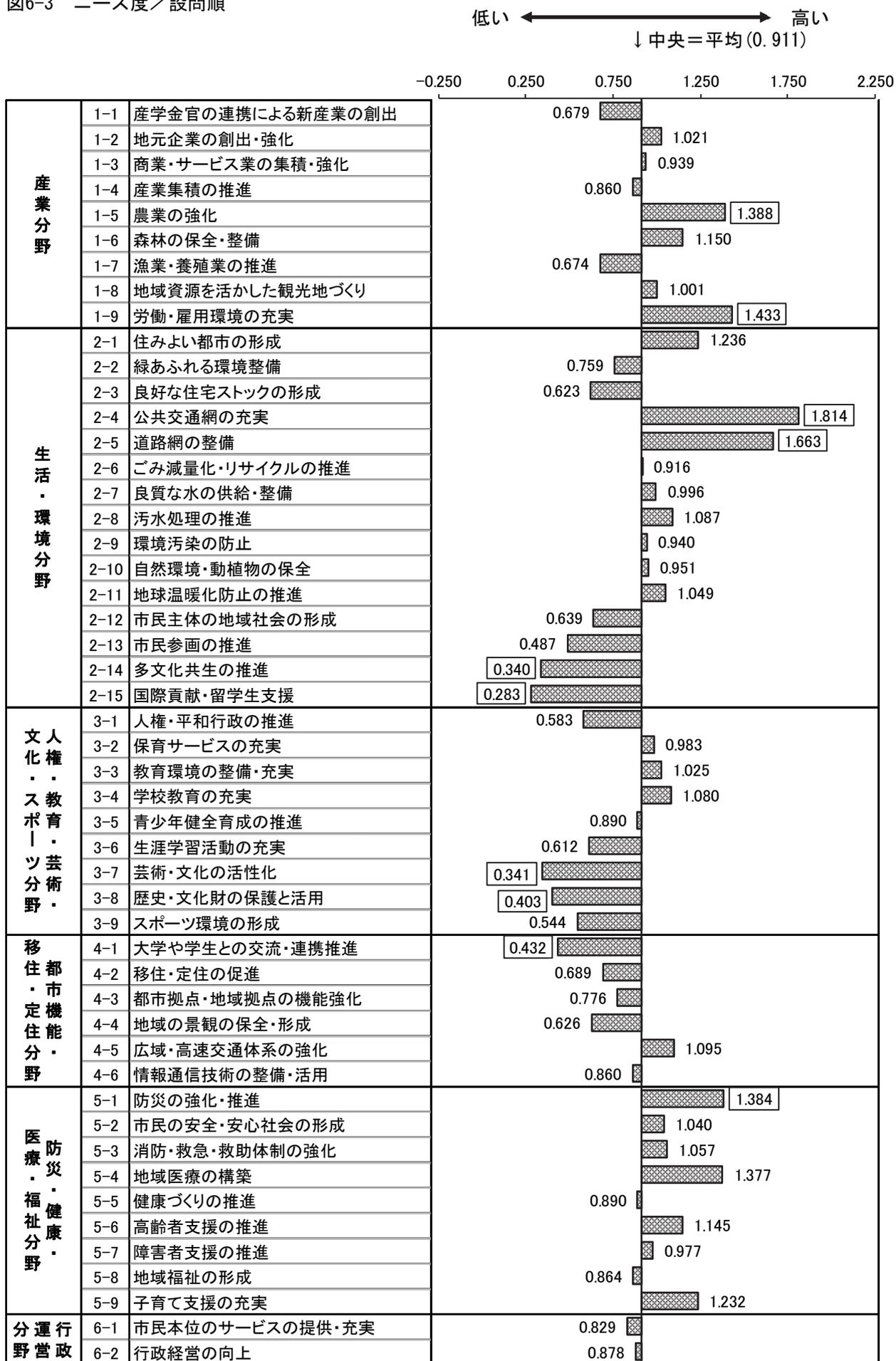
※数値の囲み付きは、上位5項目、下位5項目を示す。

図6-2 重要度／設問順



※数値の囲み付きは、上位5項目、下位5項目を示す。

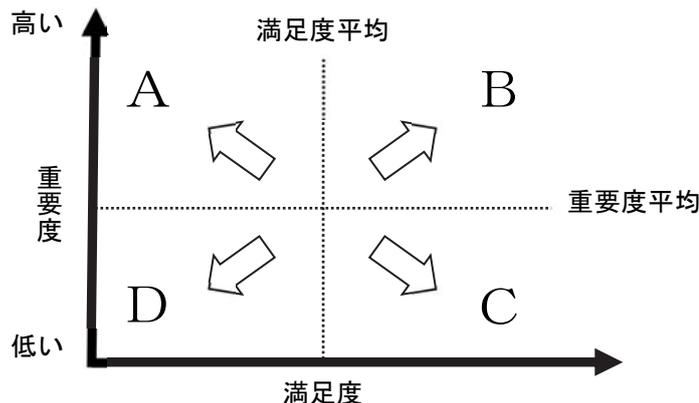
図6-3 ニーズ度／設問順



※数値の囲み付きは、上位5項目、下位5項目を示す。

⑦ 満足度と重要度の相関図による分析

【相関図による分析及び相関図の全体的な傾向】



縦軸に重要度、横軸に満足度を設定した相関図では、満足度と重要度をマトリックス上に示すことで、各施策の位置付けを整理する。満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上(A)、右上(B)、右下(C)、左下(D)の4方向に進むに従い、以下のような傾向を示している。

A. 重要度が高く、満足度が低い(重点化・見直し領域)

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め、満足度を高める必要のある領域。

「1-2 地元企業の創出・強化」、「1-5 農業の強化」、「1-9 労働・雇用環境の充実」、「2-1 住みよい都市の形成」
「2-4 公共交通網の充実」、「2-5 道路網の整備」、「2-11 地球温暖化防止の推進」、「4-5 広域・高速交通体系の強化」
「5-1 防災の強化・推進」、「5-6 高齢者支援の推進」、「5-9 子育て支援の充実」

B. 重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。

「1-3 商業・サービス業の集積・強化」、「2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進」、「2-7 良質な水の供給・整備」、
「2-8 汚水処理の推進」、「2-9 環境汚染の防止」、「2-10 自然環境・動植物の保全」、「3-2 保育サービスの充実」
「3-3 教育環境の整備・充実」、「3-4 学校教育の充実」、「3-5 青少年健全育成の推進」、
「5-2 市民の安全・安心社会の形成」、「5-3 消防・救急・救助体制の強化」、「5-4 地域医療の構築」、
「5-5 健康づくりの推進」、「5-7 障害者支援の推進」

C. 重要度が低く、満足度が高い(現状維持・見直し領域)

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直す必要のある領域。

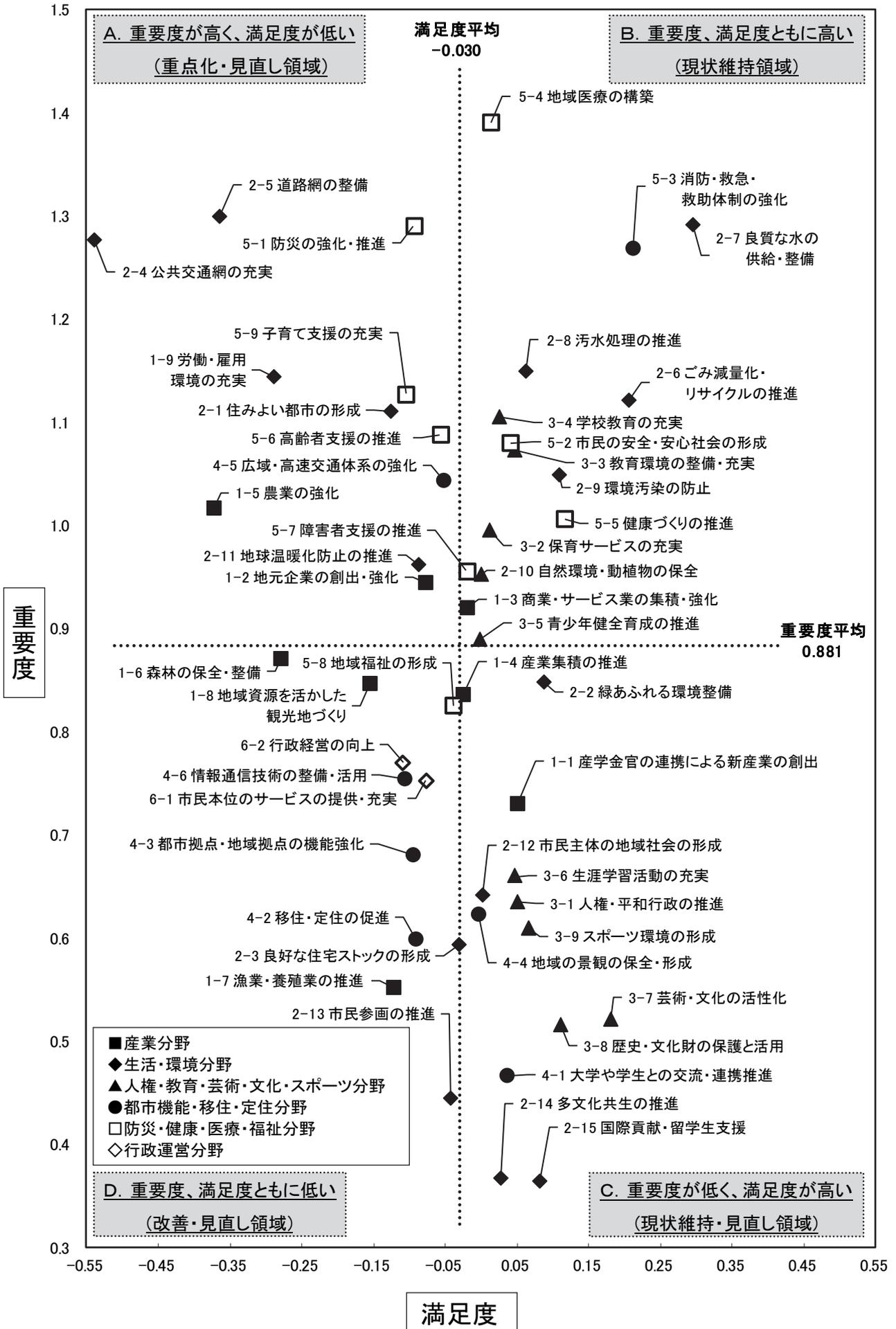
「1-1 産学金官の連携による新産業の創出」、「1-4 産業集積の推進」、「2-2 緑あふれる環境整備」、
「2-12 市民主体の地域社会の形成」、「2-14 多文化共生の推進」、「2-15 国際貢献・留学生支援」、
「3-1 人権・平和行政の推進」、「3-6 生涯学習活動の充実」、「3-7 芸術・文化の活性化」、
「3-8 歴史・文化財の保護と活用」、「3-9 スポーツ環境の形成」、
「4-1 大学や学生との交流・連携推進」、「4-4 地域の景観の保全・形成」

D. 重要度、満足度ともに低い(改善・見直し領域)

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再認識するとともに、施策のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域。

「1-6 森林の保全・整備」、「1-7 漁業・養殖業の推進」、「1-8 地域資源を活かした観光地づくり」、
「2-3 良好な住宅ストックの形成」、「2-13 市民参画の推進」、「4-2 移住・定住の促進」、
「4-3 都市拠点・地域拠点の機能強化」、「4-6 情報通信技術の整備・活用」、「5-8 地域福祉の形成」
「6-1 市民本位のサービスの提供・充実」、「6-2 行政経営の向上」

図6-4 施策に対する満足度と重要度の相関図



(2) 経年変化

① 満足度・重要度・ニーズ度の経年変化

【満足度】

満足度は、50項目中21項目(全体の42.0%)が前回調査(令和3年度)より増加(改善)している。

特に「2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進(+0.090)」、「2-9 環境汚染の防止(+0.060)」、「3-7 芸術・文化の活性化(+0.040)」、「2-8 汚水処理の推進(+0.039)」、「5-7 障害者支援の推進(+0.034)」などの満足度が令和3年度の値から増加(改善)している。

一方、「4-1 大学や学生との交流・連携推進(-0.095)」、「4-2 移住・定住の促進(-0.094)」、「2-2 緑あふれる環境整備(-0.062)」、「1-2 地元企業の創出・強化(-0.062)」、「2-1 住みよい都市の形成(-0.056)」などの満足度は低下している。

このうち、+から-に転じた項目は、「4-2 移住・定住の促進」である。

【重要度】

重要度は、50項目中3項目(全体の6.0%)が前回調査(令和3年度)より増加している。

重要度が令和3年度の値から増加している項目は、「1-3 商業・サービス業の集積・強化(+0.061)」、「1-4 産業集積の推進(+0.049)」、「4-2 移住・定住の促進(+0.019)」である。

一方、「5-7 障害者支援の推進(-0.188)」、「2-2 緑あふれる環境整備(-0.181)」、「2-11 地球温暖化防止の推進(-0.177)」、「2-10 自然環境・動植物の保全(-0.171)」、「2-9 環境汚染の防止(-0.169)」などの重要度は低下している。

【ニーズ度】

ニーズ度は、50項目中8項目(全体の16.0%)が前回調査(令和3年度)よりも増加している。

ニーズ度は重要度と満足度の加重平均値の差であり、ニーズ度の増加は、重要度の増加に対して相対的に満足度が低下していることを意味している。

ニーズ度の増加が高い項目の上位は、「4-2 移住・定住の促進(+0.113)」、「1-3 商業・サービス業の集積・強化(+0.084)」、「1-4 産業集積の推進(+0.036)」、「4-3 都市拠点・地域拠点の機能強化(+0.024)」、「1-2 地元企業の創出・強化(+0.018)」などであり、これらの項目は特に前回調査時点と比較して重点化・見直しの優先度が高くなっている項目と言える。

一方、「2-9 環境汚染の防止(-0.229)」、「5-7 障害者支援の推進(-0.222)」、「2-11 地球温暖化防止の推進(-0.203)」、「2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進(-0.191)」、「5-5 健康づくりの推進(-0.155)」などのニーズ度は低下している。

表6-4 令和4年度と令和3年度調査の比較表

項目		満足度			重要度			ニーズ度			
		令和3年度	令和4年度	増減上位	令和3年度	令和4年度	増減上位	令和3年度	令和4年度	増減上位	
産業分野	1-1	産学金官の連携による新産業の創出	0.078	0.051		0.776	0.729		0.698	0.679	
	1-2	地元企業の創出・強化	-0.016	-0.078	↓4	0.988	0.944		1.004	1.021	↑5
	1-3	商業・サービス業の集積・強化	0.004	-0.019		0.859	0.919	↑1	0.855	0.939	↑2
	1-4	産業集積の推進	-0.038	-0.024		0.787	0.836	↑2	0.824	0.860	↑3
	1-5	農業の強化	-0.337	-0.372		1.053	1.016		1.390	1.388	
	1-6	森林の保全・整備	-0.300	-0.279		1.000	0.871		1.300	1.150	
	1-7	漁業・養殖業の推進	-0.112	-0.123		0.627	0.551		0.739	0.674	
	1-8	地域資源を活かした観光地づくり	-0.121	-0.154		0.875	0.847		0.996	1.001	
	1-9	労働・雇用環境の充実	-0.279	-0.289		1.279	1.143		1.558	1.433	
生活・環境分野	2-1	住みよい都市の形成	-0.070	-0.126	↓5	1.171	1.110		1.241	1.236	
	2-2	緑あふれる環境整備	0.150	0.088	↓3	1.028	0.848	↓2	0.878	0.759	
	2-3	良好な住宅ストックの形成	-0.047	-0.031		0.670	0.593		0.717	0.623	
	2-4	公共交通網の充実	-0.559	-0.538		1.353	1.276		1.911	1.814	
	2-5	道路網の整備	-0.359	-0.364		1.336	1.299		1.694	1.663	
	2-6	ごみ減量化・リサイクルの推進	0.115	0.205	↑1	1.222	1.121		1.108	0.916	↓4
	2-7	良質な水の供給・整備	0.264	0.295		1.382	1.290		1.118	0.996	
	2-8	汚水処理の推進	0.023	0.062	↑4	1.245	1.149		1.222	1.087	
	2-9	環境汚染の防止	0.048	0.108	↑2	1.217	1.048	↓5	1.169	0.940	↓1
	2-10	自然環境・動植物の保全	0.029	0.001		1.123	0.952	↓4	1.094	0.951	
	2-11	地球温暖化防止の推進	-0.113	-0.088		1.138	0.961	↓3	1.252	1.049	↓3
	2-12	市民主体の地域社会の形成	0.031	0.002		0.733	0.641		0.701	0.639	
	2-13	市民参画の推進	0.002	-0.043		0.569	0.444		0.567	0.487	
	2-14	多文化共生の推進	0.053	0.026		0.486	0.366		0.434	0.340	
	2-15	国際貢献・留学生支援	0.100	0.081		0.500	0.364		0.400	0.283	
文化・人権・スポーツ・教育・芸術分野	3-1	人権・平和行政の推進	0.076	0.051		0.770	0.634		0.694	0.583	
	3-2	保育サービスの充実	0.024	0.012		1.109	0.995		1.085	0.983	
	3-3	教育環境の整備・充実	0.049	0.048		1.148	1.073		1.099	1.025	
	3-4	学校教育の充実	0.022	0.025		1.196	1.105		1.173	1.080	
	3-5	青少年健全育成の推進	0.038	-0.001		0.949	0.889		0.910	0.890	
	3-6	生涯学習活動の充実	0.091	0.047		0.739	0.660		0.647	0.612	
	3-7	芸術・文化の活性化	0.139	0.180	↑3	0.609	0.521		0.470	0.341	
	3-8	歴史・文化財の保護と活用	0.124	0.112		0.598	0.515		0.474	0.403	
	3-9	スポーツ環境の形成	0.059	0.066		0.713	0.610		0.654	0.544	
移住・都市機能分野	4-1	大学や学生との交流・連携推進	0.130	0.035	↓1	0.549	0.467		0.419	0.432	
	4-2	移住・定住の促進	0.003	-0.092	↓2	0.579	0.598	↑3	0.576	0.689	↑1
	4-3	都市拠点・地域拠点の機能強化	-0.060	-0.096		0.691	0.680	↑5	0.751	0.776	↑4
	4-4	地域の景観の保全・形成	0.042	-0.004		0.689	0.623		0.646	0.626	
	4-5	広域・高速交通体系の強化	-0.048	-0.051		1.056	1.043		1.104	1.095	
	4-6	情報通信技術の整備・活用	-0.114	-0.107		0.782	0.754		0.895	0.860	
医療・福祉・健康・防災分野	5-1	防災の強化・推進	-0.100	-0.095		1.401	1.290		1.501	1.384	
	5-2	市民の安全・安心社会の形成	0.022	0.041		1.193	1.080		1.170	1.040	
	5-3	消防・救急・救助体制の強化	0.190	0.211		1.369	1.268		1.179	1.057	
	5-4	地域医療の構築	0.026	0.013		1.461	1.390		1.435	1.377	
	5-5	健康づくりの推進	0.088	0.116		1.133	1.006		1.045	0.890	↓5
	5-6	高齢者支援の推進	-0.071	-0.058		1.214	1.088		1.285	1.145	
	5-7	障害者支援の推進	-0.055	-0.021	↑5	1.144	0.956	↓1	1.199	0.977	↓2
	5-8	地域福祉の形成	-0.043	-0.039		0.908	0.825		0.951	0.864	
	5-9	子育て支援の充実	-0.069	-0.105		1.187	1.127		1.257	1.232	
分運行政	6-1	市民本位のサービスの提供・充実	-0.068	-0.077		0.760	0.752	↑4	0.828	0.829	
	6-2	行政経営の向上	-0.139	-0.109		0.879	0.769		1.018	0.878	
平均			-0.022	-0.030		0.966	0.881		0.988	0.911	

※表中の網掛け部分は、令和3年度調査結果を上回る(満足度が改善した、重要度・ニーズ度が増した)項目を示す。
 ※両年度の値を比較して値が増加した上位5項目に↑、また最も減少、または増加が少なかった5項目に↓を表示している。

4. SDGsについて

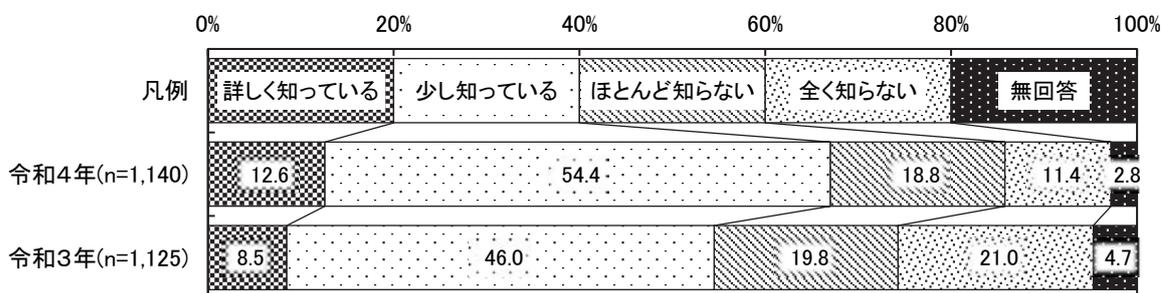
(1) SDGsの認知度

問7 東広島市では、SDGsの達成に向けた取組を推進することとしています。あなたは、「SDGs」という言葉をどの程度知っていますか。
(1つだけ選んで○をお付けください)

「SDGs」という言葉については、「詳しく知っている」は12.6%、「少し知っている」は54.4%で、“知っている”（「詳しく知っている」と「少し知っている」の合計）は67.0%となっている。「ほとんど知らない」は18.8%、「全く知らない」が11.4%であった。

令和3年度調査(前回)との比較では、“知っている”は54.5%から12.5ポイント増加した。

図7-1 SDGsの認知度

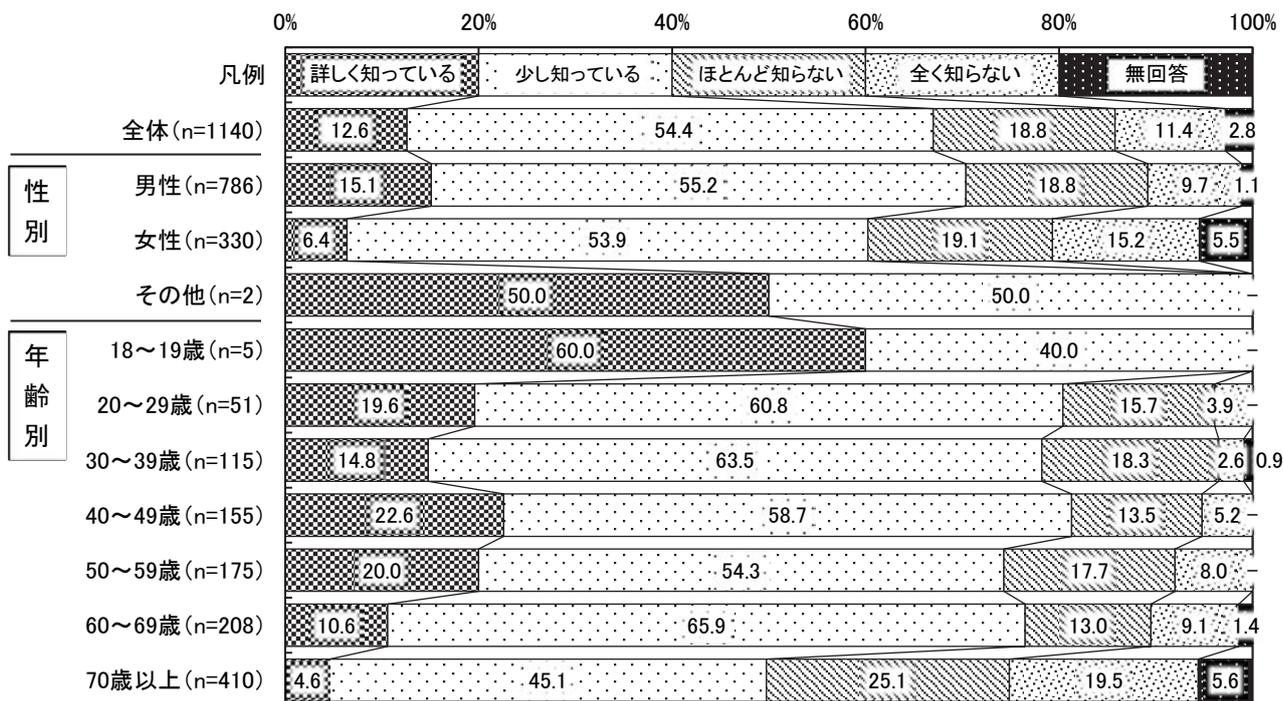


【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、「詳しく知っている」は『男性』が『女性』より8.7ポイント高く、“知っている”は『男性』70.3%、『女性』60.3%と『男性』が『女性』より10.0ポイント高い。

年齢別では、“知っている”は70歳未満の各年齢層で7割を超えているが、『70歳以上』は49.7%と17.3ポイント全体より低くなっている。

図7-2 SDGsの認知度／性別・年齢別

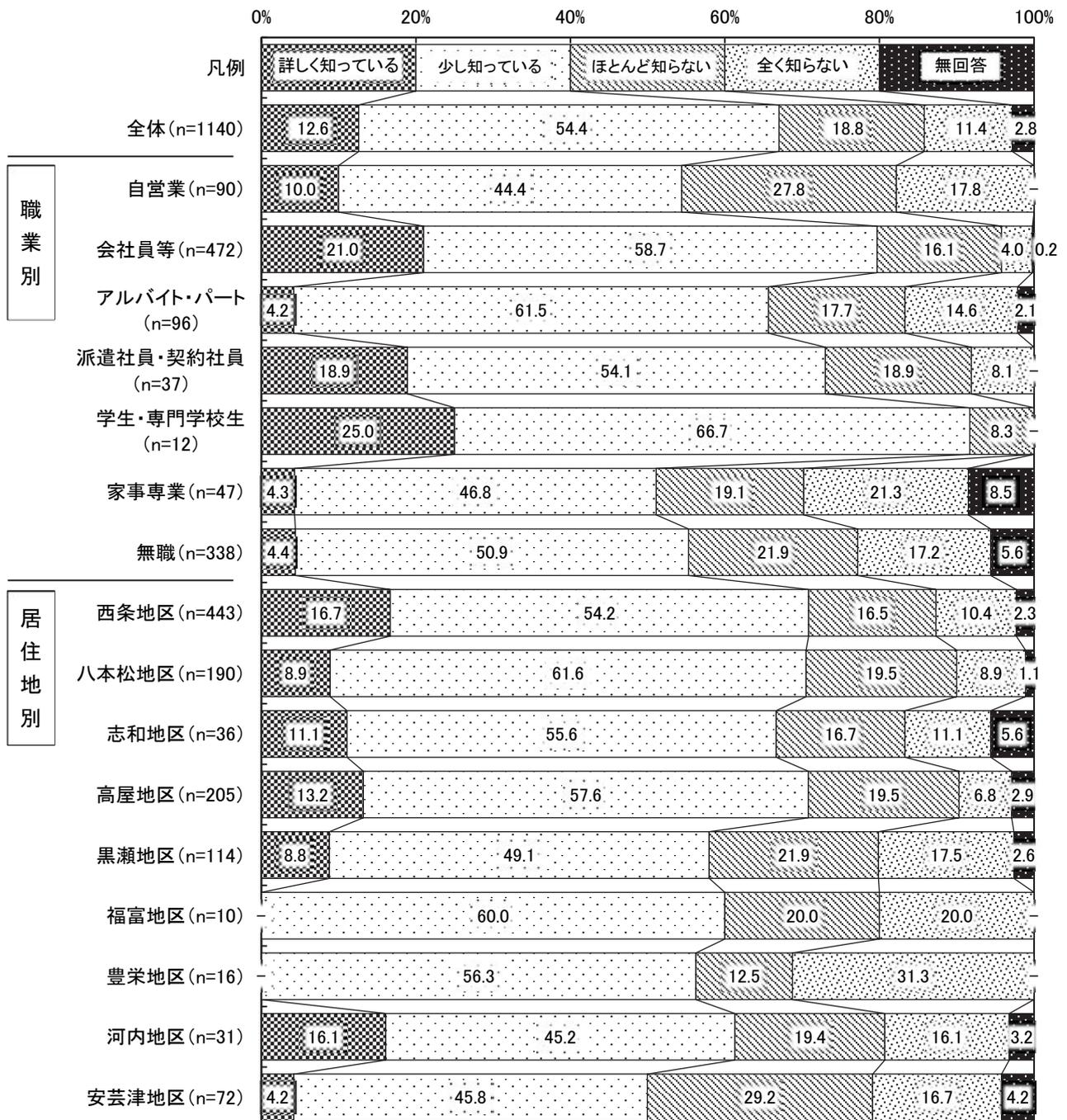


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“知っている”（「詳しく知っている」と「少し知っている」の合計）は『会社員等』が79.7%と12.7ポイント全体より高い。一方、『自営業』は54.4%と12.6ポイント、『無職』は55.3%と11.7ポイント、それぞれ全体より低くなっている。

居住地別では、『安芸津地区』が50.0%と17.0ポイント全体より低く、各地区の中で最も低い。

図7-3 SDGsの認知度／職業別・居住地別



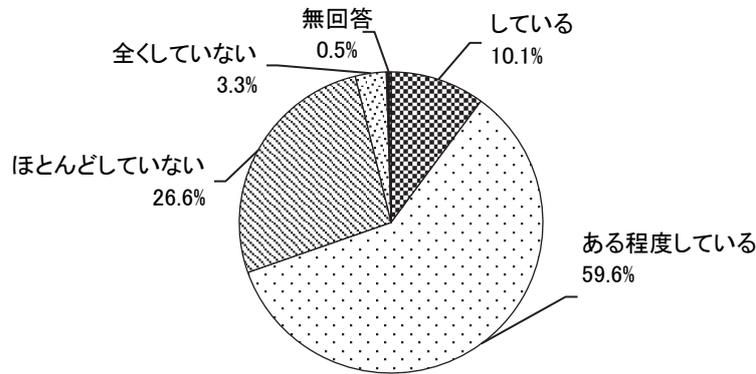
(2) SDGsの目標を意識した行動の実施状況

問7で「1 詳しく知っている」「2 少し知っている」とお答えの方におたずねします。
 問7-1 あなたは、普段の生活の中で、SDGsの目標を意識した行動をしていますか。
 (1つだけ選んで○をお付けください)

SDGsの目標を意識した行動の実施状況については、「している」が10.1%、「ある程度している」が59.6%で、SDGsの目標を意識した行動を“している”(「している」と「ある程度している」の合計)は69.7%であった。

「ほとんどしていない」は26.6%、「全くしていない」は3.3%で、“していない”(「全くしていない」と「ほとんどしていない」の合計)は29.9%となっている。

図7-4 SDGsの目標を意識した行動の実施状況 [n=764]

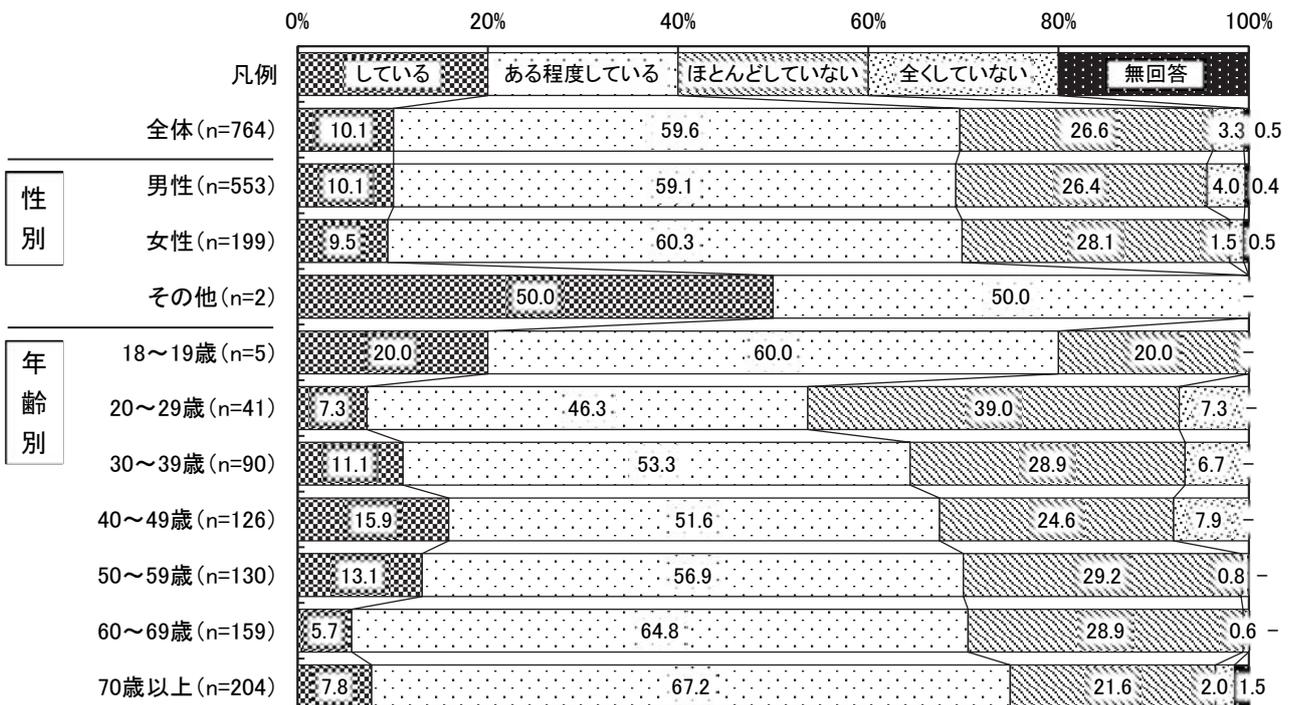


【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、“している”は『20～29歳』が53.6%と16.1ポイント全体より低く、各年齢層で最も低い。

図7-5 SDGsの目標を意識した行動の実施状況／性別・年齢別

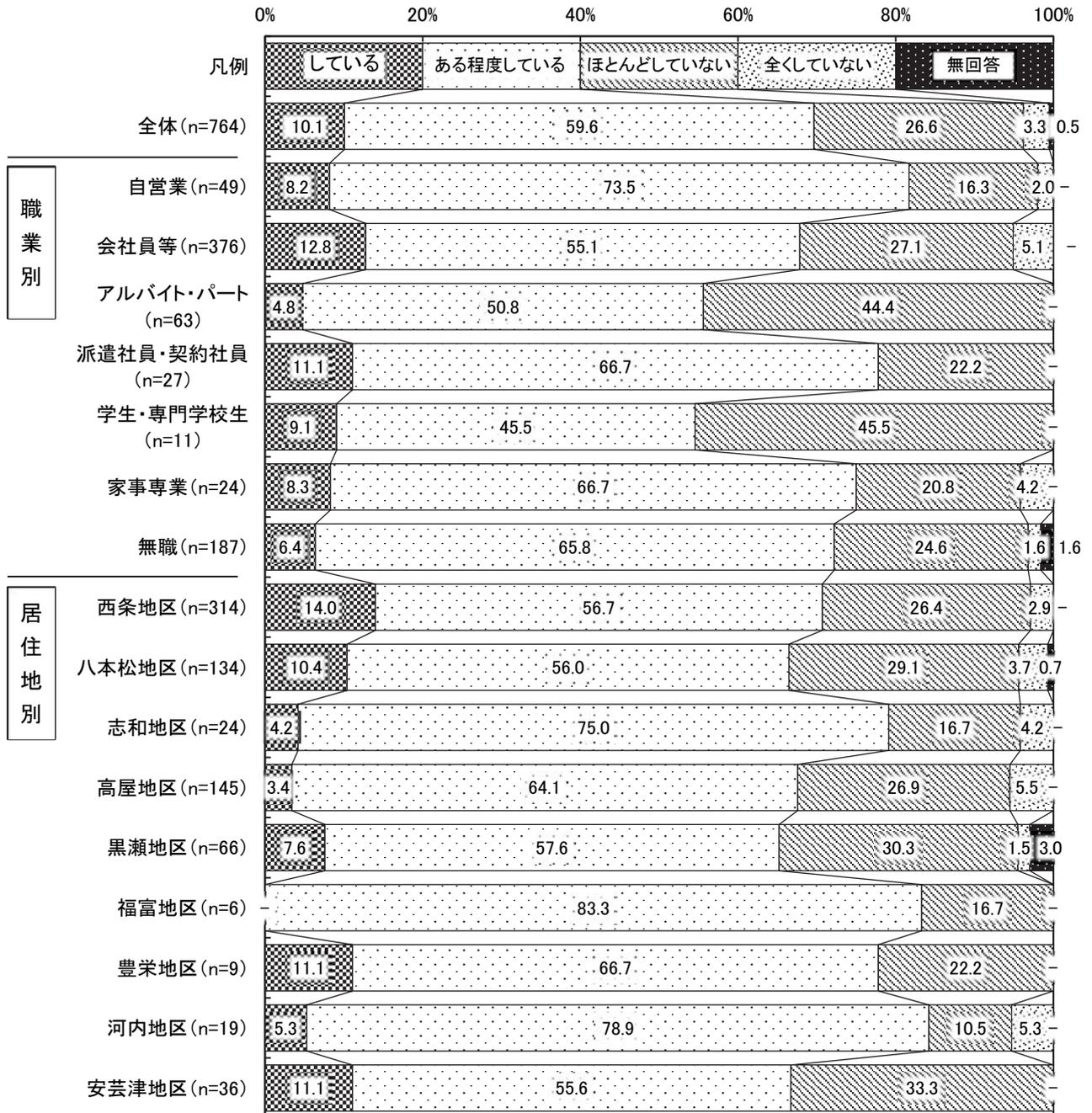


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“している”（「している」と「ある程度している」の合計）は『自営業』が81.7%と12.0ポイント全体より高い。

居住地別では、“している”は『河内地区』が84.2%と14.5ポイント、『福富地区』が83.3%と13.6ポイント、『志和地区』が79.2%と9.5ポイント、『豊栄地区』が77.8%と8.1ポイント、それぞれ全体より高い。

図7-6 SDGsの目標を意識した行動の実施状況／職業別・居住地別



5. 男女共同参画について

(1) 男女共同参画について

問8 あなたは、次の①～④について、どのように感じていますか。

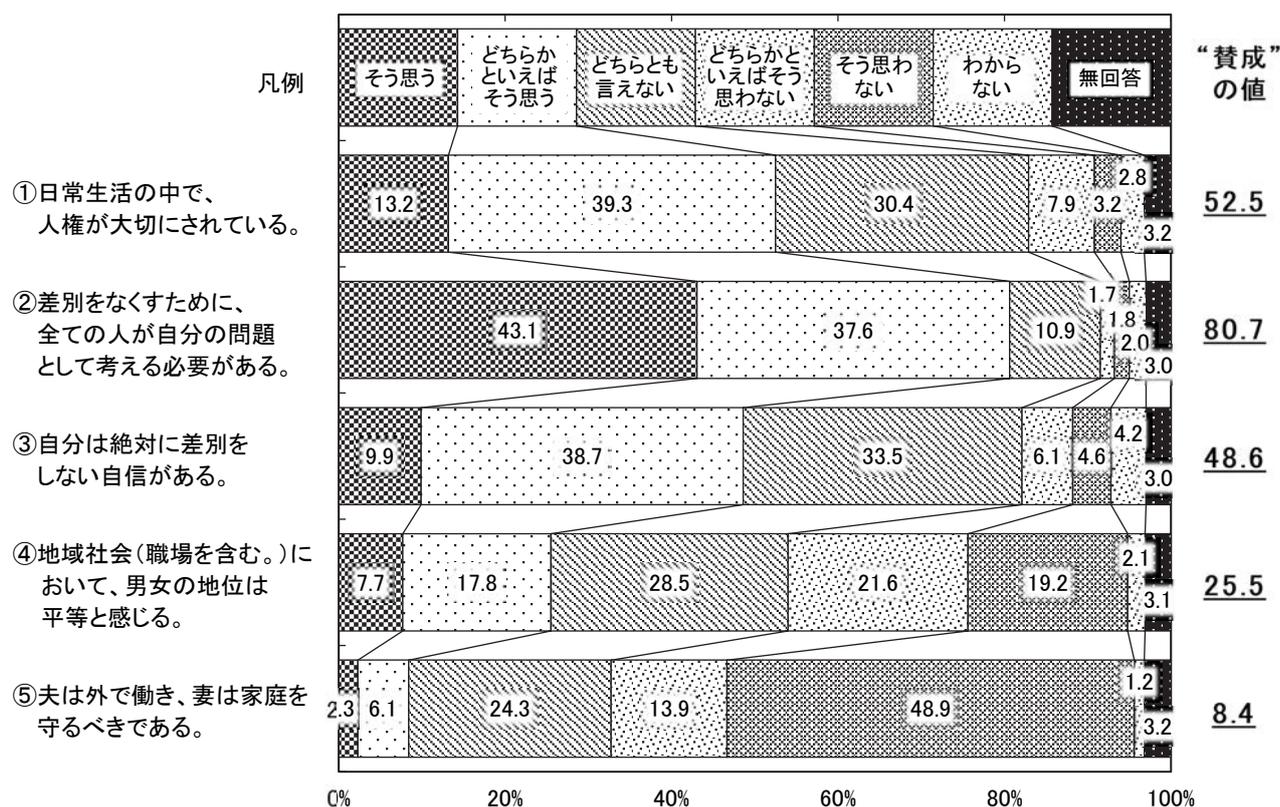
また、⑤の考え方に賛成ですか、反対ですか。

(それぞれの項目ごとに、当てはまるものを1つだけ選んで○をお付けください。)

男女共同参画に関する各項目について“賛成”(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が高いものでは、『②差別をなくすために、全ての人が自分の問題として考える必要がある』が80.7%と最も高く、次いで『①日常生活の中で、人権が大切にされている』が52.5%、『③自分は絶対に差別をしない自信がある』が48.6%、『④地域社会(職場を含む。)において、男女の地位は平等と感じる』が25.5%と続いている。

『⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』については「そう思わない」が48.9%と5割弱を占めており、“賛成”は8.4%であった。

図8-1 男女共同参画について [n=1, 140]



①日常生活の中で、人権が大切にされている

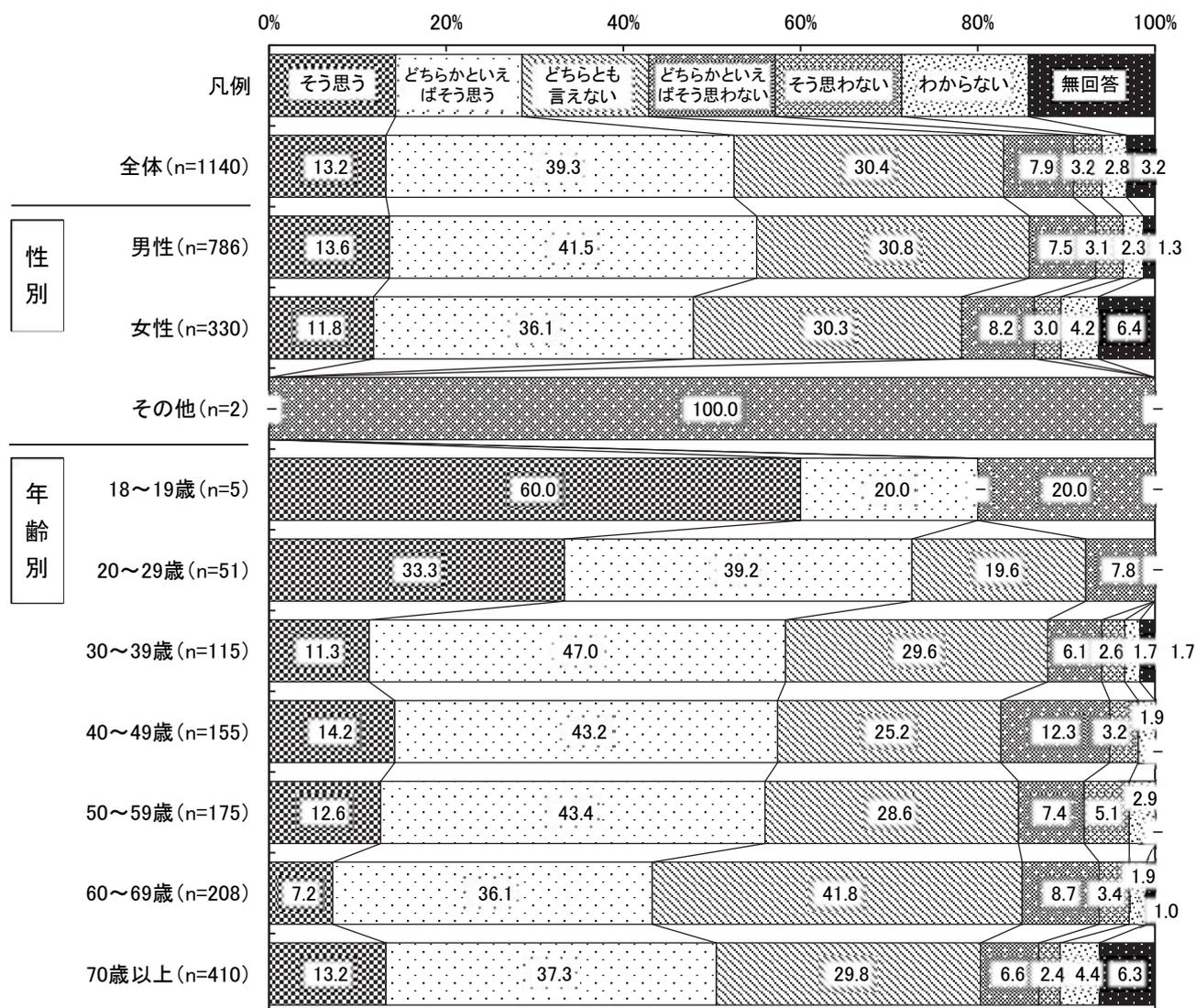
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は『男性』が55.1%、『女性』が47.9%と『男性』が『女性』より7.2ポイント高い。

年齢別では、「そう思う」は『20～29歳』が33.3%と20.1ポイント全体より高い。“賛成”についても『20～29歳』が72.5%と20.0ポイント全体より高い。

「どちらとも言えない」は『60～69歳』が41.8%と11.4ポイント全体より高くなっている。

図8-2 男女共同参画について ①日常生活の中で、人権が大切にされている／性別・年齢別

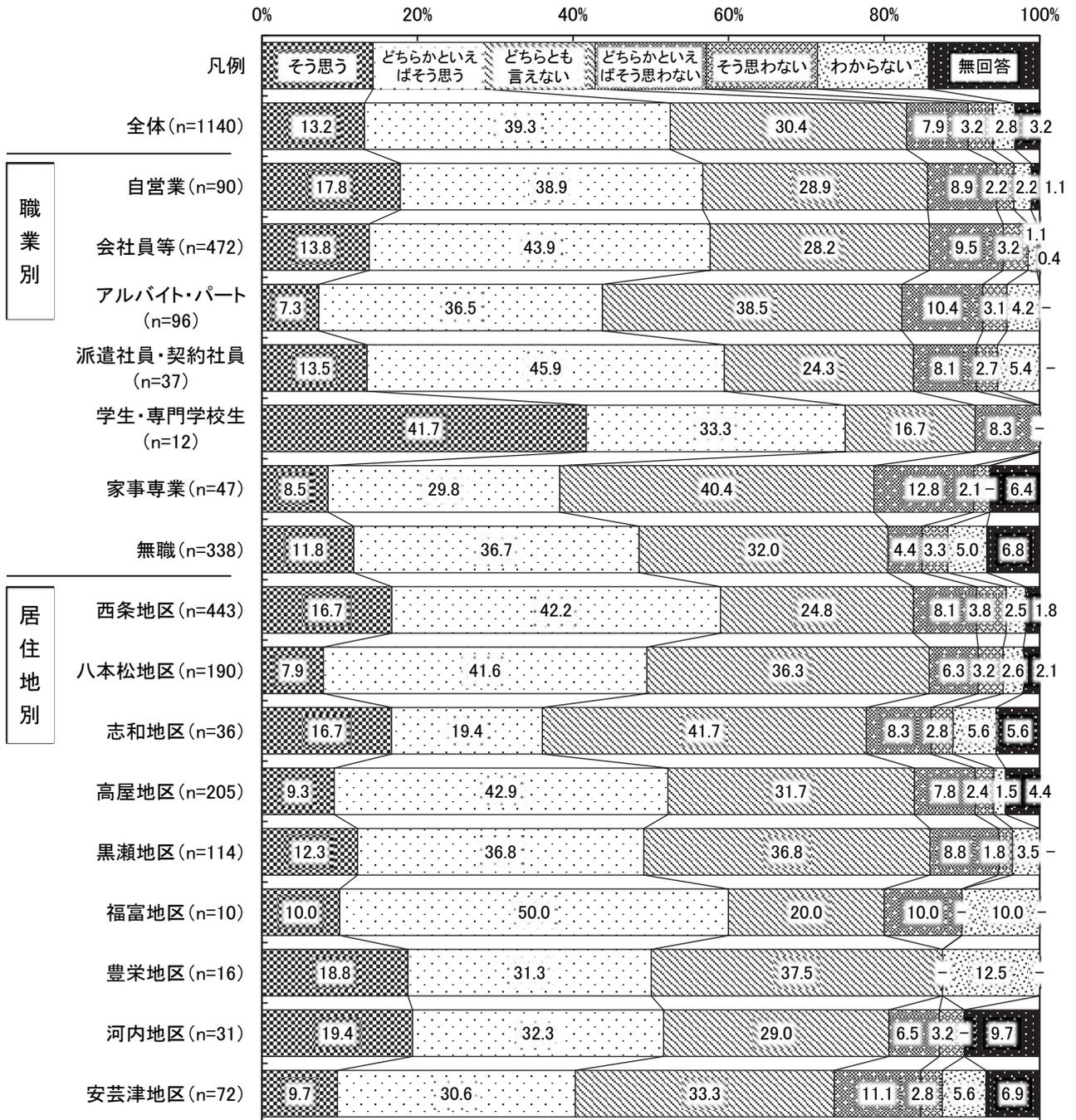


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、顕著な差はない。

居住地別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は『西条地区』が58.9%と6.4ポイント、『福富地区』が60.0%と7.5ポイント、それぞれ全体より高い。一方、『志和地区』は36.1%と16.4ポイント、『安芸津地区』は40.3%と12.2ポイント、それぞれ全体より低くなっている。

図8-3 男女共同参画について ①日常生活の中で、人権が大切にされている／職業別・居住地別



②差別をなくすために、全ての人が自分の問題として考える必要がある

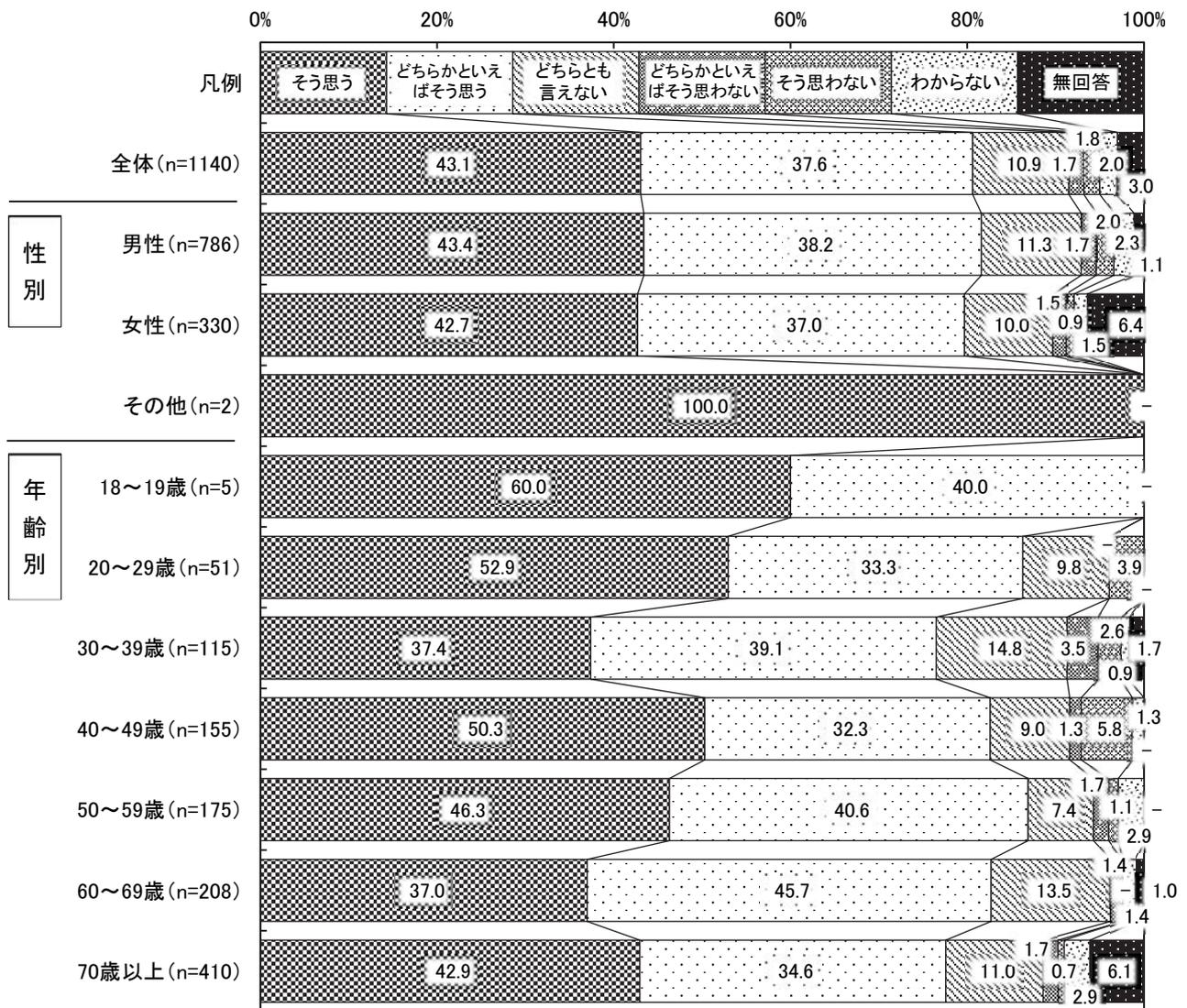
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「そう思う」は『20～29歳』が52.9%と9.8ポイント、『40～49歳』が50.3%と7.2ポイント、それぞれ全体より高い。“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）については『50～59歳』が86.9%と6.2ポイント、『20～29歳』が86.2%と5.5ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図8-4 男女共同参画について

②差別をなくすために、全ての人が自分の問題として考える必要がある／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

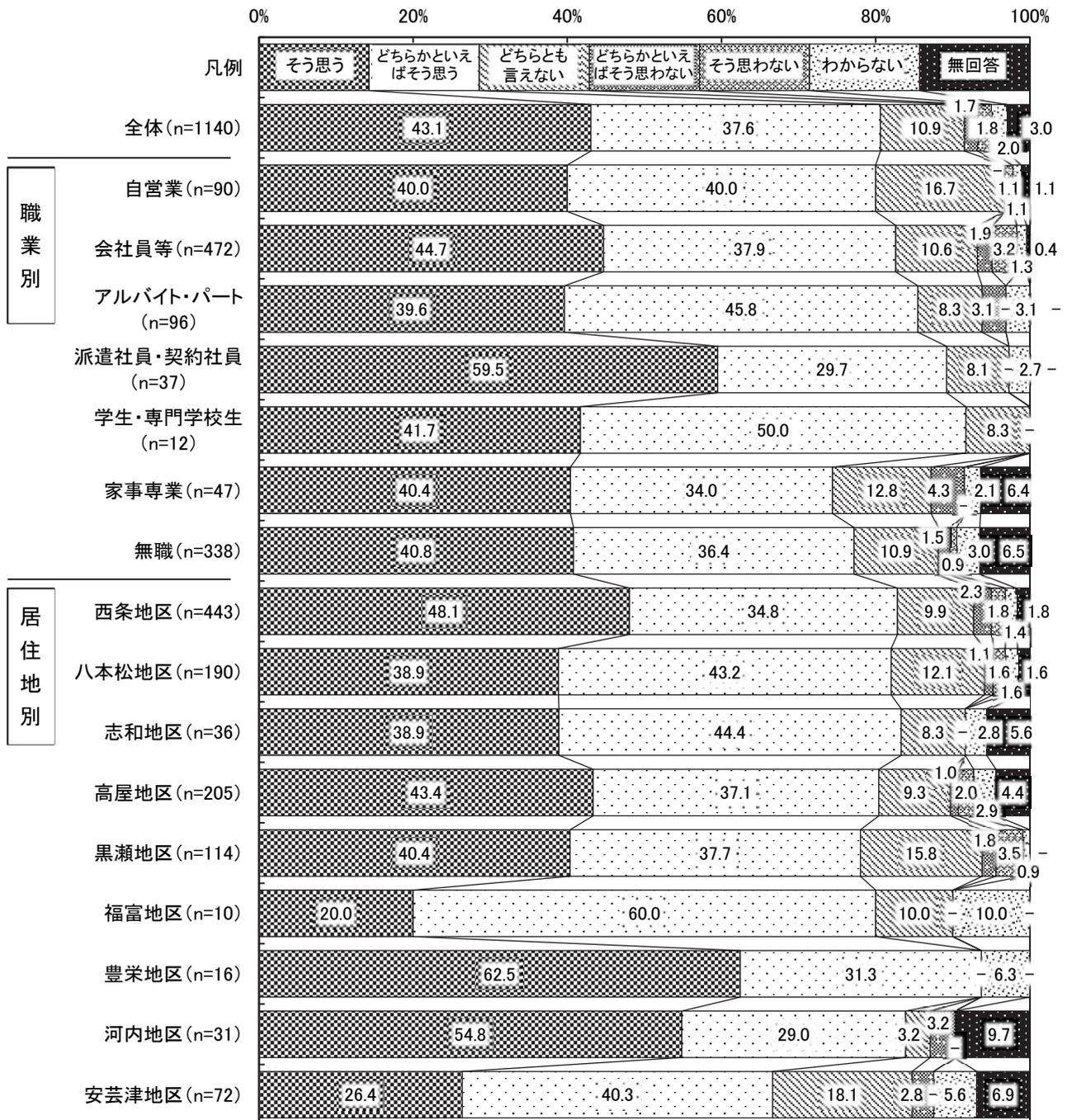
職業別では、「そう思う」は『派遣社員・契約社員』が59.5%と16.4ポイント全体より高い。

「どちらとも言えない」は『自営業』が16.7%と5.8ポイント全体より高くなっている。

居住地別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は『安芸津地区』が66.7%と14.0ポイント全体より低くなっている。

図8-5 男女共同参画について

②差別をなくすために、全ての人が自分の問題として考える必要がある／職業別・居住地別



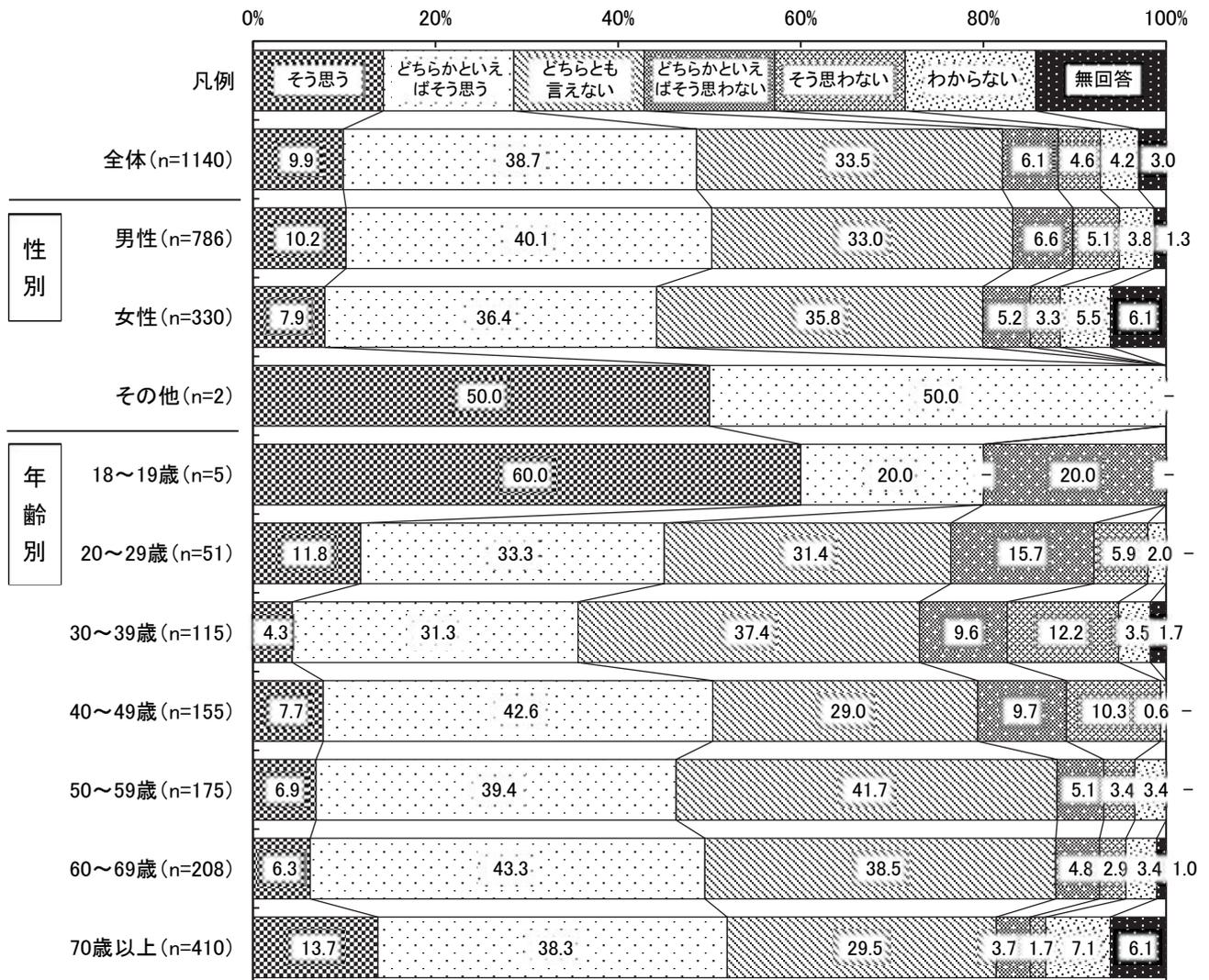
③自分は絶対に差別をしない自信がある

【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は『男性』が50.3%、『女性』が44.3%と、『男性』が『女性』より6.0ポイント高い。

年齢別では、“賛成”は『30～39歳』が35.6%と13.0ポイント全体より低くなっている。

図8-6 男女共同参画について ③自分は絶対に差別をしない自信がある／性別・年齢別

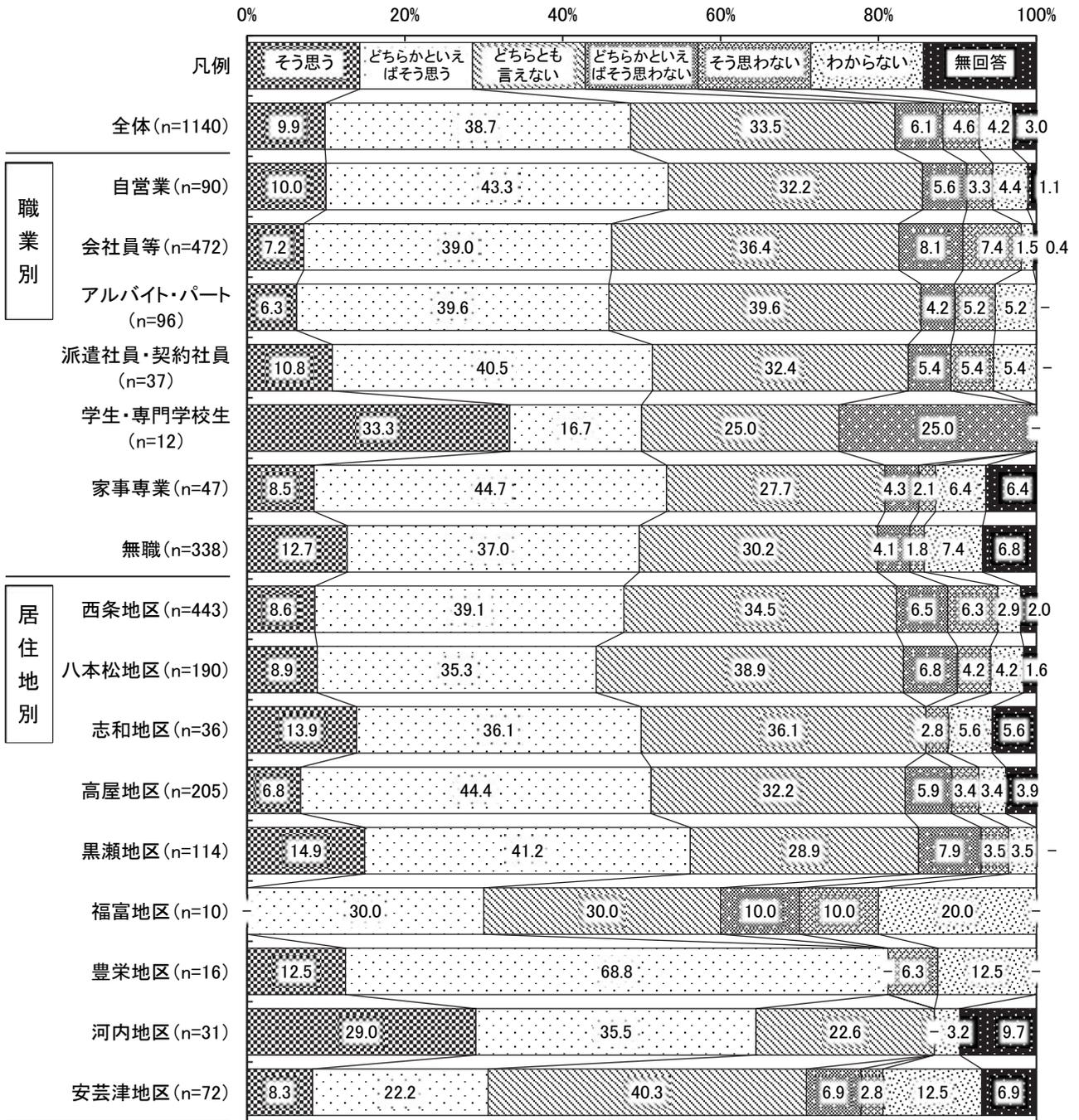


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、顕著な差はない。

居住地別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は『福富地区』が30.0%と18.6ポイント、『安芸津地区』が30.5%と18.1ポイント、それぞれ全体より低い。

図8-7 男女共同参画について ③自分は絶対に差別をしない自信がある／職業別・居住地別



④地域社会(職場を含む)において、男女の地位は平等だ

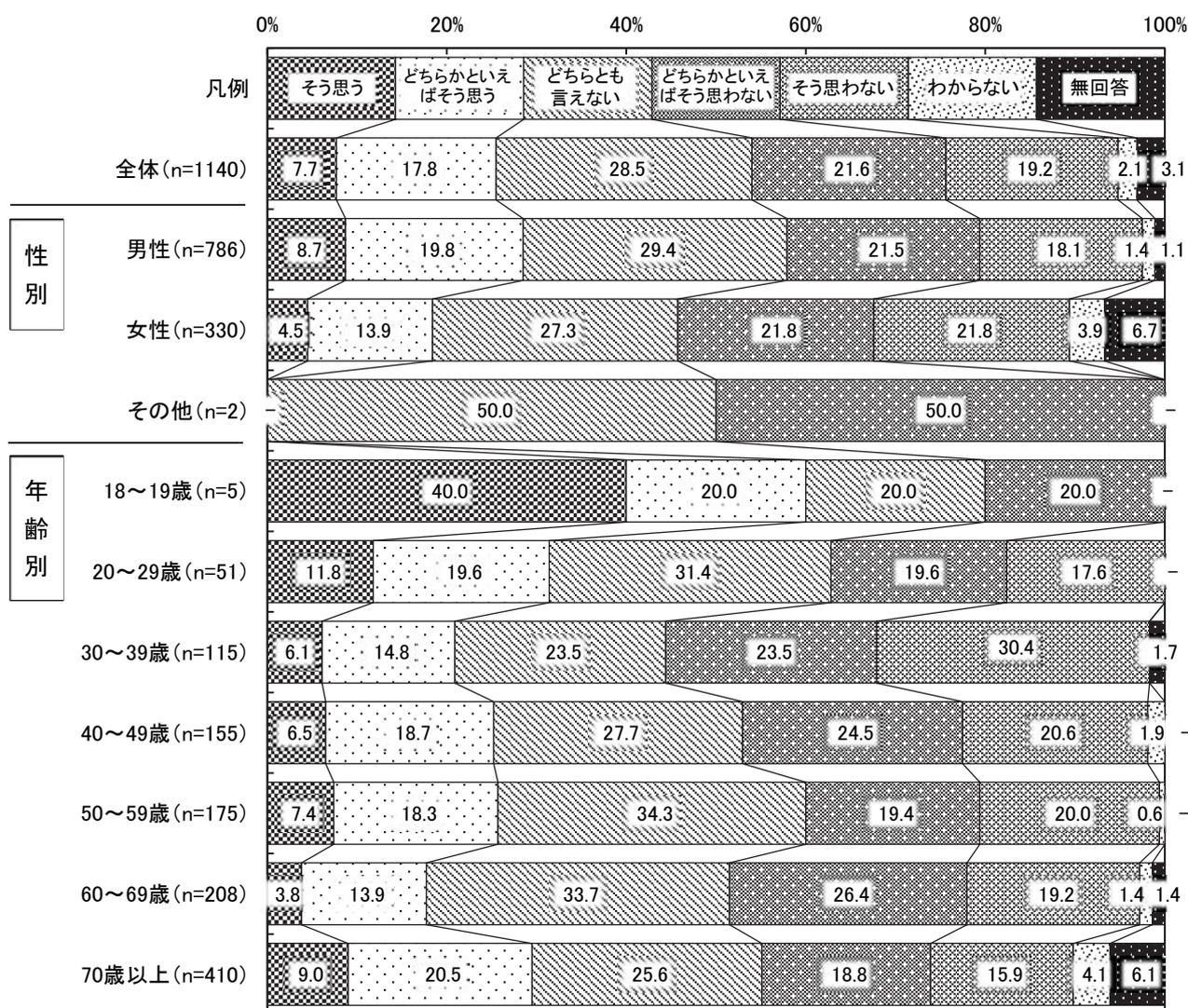
【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は『男性』28.5%、『女性』18.4%と、『男性』が『女性』より10.1ポイント高い。

年齢別では、“反対”（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は『30～39歳』が53.9%と13.1ポイント全体より高くなっている。

図8-8 男女共同参画について

④地域社会(職場を含む)において、男女の地位は平等だ／性別・年齢別



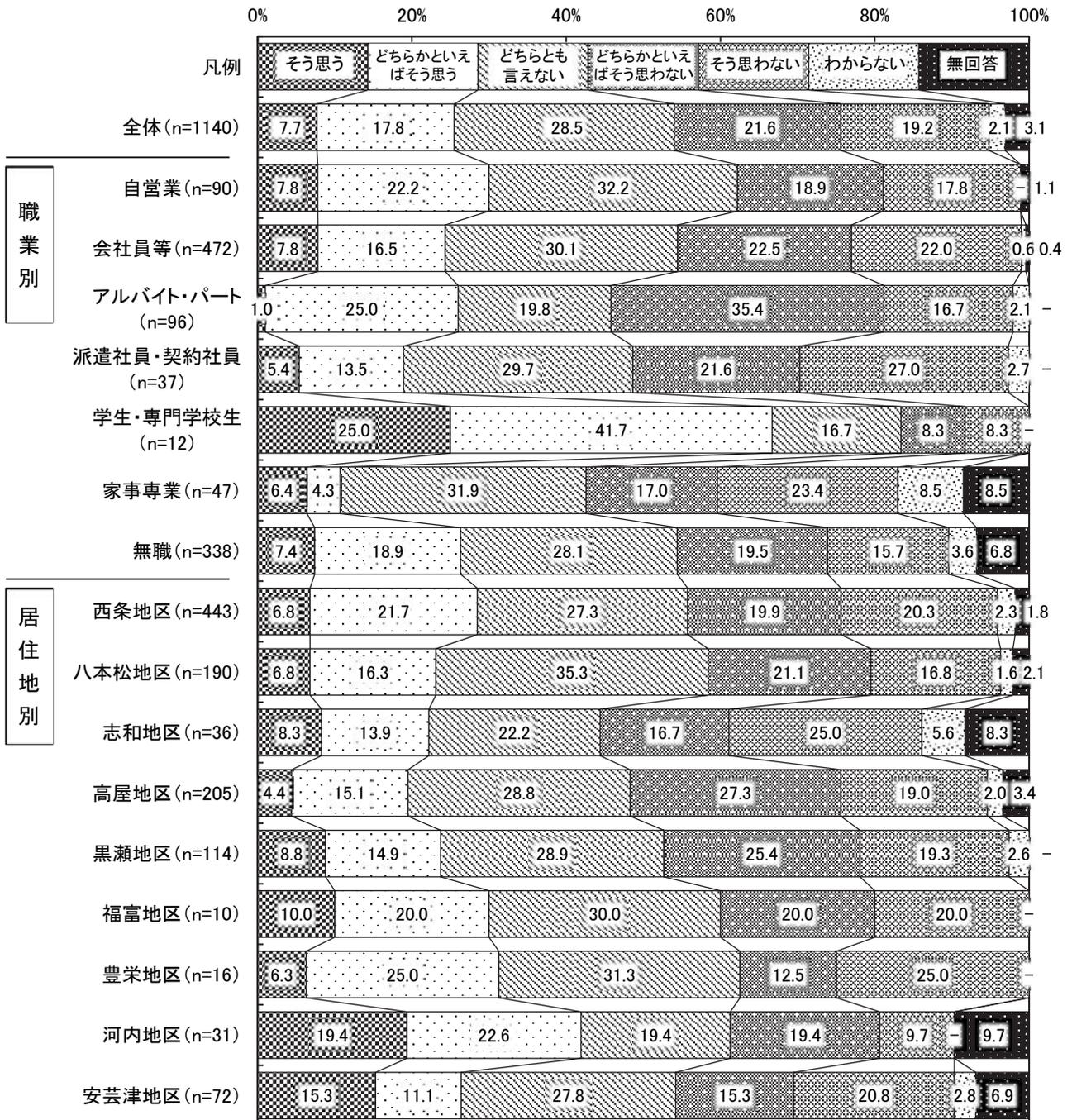
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、顕著な差はない。

居住地別では、“反対”（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は『高屋地区』が46.3%と5.5ポイント全体より高くなっている。

図8-9 男女共同参画について

④地域社会(職場を含む)において、男女の地位は平等だ／職業別・居住地別



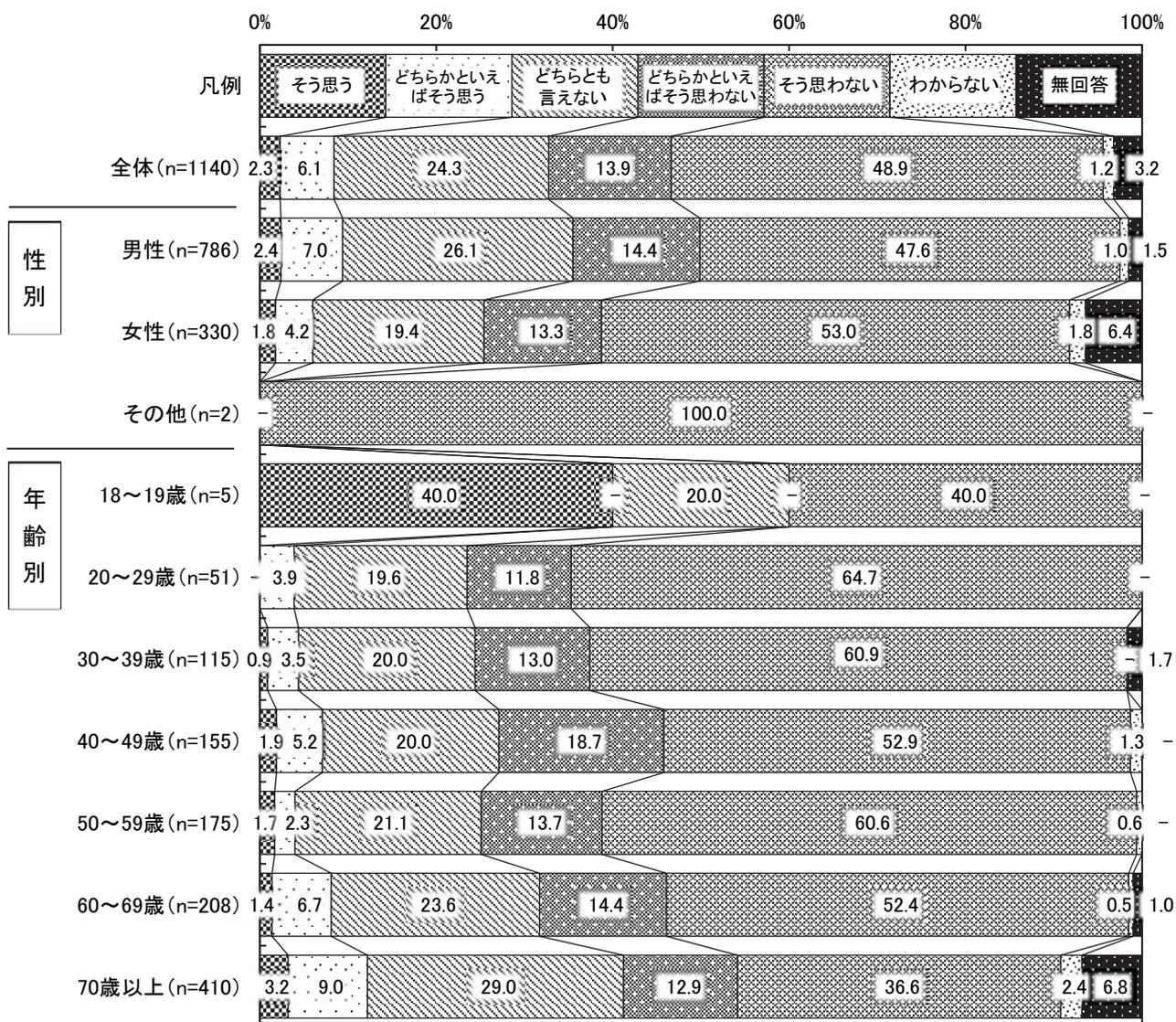
⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、「どちらとも言えない」は『男性』26.1%、『女性』19.4%と、『男性』が『女性』より6.7ポイント高い。「そう思わない」は『男性』47.6%、『女性』53.0%と、『女性』が『男性』より5.4ポイント高い。

年齢別では、“反対”（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は『20～29歳』が76.5%と13.7ポイント、『50～59歳』が74.3%と11.5ポイント、『30～39歳』が73.9%と11.1ポイント、『40～49歳』が71.6%と8.8ポイント、それぞれ全体より高い。一方、『70歳以上』は49.5%と13.3ポイント全体より低く、各年齢層の中で最も低い。

図8-10 男女共同参画について ⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである／性別・年齢別

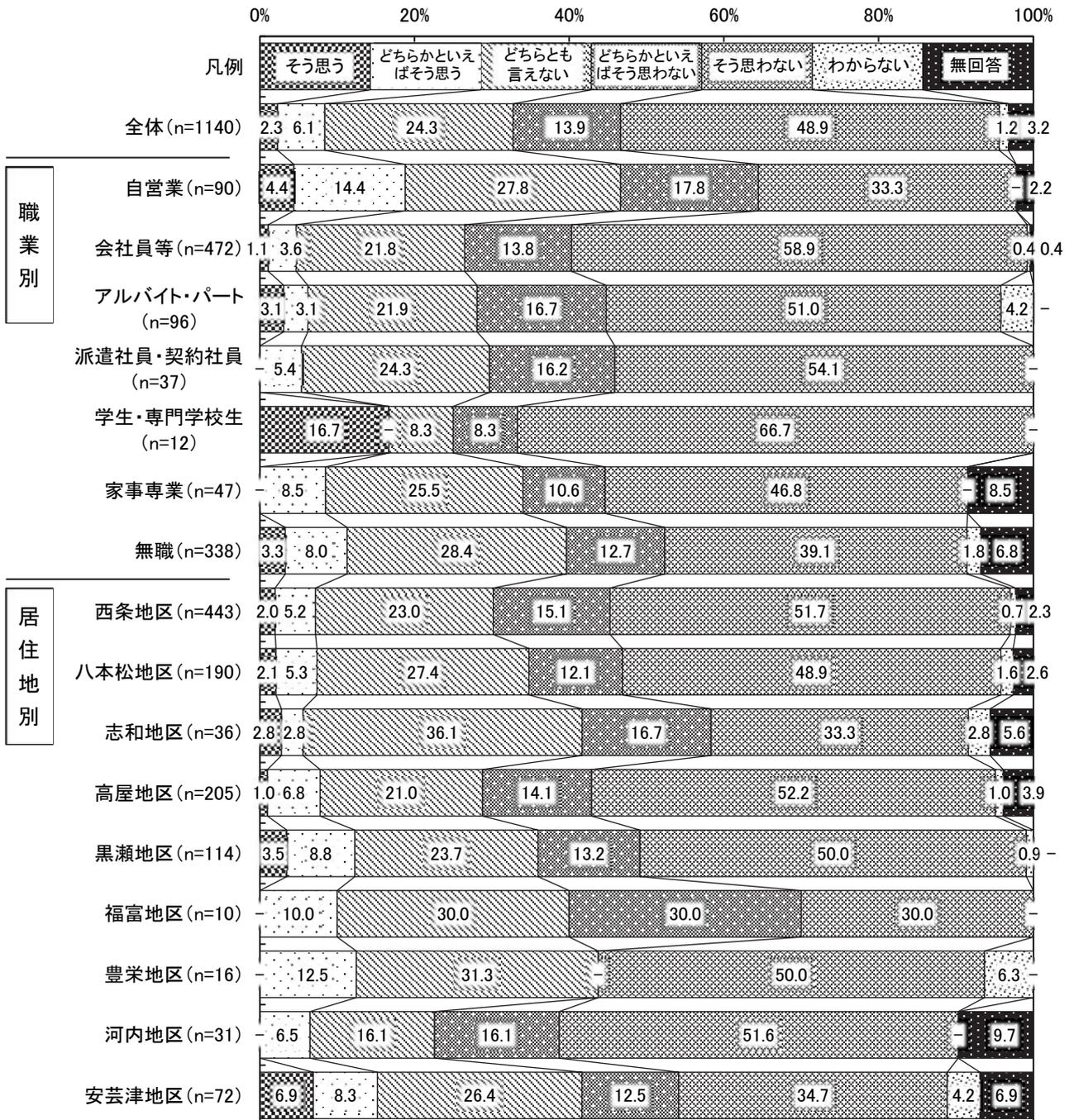


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“賛成”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）については、『自営業』が18.8%と10.4ポイント全体より高く、“反対”（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）については、『会社員等』が72.7%と9.9ポイント全体より高くなっている。

居住地別では、“賛成”は『安芸津地区』が15.2%と6.8ポイント全体より高く、「どちらとも言えない」は『志和地区』が36.1%と11.8ポイント、『豊栄地区』が31.3%と7.0ポイント、『福富地区』が30.0%と5.7ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図8-11 男女共同参画について ⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである／職業別・居住地別



6. 東広島市の特産品について

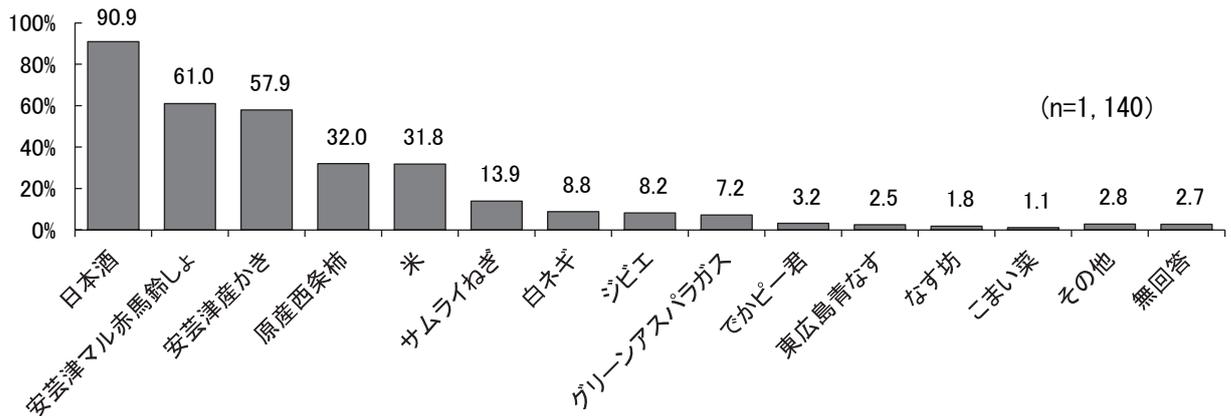
(1) 東広島市の特産品だと思うもの

問9 次の項目の中で、東広島市の特産品だと思うものがありますか。
(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

東広島市の特産品だと思うものについては、「日本酒」が90.9%と最も高く、次いで「安芸津マル赤馬鈴しょ」が61.0%、「安芸津産かき」が57.9%、「原産西条柿」が32.0%、「米」が31.8%となっている。

図9-1 東広島市の特産品だと思うもの〔n=1,140〕

単位：%



【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、『女性』は『男性』より「原産西条柿」が9.8ポイント、「白ネギ」が7.4ポイント、「安芸津マル赤馬鈴しょ」が7.2ポイント、それぞれ高い。

年齢別では、「日本酒」は『20～29歳』が98.0%と7.1ポイント、「サムライねぎ」は『30～39歳』が31.3%と全体より17.4ポイント、それぞれ全体より高い。「安芸津マル赤馬鈴しょ」、「安芸津産かき」は50歳以上の年齢層で高く、「原産西条柿」、「米」、「白ネギ」は『70歳以上』で高い。

表9-1 東広島市の特産品だと思うもの／性別・年齢別

単位：%

		日本酒	安芸津マル赤馬鈴しょ	安芸津産かき	原産西条柿	米	サムライねぎ	白ネギ	ジビエ	グリーンアスパラガス	でかピー君	東広島青なす	なす坊	こまい菜	その他	無回答
全体(n=1140)		90.9	61.0	57.9	32.0	31.8	13.9	8.8	8.2	7.2	3.2	2.5	1.8	1.1	2.8	2.7
性別	男性(n=786)	92.2	58.9	56.5	29.3	30.8	13.4	6.5	7.0	5.1	2.2	1.9	1.5	0.6	2.8	1.8
	女性(n=330)	88.8	66.1	62.1	39.1	33.6	15.2	13.9	11.2	11.2	5.2	3.9	2.4	1.8	2.4	3.9
	その他(n=2)	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
年齢別	18～19歳(n=5)	80.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-
	20～29歳(n=51)	98.0	15.7	29.4	9.8	9.8	13.7	2.0	5.9	2.0	-	3.9	-	2.0	-	-
	30～39歳(n=115)	90.4	32.2	46.1	18.3	20.0	31.3	4.3	7.8	2.6	1.7	2.6	0.9	0.9	2.6	0.9
	40～49歳(n=155)	90.3	52.9	52.3	21.9	25.8	18.7	5.8	10.3	5.2	3.9	3.2	2.6	2.6	5.2	1.9
	50～59歳(n=175)	94.9	66.3	62.9	30.3	22.3	12.0	5.1	6.3	4.6	1.1	0.6	0.6	-	2.9	-
	60～69歳(n=208)	92.8	63.0	63.9	27.4	29.8	13.5	4.3	10.1	5.3	1.9	1.4	1.0	0.5	1.9	2.4
	70歳以上(n=410)	89.0	75.4	63.4	46.3	44.9	8.3	15.6	7.8	11.0	4.9	3.4	2.9	1.0	2.4	4.4

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「安芸津マル赤馬鈴しょ」は『自営業』と『無職』がそれぞれ72.2%と11.2ポイント全体より高く、「原産西条柿」は『無職』が42.3%と10.3ポイント全体より高くなっている。

「米」は『自営業』が42.2%と10.4ポイント、『無職』が39.1%と7.3ポイント、それぞれ全体より高い。

居住地別では、「安芸津マル赤馬鈴しょ」は『安芸津地区』が94.4%と33.4ポイント、「安芸津産かき」についても『安芸津地区』が87.5%と29.6ポイント、それぞれ全体より高い。

表9-2 東広島市の特産品だと思うもの／性別・年齢別

単位：%

		日本酒	安芸津マル赤馬鈴しょ	安芸津産かき	原産西条柿	米	サムライねぎ	白ネギ	ジビエ	アスパラガス	グリーン	でかピー君	東広島青なす	なす坊	こまい菜	その他	無回答
全体(n=1140)		90.9	61.0	57.9	32.0	31.8	13.9	8.8	8.2	7.2	3.2	2.5	1.8	1.1	2.8	2.7	
職業別	自営業(n=90)	90.0	72.2	62.2	38.9	42.2	15.6	16.7	13.3	12.2	8.9	2.2	5.6	1.1	2.2	-	
	会社員等(n=472)	93.2	50.0	53.4	24.2	25.0	17.2	3.6	7.4	4.0	1.5	1.7	1.3	0.8	3.6	1.3	
	アルバイト・パート(n=96)	95.8	69.8	62.5	25.0	31.3	14.6	5.2	5.2	11.5	1.0	1.0	-	2.1	1.0	1.0	
	派遣社員・契約社員(n=37)	94.6	56.8	64.9	32.4	24.3	16.2	5.4	8.1	5.4	5.4	5.4	-	-	2.7	-	
	学生・専門学校生(n=12)	91.7	8.3	16.7	8.3	25.0	25.0	8.3	-	-	-	-	-	-	8.3	-	
	家事専業(n=47)	89.4	70.2	70.2	46.8	34.0	14.9	12.8	10.6	6.4	2.1	4.3	-	-	4.3	6.4	
	無職(n=338)	87.6	72.2	62.1	42.3	39.1	9.2	13.9	8.3	8.3	4.4	3.3	2.7	1.2	1.5	5.0	
地域別	西条地区(n=443)	93.2	53.7	55.8	28.0	28.9	17.6	6.3	8.1	5.2	1.8	1.8	0.5	0.7	2.7	2.0	
	八本松地区(n=190)	94.7	62.6	51.6	37.9	35.3	12.6	15.3	9.5	7.9	4.2	1.6	1.6	1.1	2.1	1.1	
	志和地区(n=36)	86.1	52.8	50.0	33.3	58.3	25.0	11.1	5.6	11.1	2.8	-	-	-	2.8	2.8	
	高屋地区(n=205)	92.2	61.5	64.4	35.1	26.3	10.2	4.9	6.8	6.8	3.4	4.4	2.4	-	3.9	2.9	
	黒瀬地区(n=114)	86.0	66.7	56.1	37.7	36.0	7.0	12.3	6.1	8.8	5.3	1.8	4.4	1.8	3.5	0.9	
	福富地区(n=10)	60.0	40.0	10.0	40.0	40.0	10.0	-	20.0	10.0	-	-	10.0	-	-	20.0	
	豊栄地区(n=16)	93.8	68.8	50.0	62.5	62.5	25.0	25.0	43.8	18.8	18.8	18.8	6.3	18.8	-	6.3	
	河内地区(n=31)	87.1	64.5	61.3	35.5	64.5	29.0	16.1	6.5	19.4	3.2	6.5	9.7	3.2	-	3.2	
	安芸津地区(n=72)	86.1	94.4	87.5	16.7	12.5	4.2	4.2	5.6	1.4	-	-	-	-	2.8	5.6	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

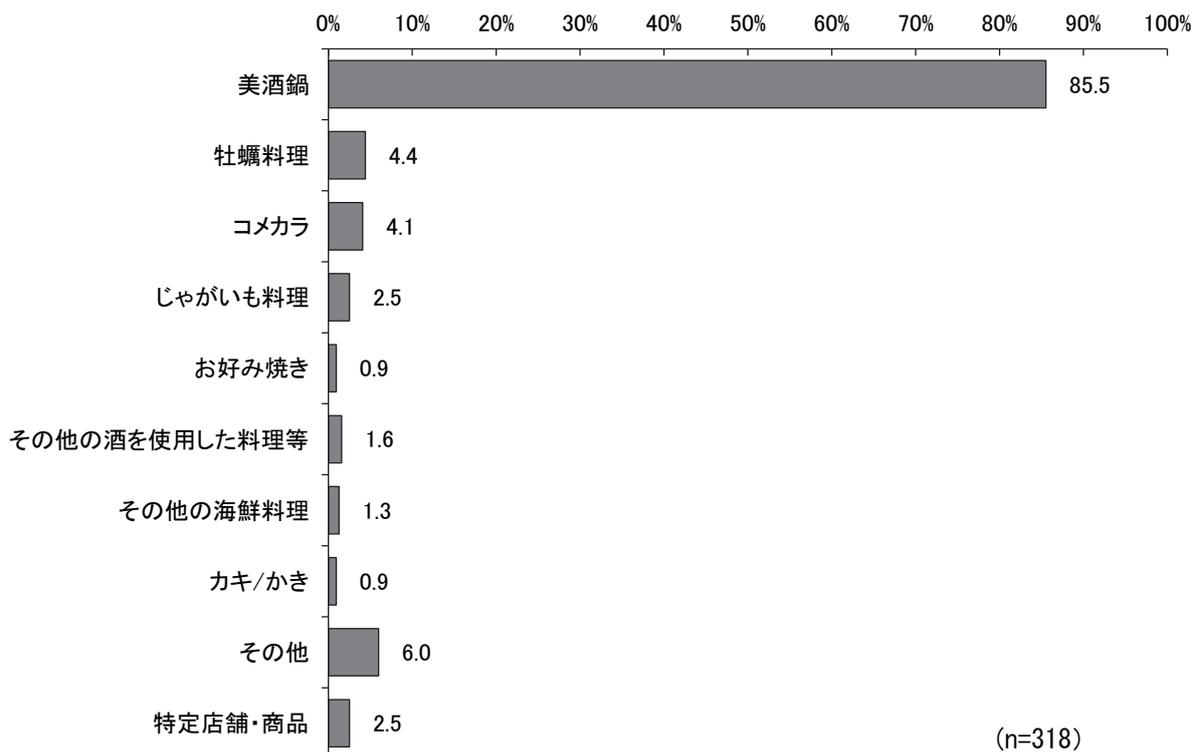
(2) 東広島市の名物料理だと思うもの

問10 東広島市の名物料理だと思うものがありましたら、お教えてください。(自由記入)

東広島市の名物料理だと思うものについて、分からない・無いを除いて318人、349件の自由記入の回答があった。回答内容を要約して分類すると、「美酒鍋（日本酒の鍋）」が85.5%と最も高く、次いで「牡蠣料理」が4.4%、「コメカラ」が4.1%、「じゃがいも料理」が2.5%となっている。

図10-1 東広島市の名物料理だと思うもの [n=318]

単位：%



7. 消費生活について

(1) 「消費生活センター」設置の認知状況

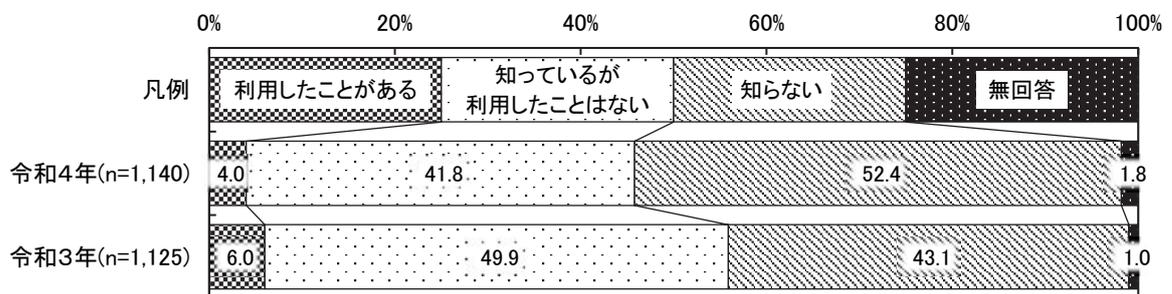
問11 あなたは、消費者トラブルに遭ったときの相談窓口である「消費生活センター」が東広島市に設置されていることを知っていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

東広島市における「消費生活センター」設置の認知状況については、「利用したことがある」が4.0%、「知っているが利用したことはない」が41.8%であり、“知っている”(「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計)は45.8%となっている。

「知らない」は52.4%であった。

令和3年度調査(前回)との比較では、“知っている”は55.9%から10.1ポイント減少した。

図11-1 「消費生活センター」設置の認知状況

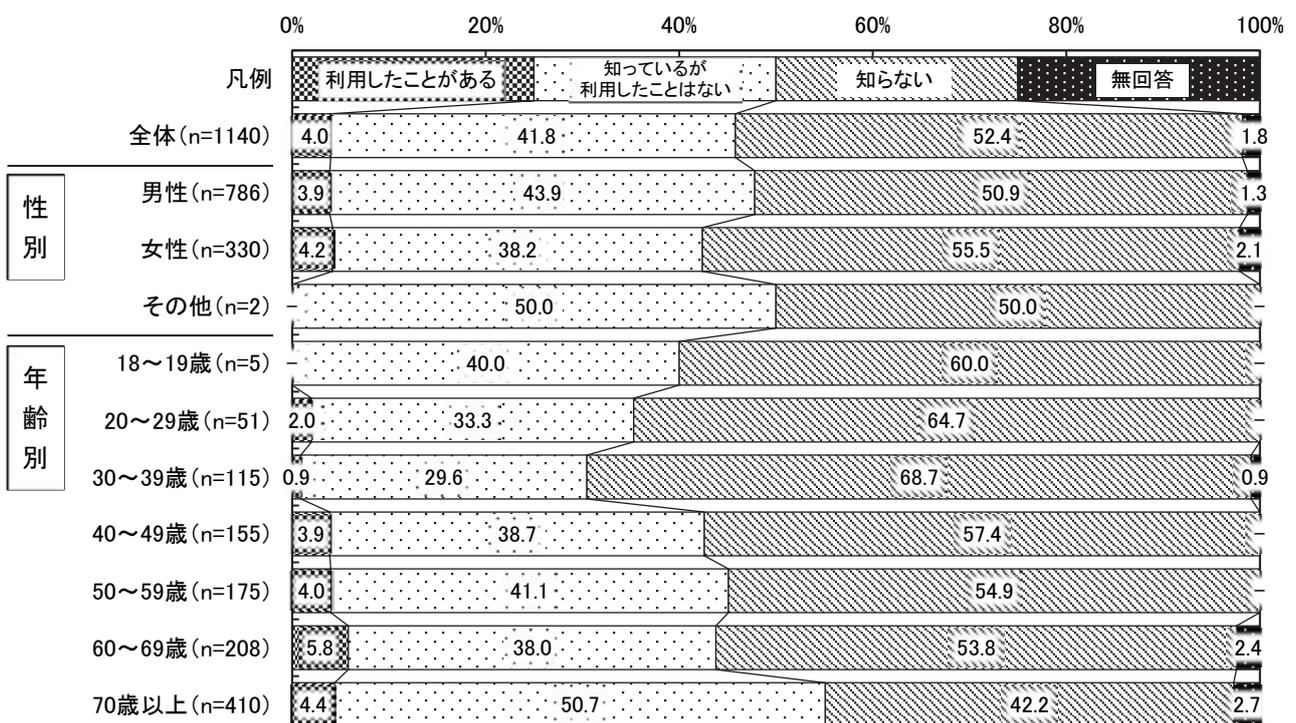


【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、「知っているが利用したことはない」は『男性』が『女性』より5.7ポイント高い。年齢別では、“知っている”は『70歳以上』が55.1%と9.3ポイント全体より高い。

一方、「知らない」は『30～39歳』は68.7%と16.3ポイント、『20～29歳』が64.7%と12.3ポイント、『40～49歳』が57.4%と5.0ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図11-2 「消費生活センター」設置の認知状況／性別・年齢別

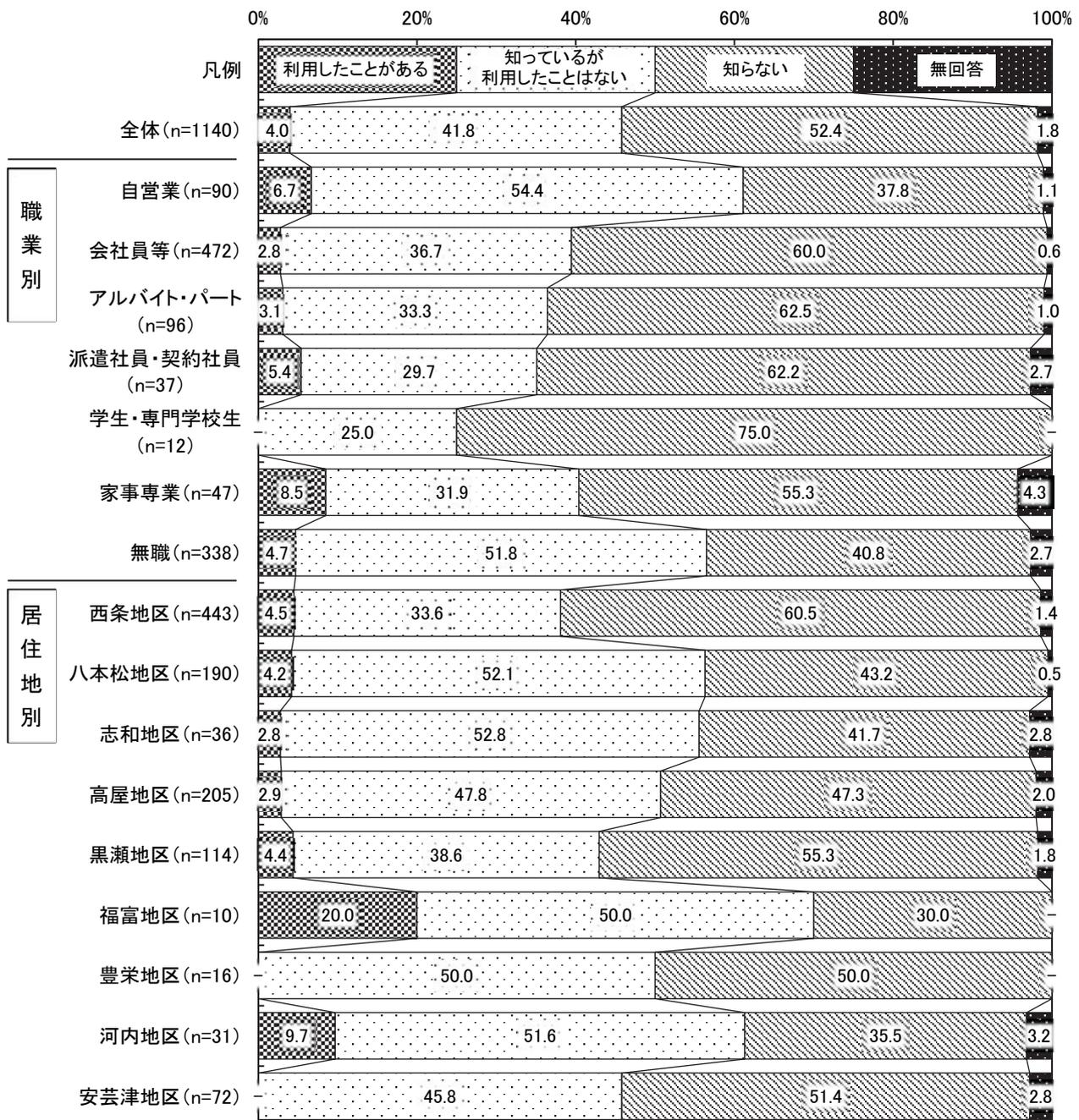


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「知らない」は『会社員等』が60.0%と7.6ポイント全体より高い。“知っている”（「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計）は『自営業』が61.1%と15.3ポイント、『無職』が56.5%と10.7ポイント、それぞれ全体より高い。

居住地別では、“知っている”は『福富地区』が70.0%と24.2ポイント、『河内地区』が61.3%と15.5ポイント、『八本松地区』が56.3%と10.5ポイント、『志和地区』が55.6%と9.8ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図11-3 「消費生活センター」設置の認知状況／職業別・居住地別



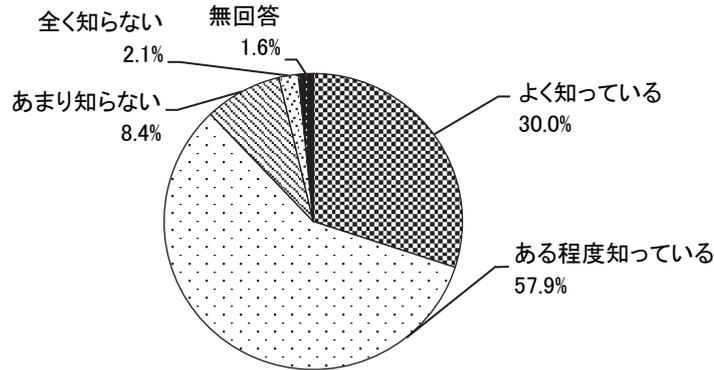
(2) 食品ロス問題の認知状況

問12 食品ロス（本来食べられるのに捨てられた食品）についておたずねします。
食品ロスが問題となっていることを知っていますか。（1つだけ選んで○お付けください）

食品ロス問題の認知状況については、「よく知っている」が30.0%、「ある程度知っている」が57.9%と、「知っている」（「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計）は87.9%であり、9割弱が問題を認知している。

「あまり知らない」は8.4%、「全く知らない」は2.1%であった。

図12-1 食品ロス問題の認知状況 [n=1,140]



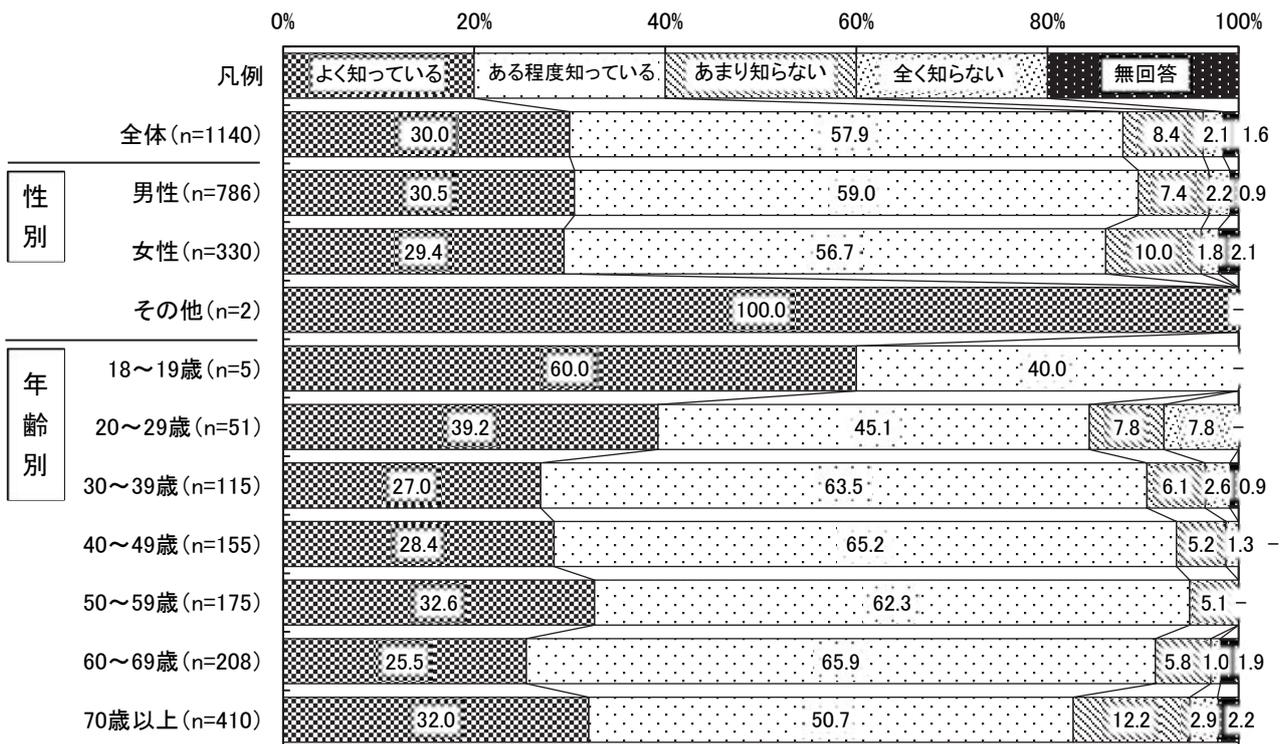
【属性別の傾向】 <性別・年齢別>

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「よく知っている」は『20～29歳』が39.2%と9.2ポイント全体より高い。

“知っている”は『50～59歳』が94.9%と7.0ポイント、『40～49歳』が93.6%と5.7ポイント、それぞれ全体より高い。

図12-2 食品ロス問題の認知状況／性別・年齢別

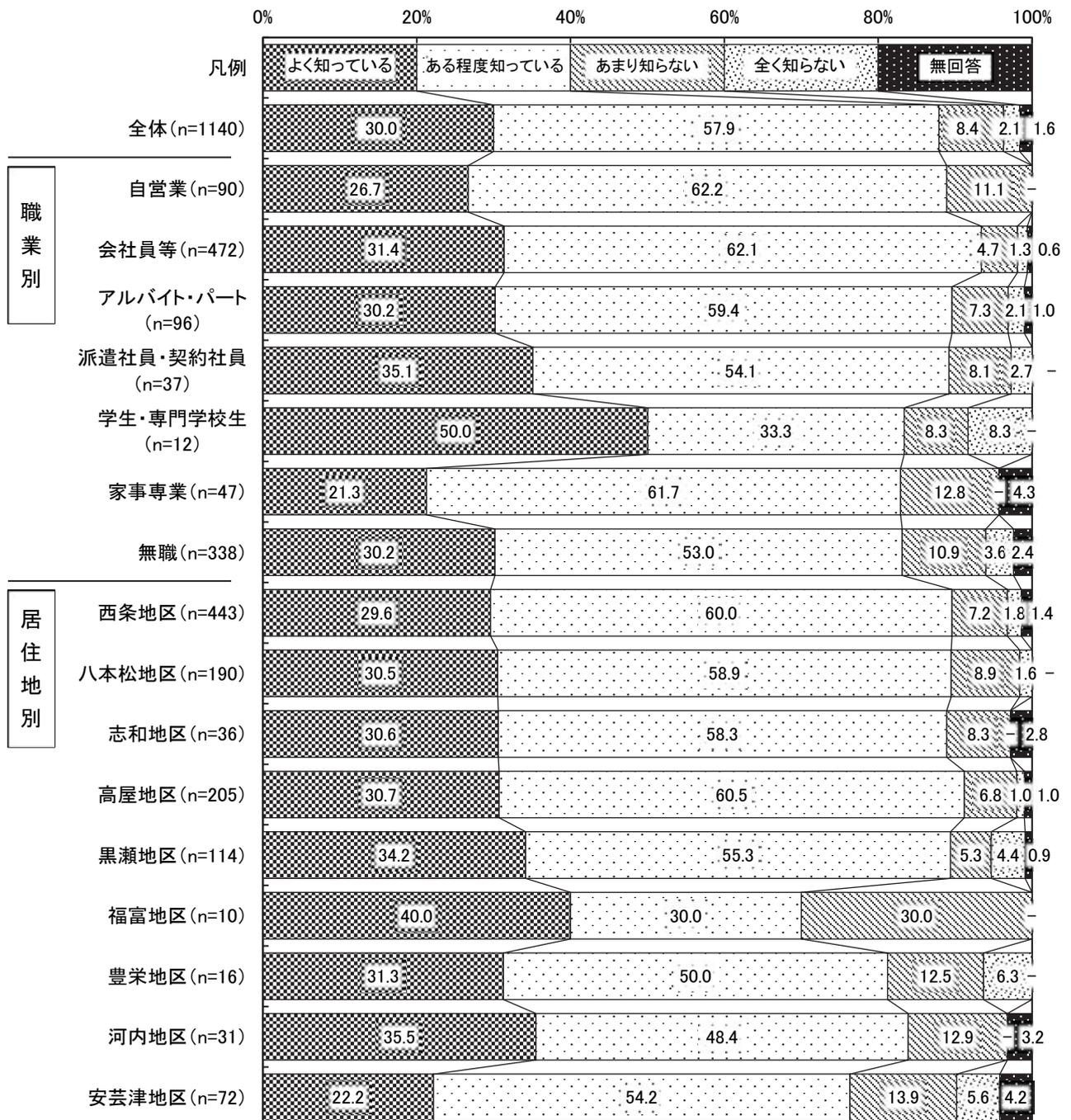


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“知っている”（「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計）は『会社員等』が93.5%と5.6ポイント全体より高い。

居住地別では、“知っている”は、『福富地区』が70.0%と17.9ポイント、『安芸津地区』が76.4%と11.5ポイント、『豊栄地区』が81.3%と6.6ポイント、それぞれ全体より低くなっている。

図12-3 食品ロス問題の認知状況／職業別・居住地別



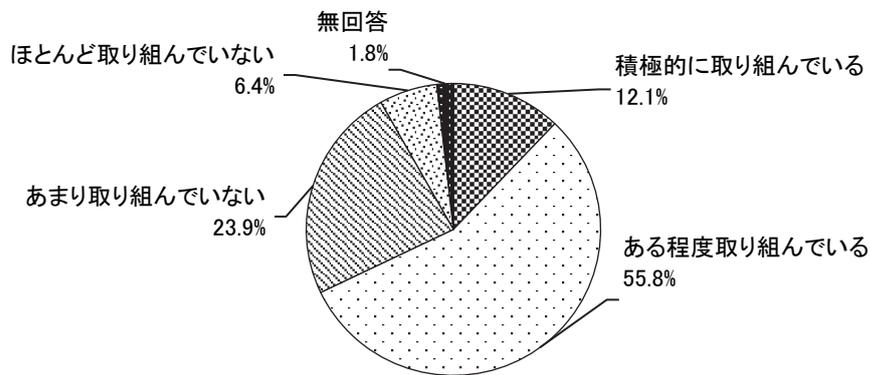
(3) 食品ロスを減らす取組み状況

問13 あなたは、食品ロスを減らす取組みをしていますか。(1つだけ選んで○お付けください)

食品ロスを減らす取組み状況については、「積極的に取り組んでいる」が12.1%、「ある程度取り組んでいる」が55.8%と、「取り組んでいる」（「積極的に取り組んでいる」と「ある程度取り組んでいる」の合計）は67.9%であり、7割弱が「取り組んでいる」と回答している。

「あまり取り組んでいない」は23.9%、「ほとんど取り組んでいない」は6.4%であり、「取り組んでいない」（「あまり取り組んでいない」と「ほとんど取り組んでいない」の合計）は30.3%となっている。

図13-1 食品ロスを減らす取組み状況 [n=1,140]

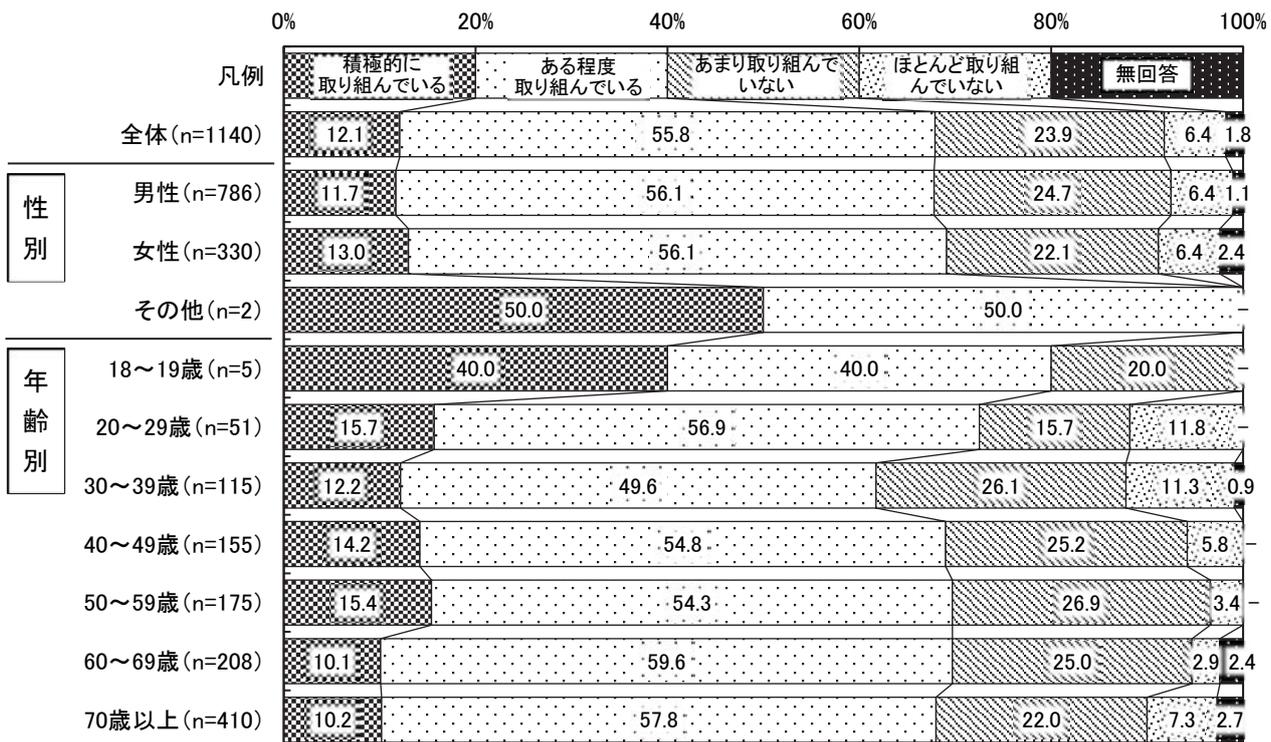


【属性別の傾向】 <性別・年齢別>

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「取り組んでいない」は『30～39歳』が37.4%と7.1ポイント全体より高い。

図13-2 食品ロスを減らす取組み状況／性別・年齢別

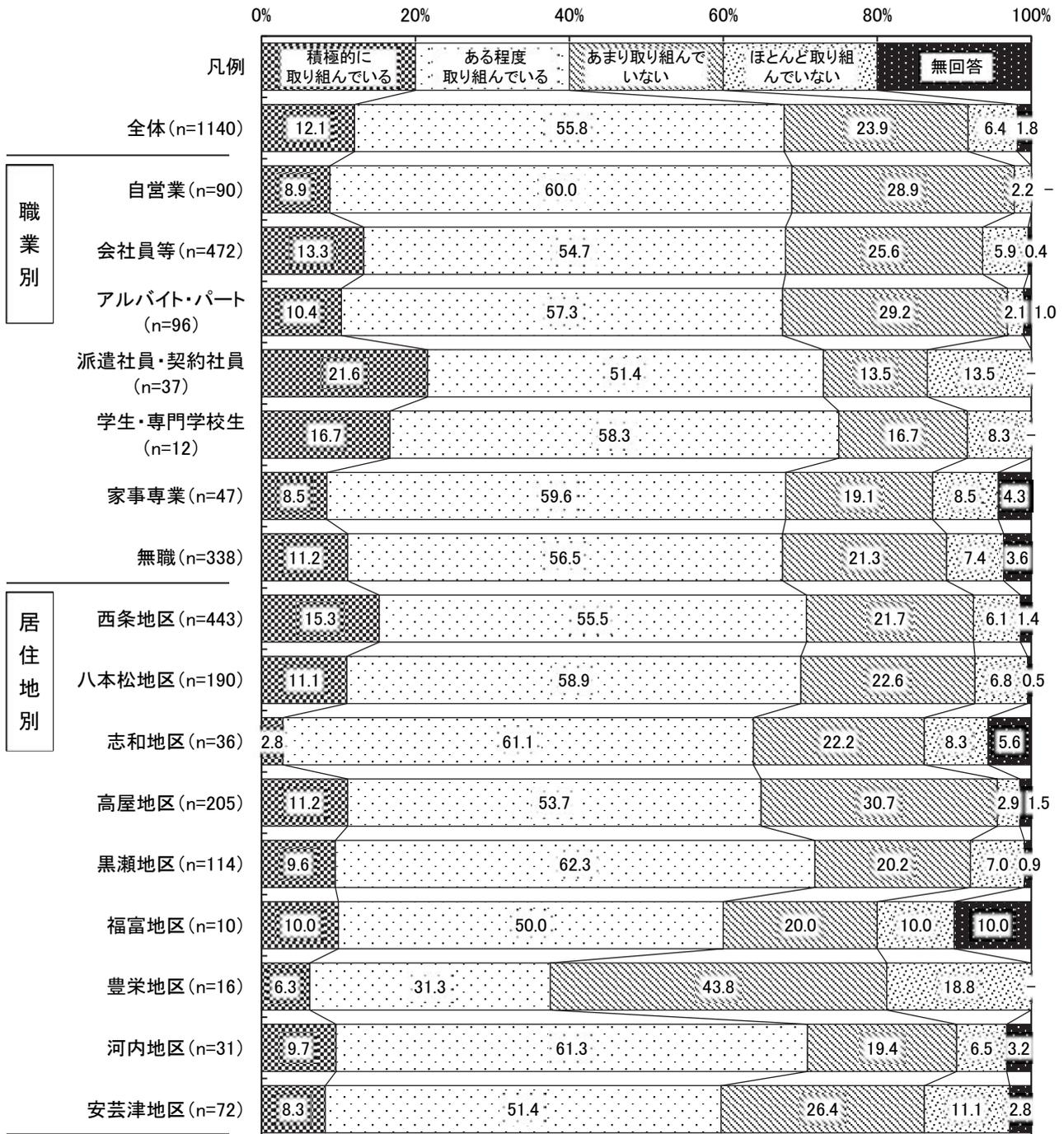


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“取り組んでいる”（「積極的に取り組んでいる」と「ある程度取り組んでいる」の合計）については顕著な差はないが、「あまり取り組んでいない」は『アルバイト・パート』が29.2%と5.3ポイント、『自営業』が28.9%と5.0ポイント、それぞれ全体より高い。

居住地別では、“取り組んでいない”（「あまり取り組んでいない」と「ほとんど取り組んでいない」の合計）は『豊栄地区』が62.6%と32.3ポイント、『安芸津地区』が37.5%と7.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図13-3 食品ロスを減らす取組み状況／職業別・居住地別

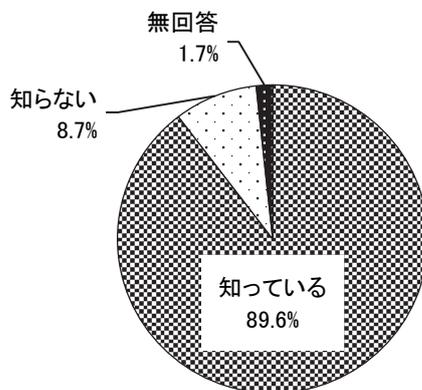


(4) 賞味期限と消費期限の違いの認知状況

問12 賞味期限と消費期限の違いを知っていますか。(1つだけ選んで○お付けください)

賞味期限と消費期限の違いの認知状況については、「知っている」が89.6%と9割弱が違いを認知している。「知らない」は8.7%であった。

図14-1 賞味期限と消費期限の違いの認知状況 [n=1,140]

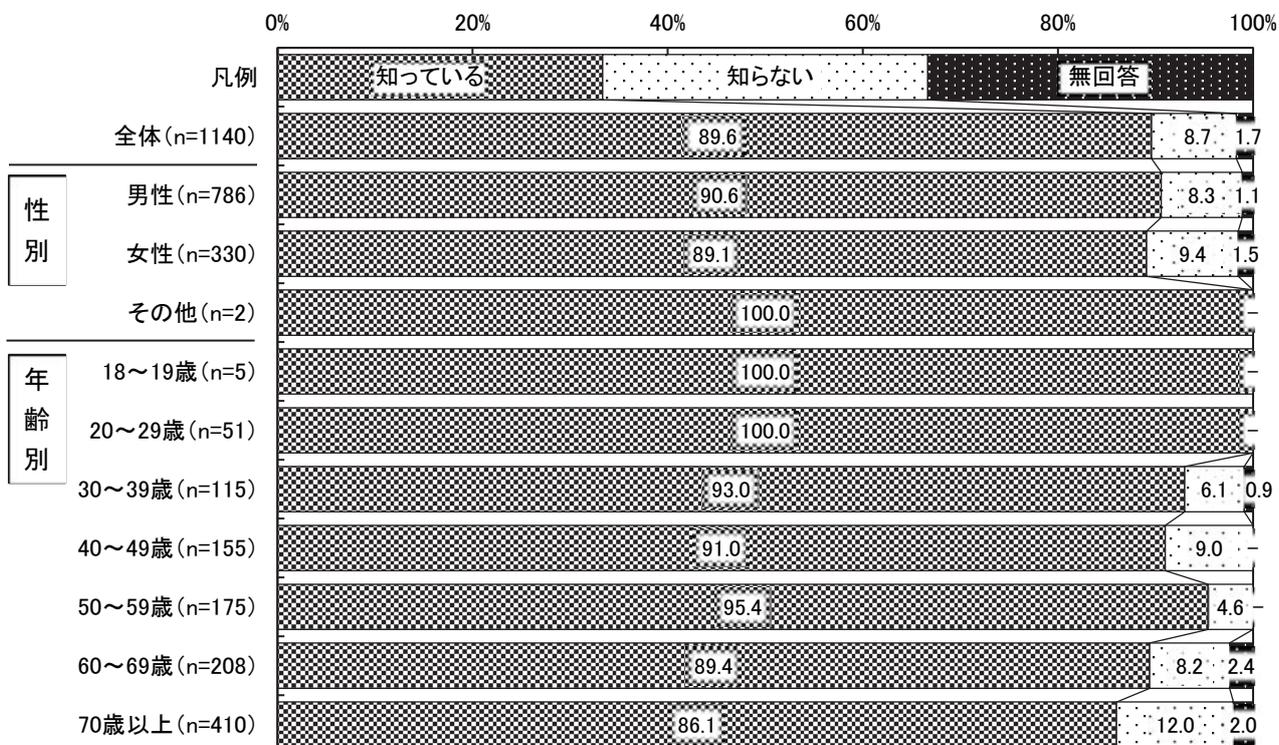


【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「知っている」は全ての年齢層で8割を超えており、『20～29歳』が100.0%と10.4ポイント、『50～59歳』が95.4%と5.8ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図14-2 賞味期限と消費期限の違いの認知状況／性別・年齢別

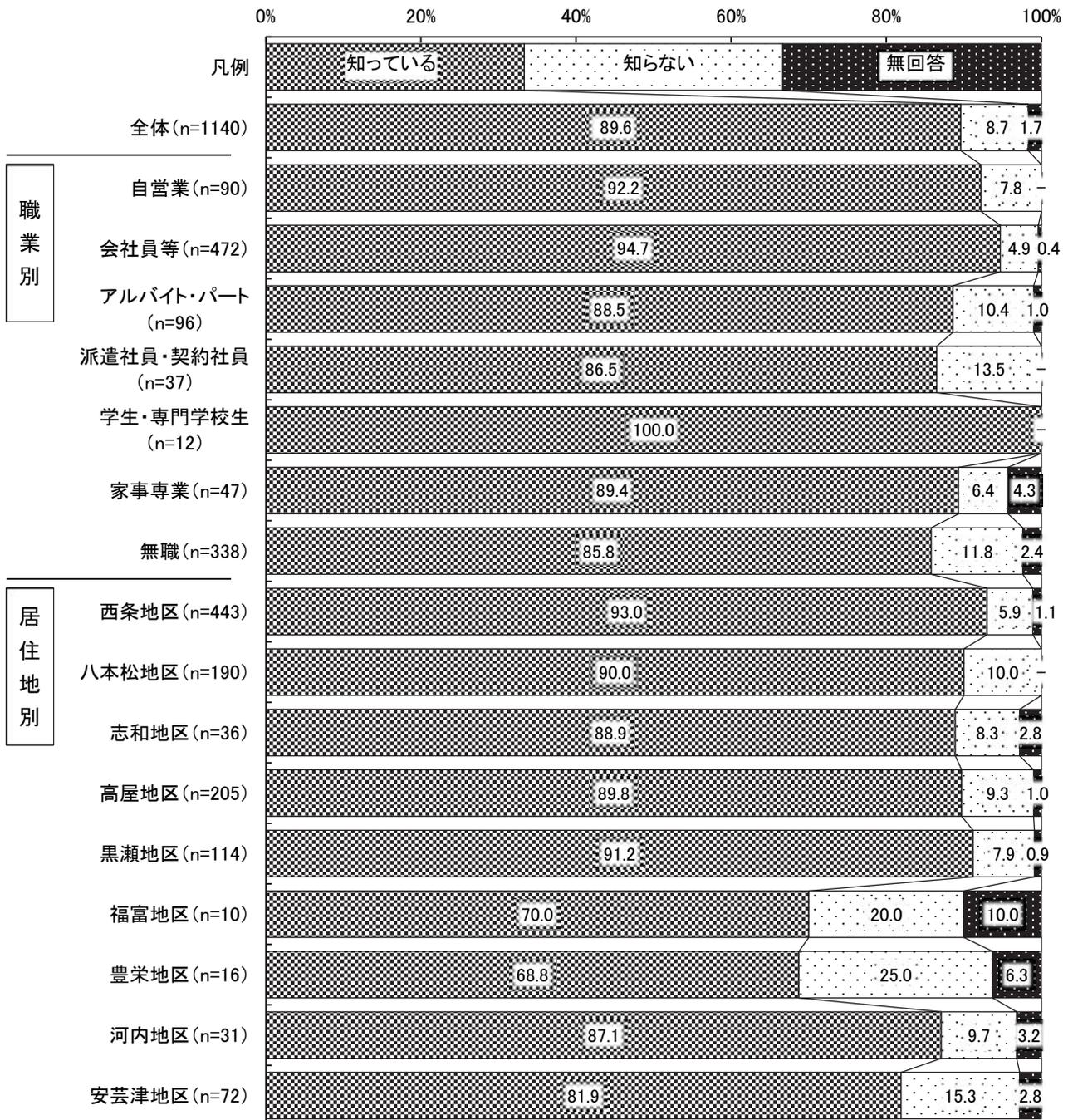


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「知っている」は『会社員等』が94.7%と5.1ポイント全体より高い。

居住地別では、「知っている」は『豊栄地区』が68.8%と20.8ポイント、『福富地区』が70.0%と19.6ポイント、『安芸津地区』が81.9%と7.7ポイント、それぞれ全体より低く、「知らない」は『豊栄地区』が25.0%と16.3ポイント、『福富地区』20.0%と11.3ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図14-3 賞味期限と消費期限の違いの認知状況／職業別・居住地別



8. ごみの減量・資源化について

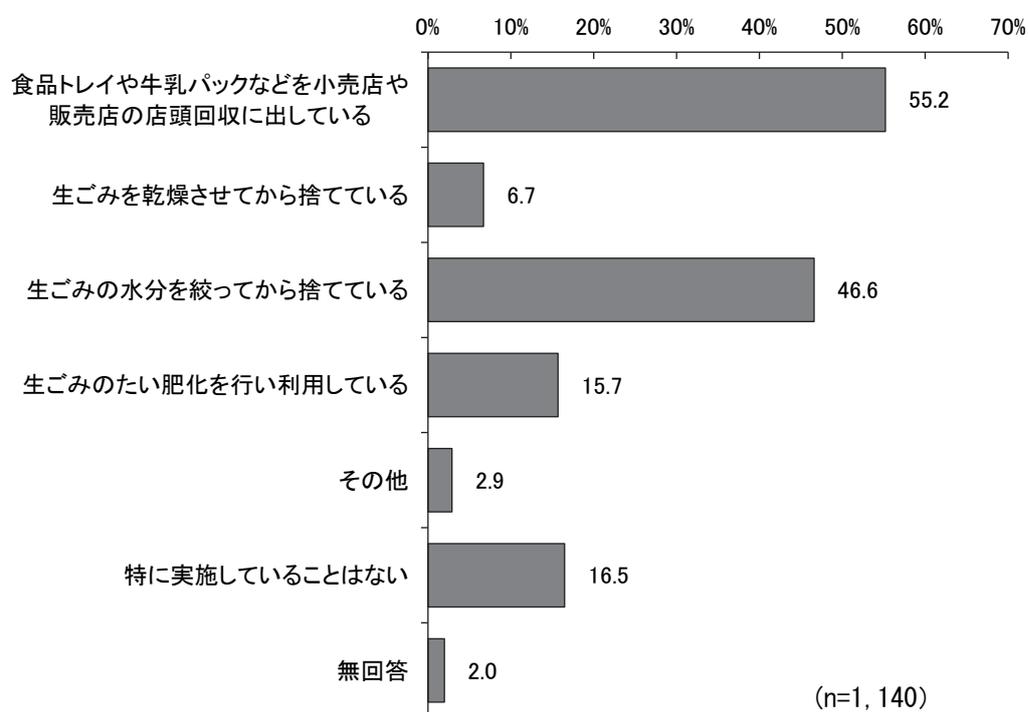
(1) ごみの減量・資源化のために実施している事項

問15 次の行動の中で、あなたの家でごみの減量・資源化のために実施していることはありますか。（当てはまるもの全てを選んで○をお付けください）

ごみの減量・資源化のために実施している事項については、「食品トレイや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出している」が55.2%、「生ごみの水分を絞ってから捨てている」が46.6%と高い。「生ごみのたい肥化を行い利用している」は15.7%、「生ごみを乾燥させてから捨てている」は6.7%、「特に実施していることはない」は16.5%となっている。

図15-1 ごみの減量・資源化のために実施している事項<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

「生ごみの水分を絞ってから捨てている」は『男性』41.7%、『女性』59.1%と、『女性』が『男性』より17.4ポイント高い。「特に実施していることはない」は『男性』19.2%、『女性』10.9%と、『男性』が『女性』より8.3ポイント高くなっている。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「食品トレイや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出している」は『50～59歳』が63.4%と8.2ポイント全体より高い。

「生ごみの水分を絞ってから捨てている」と「生ごみのたい肥化を行い利用している」は年齢が上がるほど回答した割合が高くなっており、「生ごみのたい肥化を行い利用している」については、『70歳以上』が25.1%と9.4ポイント全体より高くなっている。

「特に実施していることはない」は『20～29歳』が33.3%と16.8ポイント全体より高い。

表15-1 ごみの減量・資源化のために実施している事項／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：%

		食品トレイや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出している	生ごみを乾燥させてから捨てている	生ごみの水分を絞ってから捨てている	生ごみのたい肥化を行い利用している	その他	特に実施していることはない	無回答
全体(n=1140)		55.2	6.7	46.6	15.7	2.9	16.5	2.0
性別	男性(n=786)	54.7	6.9	41.7	15.5	2.8	19.2	1.4
	女性(n=330)	56.7	6.4	59.1	16.1	3.3	10.9	1.8
	その他(n=2)	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-
年齢別	18～19歳(n=5)	40.0	-	60.0	20.0	-	20.0	-
	20～29歳(n=51)	51.0	2.0	35.3	-	-	33.3	-
	30～39歳(n=115)	58.3	7.8	41.7	6.1	2.6	20.0	1.7
	40～49歳(n=155)	56.1	4.5	43.9	9.0	3.9	20.6	-
	50～59歳(n=175)	63.4	4.0	45.7	10.3	4.6	13.7	-
	60～69歳(n=208)	51.9	5.3	48.1	15.9	3.4	20.2	1.9
	70歳以上(n=410)	53.7	9.8	50.7	25.1	2.2	11.7	2.7

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「生ごみの水分を絞ってから捨てている」は『無職』が54.1%と7.5ポイント、『アルバイト・パート』が52.1%と5.5ポイント、それぞれ全体より高い。

「生ごみのたい肥化を行い利用している」は『自営業』が30.0%と14.3ポイント、『無職』が22.2%と6.5ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「食品トレイや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出している」は『八本松地区』が62.6%と7.4ポイント、『豊栄地区』が62.5%と7.3ポイント、それぞれ全体より高い。

「生ごみを乾燥させてから捨てている」は『河内地区』が12.9%と6.2ポイント、「生ごみの水分を絞ってから捨てている」は『河内地区』が64.5%と17.9ポイント、『安芸津地区』が63.9%と17.3ポイント、それぞれ全体より高い。

「生ごみのたい肥化を行い利用している」は『福富地区』が50.0%と34.3ポイント、『河内地区』が38.7%と23.0ポイント、『志和地区』が30.6%と14.9ポイント、それぞれ全体より高い。

表15-2 ごみの減量・資源化のために実施している事項／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：％

		食品トレイや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出している	生ごみを乾燥させてから捨てている	生ごみの水分を絞ってから捨てている	生ごみのたい肥化を行い利用している	その他	特に実施していることはない	無回答
全体(n=1140)		55.2	6.7	46.6	15.7	2.9	16.5	2.0
職業別	自営業(n=90)	52.2	7.8	35.6	30.0	1.1	18.9	-
	会社員等(n=472)	57.0	5.1	41.5	9.1	3.4	20.8	0.4
	アルバイト・パート(n=96)	54.2	1.0	52.1	10.4	3.1	18.8	1.0
	派遣社員・契約社員(n=37)	64.9	10.8	48.6	16.2	2.7	8.1	-
	学生・専門学校生(n=12)	58.3	-	50.0	8.3	-	25.0	-
	家事専業(n=47)	53.2	8.5	53.2	21.3	2.1	14.9	4.3
	無職(n=338)	55.0	10.1	54.1	22.2	3.0	10.4	3.6
地域別	西条地区(n=443)	54.0	7.9	42.2	11.1	3.4	21.0	1.4
	八本松地区(n=190)	62.6	4.2	50.5	14.2	4.2	13.7	-
	志和地区(n=36)	50.0	11.1	50.0	30.6	-	13.9	2.8
	高屋地区(n=205)	59.0	8.3	50.2	16.6	1.5	11.7	2.9
	黒瀬地区(n=114)	51.8	3.5	39.5	19.3	2.6	21.1	1.8
	福富地区(n=10)	40.0	-	40.0	50.0	-	10.0	-
	豊栄地区(n=16)	62.5	6.3	31.3	18.8	12.5	12.5	-
	河内地区(n=31)	58.1	12.9	64.5	38.7	3.2	3.2	-
	安芸津地区(n=72)	44.4	2.8	63.9	16.7	1.4	13.9	2.8

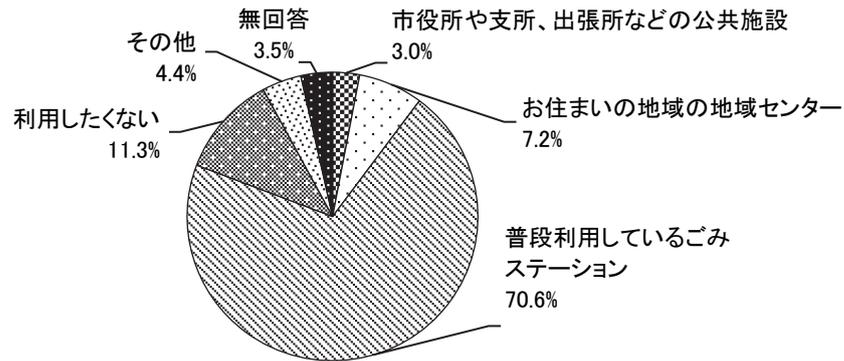
※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

(2)たい肥化を目的とした生ごみの回収場所

問16 ご家庭の生ごみを収集し、たい肥化を行うこととなった場合、次のどの場所であれば生ごみを出してみたいと思いますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

たい肥化を目的とした生ごみの回収場所については、「普段利用しているゴミステーション」が70.6%と最も高い。次いで、「お住まいの地域の地域センター」が7.2%、「市役所や支所、出張所などの公共施設」が3.0%となっている。「利用したくない」は11.3%であった。

図16-1 たい肥化を目的とした生ごみの回収場所 [n=1,140]

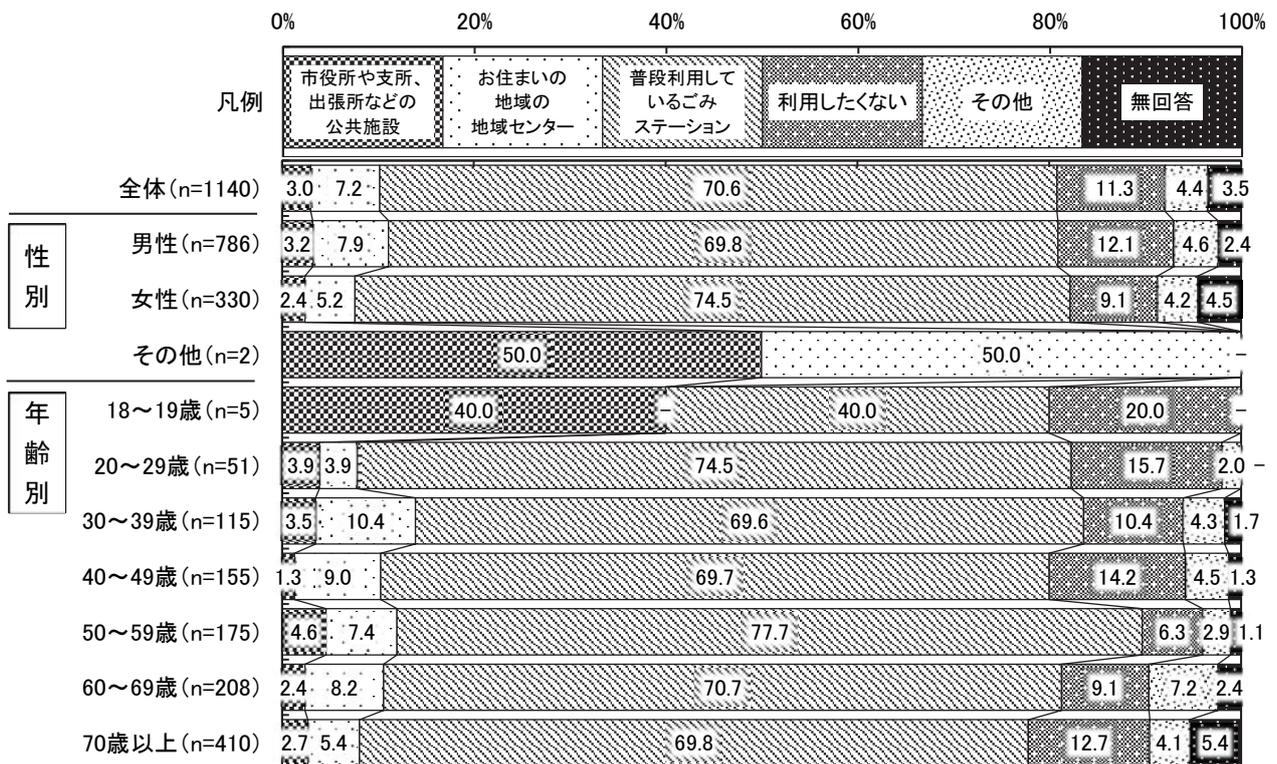


【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「普段利用しているゴミステーション」は『50～59歳』が77.7%と7.1ポイント全体より高くなっている。

図16-2 たい肥化を目的とした生ごみの回収場所／性別・年齢別



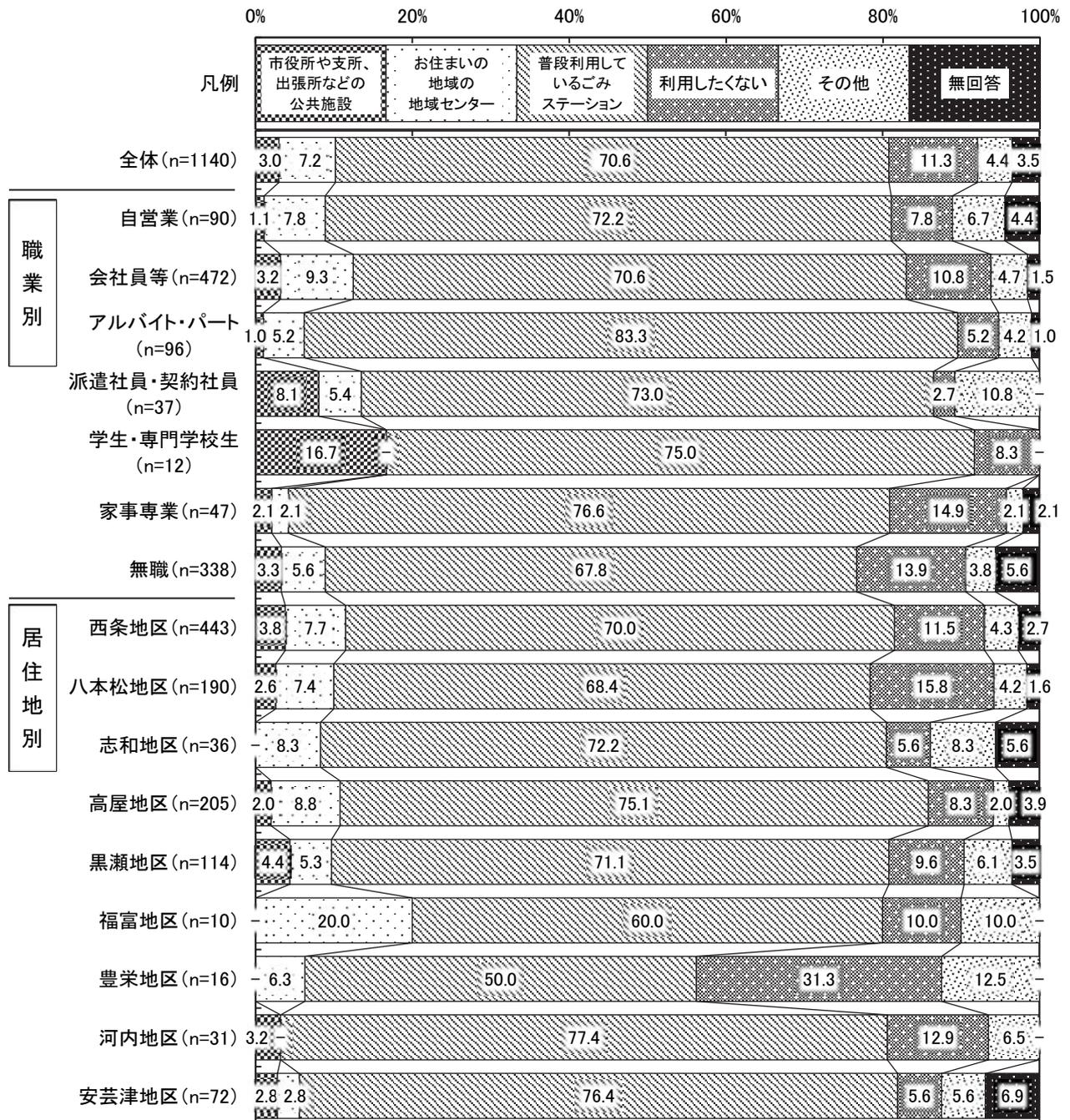
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「普段利用しているごみステーション」は『アルバイト・パート』が83.3%と12.7ポイント全体より高い。

居住地別では、「お住まいの地域の地域センター」は『福富地区』が20.0%と12.8ポイント全体より高い。「普段利用しているごみステーション」は『河内地区』77.4%と6.8ポイント、『安芸津地区』が76.4%と5.8ポイント、それぞれ全体より高い。

「利用したくない」は『豊栄地区』が31.3%と20.0ポイント全体より高くなっている。

図16-3 ごみのたい肥化を目的とした生ごみ回収の利用意向／職業別・居住地別



9. 地域コミュニティ活動の参加状況について

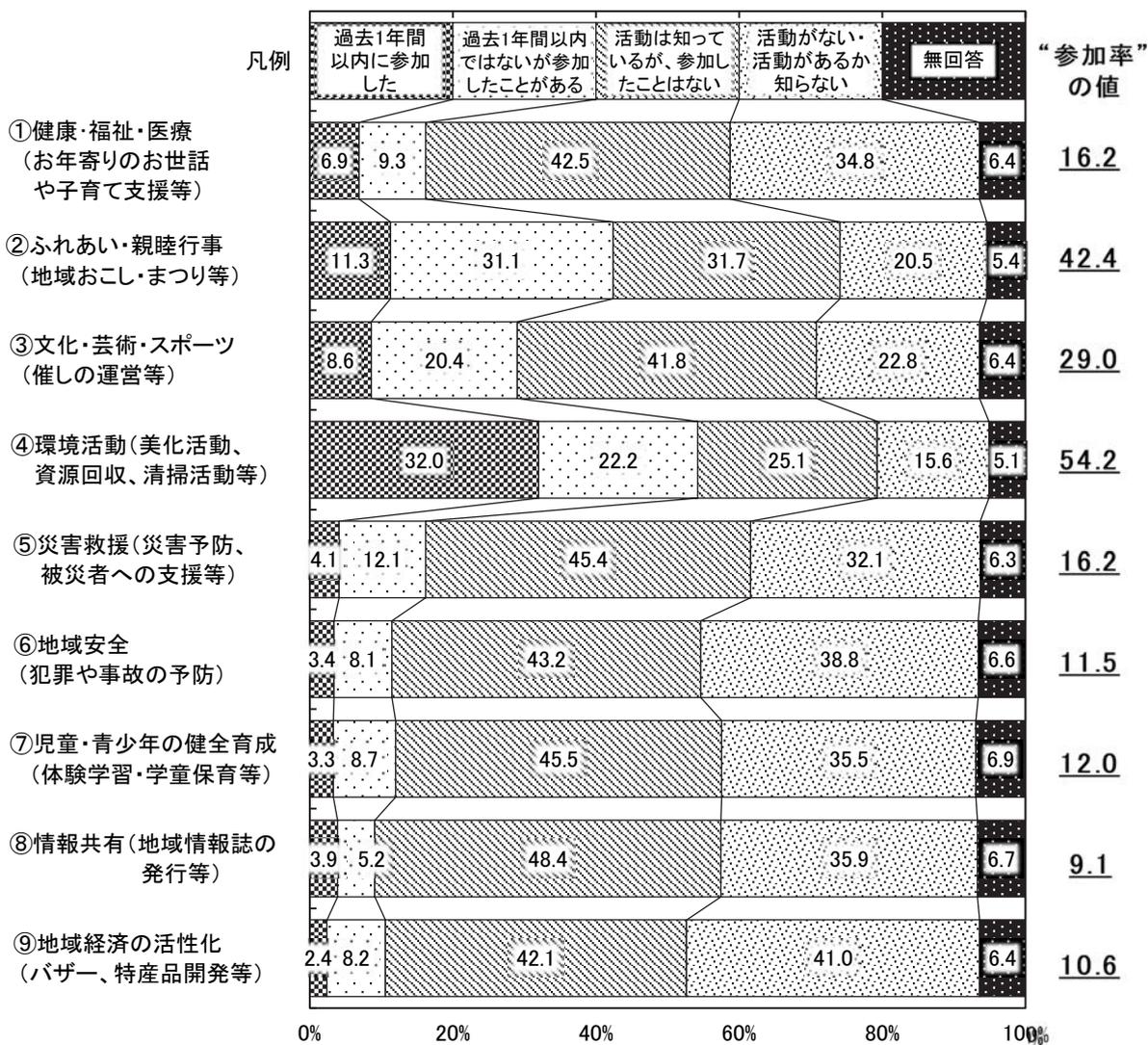
(1) 地域活動の参加状況

問17 地域コミュニティ活動について、項目ごとに参加状況を教えてください。
 (それぞれの項目ごとに、当てはまるものを1つだけ選んで○をお付けください)

地域コミュニティ活動については、「過去1年間以内に参加した」は『④環境活動』が32.0%で最も高く、次いで『②ふれあい・親睦行事（地域おこし・まつり等）』が11.3%となっており、その他の項目では1割を下回っている。

“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については、『④環境活動』が54.2%、『②ふれあい・親睦行事』が42.4%と高い。次いで『③文化・芸術・スポーツ』が29.0%、『①健康・福祉・医療』と『⑤災害救援』が16.2%、『⑦児童・青少年の健全育成』が12.0%、『⑥地域安全』が11.5%、『⑨地域経済の活性化』が10.6%、『⑧情報共有』が9.1%となっている。

図17-1 地域活動の参加状況 [n=1,140]



①健康・福祉・医療(お年寄りのお世話や子育て支援等)

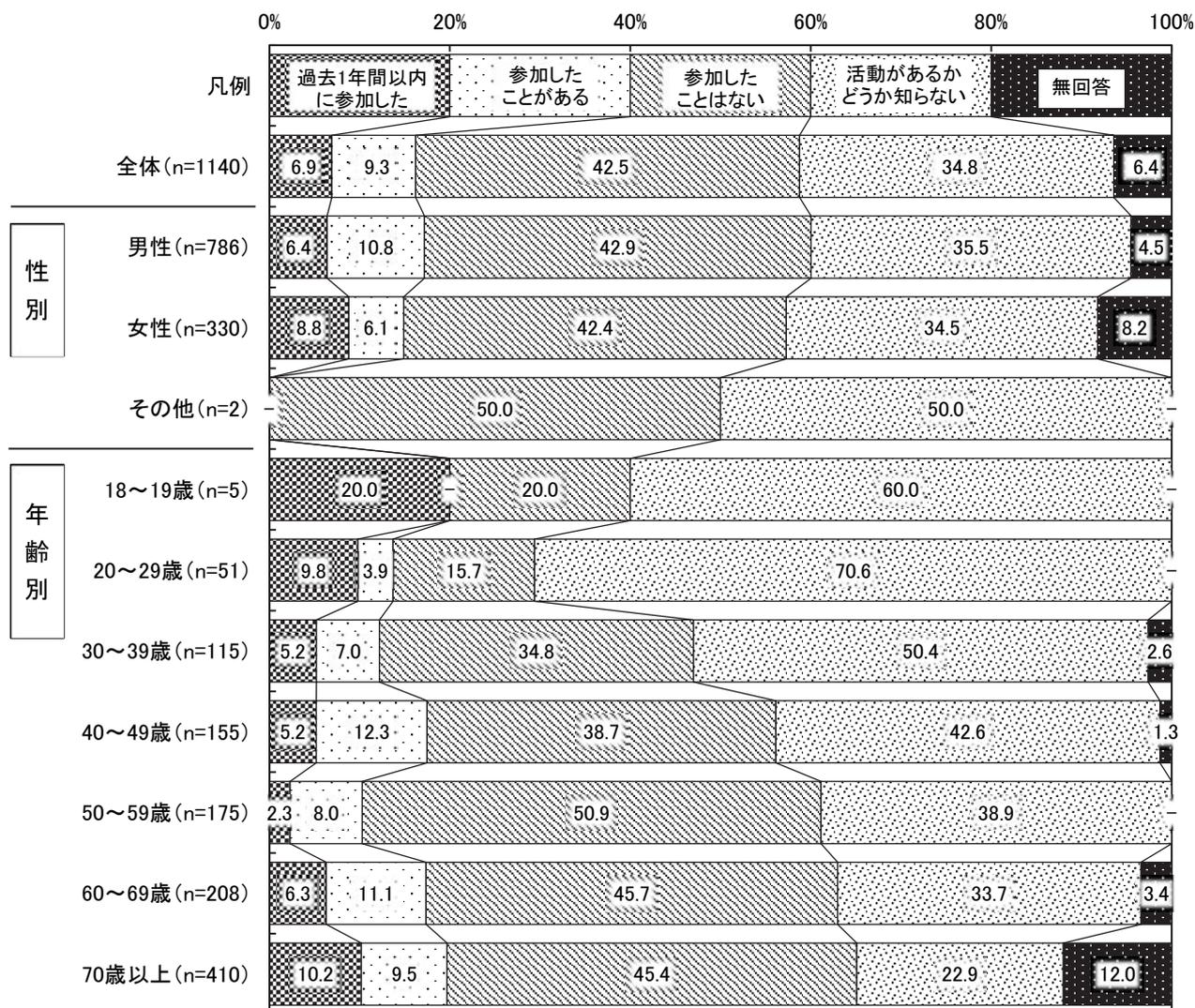
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「参加率」（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は『50～59歳』が10.3%と5.9ポイント全体より低く、「活動は知っているが、参加したことはない」は『50～59歳』が50.9%と8.4ポイント全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は年齢が下がるほど高くなっており、『20～29歳』では70.6%と35.8ポイント全体より高い。

図17-2 地域活動の参加状況 ①健康・福祉・医療／性別・年齢別



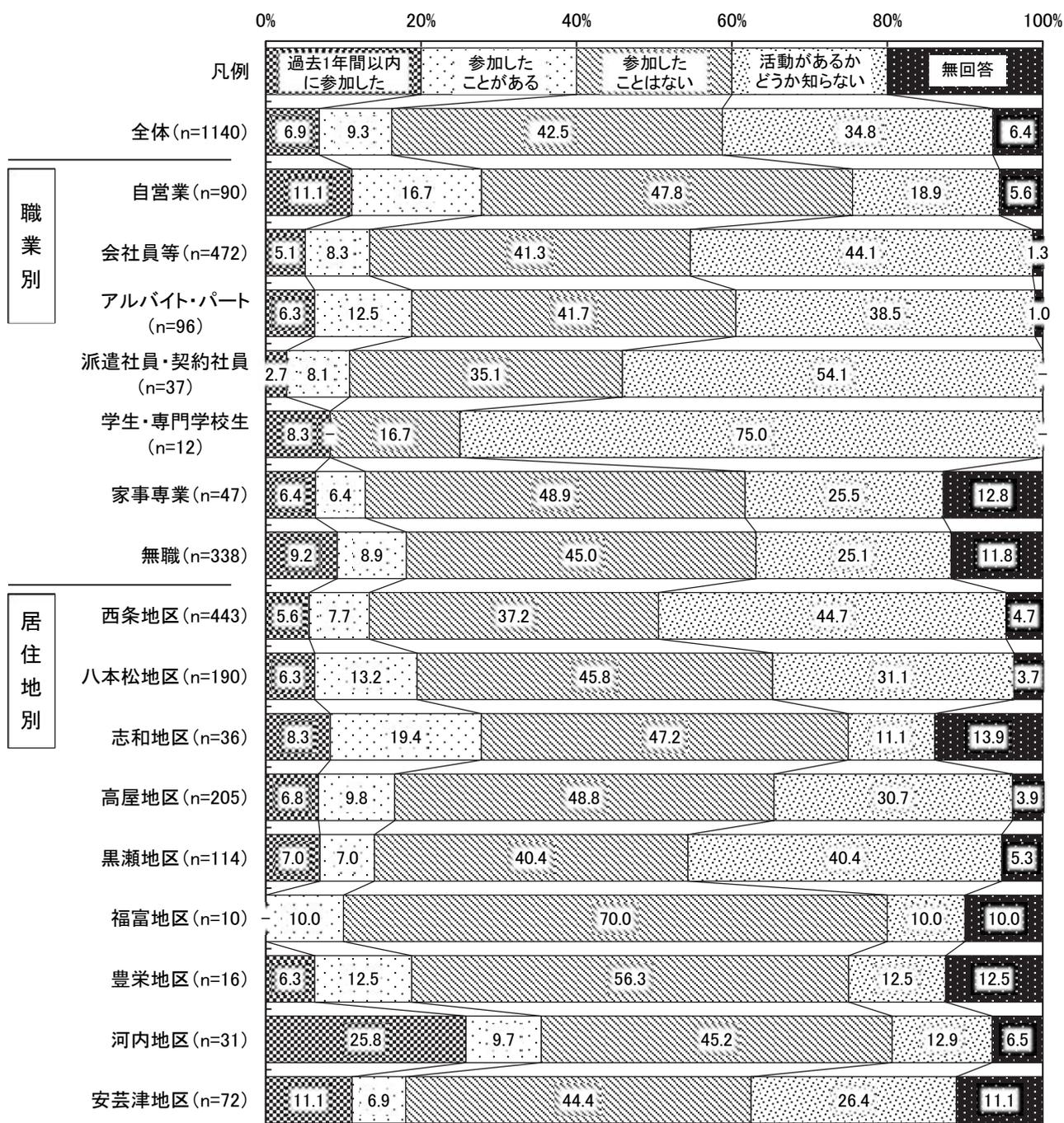
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については、『自営業』が27.8%と11.6ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『自営業』が47.8%と5.3ポイント、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『会社員等』が44.1%と9.3ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『河内地区』が35.5%と19.3ポイント、『志和地区』が27.7%と11.5ポイント、それぞれ全体より高い。「活動は知っているが、参加したことはない」は『福富地区』が70.0%と27.5ポイント、『豊栄地区』が56.3%と13.8ポイント、『高屋地区』が48.8%と6.3ポイント高い。「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が44.7%と9.9ポイント、『黒瀬地区』が40.4%と5.6ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図17-3 地域活動の参加状況 ①健康・福祉・医療／職業別・居住地別



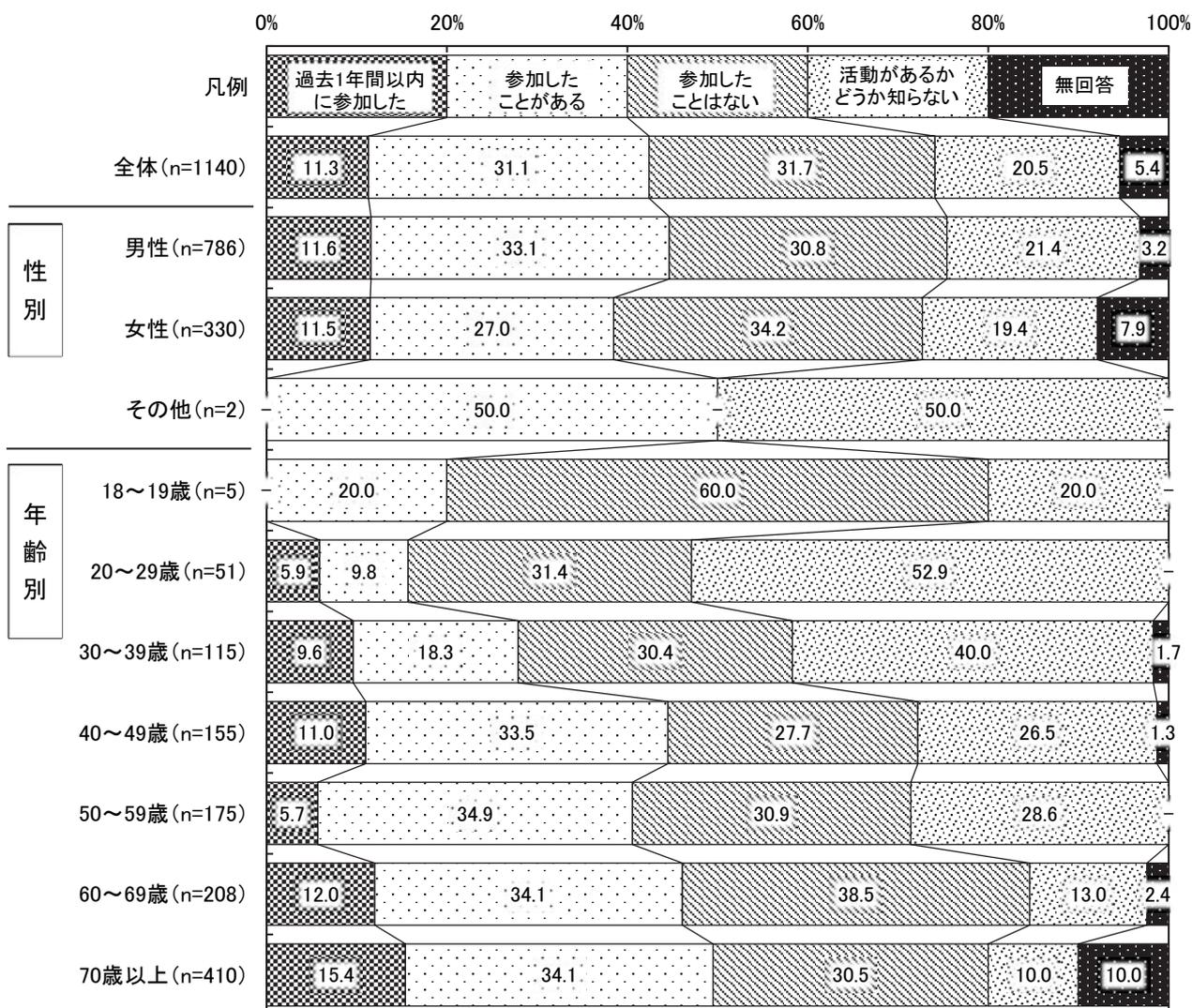
②ふれあい・親睦行事(地域おこし・まつり等)

【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は『男性』44.7%『女性』38.5%と『男性』が『女性』より6.2ポイント高い。
年齢別では、“参加率”は『70歳以上』が49.5%と7.1ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『60～69歳』が38.5%と6.8ポイント全体より高い。「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が52.9%と32.4ポイント、『30～39歳』が40.0%と19.5ポイント、『50～59歳』が28.6%と8.1ポイント、『40～49歳』が26.5%と6.0ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図17-4 地域活動の参加状況 ②ふれあい・親睦行事／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

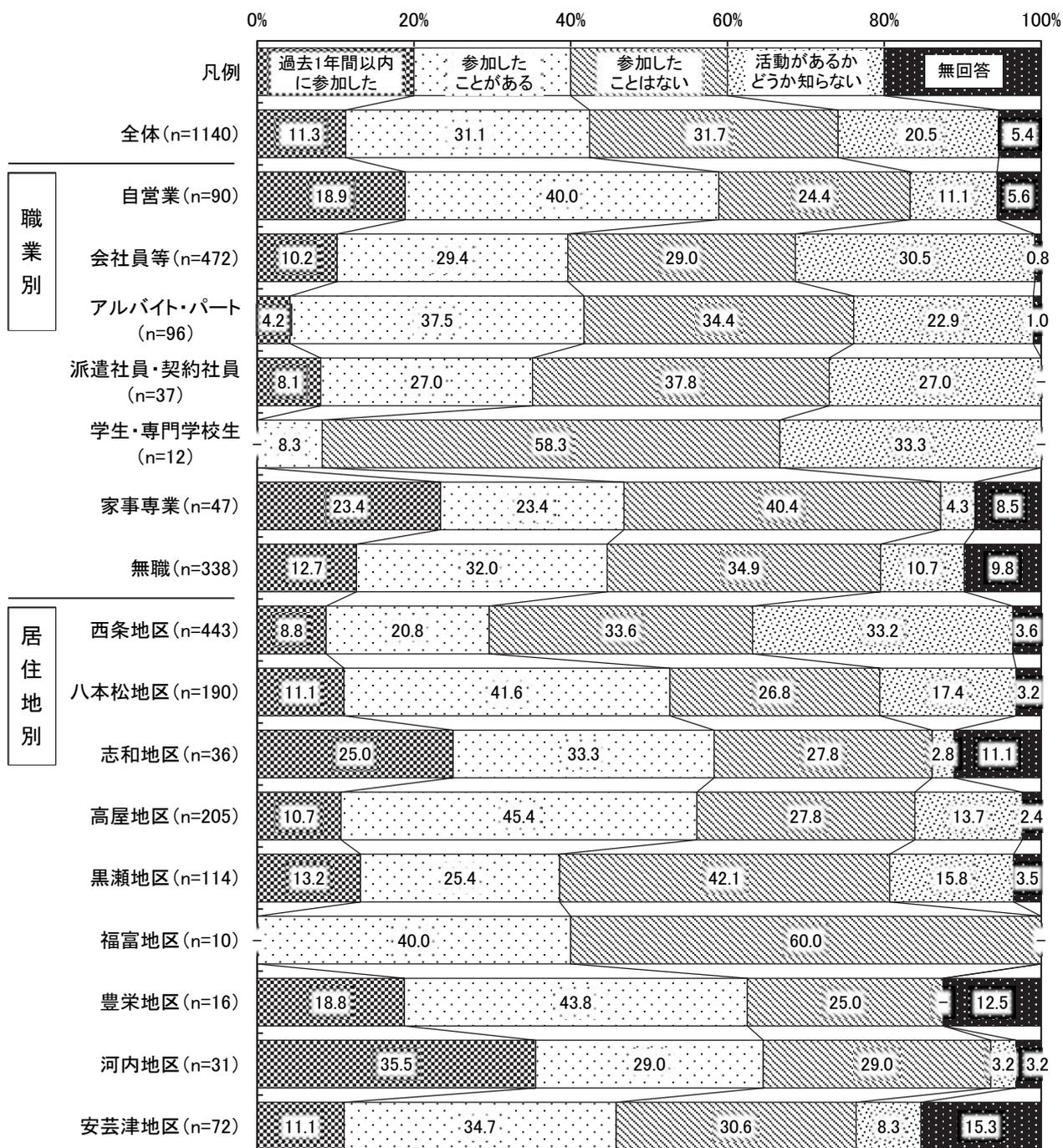
職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については、『自営業』が58.9%と16.5ポイント全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『会社員等』が30.5%と10.0ポイント全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『河内地区』64.5%、『豊栄地区』62.6%、『志和地区』58.3%、『高屋地区』56.1%、『八本松地区』52.7%と、それぞれ全体より10ポイント以上高い。一方、『西条地区』が29.6%と12.8ポイント全体より低くなっている。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『福富地区』が60.0%と28.3ポイント、『黒瀬地区』が42.1%と10.4ポイント、それぞれ全体より高い。「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が33.2%と12.7ポイント全体より高くなっている。

図17-5 地域活動の参加状況 ②ふれあい・親睦行事／職業別・居住地別



③文化・芸術・スポーツ(催しの運営等)

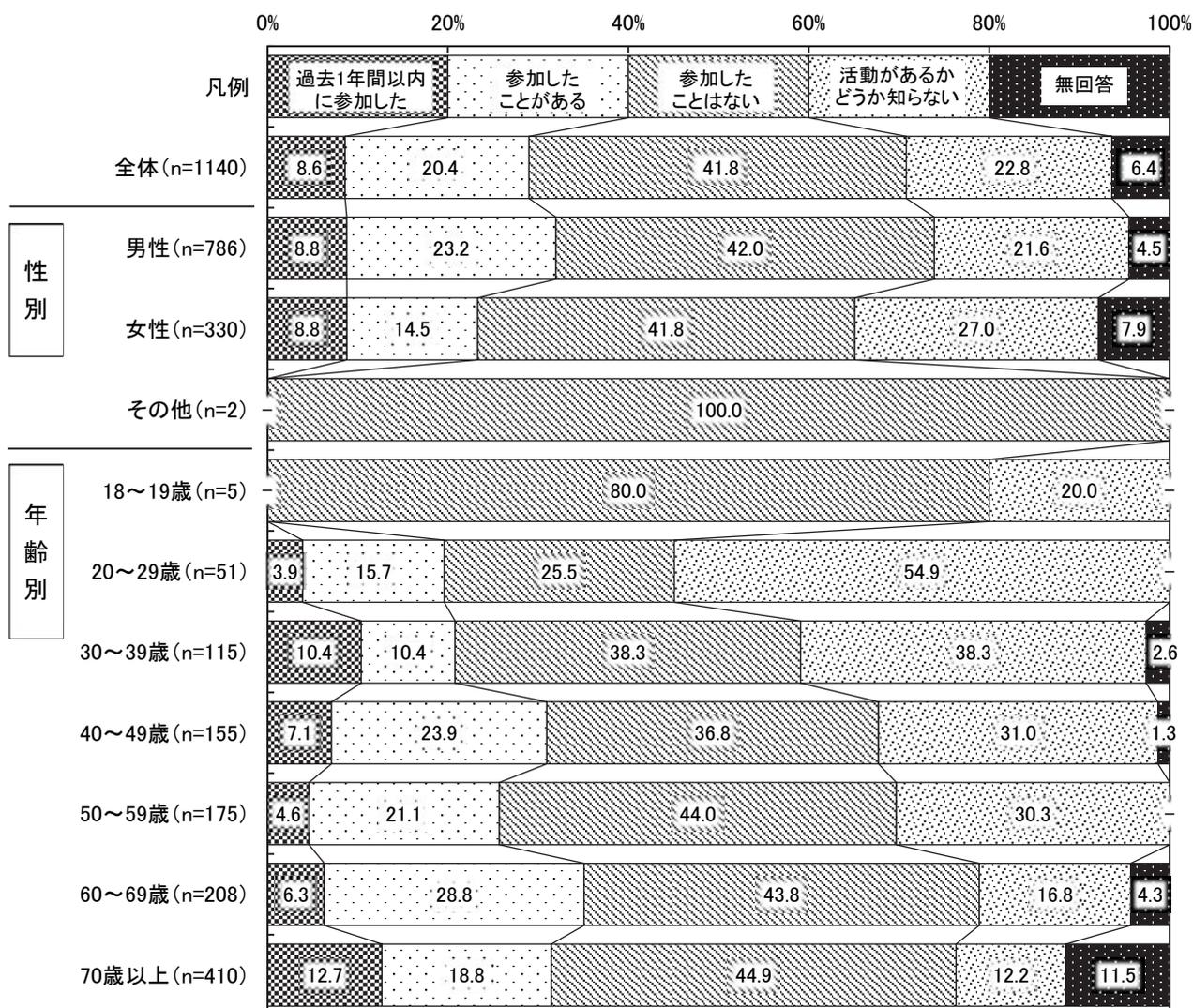
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は『男性』32.0%、『女性』23.3%と『男性』が『女性』より8.7ポイント高い。

年齢別では、“参加率”は『60～69歳』が35.1%と全体より6.1ポイント高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が54.9%と32.1ポイント全体より高く、各年齢層の中で最も高くなっている。

図17-6 地域活動の参加状況 ③文化・芸術・スポーツ／性別・年齢別



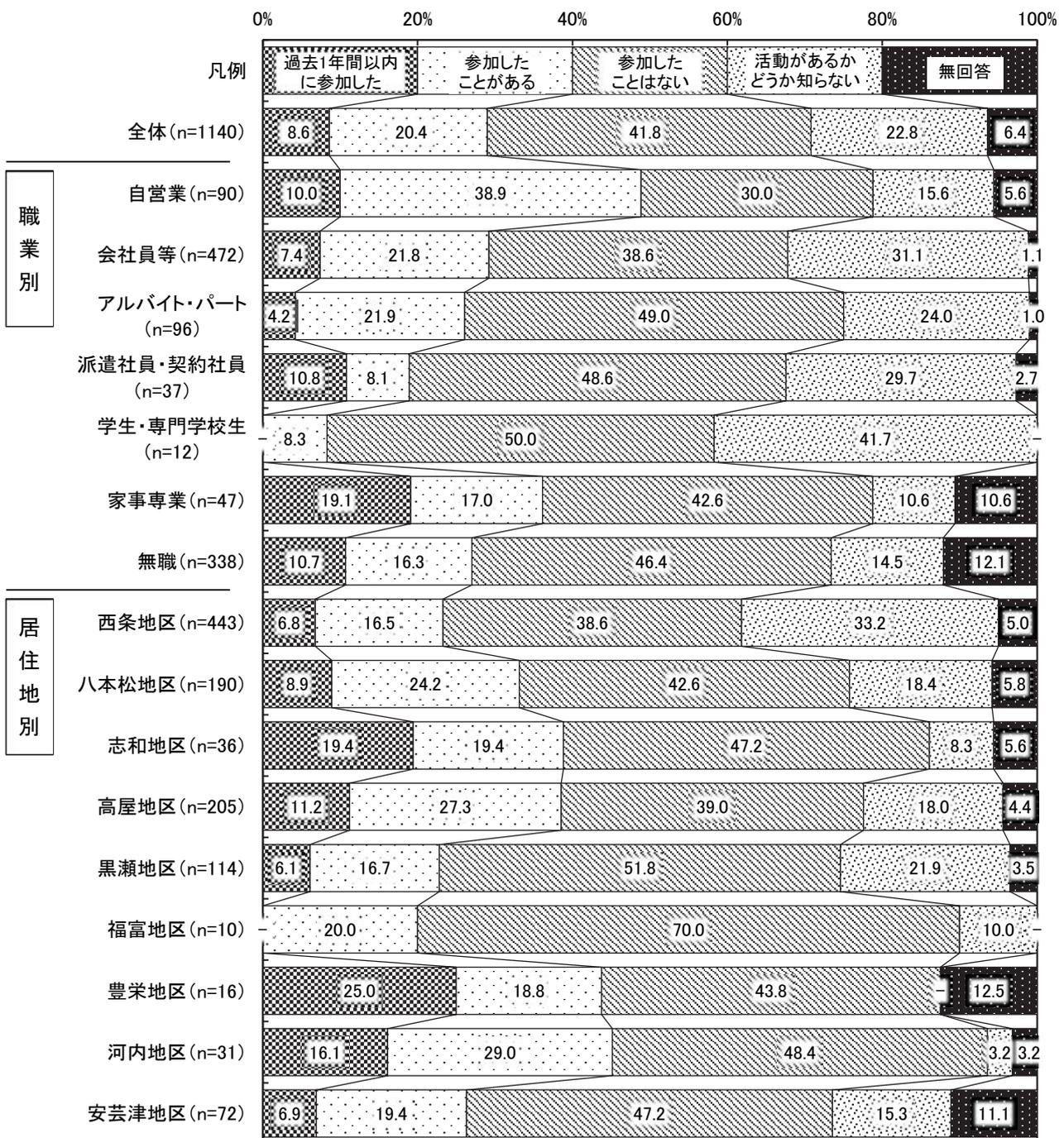
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については、『自営業』が48.9%と19.9ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『アルバイト・パート』が49.0%と7.2ポイント、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『会社員等』が31.1%と8.3ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『河内地区』が45.1%と16.1ポイント、『豊栄地区』が43.8%と14.8ポイント、『志和地区』が38.8%と9.8ポイント、『高屋地区』が38.5%と9.5ポイント、それぞれ全体より高い。「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が33.2%と10.4ポイント全体より高くなっている。

図17-7 地域活動の参加状況 ③文化・芸術・スポーツ／職業別・居住地別



④環境活動(美化活動、資源回収、清掃活動等)

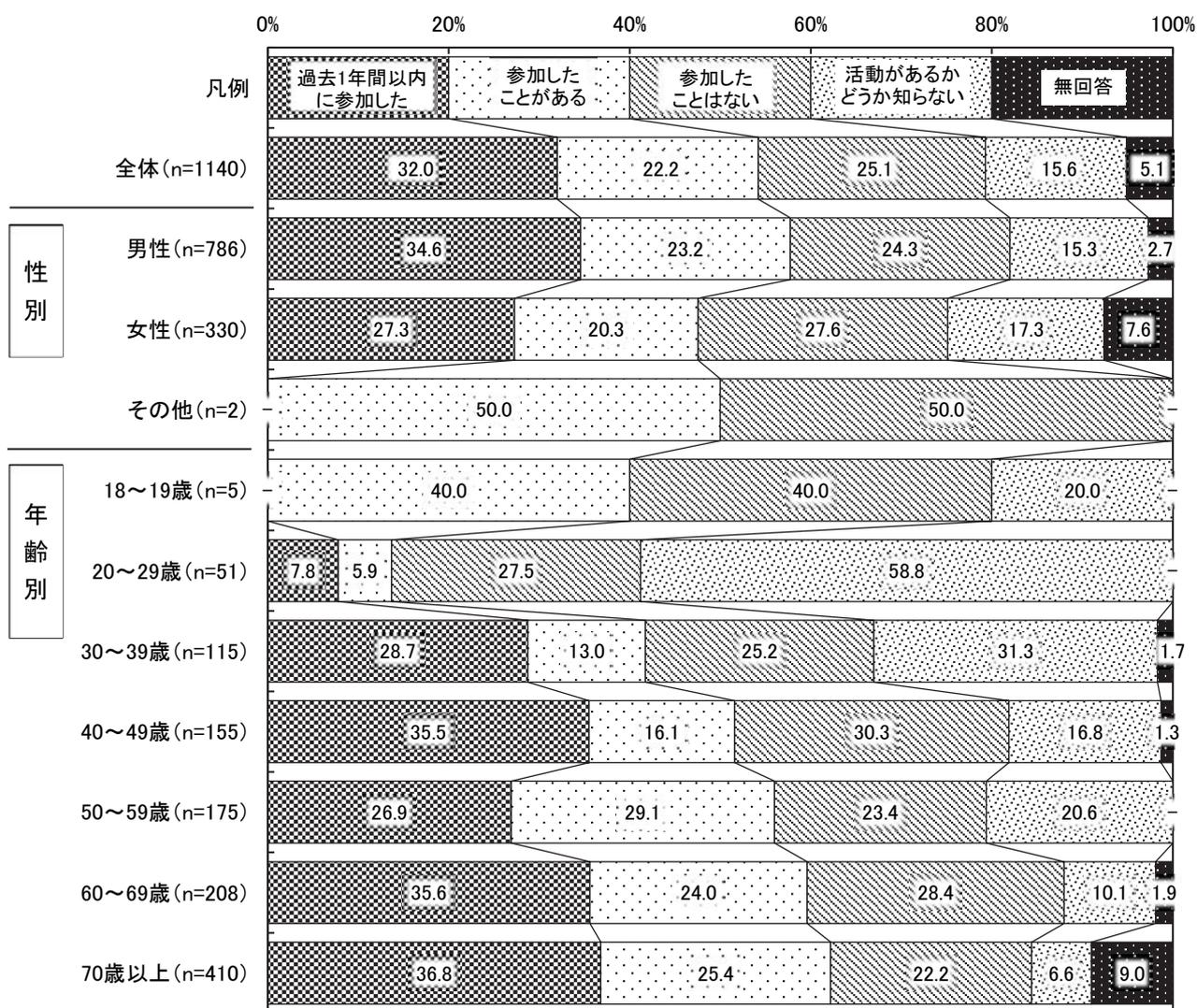
【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は『男性』57.8%、『女性』47.6%と『男性』が『女性』より10.2ポイント高い。

年齢別では、“参加率”は年齢が上がるほど高くなっており、『70歳以上』が62.2%と8.0ポイント、『60～69歳』が59.6%と5.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『40～49歳』が30.3%と5.2ポイント全体より高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が58.8%と43.2ポイント、『30～39歳』が31.3%と15.7ポイント、『50～59歳』が20.6%と5.0ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図17-8 地域活動の参加状況 ④環境活動/性別・年齢別

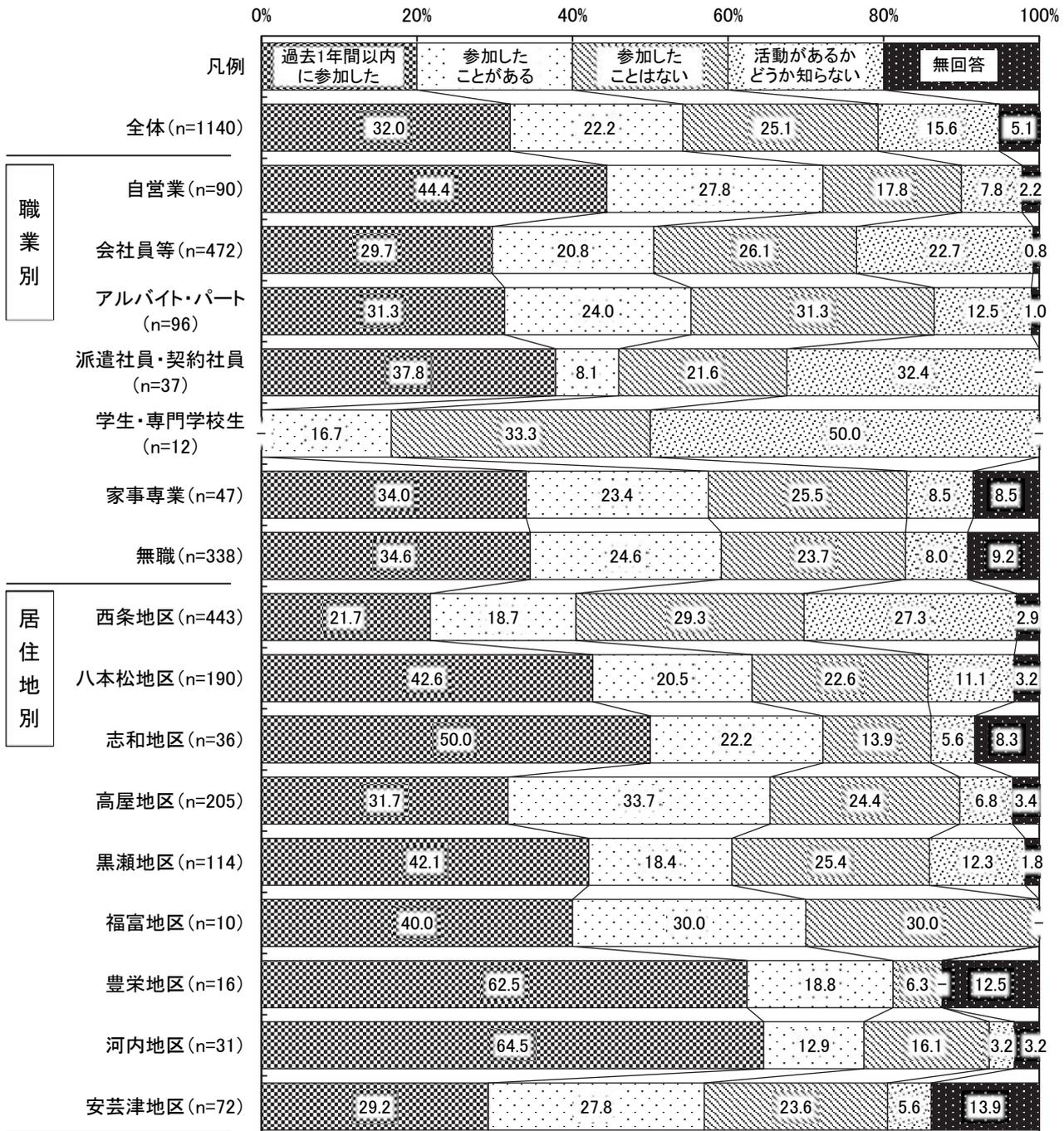


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「過去1年間以内に参加した」は『自営業』が44.4%と12.4ポイント全体より高く、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）についても、『自営業』が72.2%と18.0ポイント全体より高い。

居住地別では、“参加率”はその他の地区が過半となっているのに対し、『西条地区』が40.4%と13.8ポイント全体より低く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が27.3%と11.7ポイント高くなっている。

図17-9 地域活動の参加状況 ④環境活動／職業別・居住地別



⑤災害救援(災害予防、被災者への支援等)

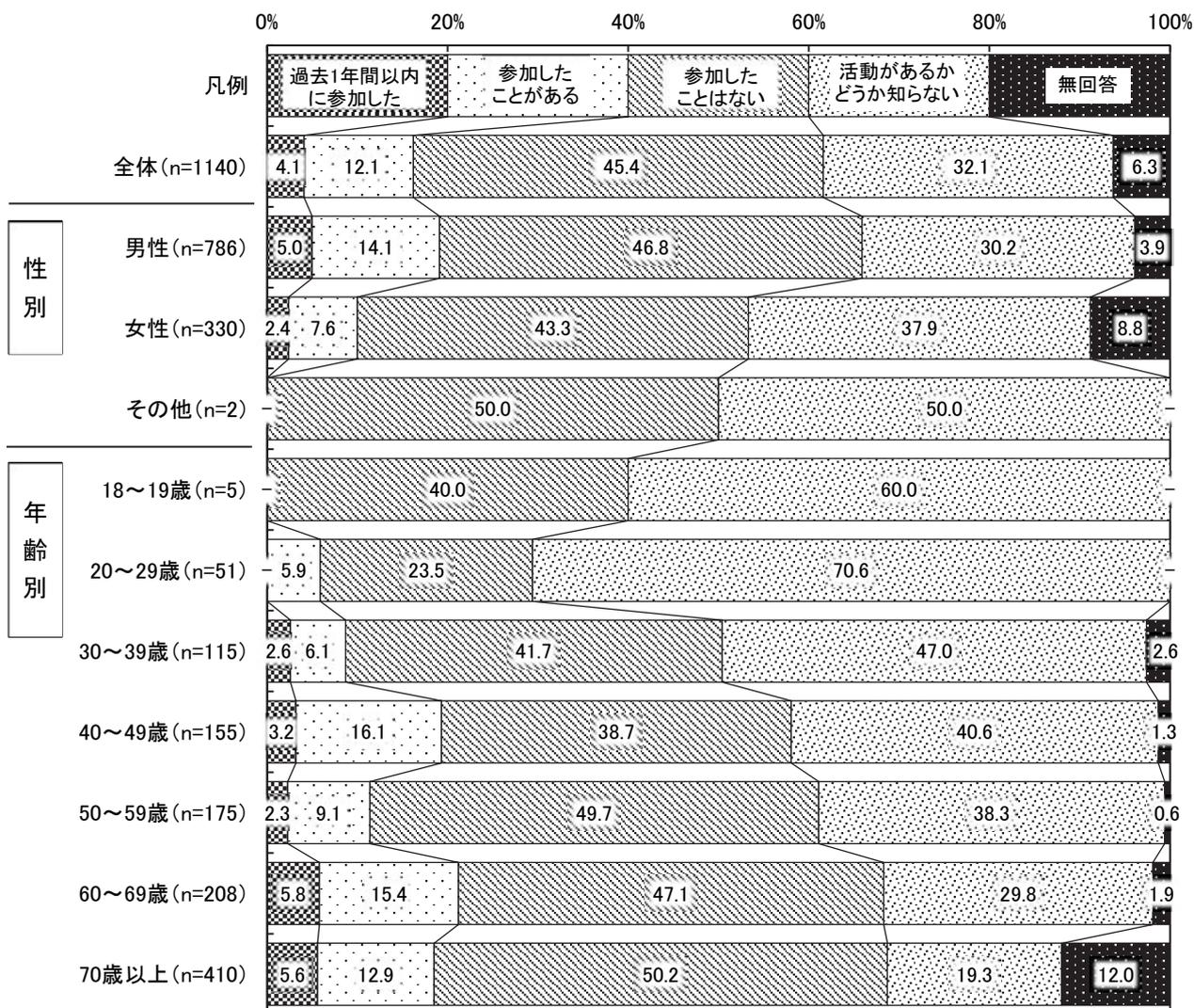
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は『男性』19.1%、『女性』10.0%と『男性』が『女性』より9.1ポイント高い。

年齢別では、“参加率”は『20～29歳』は5.9%と10.3ポイント、『30～39歳』が8.7%と7.5ポイント、それぞれ全体より低くなっている。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が70.6%と38.5ポイント、『30～39歳』が47.0%と14.9ポイント、それぞれ全体より高く、年齢が上がるほど低くなっている。

図17-10 地域活動の参加状況 ⑤災害救援／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

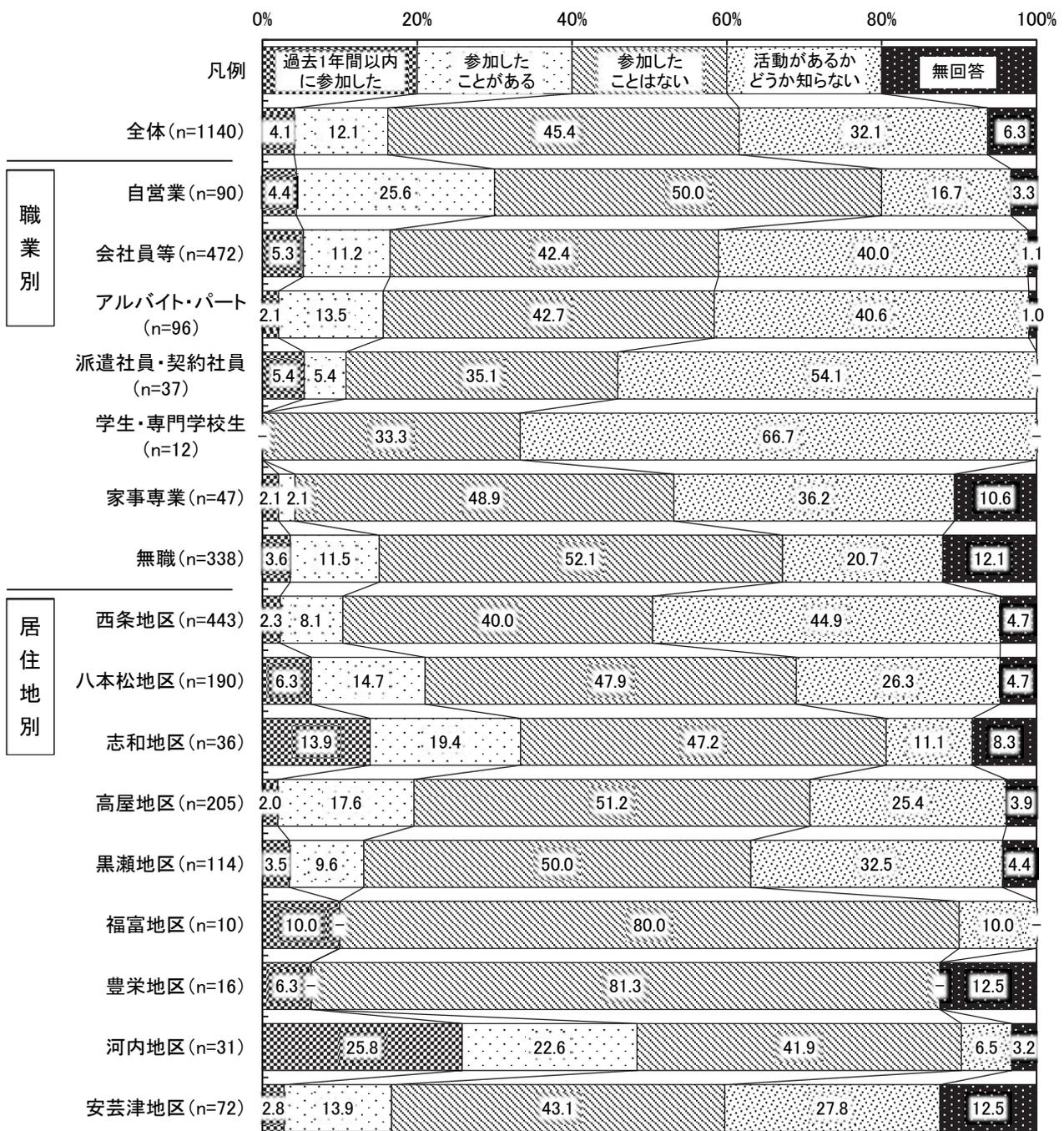
職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については『自営業』が30.0%と13.8ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『無職』が52.1%と6.7ポイント全体より高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『アルバイト・パート』が40.6%と8.5ポイント、『会社員等』が40.0%と7.9ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『河内地区』が48.4%と32.2ポイント、『志和地区』が33.3%と17.1ポイント、それぞれ全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が44.9%と12.8ポイント全体より高くなっている。

図17-11 地域活動の参加状況 ⑤災害救援／職業別・居住地別



⑥地域安全(犯罪や事故の予防)

【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は『男性』13.2%、『女性』7.6%と『男性』が『女性』より5.6ポイント高い。

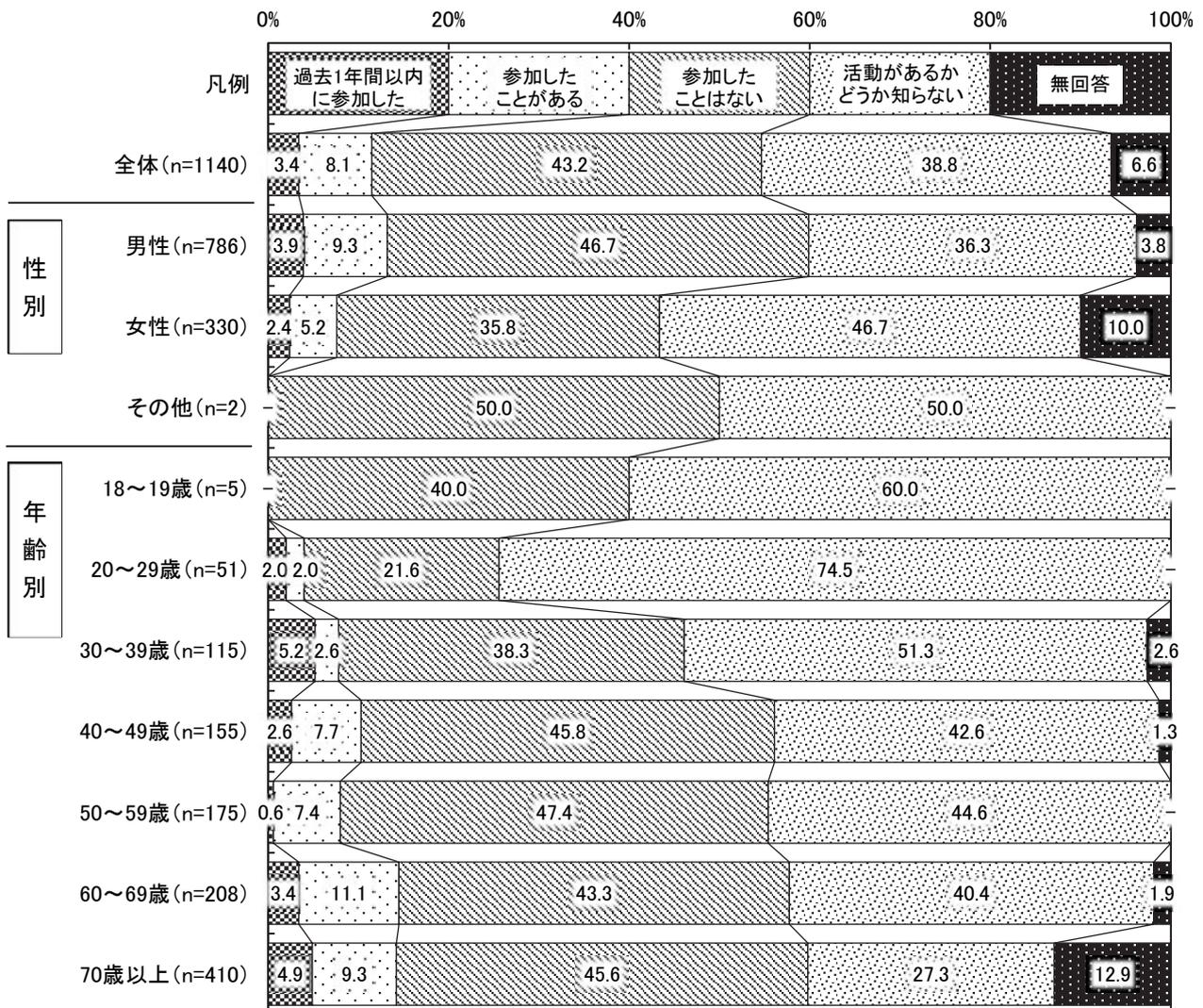
「活動は知っているが、参加したことはない」は『男性』が『女性』より10.9ポイント高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『女性』が『男性』より10.4ポイント高くなっている。

年齢別では、“参加率”は『20～29歳』が4.0%と7.5ポイント全体より低い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『20～29歳』が21.6%と21.6ポイント全体より低く、各年齢層の中で最も低い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が74.5%と35.7ポイント、『30～39歳』が51.3%と12.5ポイント、それぞれ全体より高く、一方『70歳以上』は27.3%と11.5ポイント全体より低くなっている。

図17-12 地域活動の参加状況 ⑥地域安全／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

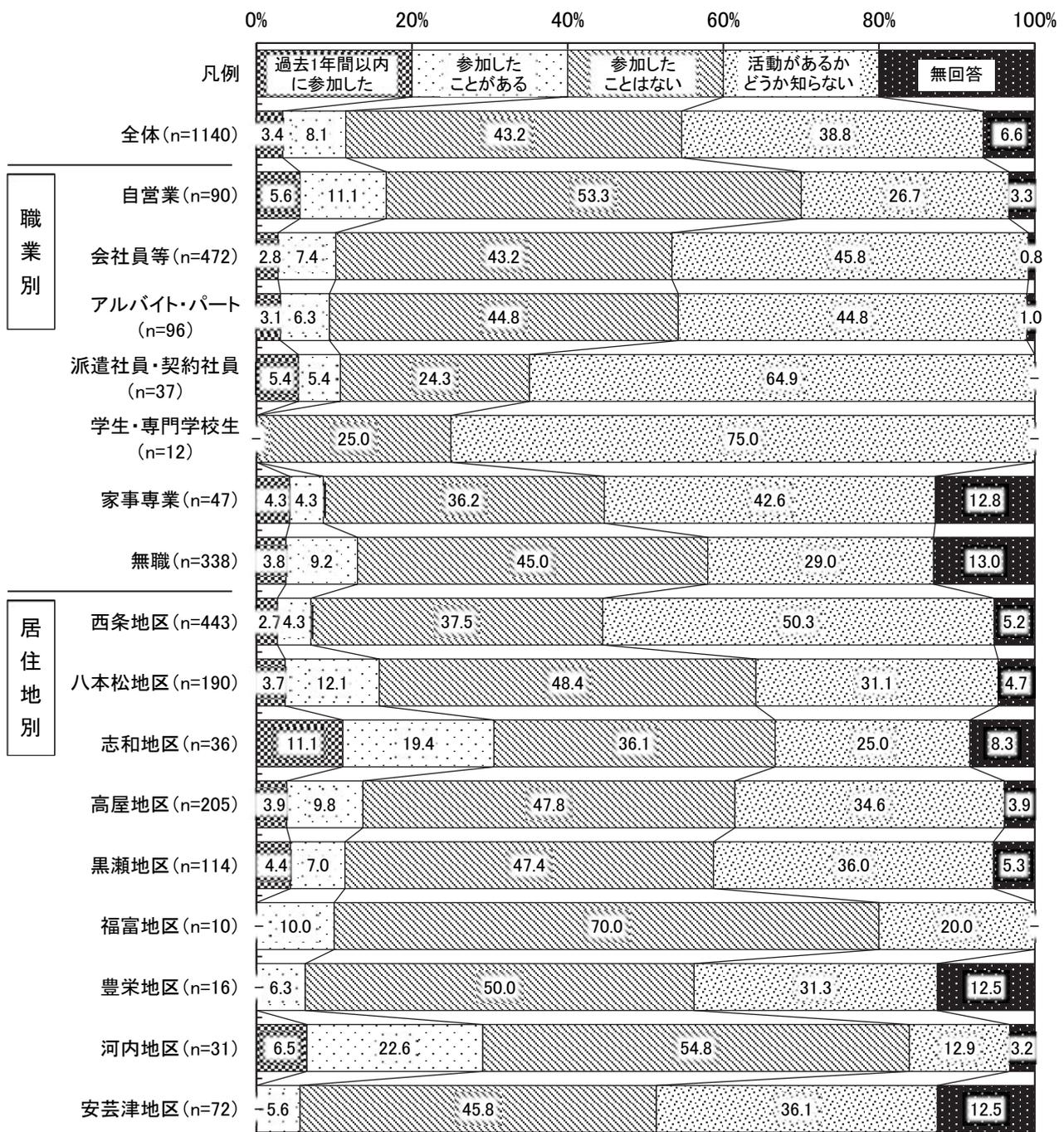
職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については『自営業』が16.7%と5.2ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『自営業』が53.3%と10.1ポイント、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『会社員等』が45.8%と7.0ポイント、『アルバイト・パート』が44.8%と6.0ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『志和地区』が30.5%と19.0ポイント、『河内地区』が29.1%と17.6ポイント、それぞれ全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が50.3%と11.5ポイント全体より高くなっている。

図17-13 地域活動の参加状況 ⑥地域安全／職業別・居住地別



⑦児童・青少年の健全育成(体験学習・学童保育等)

【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

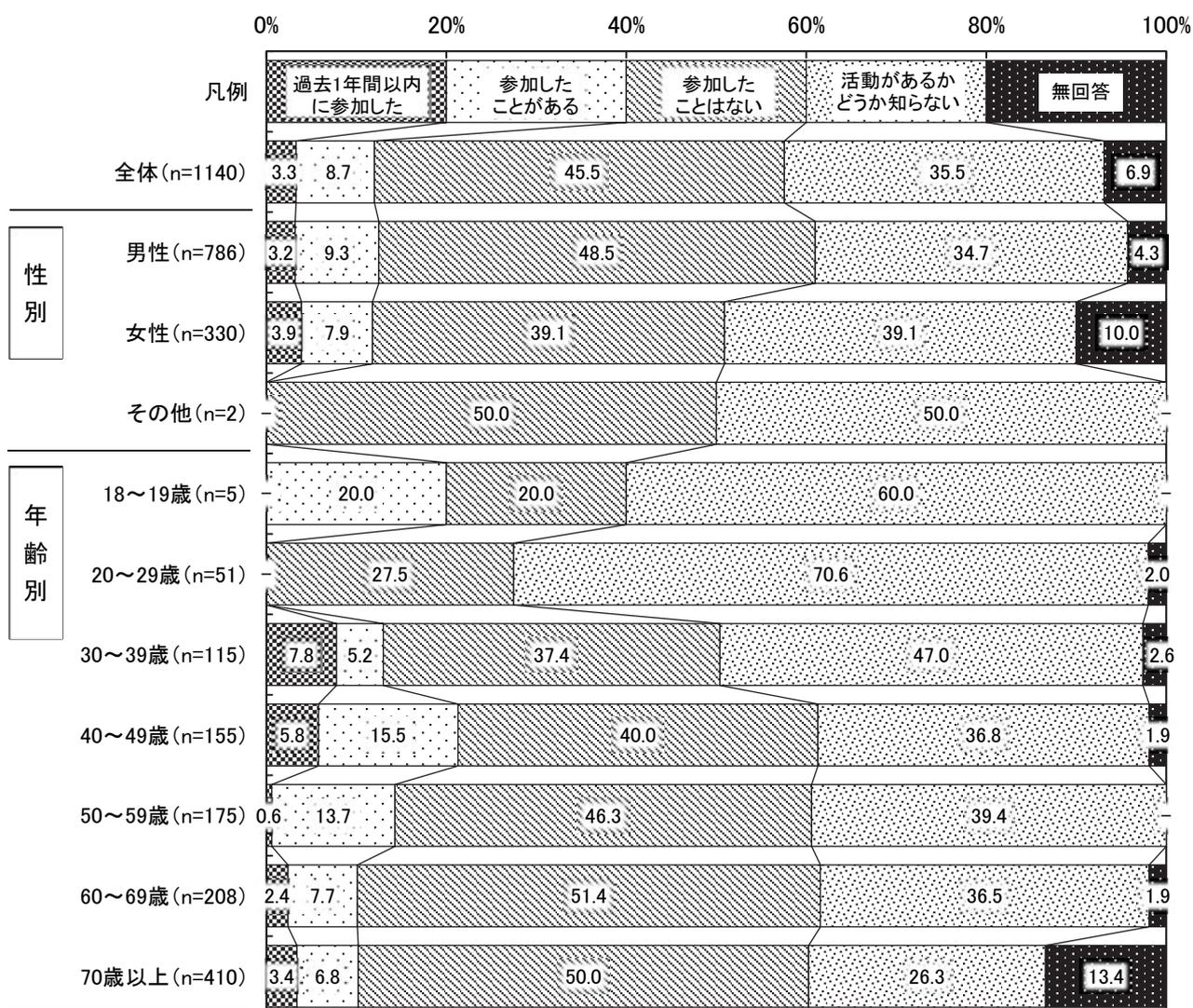
性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については男女で顕著な差はない。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『男性』48.5%、『女性』39.1%と『男性』が『女性』より9.4ポイント高くなっている。

年齢別では、“参加率”は、『40～49歳』が21.3%と9.3ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『60～69歳』が51.4%と5.9ポイント全体より高い。「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が70.6%と35.1ポイント、『30～39歳』が47.0%と11.5ポイント、それぞれ全体より高く、一方『70歳以上』は26.3%と9.2ポイント全体より低くなっている。

図17-14 地域活動の参加状況 ⑦児童・青少年の健全育成／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

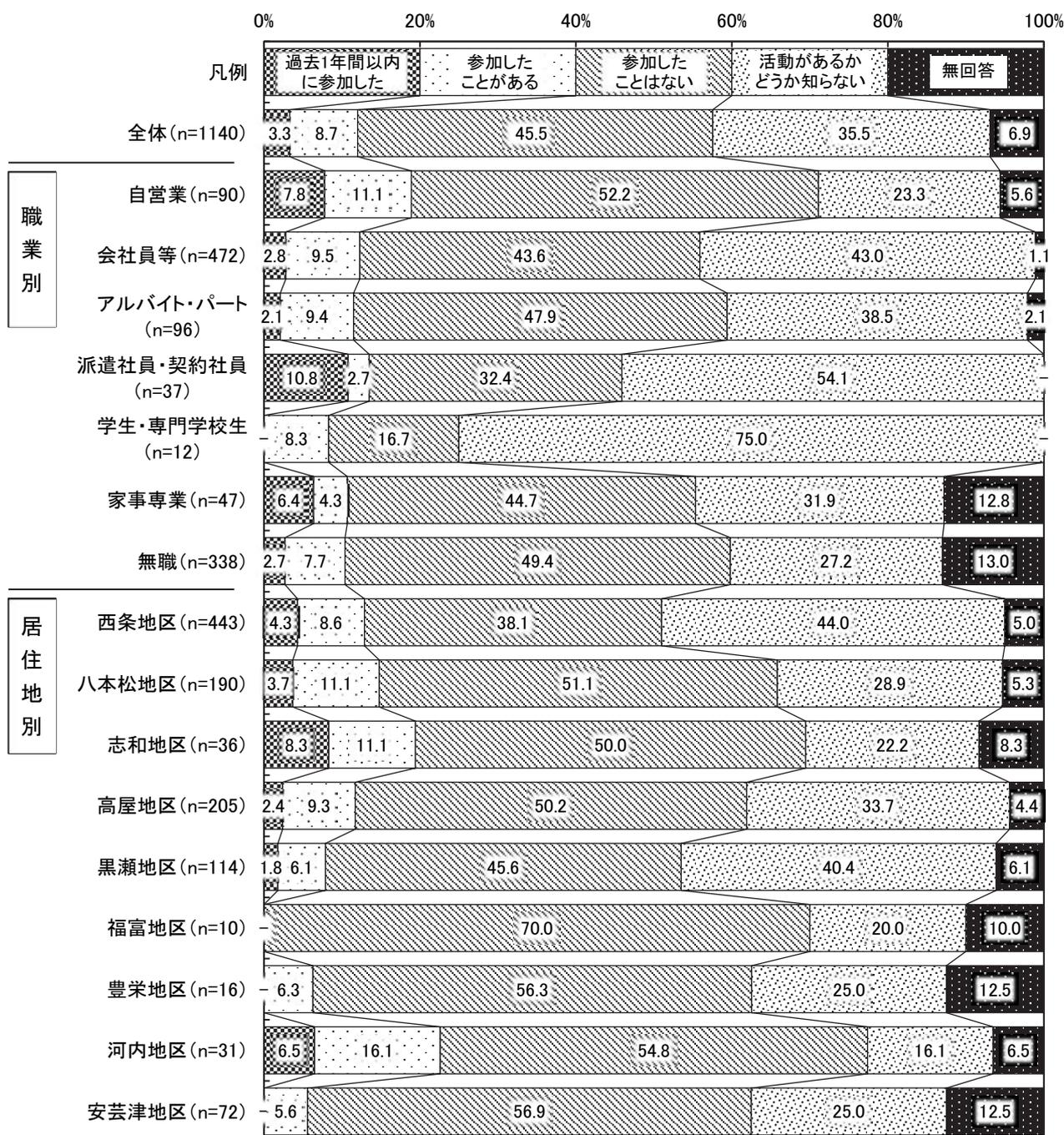
職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については『自営業』が18.9%と6.9ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『自営業』が52.2%と6.7ポイント全体より高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『会社員等』が43.0%と7.5ポイント全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『河内地区』が22.6%と10.6ポイント、『志和地区』が19.4%と7.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が44.0%と8.5ポイント全体より高くなっている。

図17-15 地域活動の参加状況 ⑦児童・青少年の健全育成／職業別・居住地別



⑧情報共有(地域情報誌の発行等)

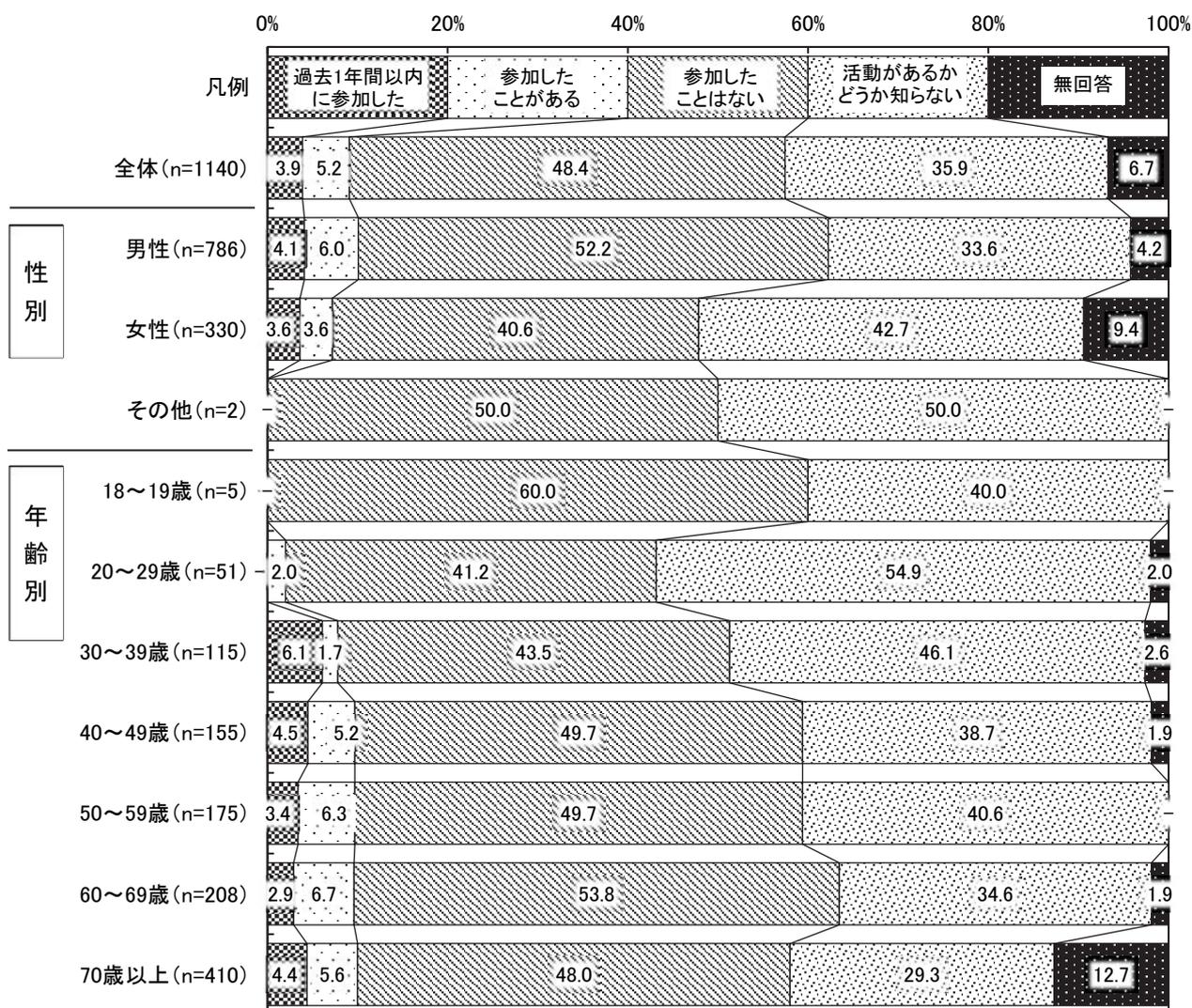
【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は男女で顕著な差はない。「活動は知っているが、参加したことはない」は『男性』が『女性』より11.6ポイント高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『女性』が『男性』より9.1ポイント高くなっている。

年齢別では、“参加率”は『20～29歳』が2.0%と7.1ポイント全体より低い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『60～69歳』が53.8%と5.4ポイント全体より高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が54.9%と19.0ポイント、『30～39歳』が46.1%と10.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図17-16 地域活動の参加状況 ⑧情報共有／性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

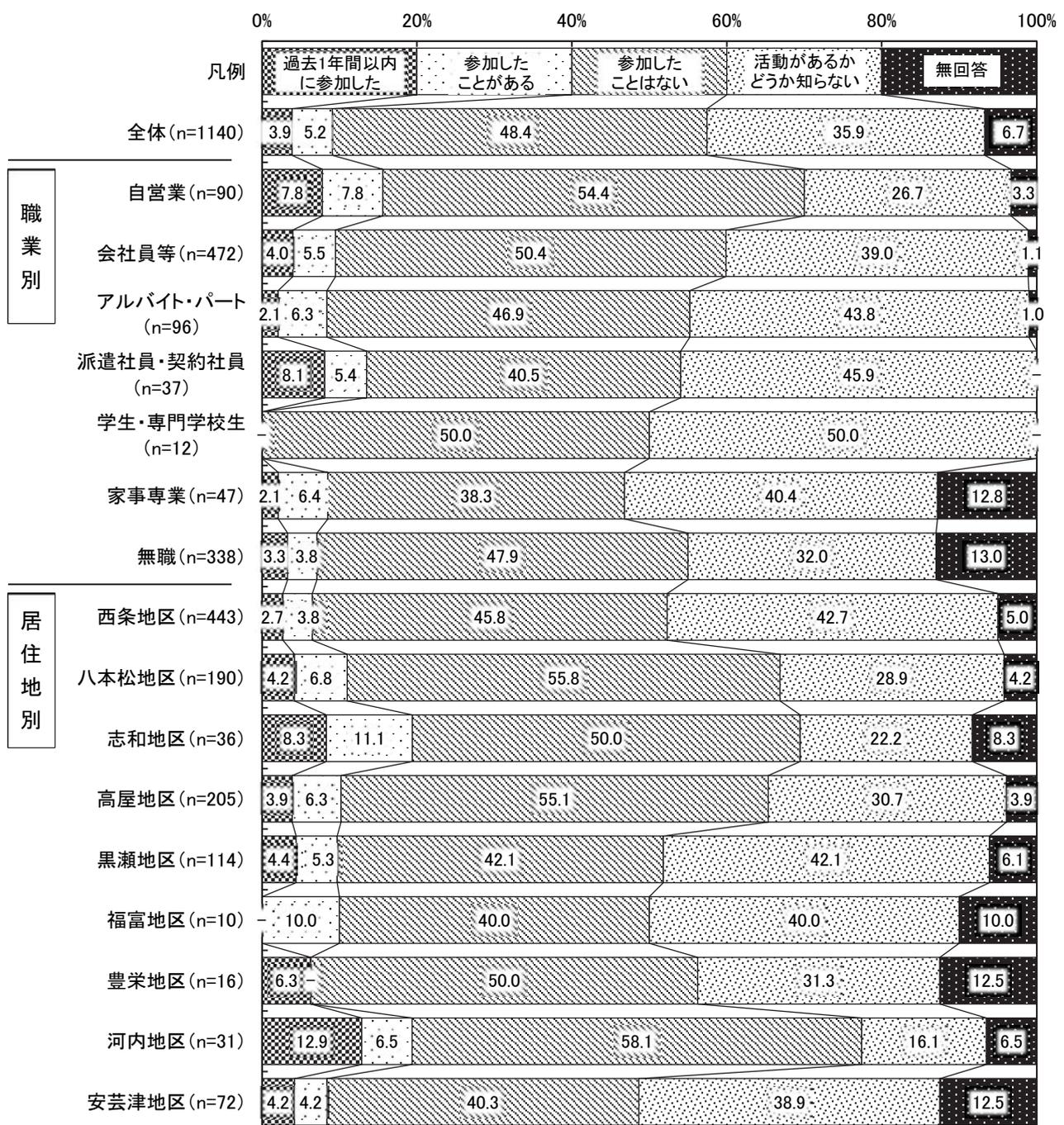
職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については『自営業』が15.6%と6.5ポイント全体より高い。

「活動は知っているが、参加したことはない」は『自営業』が54.4%と6.0ポイント、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『アルバイト・パート』が43.8%と7.9ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『志和地区』と『河内地区』がそれぞれ19.4%と10.3ポイント全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が42.7%と6.8ポイント、『黒瀬地区』が42.1%と6.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図17-17 地域活動の参加状況 ⑧情報共有／職業別・居住地別



⑨地域経済の活性化(バザー、特産品開発等)

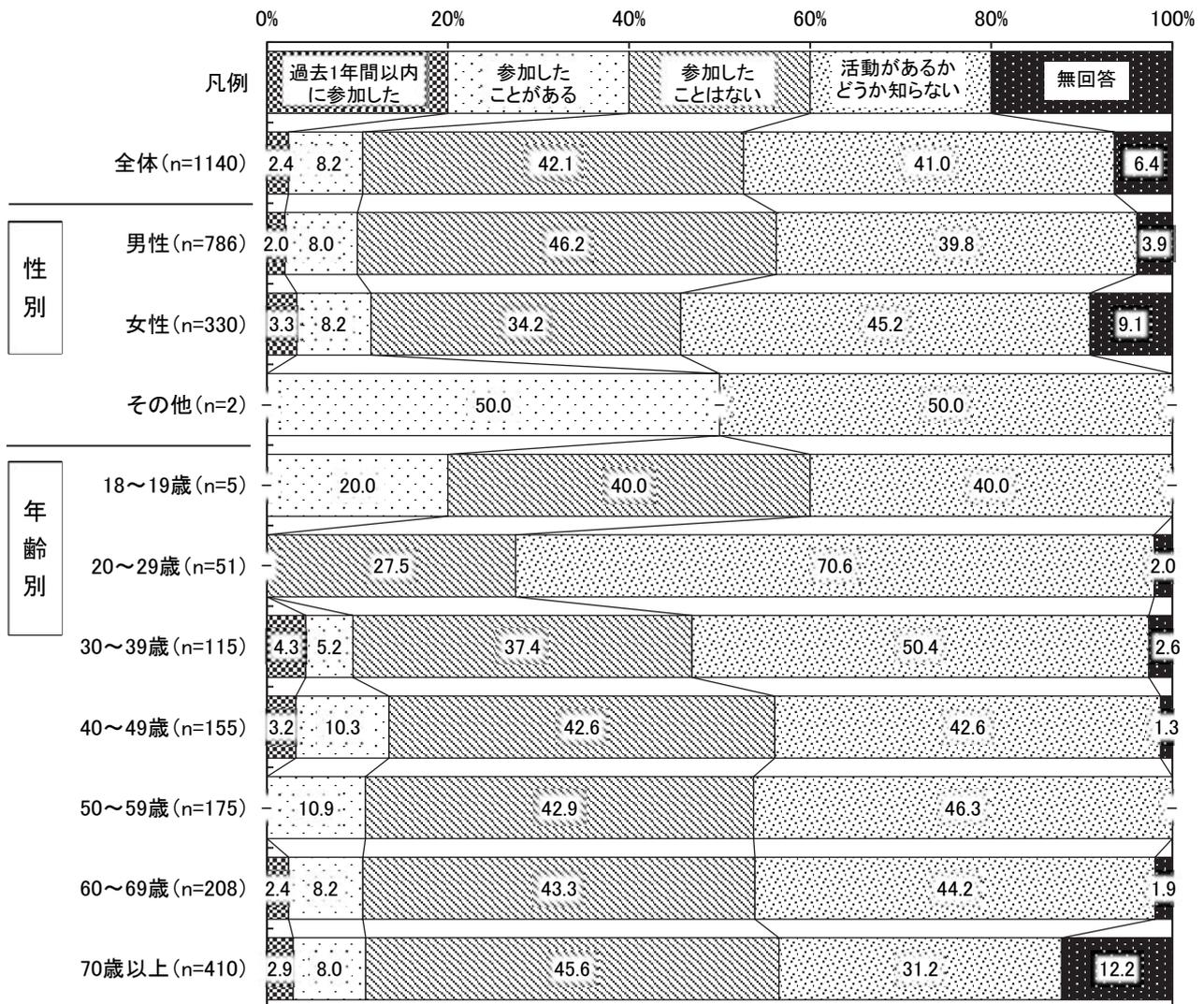
【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）は男女で顕著な差はない。「活動は知っているが、参加したことはない」は『男性』が『女性』より12.0ポイント高く、「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『女性』が『男性』より5.4ポイント高くなっている。

年齢別では、“参加率”は『20～29歳』が0.0%と10.6ポイント全体より低い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『20～29歳』が70.6%と29.6ポイント、『30～39歳』が50.4%と9.4ポイント、『40～49歳』が46.3%と5.3ポイント、それぞれ全体より高く、一方『70歳以上』は31.2%と9.8ポイント全体より低くなっている。

図17-18 地域活動の参加状況 ⑨地域経済の活性化/性別・年齢別



【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

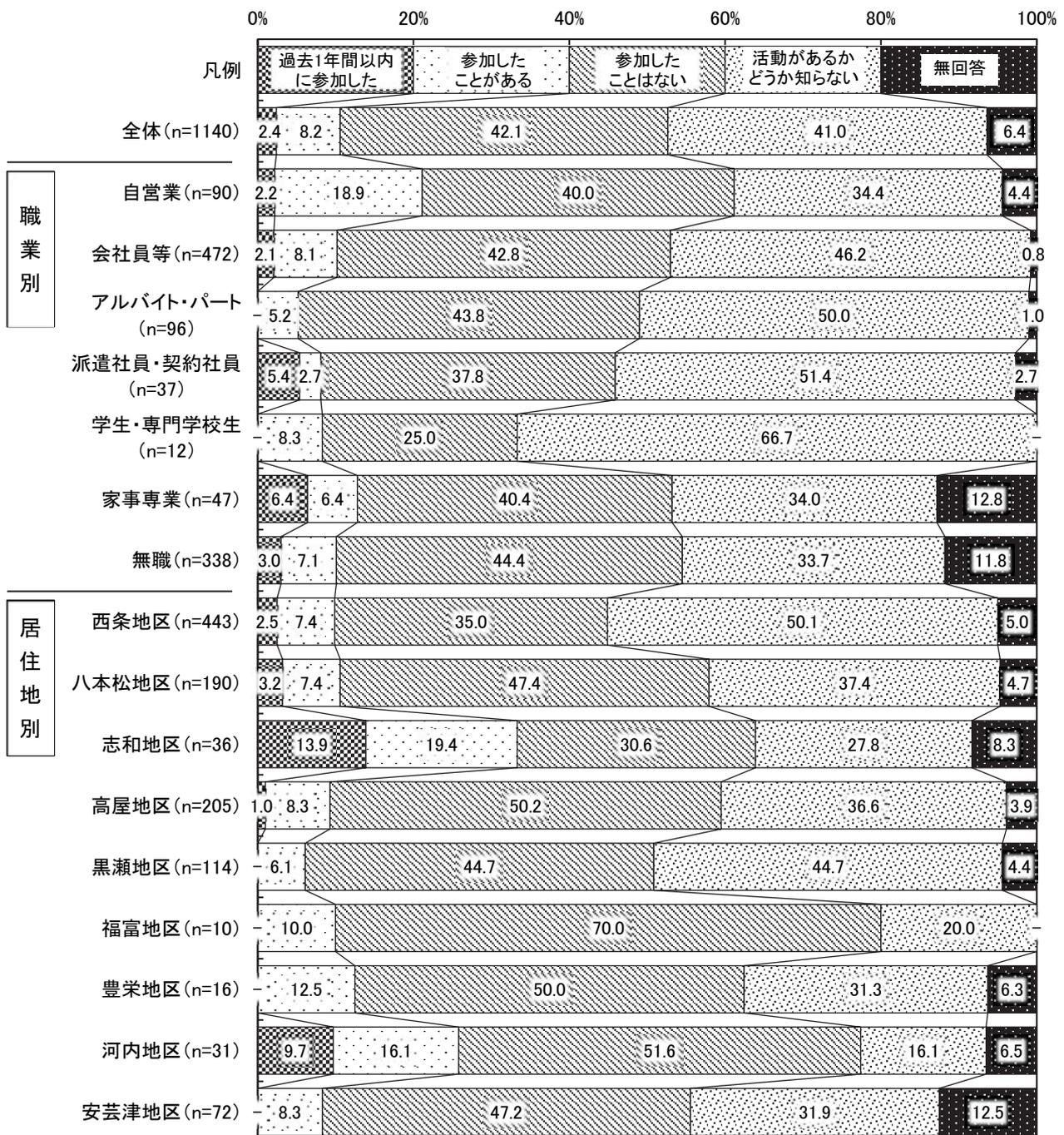
職業別では、“参加率”（「過去1年間以内に参加した」と「過去1年間以内ではないが参加したことがある」の合計）については、『自営業』が21.1%と10.5ポイント全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『アルバイト・パート』が50.0%と9.0ポイント、『会社員等』が46.2%と5.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、“参加率”は『志和地区』が33.3%と22.7ポイント、『河内地区』が25.8%と15.2ポイント、それぞれ全体より高い。

「活動がない・活動があるかどうか知らない」は『西条地区』が50.1%と9.1ポイント全体より高くなっている。

図17-19 地域活動の参加状況 ⑨地域経済の活性化／職業別・居住地別



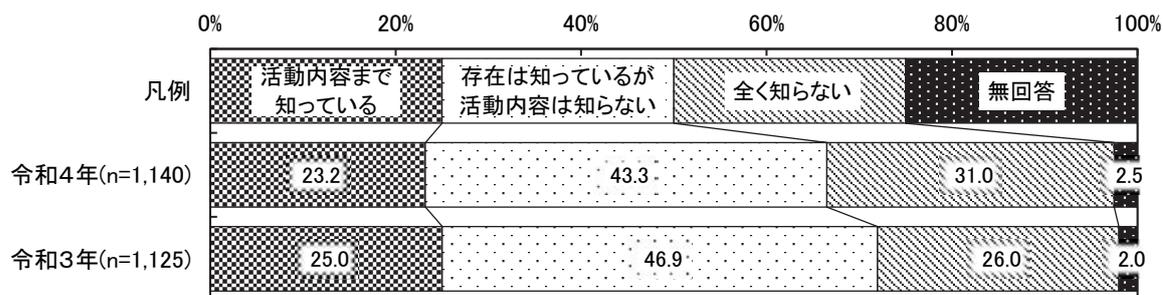
10. 住民自治協議会について

(1) 住民自治協議会の認知状況

問13 あなたは、各地域のまちづくりに取り組んでおられる住民自治協議会を知っていますか。
(1つだけ選んで○をお付けください)

住民自治協議会の認知状況については、「活動内容まで知っている」が23.2%、「存在は知っているが活動内容は知らない」が43.3%、「全く知らない」が31.0%となっている。

図18-1 住民自治協議会の認知状況



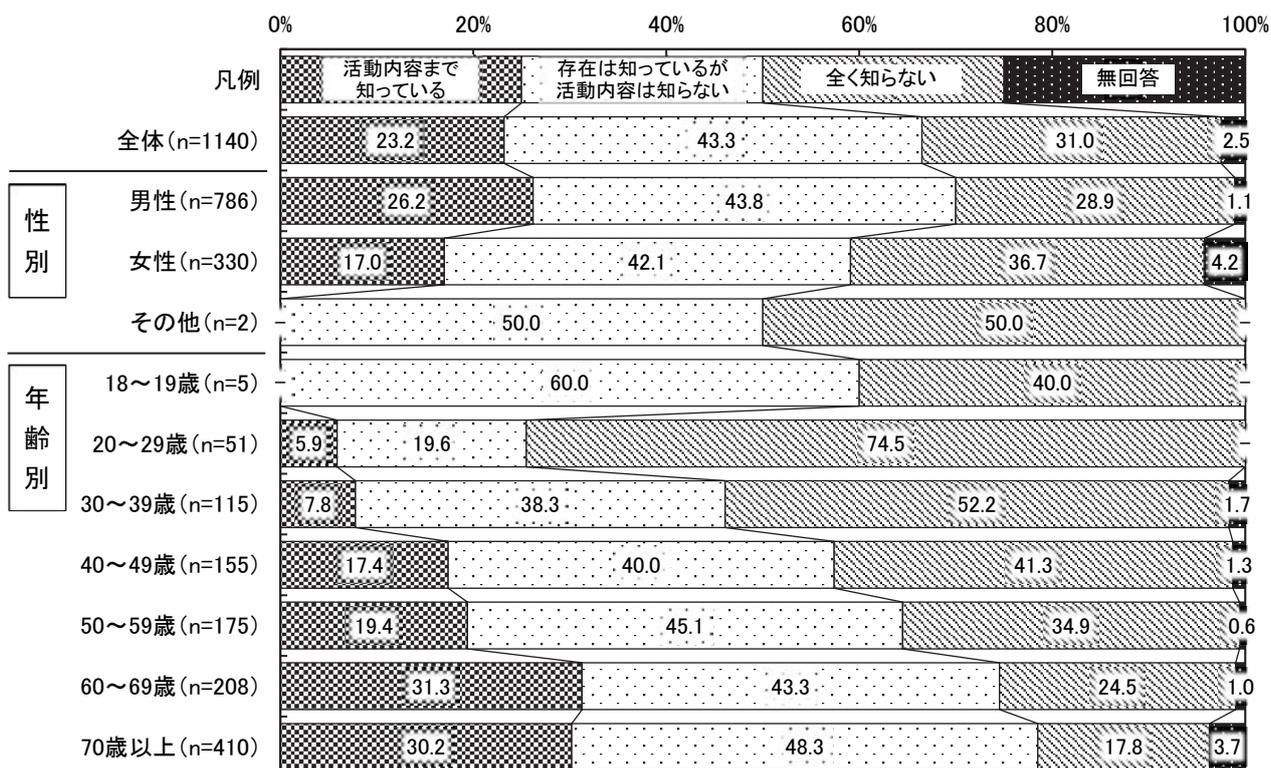
【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、「活動内容まで知っている」は『男性』が『女性』より9.2ポイント高い。

年齢別では、「活動内容まで知っている」は『60～69歳』が31.3%と8.1ポイント、『70歳以上』が30.2%と7.0ポイント、それぞれ全体より高い。

「全く知らない」は年齢が上がるほど低くなっており、『20～29歳』が74.5%と43.5ポイント全体より高くなっている。

図18-2 住民自治協議会の認知状況／性別・年齢別



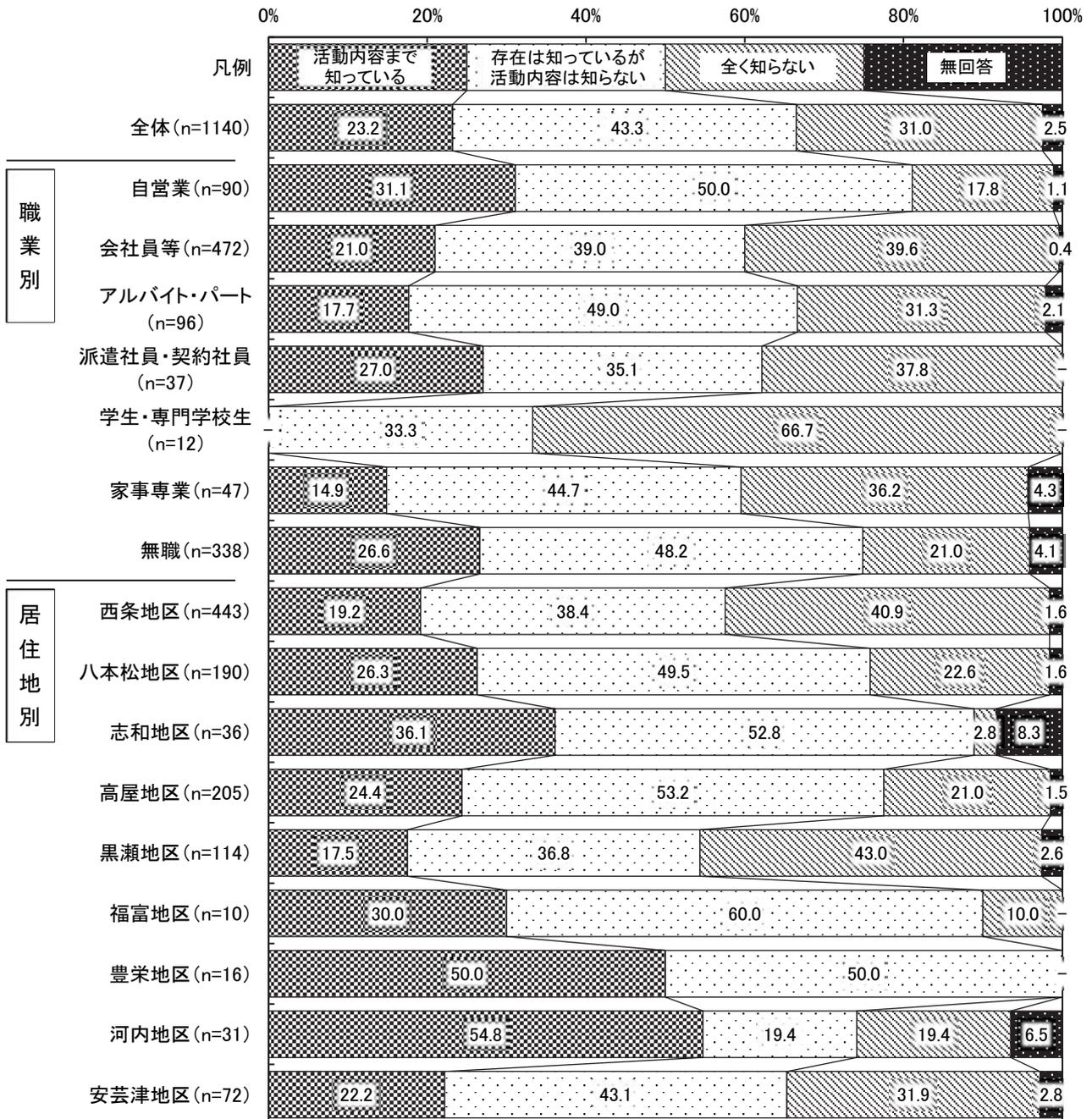
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「活動内容まで知っている」は『自営業』が31.1%と7.9ポイント全体より高い。

居住地別では、「活動内容まで知っている」は『河内地区』が54.8%と31.6ポイント、『豊栄地区』が50.0%と26.8ポイント、『志和地区』が36.1%と12.9ポイント、『福富地区』が30.0%と6.8ポイント、それぞれ全体より高い。

「全く知らない」は『黒瀬地区』が43.0%と12.0ポイント、『西条地区』が40.9%と9.9ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図18-3 住民自治協議会の認知状況／職業別・居住地別



1 1. 困りごとがあった時の相談先について

(1) 困りごとがあった時の相談先

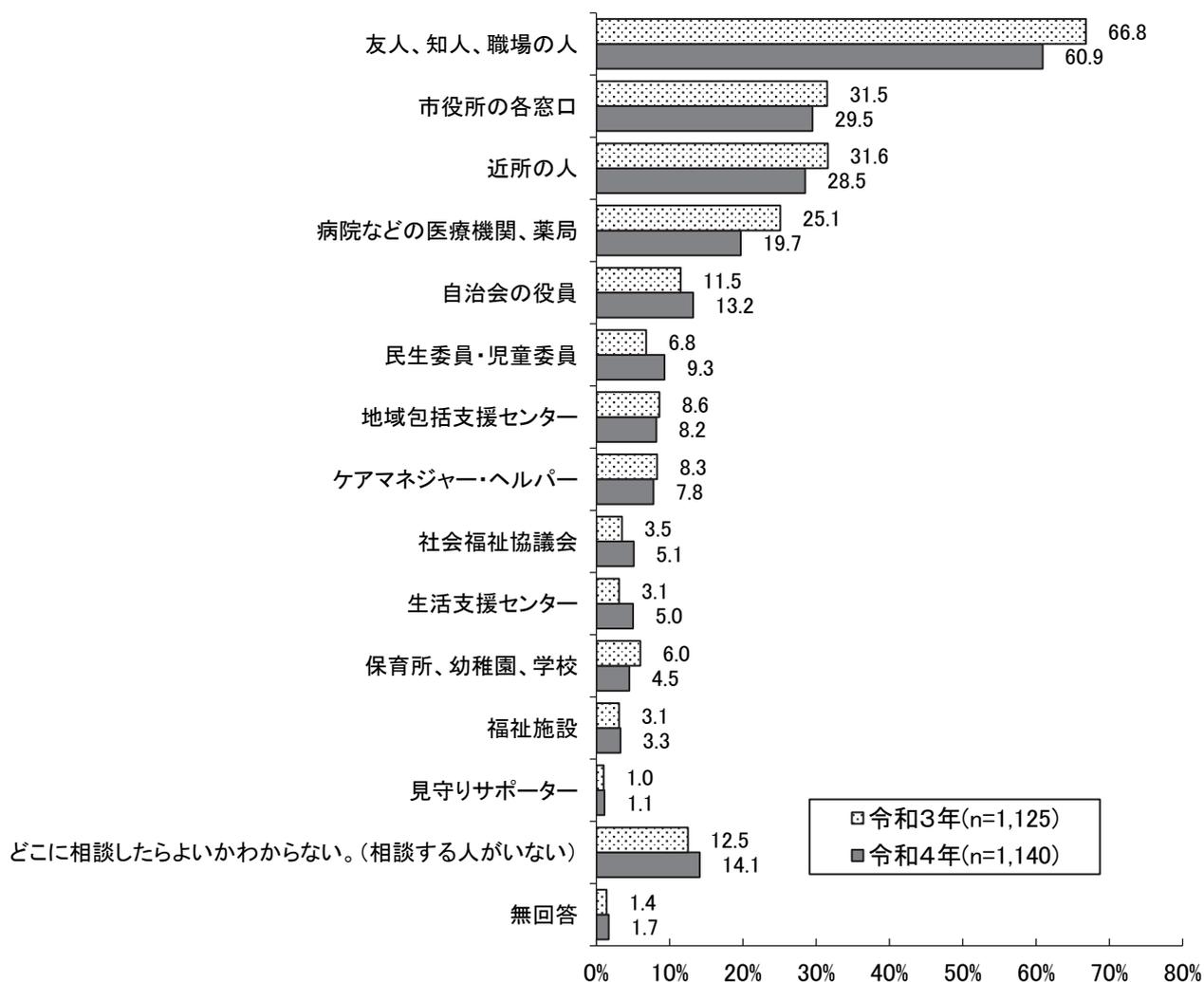
問19 日常生活で困りごとが発生したとき、家族(親族)以外では、誰(どこ)に相談しますか。
(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

困りごとがあった時の相談先については、「友人、知人、職場の人」が60.9%と最も高く、次いで、「市役所の各窓口」が29.5%、「近所の人」が28.5%、「病院などの医療機関、薬局」が19.7%と高い。

「どこに相談したらよいかわからない。(相談する人がいない)」は14.1%となっている。

図19-1 困りごとがあった時の相談先<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

「友人、知人、職場の人」は9.2ポイント、「市役所の各窓口」は7.4ポイント、それぞれ『男性』が『女性』より高い。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「友人、知人、職場の人」は『20～29歳』が96.1%と35.2ポイント、『30～39歳』が80.9%と20.0ポイント、『50～59歳』が72.0%と11.1ポイント、それぞれ全体より高い。一方、『70歳以上』は44.1%と16.8ポイント全体より低くなっている。

「市役所の各窓口」は『60～69歳』が35.1%と5.6ポイント全体より高い。

「近所の人」は『70歳以上』が35.6%と7.1ポイント、『60～69歳』が35.1%と6.6ポイント、それぞれ全体より高い。一方、『20～29歳』は2.0%と26.5ポイント、『40～49歳』は18.1%と10.4ポイント、それぞれ全体より低くなっている。

「病院などの医療機関、薬局」、「自治会の役員」、「地域包括支援センター」はそれぞれ『70歳以上』が5ポイント以上、「民生委員・児童委員」は10.2ポイント、全体より高い。

「保育所、幼稚園、学校」は『30～39歳』が13.9%と9.4ポイント、『40～49歳』が12.9%と8.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「どこに相談したらよいかわからない。（相談する人がいない）」は『40～49歳』が22.6%と8.5ポイント全体より高い。

表19-1 困りごとが合った時の相談先／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：%

		友人、知人、職場の人	市役所の各窓口	近所の人	病院などの医療機関、薬局	自治会の役員	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	ケアマネジャー・ヘルパー	社会福祉協議会	生活支援センター	保育所、幼稚園、学校	福祉施設	見守りサポーター	どこに相談したらよいかわからない。（相談する人がいない）	無回答
全体 (n=1140)		60.9	29.5	28.5	19.7	13.2	9.3	8.2	7.8	5.1	5.0	4.5	3.3	1.1	14.1	1.7
性別	男性 (n=786)	64.0	31.9	28.0	21.1	14.2	8.5	8.0	6.9	4.7	5.7	4.3	3.8	0.6	12.7	1.0
	女性 (n=330)	54.8	24.5	30.6	17.0	10.9	11.8	9.4	10.6	5.5	3.6	4.8	2.4	2.1	17.3	1.5
	その他 (n=2)	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
年齢別	18～19歳 (n=5)	80.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	20.0	-
	20～29歳 (n=51)	96.1	27.5	2.0	11.8	-	-	-	-	-	2.0	3.9	2.0	-	3.9	-
	30～39歳 (n=115)	80.9	21.7	22.6	7.8	2.6	0.9	2.6	0.9	-	2.6	13.9	2.6	-	12.2	0.9
	40～49歳 (n=155)	65.2	25.2	18.1	10.3	7.1	1.9	1.9	2.6	2.6	6.5	12.9	0.6	-	22.6	-
	50～59歳 (n=175)	72.0	29.1	25.7	19.4	8.6	2.9	5.1	5.7	1.1	3.4	2.9	1.7	-	16.6	-
	60～69歳 (n=208)	63.5	35.1	35.1	19.7	13.5	8.2	8.7	12.0	5.3	4.8	2.4	5.3	0.5	13.0	0.5
	70歳以上 (n=410)	44.1	32.0	35.6	28.0	22.2	19.5	14.9	12.0	9.3	6.6	0.5	4.6	2.7	12.2	2.7

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「友人、知人、職場の人」は『会社員等』が14.5ポイント全体より高い。

「市役所の各窓口」は『自営業』が41.1%と11.6ポイント、「近所の人」は『無職』が34.3%と5.8ポイント、それぞれ全体より高い。

「病院などの医療機関、薬局」、「自治会の役員」、「民生委員・児童委員」、「地域包括支援センター」、「ケアマネジャー・ヘルパー」はそれぞれ『自営業』と『無職』が5ポイント以上全体より高くなっている。

『アルバイト・パート』は「生活支援センター」が12.5%と7.5ポイント全体より高い。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「友人、知人、職場の人」は『西条地区』が6.1ポイント、「市役所の各窓口」は『志和地区』が12.2ポイント、『高屋地区』が5.1ポイント、それぞれ全体より高い。

「近所の人」は『河内地区』が13.4ポイント、『安芸津地区』が11.8ポイント、『福富地区』が11.5ポイント、『八本松地区』が7.8ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表19-2 困りごとが合った時の相談先／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：%

		友人、知人、職場の人	市役所の各窓口	近所の人	病院などの医療機関、薬局	自治会の役員	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	ケアマネジャー・ヘルパー	社会福祉協議会	生活支援センター	保育所、幼稚園、学校	福祉施設	見守りサポーター	どこに相談したらよいかわからない。(相談する人がいない)	無回答
全体 (n=1140)		60.9	29.5	28.5	19.7	13.2	9.3	8.2	7.8	5.1	5.0	4.5	3.3	1.1	14.1	1.7
職業別	自営業 (n=90)	58.9	41.1	30.0	30.0	25.6	16.7	17.8	13.3	8.9	7.8	2.2	3.3	2.2	8.9	2.2
	会社員等 (n=472)	75.4	28.0	23.9	14.8	8.1	2.1	3.6	3.0	1.7	2.8	7.0	2.3	0.2	13.8	0.2
	アルバイト・パート (n=96)	62.5	32.3	33.3	18.8	13.5	10.4	6.3	9.4	9.4	12.5	5.2	7.3	-	18.8	-
	派遣社員・契約社員 (n=37)	59.5	24.3	24.3	10.8	8.1	-	2.7	8.1	8.1	2.7	10.8	-	-	29.7	-
	学生・専門学校生 (n=12)	91.7	16.7	8.3	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	8.3	-
	家事専業 (n=47)	44.7	17.0	29.8	14.9	10.6	12.8	8.5	8.5	4.3	-	-	4.3	2.1	23.4	4.3
	無職 (n=338)	43.2	32.2	34.3	27.2	18.6	18.0	13.3	13.6	6.5	6.5	1.2	3.8	2.1	12.4	2.4
地域別	西条地区 (n=443)	67.0	27.5	21.9	16.3	6.8	5.6	6.5	6.5	2.7	4.3	5.4	3.4	0.5	15.1	0.9
	八本松地区 (n=190)	61.1	34.2	36.3	21.1	16.8	8.4	9.5	8.4	4.7	5.8	4.7	2.6	2.1	14.7	2.1
	志和地区 (n=36)	52.8	41.7	33.3	27.8	19.4	8.3	8.3	8.3	5.6	5.6	2.8	-	-	13.9	2.8
	高屋地区 (n=205)	61.5	34.6	29.8	23.4	19.0	10.2	8.8	9.8	4.4	6.3	5.4	5.4	1.0	12.7	0.5
	黒瀬地区 (n=114)	52.6	26.3	25.4	20.2	15.8	15.8	9.6	8.8	6.1	5.3	2.6	2.6	2.6	15.8	-
	福富地区 (n=10)	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	10.0	-	20.0	10.0	-	-	-	20.0	10.0
	豊栄地区 (n=16)	50.0	12.5	31.3	18.8	12.5	25.0	18.8	6.3	25.0	-	-	-	-	12.5	-
	河内地区 (n=31)	51.6	29.0	41.9	25.8	29.0	12.9	6.5	3.2	9.7	3.2	-	-	-	9.7	-
	安芸津地区 (n=72)	56.9	22.2	40.3	19.4	12.5	18.1	12.5	12.5	9.7	2.8	2.8	5.6	1.4	11.1	2.8

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

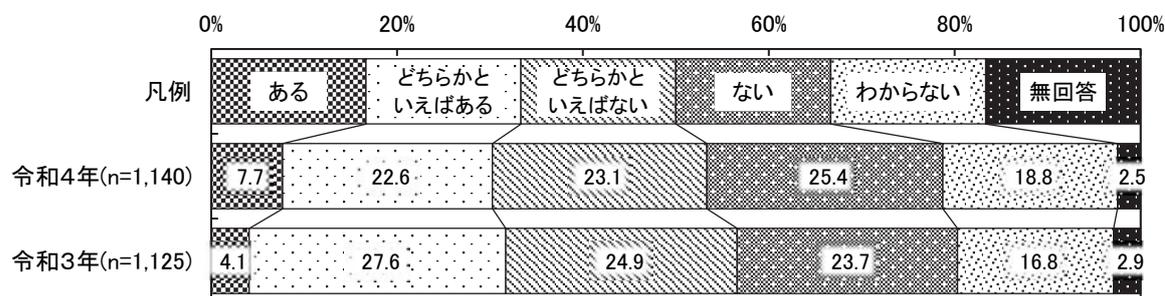
1 2. 市内の大学との連携について

(1) 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じるか

問20 東広島市では、市内大学との連携推進や、学生の地域活動を促進していますが、「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じることはありますか。
(1つだけ選んで○をお付けください)

「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じることはあるかについては、「ある」が7.7%、「どちらかといえばある」が22.6%で、「ある」（「ある」と「どちらかといえばある」の合計）は30.3%、「ない」（「ない」と「どちらかといえばない」の合計）は48.5%となっている。

図20-1 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じるか

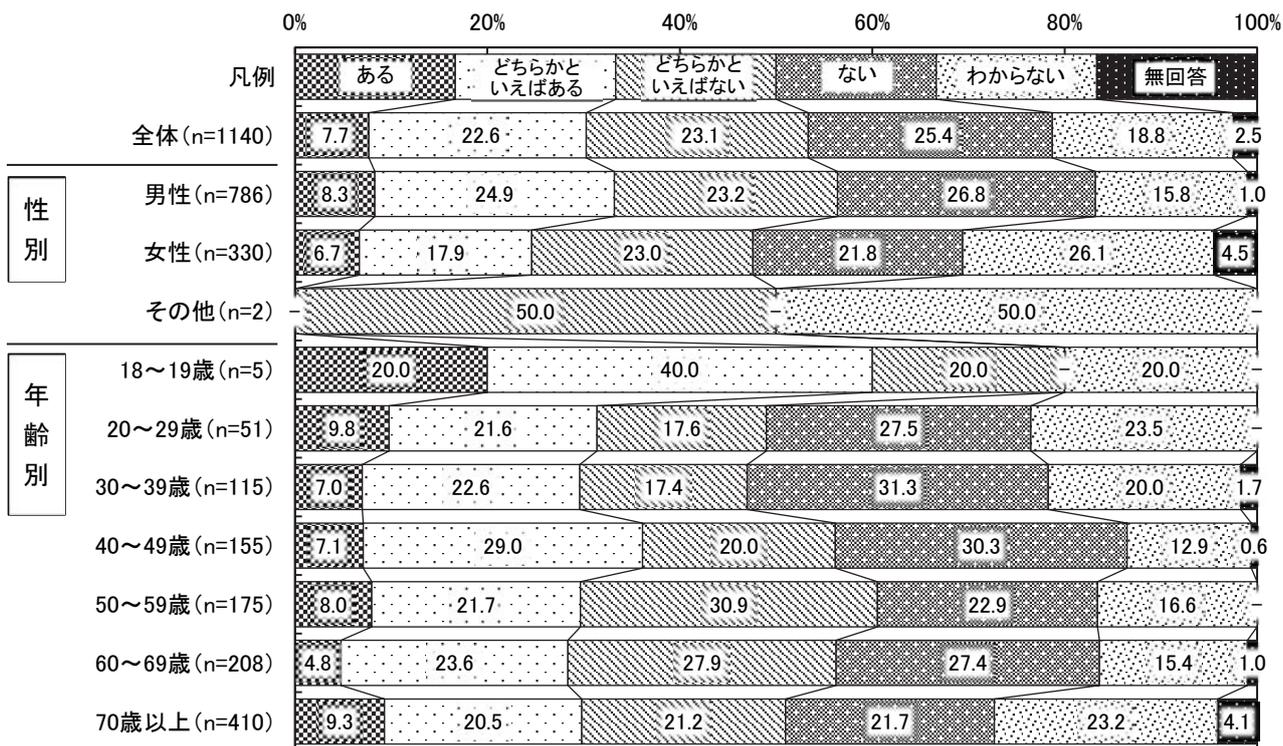


【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、「ある」は8.6ポイント、「ない」は5.2ポイント、それぞれ『男性』が『女性』より高く、「わからない」は『女性』が『男性』より10.3ポイント高い。

年齢別では、「ある」は『40～49歳』が36.1%と5.8ポイント全体より高くなっている。

図20-2 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じるか／性別・年齢別

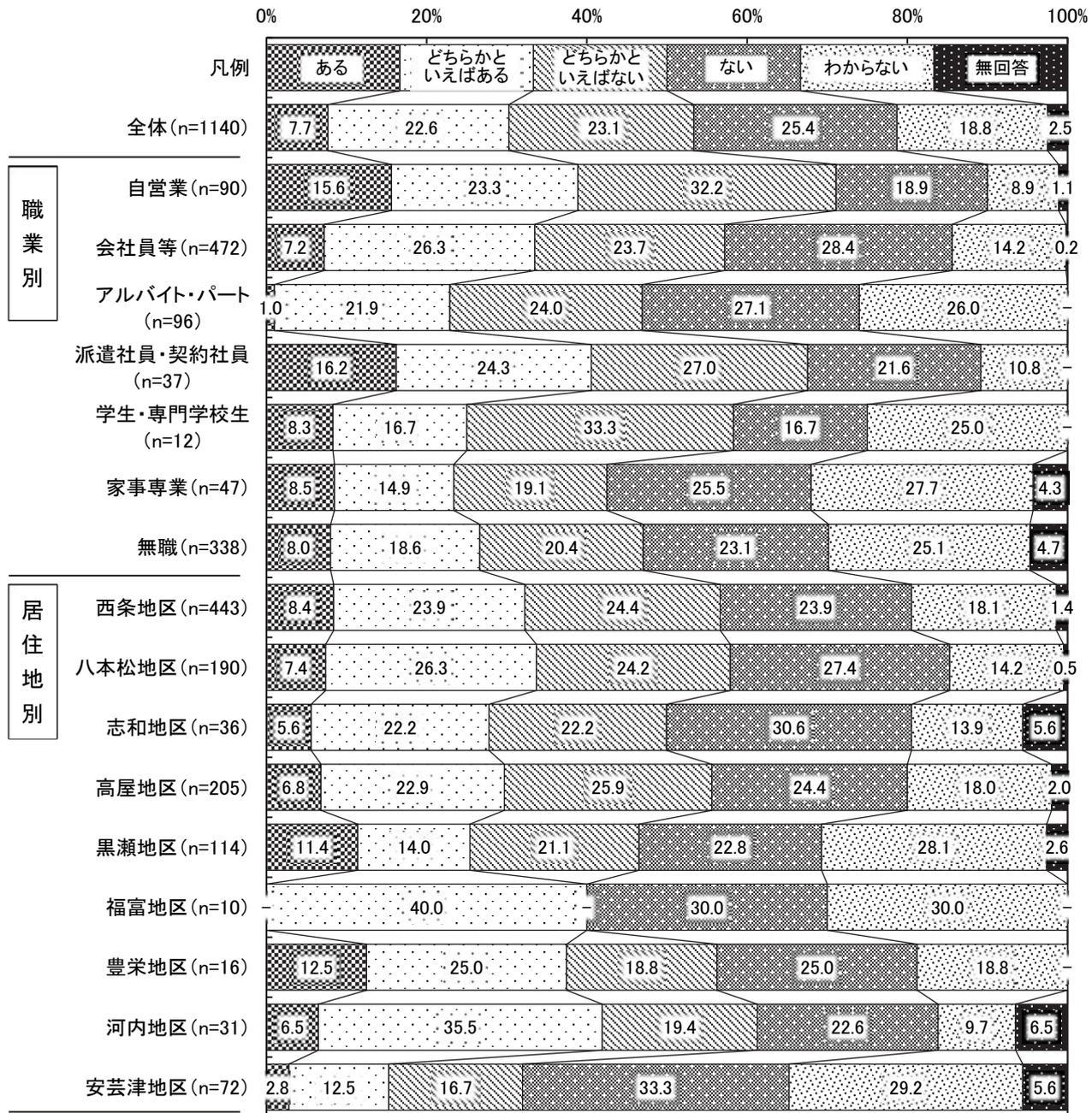


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“ある”（「ある」と「どちらかといえばある」の合計）については、『自営業』が38.9%と8.6ポイント全体より高い。

居住地別では、“ある”は『河内地区』が42.0%と11.7ポイント、『福富地区』が40.0%と9.7ポイント、『豊栄地区』が37.5%と7.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図20-3 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じるか／職業別・居住地別



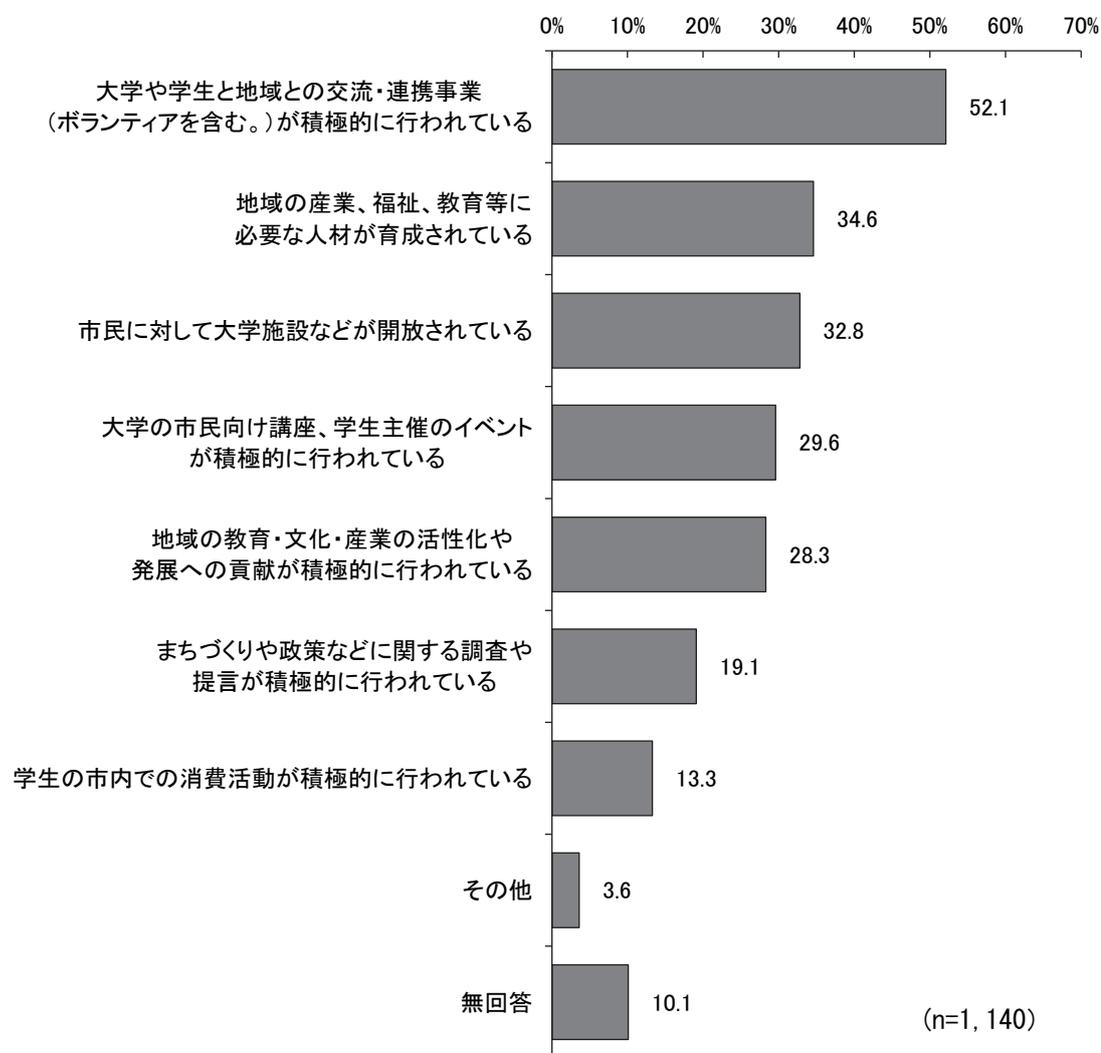
(2) 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」に必要な事項

問21 あなたは、どのようにしたら東広島市が「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」になるとお考えですか（主なものを3つまで選んで○をお付けください）

どのようにしたら東広島市が「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」になるかについては、「大学や学生と地域との交流・連携事業が積極的に行われている」が52.1%と最も高く、5割以上を占めている。次いで、「地域の産業、福祉、教育等に必要な人材が育成されている」が34.6%、「市民に対して大学施設などが開放されている」が32.8%、「大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている」が29.6%、「地域の教育・文化・産業の活性化や発展への貢献が積極的に行われている」が28.3%となっている。

図21-1 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」に必要な事項＜複数回答＞

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

「地域の教育・文化・産業の活性化や発展への貢献が積極的に行われている」は6.9ポイント、「学生の市内での消費活動が積極的に行われている」は6.3ポイント、「大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている」は5.3ポイント、それぞれ『男性』が『女性』より高い。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「大学や学生と地域との交流・連携事業が積極的に行われている」は『50～59歳』が60.0%と7.9ポイント、『60～69歳』が58.2%と6.1ポイント、『40～49歳』が58.1%と6.0ポイント、それぞれ全体より高い。

「市民に対して大学施設などが開放されている」は『50～59歳』が42.3%と9.5ポイント、「大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている」は『60～69歳』が38.0%と8.4ポイント、「地域の教育・文化・産業の活性化や発展への貢献が積極的に行われている」は『40～49歳』が34.2%と5.9ポイント、「まちづくりや政策などに関する調査や提言が積極的に行われている」は『20～29歳』が25.5%と6.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「学生の市内での消費活動が積極的に行われている」は『20～29歳』が21.6%と8.3ポイント、『30～39歳』が19.1%と5.8ポイント、それぞれ全体より高い。

表21-1 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」に必要な事項
／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：%

		大学や学生と地域との交流・連携事業（ボランティアを含む。）が積極的に行われている	地域の産業、福祉、教育等に必要人材が育成されている	市民に対して大学施設などが開放されている	大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている	地域の教育・文化・産業の活性化や発展への貢献が積極的に行われている	まちづくりや政策などに関する調査や提言が積極的に行われている	学生の市内での消費活動が積極的に行われている	その他	無回答
全体 (n=1140)		52.1	34.6	32.8	29.6	28.3	19.1	13.3	3.6	10.1
性別	男性 (n=786)	52.4	35.2	33.3	31.4	30.5	20.4	15.4	3.1	7.3
	女性 (n=330)	53.0	33.3	33.0	26.1	23.6	16.1	9.1	4.2	15.5
	その他 (n=2)	50.0	50.0	-	100.0	-	100.0	-	-	-
年齢別	18～19歳 (n=5)	20.0	80.0	20.0	40.0	40.0	60.0	20.0	-	-
	20～29歳 (n=51)	51.0	27.5	31.4	27.5	29.4	25.5	21.6	2.0	-
	30～39歳 (n=115)	53.9	33.9	35.7	31.3	32.2	20.9	19.1	1.7	1.7
	40～49歳 (n=155)	58.1	34.8	35.5	27.1	34.2	23.2	11.6	5.2	3.9
	50～59歳 (n=175)	60.0	37.1	42.3	32.6	29.7	14.9	16.6	2.3	0.6
	60～69歳 (n=208)	58.2	34.6	36.1	38.0	24.0	17.3	9.6	4.3	8.7
	70歳以上 (n=410)	44.9	34.6	26.8	25.9	26.6	18.8	12.2	3.4	19.5

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「大学や学生と地域との交流・連携事業が積極的に行われている」は『アルバイト・パート』が61.5%と9.4ポイント、「市民に対して大学施設などが開放されている」は『自営業』が37.8%と5.0ポイント、それぞれ全体より高い。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「大学や学生と地域との交流・連携事業が積極的に行われている」は『高屋地区』が57.6%と5.5ポイント、「地域の産業、福祉、教育等に必要の人材が育成されている」は『河内地区』が48.4%と13.8ポイント、『福富地区』が40.0%と5.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「市民に対して大学施設などが開放されている」は『高屋地区』が39.0%と6.2ポイント、「大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている」は『八本松地区』が35.8%と6.2ポイント、「まちづくりや政策などに関する調査や提言が積極的に行われている」は『河内地区』が32.3%と13.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表21-2 「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」に必要な事項
／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：%

		大学や学生と地域との交流・連携事業（ボランティアを含む。）が積極的に行われている	地域の産業、福祉、教育等に必要の人材が育成されている	市民に対して大学施設などが開放されている	大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている	地域の教育・文化・産業の活性化や発展への貢献が積極的に行われている	まちづくりや政策などに関する調査や提言が積極的に行われている	学生の市内での消費活動が積極的に行われている	その他	無回答
全体 (n=1140)		52.1	34.6	32.8	29.6	28.3	19.1	13.3	3.6	10.1
職業別	自営業 (n=90)	56.7	31.1	37.8	27.8	28.9	17.8	15.6	4.4	7.8
	会社員等 (n=472)	55.9	37.5	36.7	33.1	30.5	20.6	16.1	2.5	1.7
	アルバイト・パート (n=96)	61.5	33.3	35.4	33.3	27.1	17.7	11.5	3.1	5.2
	派遣社員・契約社員 (n=37)	67.6	27.0	43.2	37.8	37.8	27.0	5.4	5.4	-
	学生・専門学校生 (n=12)	50.0	50.0	16.7	25.0	25.0	50.0	33.3	-	-
	家事専業 (n=47)	51.1	36.2	34.0	40.4	19.1	8.5	12.8	4.3	19.1
	無職 (n=338)	43.2	32.5	26.3	24.3	25.1	18.0	10.1	3.8	21.9
地域別	西条地区 (n=443)	53.7	32.5	33.9	31.6	28.9	19.9	15.3	3.2	7.4
	八本松地区 (n=190)	51.1	35.8	33.7	35.8	27.4	16.3	14.7	2.6	10.0
	志和地区 (n=36)	55.6	33.3	19.4	13.9	30.6	19.4	16.7	-	19.4
	高屋地区 (n=205)	57.6	33.7	39.0	28.8	31.7	22.0	7.8	4.4	6.3
	黒瀬地区 (n=114)	46.5	39.5	31.6	32.5	28.1	12.3	14.9	6.1	10.5
	福富地区 (n=10)	40.0	40.0	20.0	20.0	30.0	20.0	-	-	20.0
	豊栄地区 (n=16)	31.3	37.5	31.3	31.3	18.8	6.3	18.8	12.5	18.8
	河内地区 (n=31)	51.6	48.4	22.6	16.1	29.0	32.3	9.7	3.2	9.7
	安芸津地区 (n=72)	52.8	36.1	26.4	18.1	20.8	23.6	12.5	1.4	20.8

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

13. 運動・スポーツについて

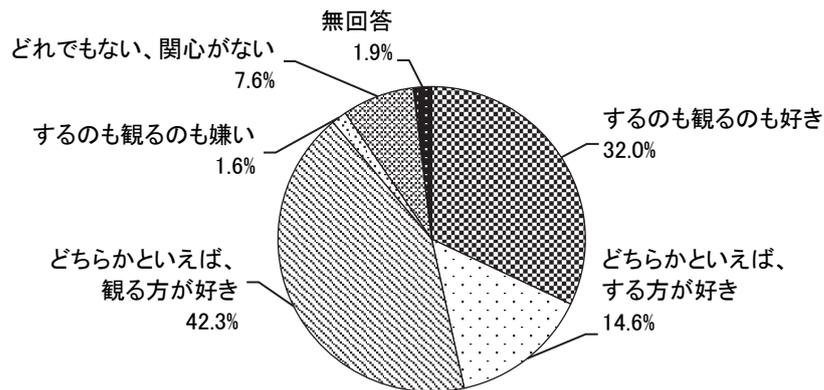
(1) 運動・スポーツが好きか

問22 あなたは、運動やスポーツが好きですか？（1つだけ選んで○をお付けください）

運動やスポーツが好きかについては、「どちらかといえば観る方が好き」が42.3%と最も高く、次いで、「するのも観るのも好き」が32.0%、「どちらかといえばする方が好き」が14.6%となっている。

「するのも観るのも嫌い」は1.6%、「どれでもない、関心がない」は7.6%であった。

図22-1 運動・スポーツが好きか [n=1, 140]

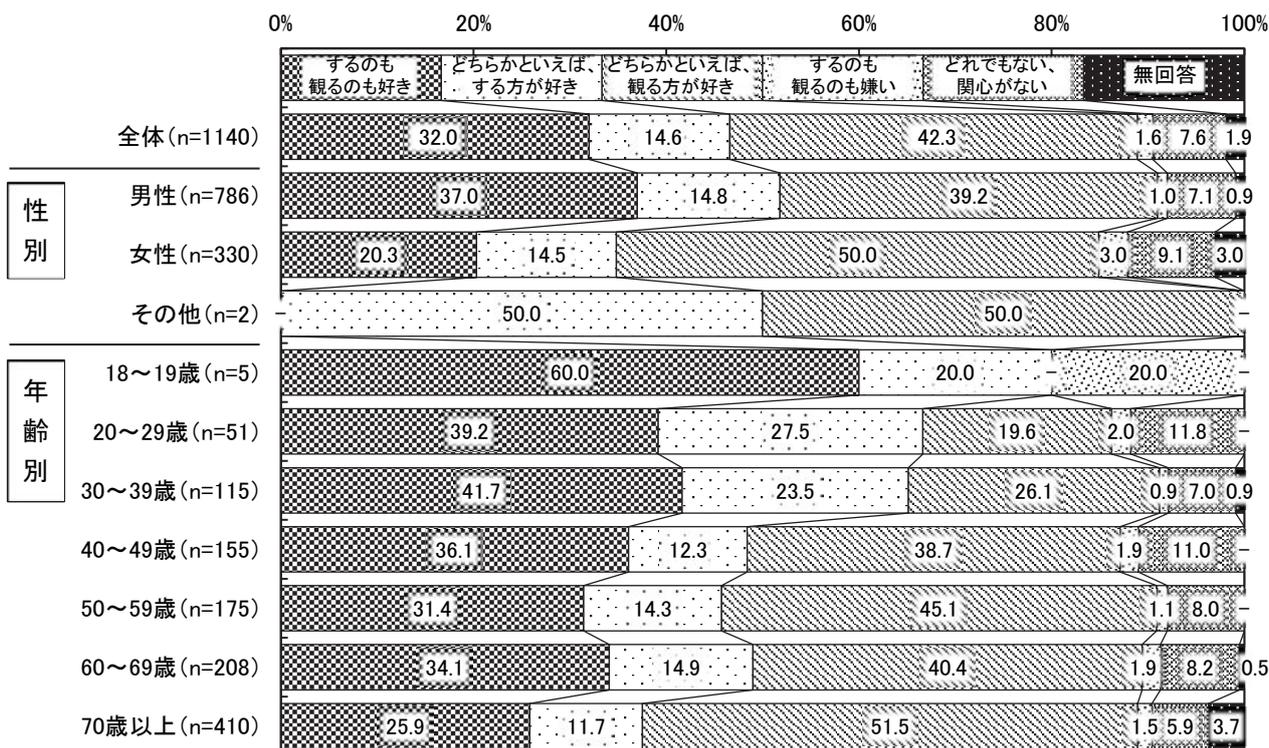


【属性別の傾向】 <性別・年齢別>

性別では、「するのも観るのも好き」は『男性』が『女性』より16.7ポイント高く、「どちらかといえば観る方が好き」は『女性』が『男性』より10.8ポイント高くなっている。

年齢別では、「するのも観るのも好き」は『30～39歳』が41.7%と9.7ポイント、『20～29歳』が39.2%と7.2ポイント、それぞれ全体より高い。「どちらかといえば、する方が好き」は『20～29歳』が27.5%と12.9ポイント、『30～39歳』が23.5%と8.9ポイント、それぞれ全体より高い。

図22-2 運動・スポーツが好きか／性別・年齢別



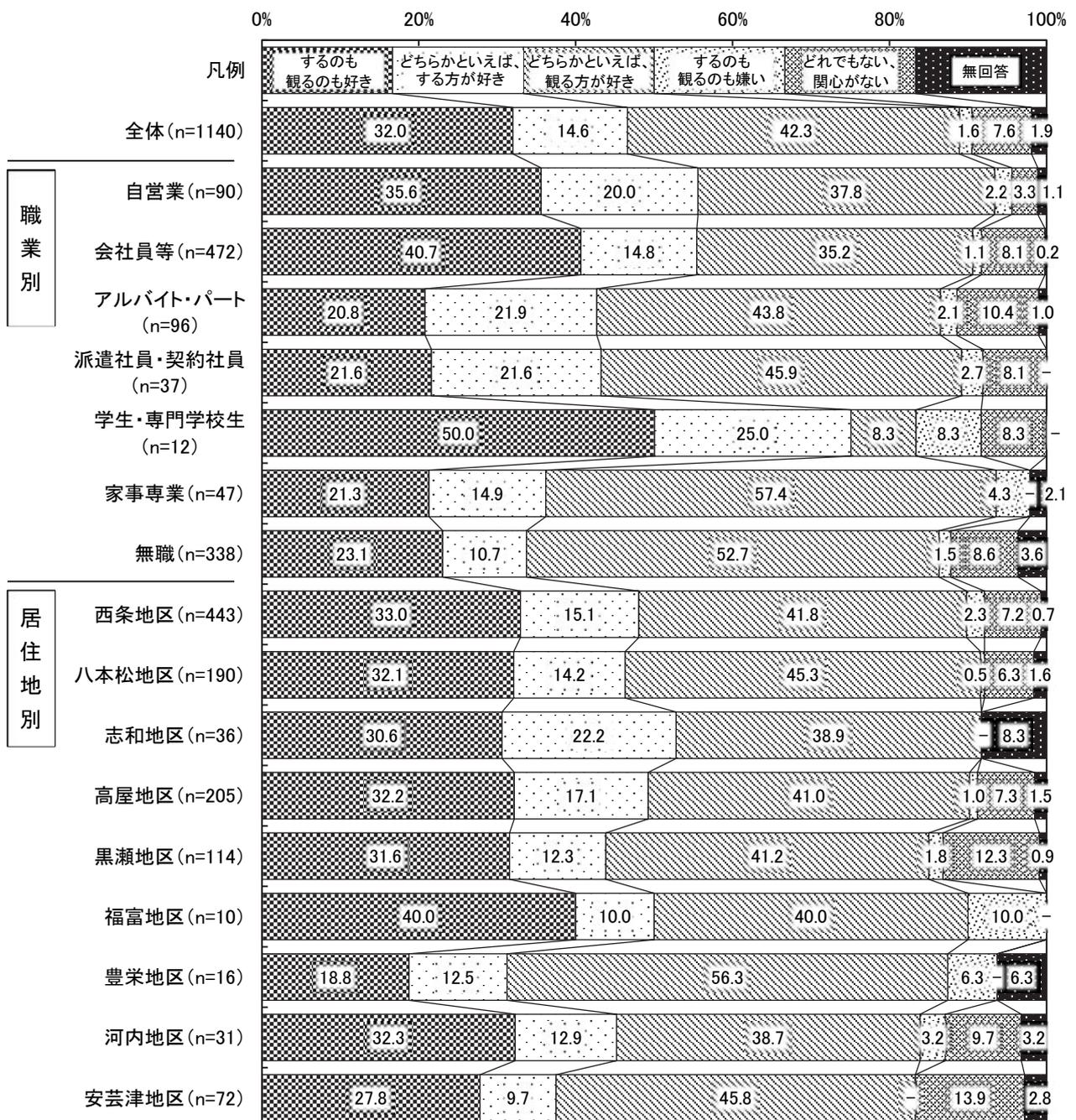
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「するの観るの好き」は『会社員等』が40.7%と8.7ポイント、「どちらかといえばする方が好き」は『アルバイト・パート』が21.9%と7.3ポイント、『自営業』が20.0%と5.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「どちらかといえば観る方が好き」は『無職』が52.7%と10.4ポイント全体より高くなっている。

居住地別では、「するの観るの好き」は『福富地区』が40.0%と8.0ポイント、「どちらかといえばする方が好き」は『志和地区』が22.2%と7.6ポイント、「どちらかといえば観る方が好き」は『豊栄地区』が56.3%と14.0ポイント、「するの観るの嫌い」は『福富地区』が10.0%と8.4ポイント、それぞれ全体より高い。

図22-3 運動・スポーツが好きか／職業別・居住地別

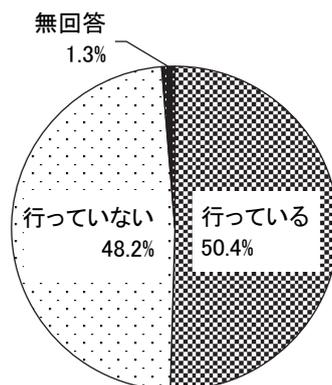


(2) 現在週に1日以上スポーツや運動を行っているか

問23 あなたは、現在週に1日以上スポーツや運動を行っていますか？
 (ウォーキングやラジオ体操、いきいき体操ひがしひろしまなどもスポーツ・運動に含みます。)
 (1つだけ選んで○をお付けください)

現在週に1日以上スポーツや運動を行っているかについては、「行っている」が50.4%、「行っていない」が48.2%となっている。

図23-1 現在週に1日以上スポーツや運動を行っているか [n=1,140]

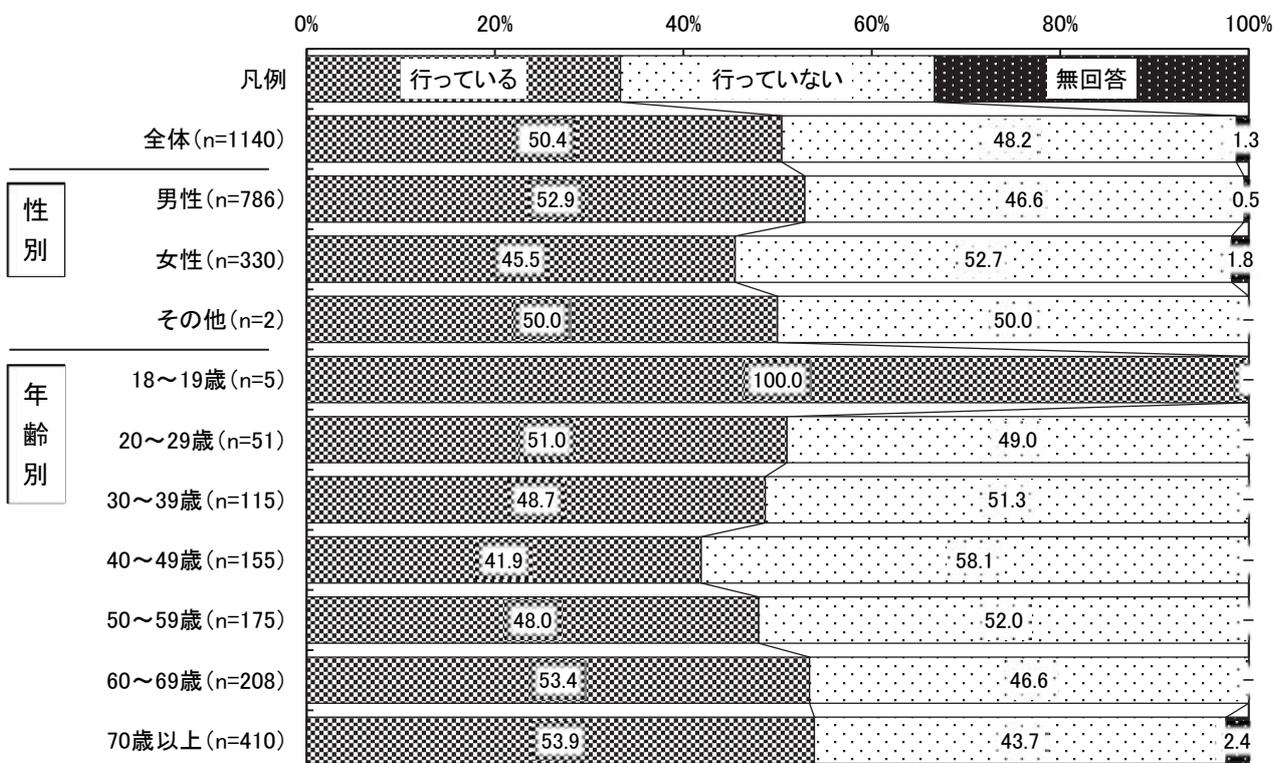


【属性別の傾向】 <性別・年齢別>

性別では、「行っている」は『男性』が『女性』より7.4ポイント高い。

年齢別では、「行っていない」は『40～49歳』が58.1%と9.9ポイント全体より高い。

図23-2 現在週に1日以上スポーツや運動を行っているか/性別・年齢別



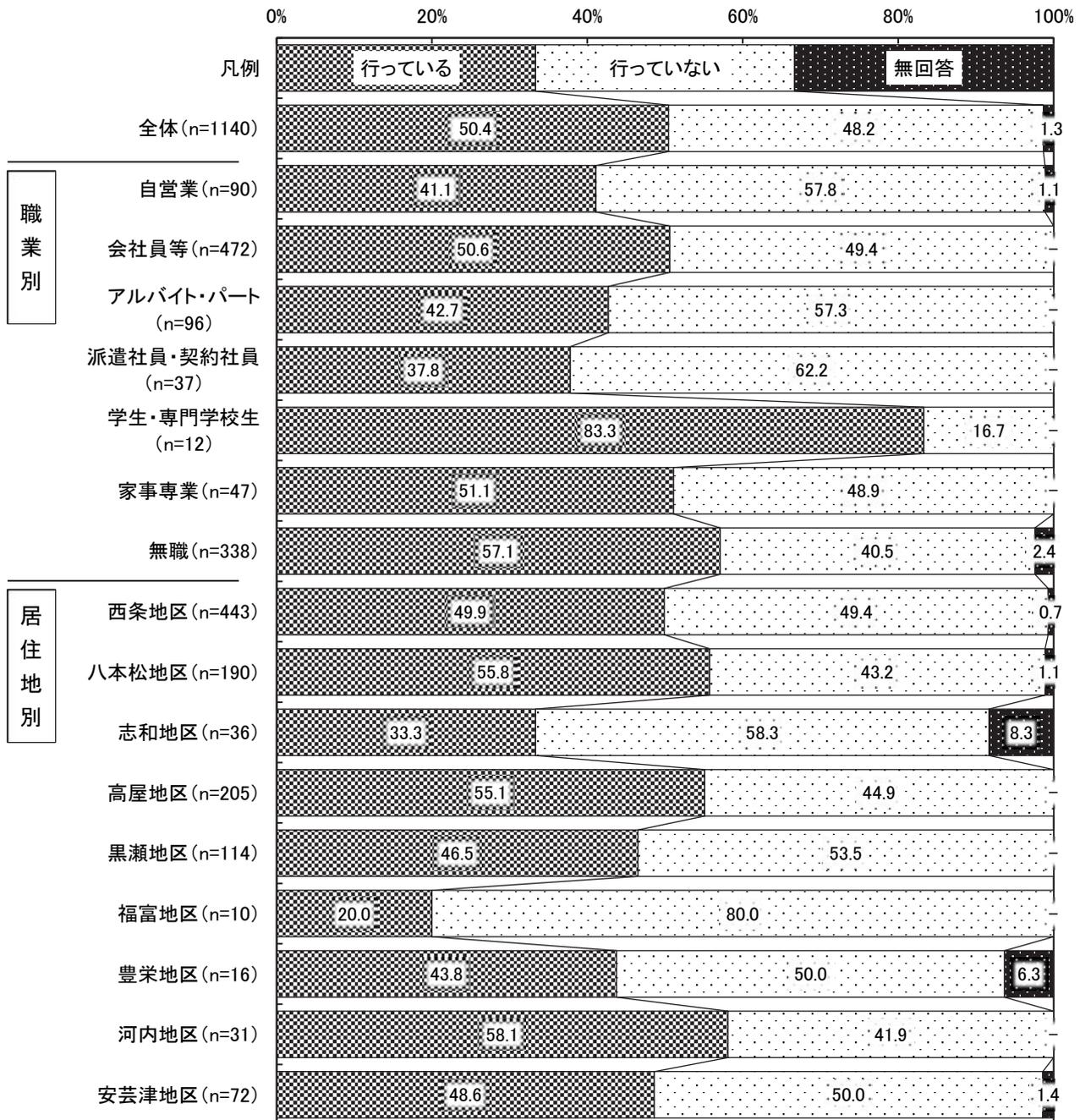
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「行っている」は『無職』が57.1%と6.7ポイント全体より高い。「行っていない」は『自営業』が57.8%と9.6ポイント、『アルバイト・パート』が57.3%と9.1ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

居住地別では、「行っている」は『河内地区』が58.1%と7.7ポイント、『八本松地区』が55.8%と5.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「行っていない」は『福富地区』が80.0%と31.8ポイント、『志和地区』が58.3%と10.1ポイント、『黒瀬地区』が53.5%と5.3ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図23-3 現在週に1日以上スポーツや運動を行っているか／職業別・居住地別



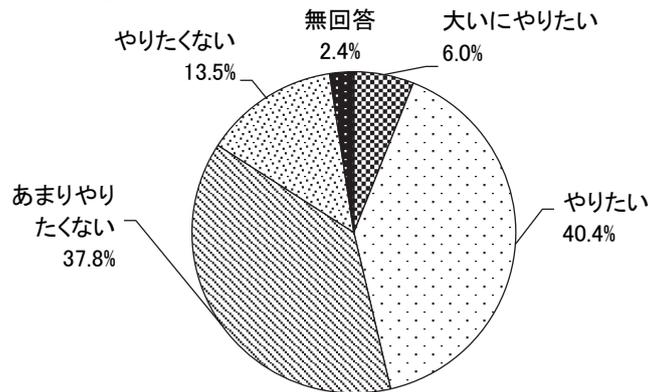
(3) 今後の運動・スポーツの開始意向

問23で、「2 行っていない」とした人のみ回答してください。
 問23-1 今後、運動・スポーツを始めてみたいと思いますか？
 (1つだけ選んで○をお付けください)

問23で、「2 行っていない」の回答者(該当件数550件)に今後の運動・スポーツの開始意向をたずねると、「大いにやりたい」が6.0%、「やりたい」が40.4%で、“やりたい”(「大いにやりたい」と「やりたい」の合計)は、46.4%となっている。

“やりたくない”(「やりたくない」と「あまりやりたくない」の合計)は51.3%であった。

図23-4 運動・スポーツの開始意向 [n=550]

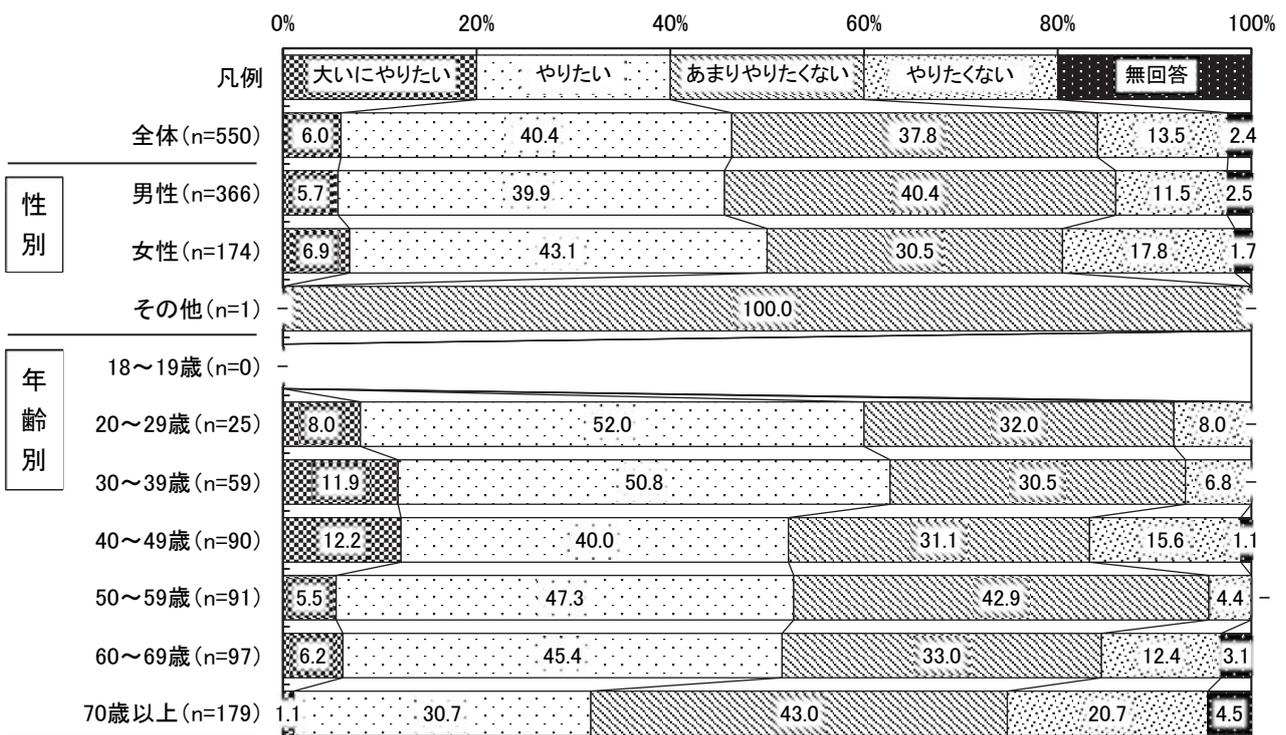


【属性別の傾向】<性別・年齢別>

性別では、「あまりやりたくない」は『男性』が『女性』より9.9ポイント高く、「やりたくない」は『女性』が『男性』より6.3ポイント高い。

年齢別では、“やりたい”は、『30～39歳』が62.7%と16.3ポイント、『20～29歳』が60.0%と13.6ポイント、それぞれ全体より高い。一方、『70歳以上』は31.8%と各年齢層の中で最も低い。

図23-5 運動・スポーツの開始意向／性別・年齢別



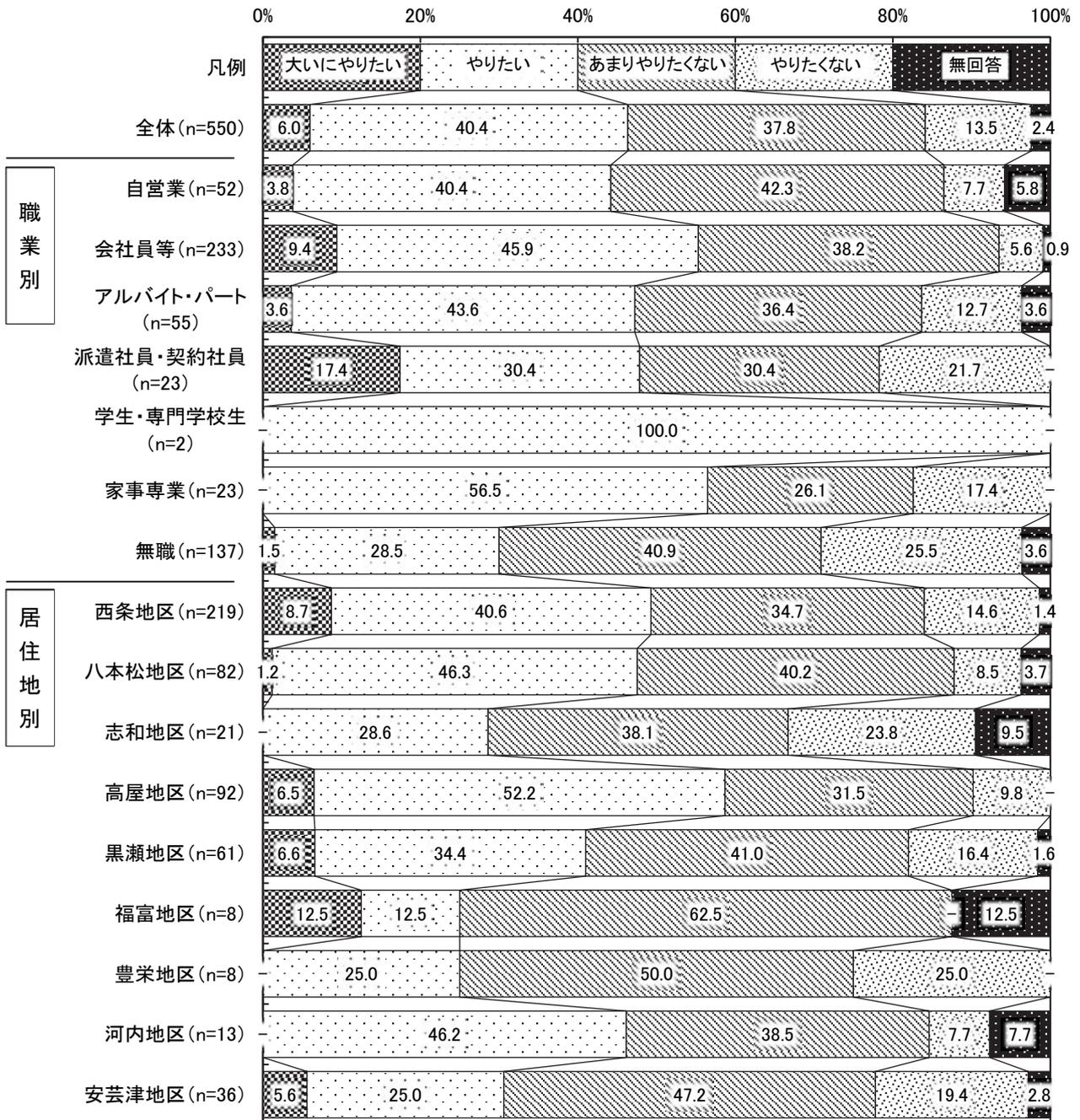
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“やりたい”（「大いにやりたい」と「やりたい」の合計）については、『会社員等』が55.3%と8.9ポイント全体より高い。

“やりたくない”（「やりたくない」と「あまりやりたくない」の合計）については、『無職』が66.4%と15.1ポイント全体より高くなっている。

居住地別では、“やりたい”については、『高屋地区』が58.7%と12.3ポイント全体より高い。

図23-6 運動・スポーツの開始意向／職業別・居住地別

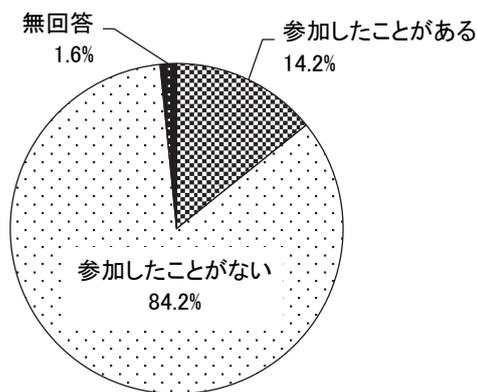


(4) 令和3年度の市や地域の運動やスポーツへの参加状況

問24 令和3年度に、市や地域の運動・スポーツ行事に参加したことがありますか？
 (1つだけ選んで○をお付けください)

令和3年度の市や地域の運動やスポーツへの参加状況について、「参加したことがある」は14.2%、「参加したことがない」は84.2%となっている。

図24-1 令和3年度の市や地域の運動やスポーツへの参加状況 [n=1,140]

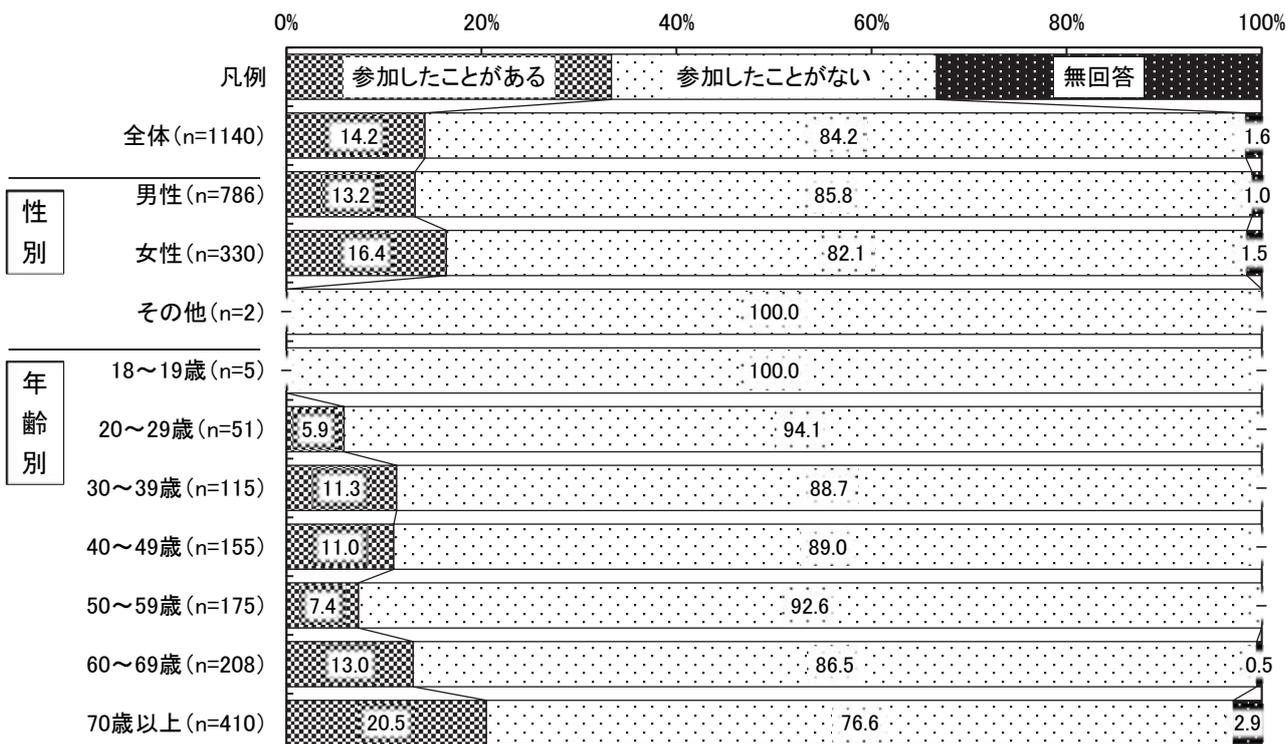


【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、男女で顕著な差はない。

年齢別では、「参加したことがある」は『70歳以上』が20.5%と6.3ポイント全体より高い。「参加したことがない」は、「20～29歳」が94.1%と9.9ポイント、「50～59歳」が92.6%と8.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図24-2 令和3年度の市や地域の運動やスポーツへの参加状況／性別・年齢別

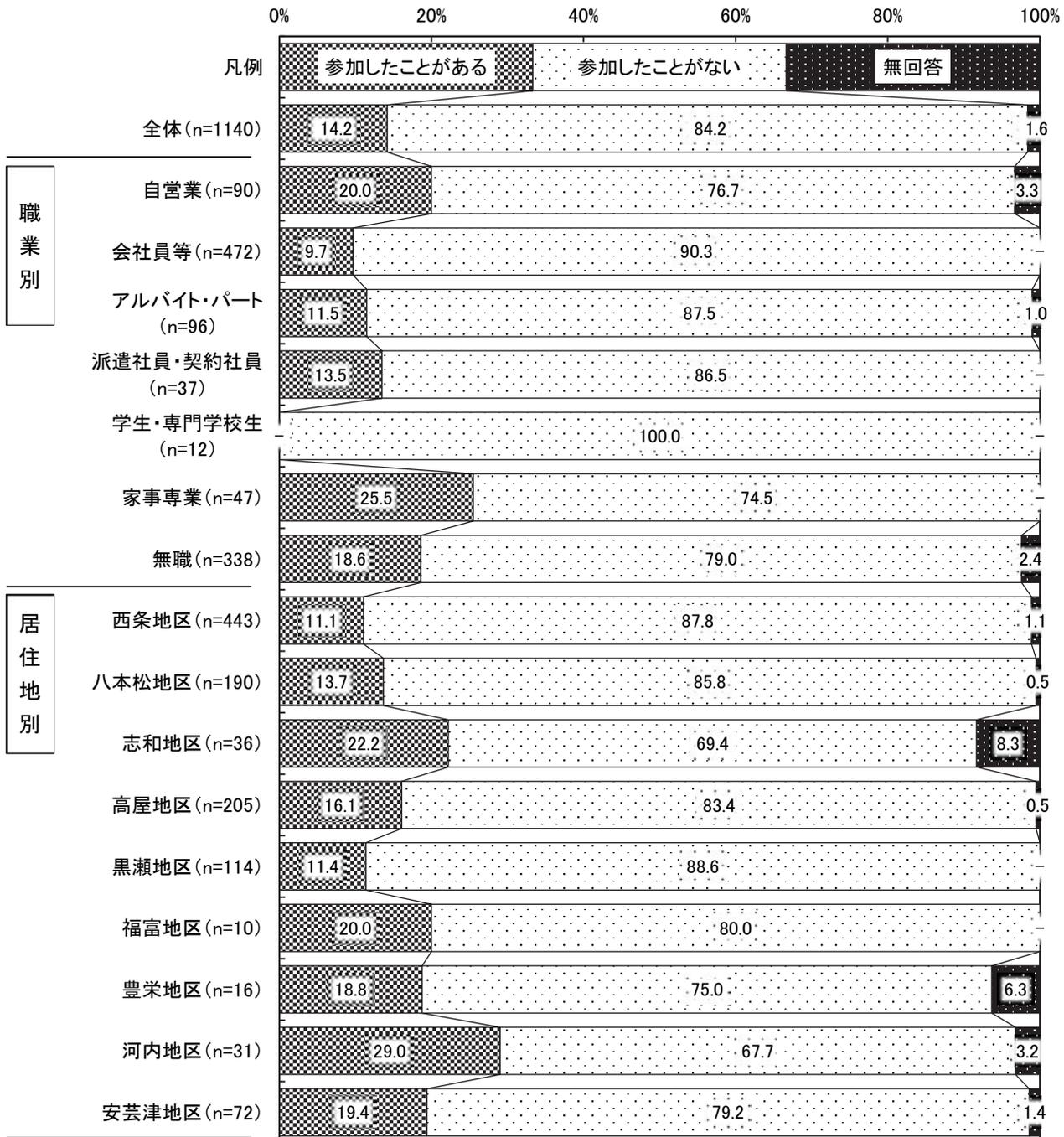


【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、「参加したことがある」は『自営業』が20.0%と5.8ポイント全体より高い。

居住地別では、「参加したことがある」は『河内地区』が29.0%と14.8ポイント、『志和地区』が22.2%と8.0ポイント、『福富地区』が20.0%と5.8ポイント、『安芸津地区』が19.4%と5.2ポイント、それぞれ全体より高い。

図24-3 令和3年度の市や地域の運動やスポーツへの参加状況／職業別・居住地別



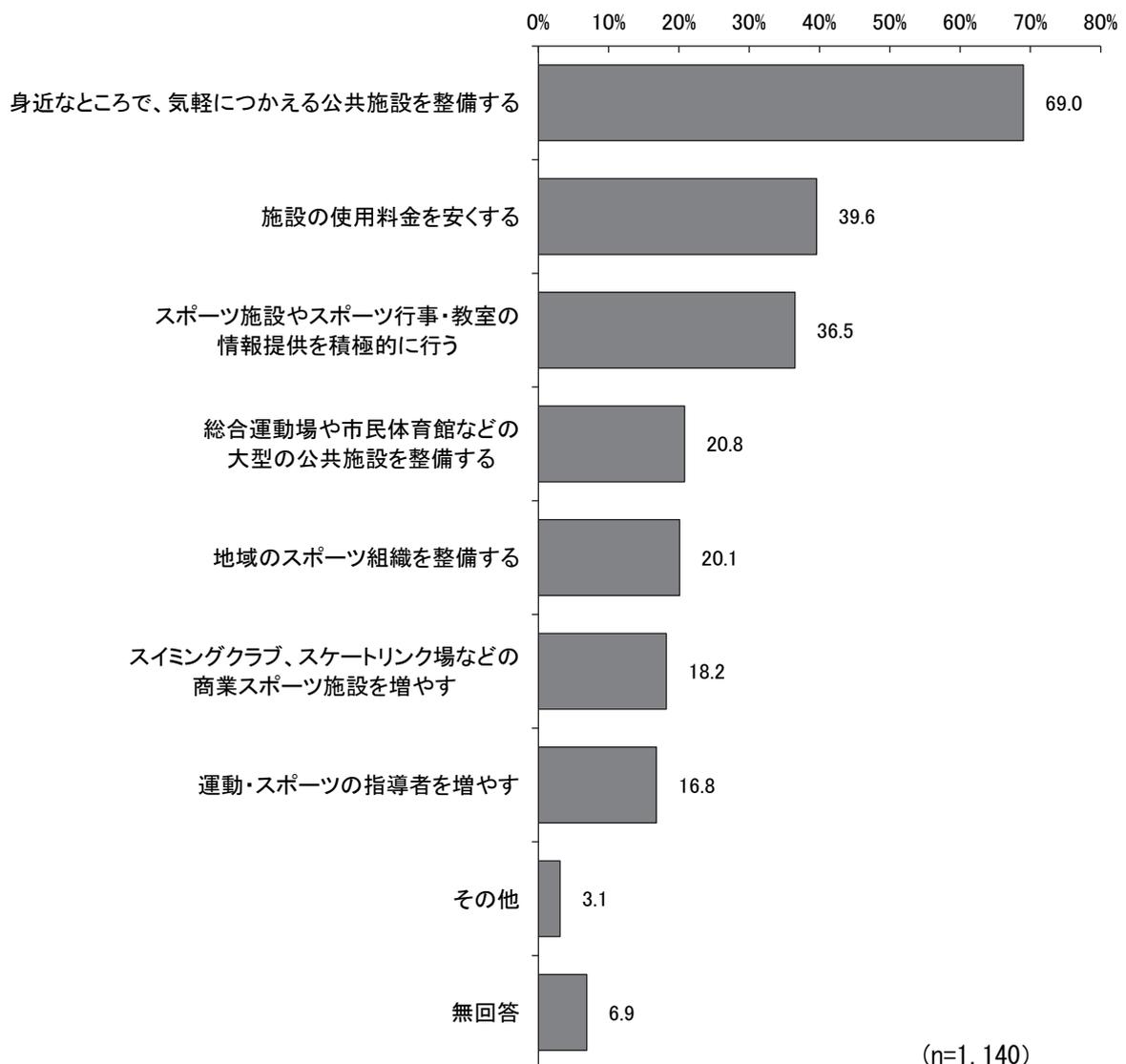
(5) 東広島市のスポーツ振興に関して重要と思う事項

問25 東広島市のスポーツ振興に関して重要と思うことは何ですか？
(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

東広島市のスポーツ振興に関して重要と思う事項については、「身近なところで、気軽につかえる公共施設を整備する」が69.0%と最も高く、7割弱を占めている。次いで、「施設の使用料金を安くする」が39.6%、「スポーツ施設やスポーツ行事・教室の情報提供を積極的に行う」が36.5%と高い。

図25-1 東広島市のスポーツ振興に関して重要と思う事項<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

「地域のスポーツ組織を整備する」は『男性』が『女性』より5.8ポイント高い。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「身近なところで、気軽につかえる公共施設を整備する」は『20～29歳』が21.2ポイント全体より高い。

「施設の使用料金を安くする」は『20～29歳』が21.2ポイント、『40～49歳』が10.1ポイント、『30～39歳』が10.0ポイント、それぞれ全体より高く、「スポーツ施設やスポーツ行事・教室の情報提供を積極的に行う」は『60～69歳』が6.8ポイント、『50～59歳』が5.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「総合運動場や市民体育館などの大型の公共施設を整備する」と「スイミングクラブ、スケートリンク場などの商業スポーツ施設を増やす」は、60歳未満の年齢層で高くなっている。

表25-1 東広島市のスポーツ振興に関して重要と思う事項／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：％

		身近なところで、 公共施設を整備する	施設の使用料金を 安くする	教室の情報提供を 積極的に行う	スポーツ施設や スポーツ行事・ 公共施設を整備する	総合運動場や市民 体育館などの大型の 公共施設を整備する	地域のスポーツ 組織を整備する	スイミングクラブ、 スケートリンク場 などの商業スポーツ 施設を増やす	運動・スポーツの 指導者を増やす	その他	無回答
全体(n=1140)		69.0	39.6	36.5	20.8	20.1	18.2	16.8	3.1	6.9	
性別	男性(n=786)	70.1	39.7	37.0	22.0	21.9	19.6	17.0	3.1	4.8	
	女性(n=330)	68.8	40.0	36.7	18.8	16.1	15.2	17.0	2.4	10.0	
	その他(n=2)	50.0	100.0	-	-	-	50.0	-	-	-	
年齢別	18～19歳(n=5)	80.0	40.0	-	-	20.0	-	-	-	-	
	20～29歳(n=51)	90.2	60.8	23.5	33.3	9.8	33.3	5.9	-	-	
	30～39歳(n=115)	73.9	49.6	33.9	26.1	21.7	30.4	17.4	3.5	0.9	
	40～49歳(n=155)	69.0	49.7	34.8	29.7	19.4	24.5	18.7	3.9	1.9	
	50～59歳(n=175)	70.9	38.9	41.7	29.1	15.4	23.4	17.1	1.7	1.7	
	60～69歳(n=208)	68.8	39.4	43.3	16.3	23.1	15.4	16.8	4.3	3.8	
	70歳以上(n=410)	66.3	32.0	35.4	14.1	22.0	10.5	18.0	2.4	13.4	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「身近なところで、気軽につかえる公共施設を整備する」は『会社員等』が5.4ポイント全体より高く、「施設の使用料金を安くする」は『会社員等』が5.7ポイント、『アルバイト・パート』が5.2ポイント、それぞれ全体より高い。「スポーツ施設やスポーツ行事・教室の情報提供を積極的に行う」は『自営業』が6.8ポイント全体より高くなっている。

「総合運動場や市民体育館などの大型の公共施設を整備する」と「スイミングクラブ、スケートリンク場などの商業スポーツ施設を増やす」は『会社員等』が5ポイント以上全体より高い。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「施設の使用料金を安くする」は『八本松地区』が6.7ポイント、「スポーツ施設やスポーツ行事・教室の情報提供を積極的に行う」は『河内地区』が5.4ポイント、「総合運動場や市民体育館などの大型の公共施設を整備する」は『豊栄地区』が16.7ポイント、「スイミングクラブ、スケートリンク場などの商業スポーツ施設を増やす」は『豊栄地区』が6.8ポイント、それぞれ全体より高い。

「運動・スポーツの指導者を増やす」は『豊栄地区』が8.2ポイント、『志和地区』が5.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表25-2 東広島市のスポーツ振興に関して重要と思う事項／職業別・居住地別＜複数回答＞ 単位：%

		身近なところで、 気軽につかえる 公共施設を整備する	施設の使用料金を 安くする	教室の情報提供を 積極的に行う	スポーツ施設や スポーツ行事・ 教室の情報提供を 積極的に行う	総合運動場や市民 体育館などの大型の 公共施設を整備する	地域のスポーツ 組織を整備する	スイミングクラブ、 スケートリンク場 などの商業スポーツ 施設を増やす	運動・スポーツの 指導者を増やす	その他	無回答
全体(n=1140)		69.0	39.6	36.5	20.8	20.1	18.2	16.8	3.1	6.9	
職業別	自営業(n=90)	72.2	34.4	43.3	18.9	22.2	14.4	23.3	2.2	7.8	
	会社員等(n=472)	74.4	45.3	35.8	27.3	19.5	25.2	16.3	1.9	0.4	
	アルバイト・パート(n=96)	71.9	44.8	46.9	24.0	19.8	17.7	16.7	3.1	3.1	
	派遣社員・契約社員(n=37)	56.8	48.6	40.5	40.5	13.5	32.4	16.2	8.1	2.7	
	学生・専門学校生(n=12)	91.7	50.0	8.3	16.7	8.3	33.3	-	-	-	
	家事専業(n=47)	78.7	44.7	42.6	19.1	17.0	6.4	21.3	-	8.5	
	無職(n=338)	63.0	30.8	33.4	10.7	21.6	10.1	16.3	3.8	14.5	
地域別	西条地区(n=443)	72.5	42.0	38.1	23.9	19.0	22.1	15.8	3.4	5.0	
	八本松地区(n=190)	70.0	46.3	32.1	23.7	22.1	17.9	21.1	2.6	5.8	
	志和地区(n=36)	61.1	36.1	38.9	16.7	25.0	5.6	22.2	2.8	11.1	
	高屋地区(n=205)	71.2	38.0	40.0	21.0	20.0	21.5	15.1	1.0	5.4	
	黒瀬地区(n=114)	66.7	40.4	34.2	15.8	22.8	12.3	13.2	4.4	7.0	
	福富地区(n=10)	70.0	30.0	20.0	-	10.0	-	20.0	-	-	
	豊栄地区(n=16)	68.8	31.3	37.5	37.5	18.8	25.0	25.0	12.5	-	
	河内地区(n=31)	61.3	19.4	41.9	6.5	22.6	9.7	19.4	-	12.9	
	安芸津地区(n=72)	59.7	29.2	37.5	12.5	18.1	9.7	20.8	2.8	15.3	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

1 4. 生涯学習について

(1) 生涯学習の実施状況

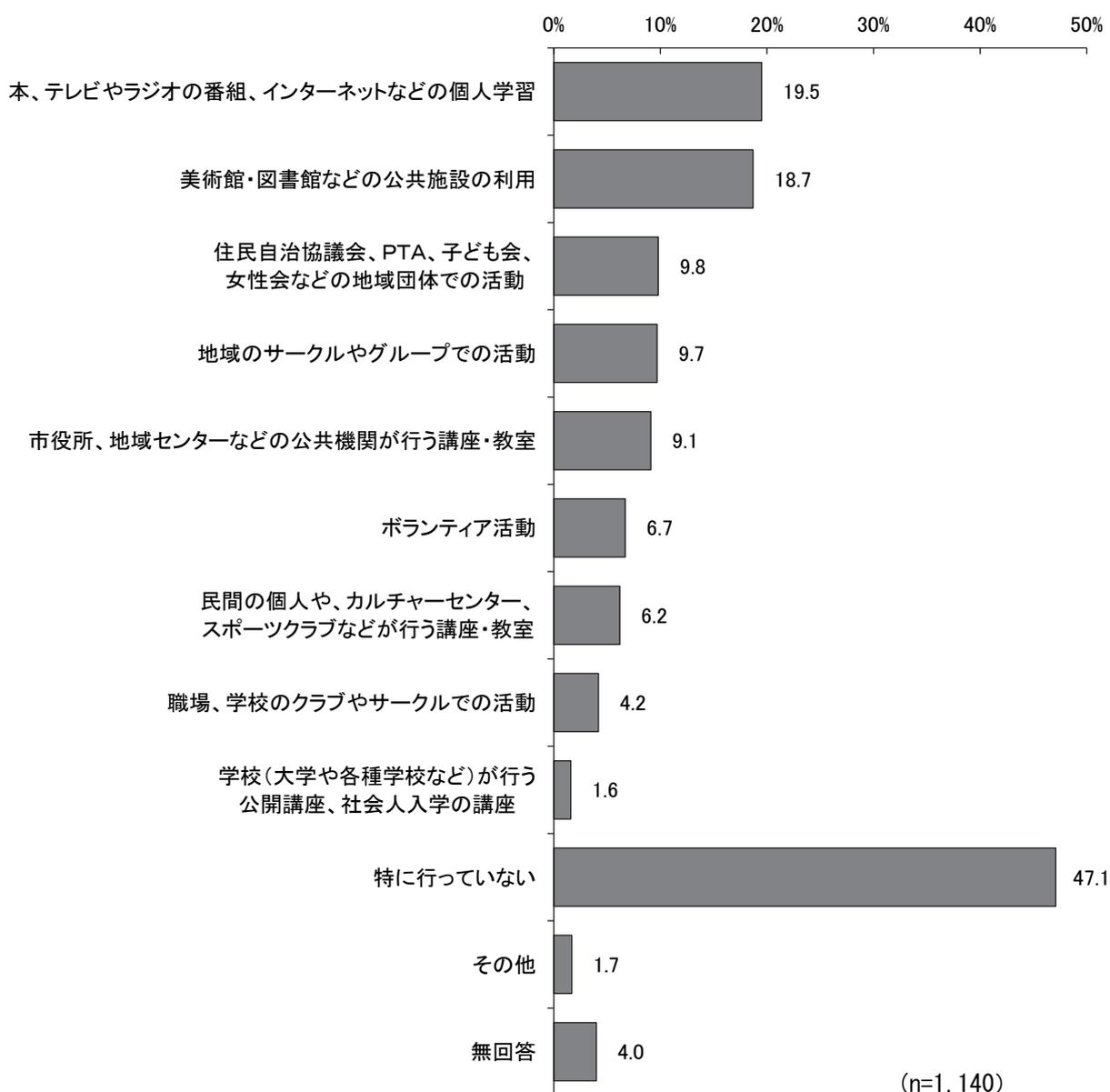
問26 あなたは、この1年間にどのような生涯学習を行いましたか。
 (当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

この1年間に行った生涯学習については、「本、テレビやラジオの番組、インターネットなどの個人学習」が19.5%、「美術館・図書館などの公共施設の利用」が18.7%と高い。

「特に行っていない」は47.1%であった。

図26-1 生涯学習の実施状況 [n=1,140]

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

「市役所、地域センターなどの公共機関が行う講座・教室」は『女性』が『男性』より5.5ポイント高い。

「特に行っていない」は『男性』が『女性』より5.1ポイント高くなっている。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「本、テレビやラジオの番組、インターネットなどの個人学習」は『20～29歳』が11.9ポイント全体より高い。「美術館・図書館などの公共施設の利用」は『20～29歳』が8.8ポイント、『40～49歳』が8.4ポイント、それぞれ全体より高い。

「地域のサークルやグループでの活動」は『70歳以上』が7.9ポイント、「市役所、地域センターなどの公共機関が行う講座・教室」についても、『70歳以上』が5.8ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「職場、学校のクラブやサークルでの活動」は『20～29歳』が11.5ポイント、『40～49歳』が5.5ポイント、それぞれ全体より高い。

表26-1 生涯学習の実施状況／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：％

		本、テレビやラジオの番組、インターネットなどの個人学習	美術館・図書館などの公共施設の利用	PTA、子ども会、女性会などの地域団体での活動	地域のサークルやグループでの活動	市役所、地域センターなどの公共機関が行う講座・教室	ボランティア活動	カルチャーセンター、スポーツクラブなどが行う講座・教室	職場、学校のクラブやサークルでの活動	民間の個人や、ボランティアセンター、スポーツクラブなどが行う講座・教室	学校（大学や各種学校など）が行う公開講座、社会人入学の講座	特に行っていない	その他	無回答
全体 (n=1140)		19.5	18.7	9.8	9.7	9.1	6.7	6.2	4.2	1.6	47.1	1.7	4.0	
性別	男性 (n=786)	19.8	19.1	10.3	9.0	7.5	7.9	5.3	4.8	1.9	49.0	1.5	2.8	
	女性 (n=330)	19.7	18.8	9.1	11.8	13.0	3.9	8.8	2.1	0.9	43.9	1.5	5.2	
	その他 (n=2)	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	
年齢別	18～19歳 (n=5)	40.0	20.0	-	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	
	20～29歳 (n=51)	31.4	27.5	2.0	3.9	-	2.0	5.9	15.7	9.8	39.2	-	-	
	30～39歳 (n=115)	22.6	21.7	8.7	3.5	5.2	7.8	4.3	7.8	-	47.8	0.9	0.9	
	40～49歳 (n=155)	20.6	27.1	10.3	5.2	5.8	6.5	9.0	9.7	1.9	47.1	1.9	1.3	
	50～59歳 (n=175)	16.6	20.0	8.0	2.9	4.6	5.7	4.0	2.9	1.7	60.0	0.6	-	
	60～69歳 (n=208)	18.8	17.3	10.6	8.7	8.2	6.3	7.7	2.9	0.5	54.3	1.0	1.4	
	70歳以上 (n=410)	19.0	14.4	11.7	17.6	14.9	7.6	5.9	0.7	1.5	40.2	2.4	8.0	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「美術館・図書館などの公共施設の利用」は『アルバイト・パート』が5.3ポイント、「住民自治協議会、PTA、子ども会、女性会などの地域団体での活動」は『自営業』が8.0ポイント、それぞれ全体より高い。

「地域のサークルやグループでの活動」は『無職』が7.5ポイント全体より高い。

「ボランティア活動」は『自営業』が8.9ポイント全体より高くなっている。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「本、テレビやラジオの番組、インターネットなどの個人学習」は『豊栄地区』が11.8ポイント、「住民自治協議会、PTA、子ども会、女性会などの地域団体での活動」と「市役所、地域センターなどの公共機関が行う講座・教室」は『河内地区』と『豊栄地区』が5ポイント以上全体より高い。「地域のサークルやグループでの活動」は『河内地区』が9.7ポイント、「ボランティア活動」は『福富地区』が23.3ポイント、『河内地区』が9.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表26-2 生涯学習の実施状況／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：%

		本、テレビやラジオの番組、インターネットなどの個人学習	美術館・図書館などの公共施設の利用	女性会などの地域団体での活動	住民自治協議会、PTA、子ども会、	地域のサークルやグループでの活動	市役所、地域センターなどの公共機関が行う講座・教室	ボランティア活動	カルチャーセンター、スポーツクラブなどが行う講座・教室	職場、学校のクラブやサークルでの活動	学校（大学や各種学校など）が行う公開講座、社会人入学の講座	特に行っていない	その他	無回答
全体 (n=1140)		19.5	18.7	9.8	9.7	9.1	6.7	6.2	4.2	1.6	47.1	1.7	4.0	
職業別	自営業 (n=90)	17.8	15.6	17.8	13.3	14.4	15.6	7.8	3.3	2.2	38.9	1.1	4.4	
	会社員等 (n=472)	21.8	21.6	8.1	4.7	4.9	5.9	6.6	7.4	1.7	53.4	0.4	0.4	
	アルバイト・パート (n=96)	15.6	24.0	9.4	4.2	6.3	2.1	4.2	3.1	2.1	52.1	-	2.1	
	派遣社員・契約社員 (n=37)	21.6	21.6	8.1	5.4	5.4	-	2.7	5.4	-	51.4	5.4	-	
	学生・専門学校生 (n=12)	25.0	33.3	-	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0	16.7	8.3	-	-	
	家事専業 (n=47)	23.4	14.9	10.6	17.0	21.3	2.1	14.9	-	2.1	38.3	-	8.5	
	無職 (n=338)	18.0	15.4	10.1	17.2	12.7	8.6	5.0	0.3	0.9	42.0	3.6	7.1	
地域別	西条地区 (n=443)	20.8	23.3	7.2	6.8	6.8	5.4	7.7	5.0	1.8	47.4	1.1	2.9	
	八本松地区 (n=190)	16.8	18.9	14.7	14.2	11.1	10.5	7.9	3.7	1.6	48.9	-	3.2	
	志和地区 (n=36)	13.9	8.3	13.9	13.9	2.8	2.8	2.8	2.8	-	50.0	-	8.3	
	高屋地区 (n=205)	24.4	18.5	9.8	11.7	9.3	5.9	5.4	5.4	1.5	44.9	1.5	2.9	
	黒瀬地区 (n=114)	18.4	9.6	7.0	8.8	7.9	3.5	3.5	2.6	1.8	54.4	4.4	2.6	
	福富地区 (n=10)	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0	10.0	-	50.0	-	-	
	豊栄地区 (n=16)	31.3	12.5	18.8	6.3	25.0	6.3	-	-	-	50.0	6.3	-	
	河内地区 (n=31)	9.7	22.6	19.4	19.4	29.0	16.1	6.5	-	3.2	35.5	3.2	6.5	
安芸津地区 (n=72)	15.3	12.5	11.1	8.3	9.7	6.9	4.2	2.8	1.4	44.4	2.8	6.9		

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

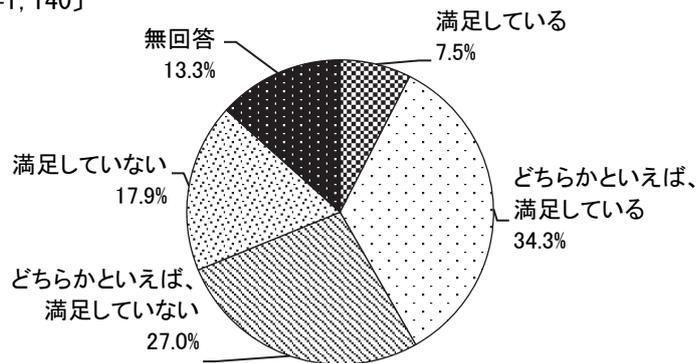
(2) 生涯学習の満足度

問27 この1年間に行った生涯学習に満足していますか。
(1つだけ選んで○をお付けください)

この1年間に行った生涯学習の満足度については、「満足している」が7.5%、「どちらかといえば、満足している」が34.3%と、“満足”（「満足している」と「どちらかといえば、満足している」の合計）は41.8%となっている。

「どちらかといえば、満足していない」は27.0%、「満足していない」は17.9%であり、これらを合計した“不満足”は44.9%であった。

図27-1 生涯学習の満足度 [n=1,140]

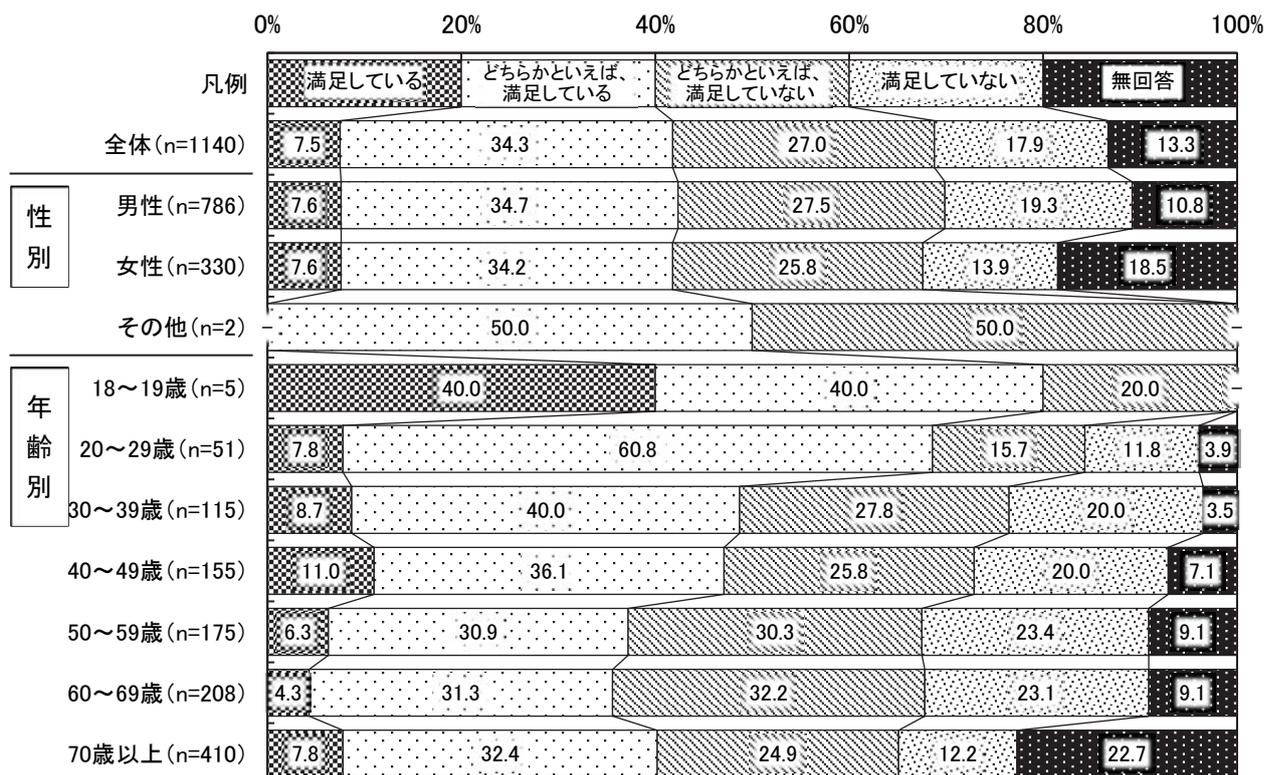


【属性別の傾向】＜性別・年齢別＞

性別では、“不満足”は『男性』46.8%、『女性』39.7%と『男性』が『女性』より7.1ポイント高い。

年齢別では、“満足”は『20～29歳』が68.6%と26.8ポイント、『30～39歳』が48.7%と6.9ポイント、『40～49歳』が47.1%と5.3ポイント、それぞれ全体より高い。

図27-2 生涯学習の満足度／性別・年齢別



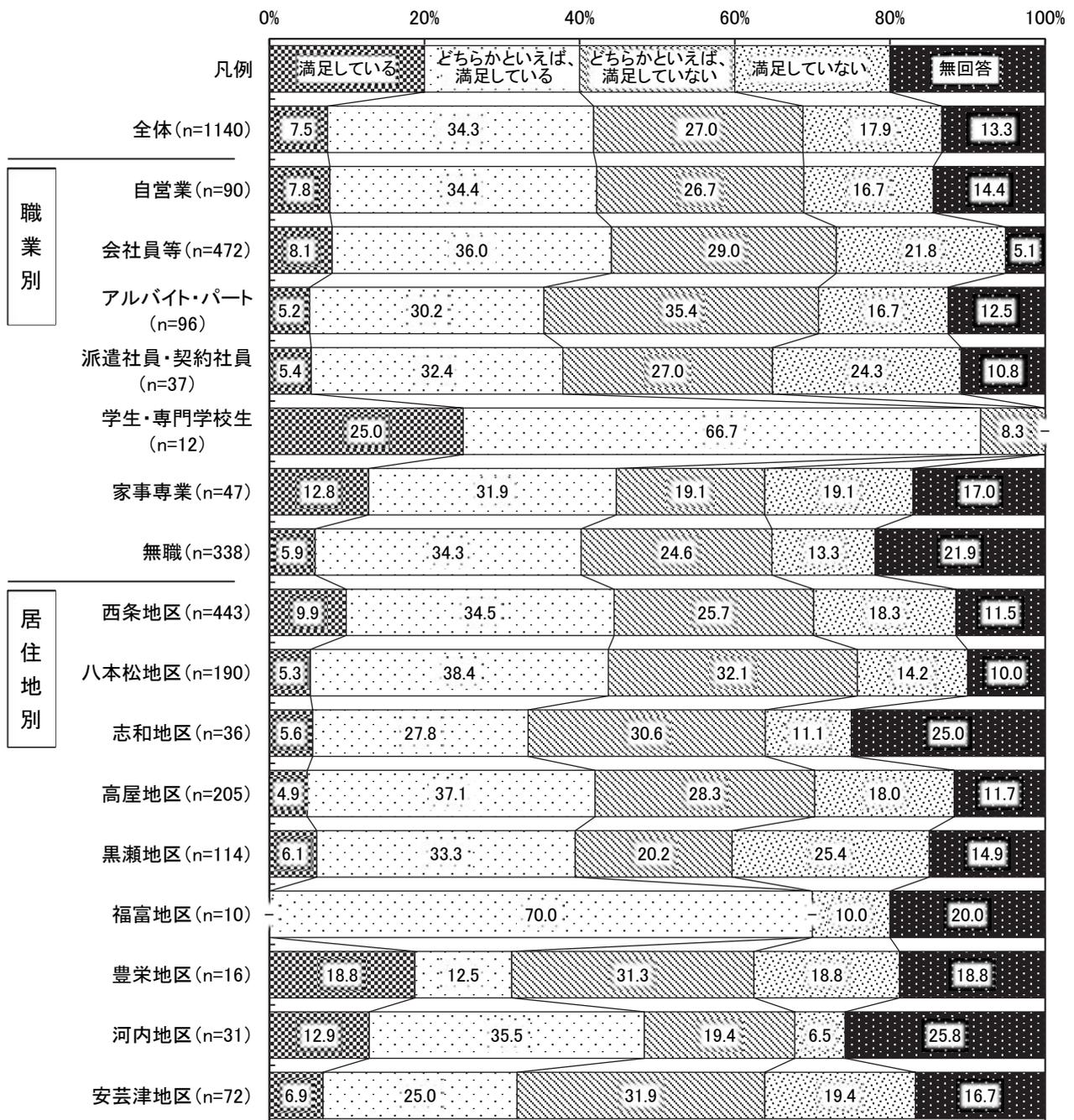
【属性別の傾向】＜職業別・居住地別＞

職業別では、“不満足”（「どちらかといえば、満足していない」と「満足していない」の合計）については、『パート・アルバイト』が52.1%と7.2ポイント、『会社員等』が50.8%と5.9ポイント、それぞれ全体より高い。

居住地別では、“満足”（「満足している」と「どちらかといえば、満足している」の合計）は『福富地区』が70.0%と28.2ポイント、『河内地区』が48.4%と6.6ポイント、それぞれ全体より高い。

一方、“不満足”は『安芸津地区』が51.3%と6.4ポイント、『豊栄地区』が50.1%と5.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

図27-3 生涯学習の満足度／職業別・居住地別



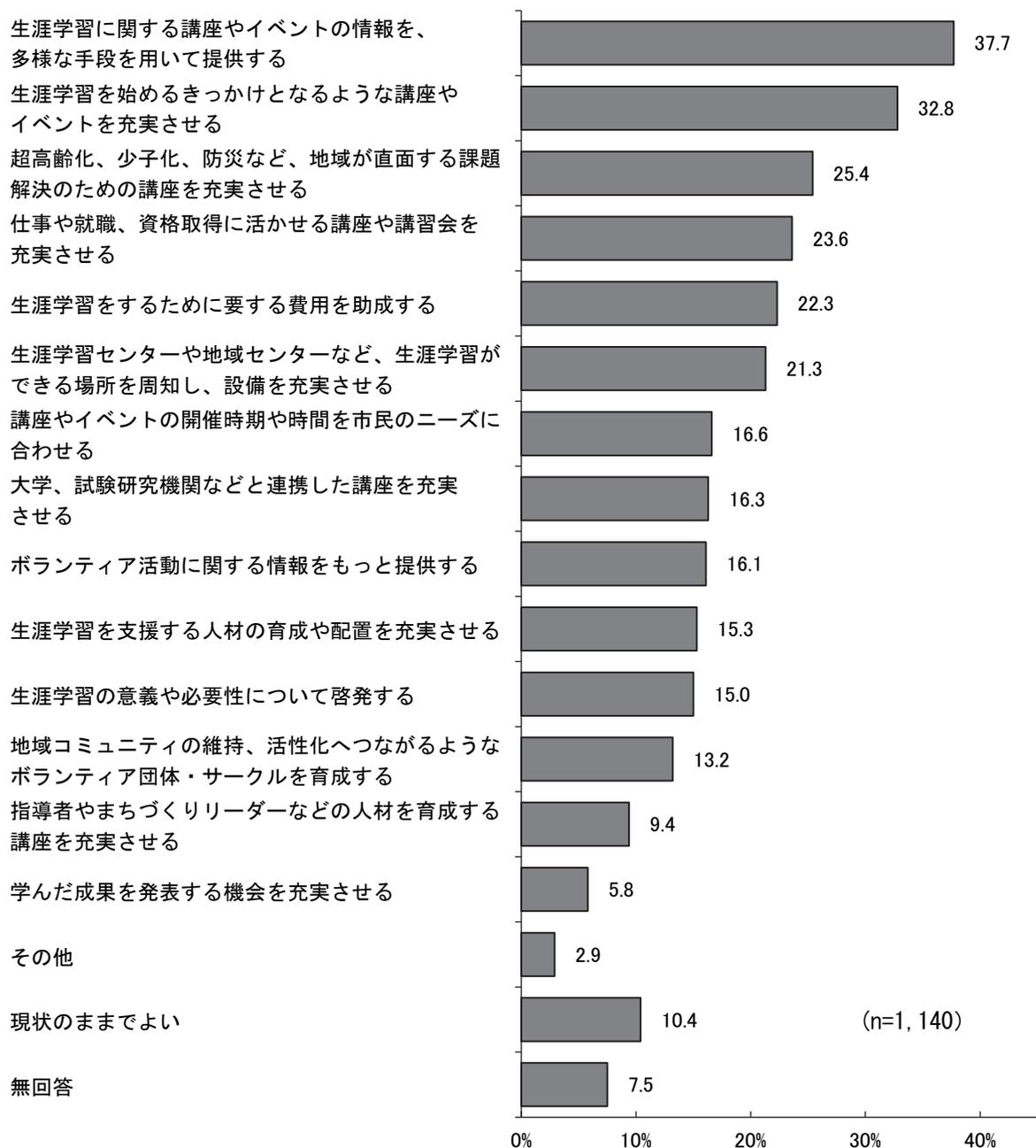
(3) 生涯学習を進めていくために、東広島市が力を入れるべき取組み事項

問28 あなたは、生涯学習を進めていくためには、東広島市はどのような取組みに力を入れるべきだと思いますか。（当てはまるもの全てを選んで○をお付けください）

生涯学習を進めていくために、東広島市が力を入れるべき取組み事項については、「生涯学習に関する講座やイベントの情報を、多様な手段を用いて提供する」が37.7%、「生涯学習を始めるきっかけとなるような講座やイベントを充実させる」が32.8%と高く、次いで、「超高齢化、少子化、防災など、地域が直面する課題解決のための講座を充実させる」が25.4%、「仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる」が23.6%、「生涯学習をするために要する費用を助成する」が22.3%、「生涯学習センターや地域センターなど、生涯学習ができる場所を周知し、設備を充実させる」が21.3%となっている。

図28-1 生涯学習を進めていくために、東広島市が力を入れるべき取組み事項＜複数回答＞

単位：%



【属性別の傾向】＜性別＞

性別では、「講座やイベントの開催時期や時間を市民のニーズに合わせる」は『女性』が『男性』より5.3ポイント高く、「生涯学習の意義や必要性について啓発する」は『男性』が『女性』より6.1ポイント高い。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「生涯学習に関する講座やイベントの情報を、多様な手段を用いて提供する」は『60～69歳』が12.3ポイント、『50～59歳』が5.7ポイント、「生涯学習を始めるきっかけとなるような講座やイベントを充実させる」は『60～69歳』が9.0ポイント、それぞれ全体より高い。

「仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる」は、60歳未満の各年齢層で3割以上と高い。

表28-1 生涯学習を進めていくために、東広島市が力を入れるべき取り組み事項
／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：％

		情報を、多様な手段を用いて提供する	生涯学習に関する講座やイベントの情報を、多様な手段を用いて提供する	生涯学習を始めるきっかけとなるような講座やイベントを充実させる	超高齢化、少子化、防災など、地域が直面する課題解決のための講座を充実させる	仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる	生涯学習を始めるための費用を助成する	生涯学習センターや地域センターなど、生涯学習ができる場所を周知し、設備を充実させる	生涯学習をするために要する	講座やイベントの開催時期や時間を市民のニーズに合わせる	大学、試験研究機関などと連携した講座を充実させる	ポランテア活動に関する情報をもっと提供する	生涯学習を支援する人材の育成や配置を充実させる	生涯学習の意義や必要性について啓発する	生涯学習の意義や必要性について啓発する	学んだ成果を発表する機会を充実させる	指導者やまちづくりリーダーなどの人材を育成する講座を充実させる	地域コミュニティの維持、活性化へつながるようなポランテア団体・サークルを育成する	現状のままでよい	無回答
全体(n=1140)		37.7	32.8	25.4	23.6	22.3	21.3	16.6	16.3	16.1	15.3	15.0	13.2	9.4	5.8	2.9	10.4	7.5		
性別	男性(n=786)	39.3	32.7	25.1	24.0	22.8	20.4	15.0	17.2	15.1	15.8	17.0	14.1	9.4	5.7	2.8	10.7	5.2		
	女性(n=330)	34.5	34.2	26.7	23.0	21.2	23.6	20.3	14.2	19.4	14.2	10.9	11.8	9.4	6.1	3.3	9.7	10.9		
	その他(n=2)	100.0	-	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-		
年齢別	18～19歳(n=5)	80.0	-	20.0	20.0	40.0	-	-	20.0	20.0	-	40.0	-	-	-	-	-	-		
	20～29歳(n=51)	33.3	27.5	13.7	35.3	17.6	21.6	19.6	21.6	9.8	5.9	19.6	3.9	5.9	5.9	2.0	7.8	-		
	30～39歳(n=115)	30.4	34.8	18.3	39.1	20.9	13.9	21.7	26.1	7.8	8.7	14.8	10.4	9.6	4.3	4.3	13.0	2.6		
	40～49歳(n=155)	32.3	27.1	25.8	39.4	21.9	19.4	18.1	20.0	18.1	9.7	19.4	15.5	10.3	7.7	2.6	11.6	2.6		
	50～59歳(n=175)	43.4	33.7	30.3	32.0	28.0	25.7	23.4	25.7	18.9	16.6	14.3	12.0	8.6	6.3	2.9	5.1	1.7		
	60～69歳(n=208)	50.0	41.8	21.2	17.8	26.9	23.1	20.7	11.1	23.1	16.3	11.1	15.4	9.1	5.3	2.9	9.1	3.4		
	70歳以上(n=410)	33.9	31.2	29.5	11.7	18.8	21.7	9.5	10.5	14.4	19.8	15.4	14.4	10.2	5.6	2.9	12.4	14.4		

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「生涯学習を始めるきっかけとなるような講座やイベントを充実させる」は『アルバイト・パート』が9.9ポイント、「仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる」は『会社員等』が10.7ポイント、それぞれ全体より高い。

「講座やイベントの開催時期や時間を市民のニーズに合わせる」は『アルバイト・パート』が6.3ポイント全体より高くなっている。

【属性別の傾向】＜居住地＞

「生涯学習に関する講座やイベントの情報を、多様な手段を用いて提供する」は『河内地区』が7.5ポイント、『豊栄地区』が6.1ポイント、「超高齢化、少子化、防災など、地域が直面する課題解決のための講座を充実させる」は『安芸津地区』、『豊栄地区』、『志和地区』が5ポイント以上、「仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる」は『豊栄地区』が20.2ポイント、『西条地区』が5.7ポイント、「生涯学習をするために要する費用を助成する」は『豊栄地区』が21.5ポイント、『福富地区』が7.7ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表28-2 生涯学習を進めていくために、東広島市が力を入れるべき取り組み事項
／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：%

		情報を、多様な手段を用いて提供する	生涯学習を始めるきっかけとなるような講座やイベントを充実させる	超高齢化、少子化、防災など、地域が直面する課題解決のための講座を充実させる	仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる	生涯学習をするために要する費用を助成する	生涯学習センターや地域センターなど、生涯学習ができる場所を周知し、設備を充実させる	講座やイベントの開催時期や時間を市民のニーズに合わせる	連携した講座を充実させる	大学、試験研究機関などと情報を提供	ボランティア活動に関する配置を充実させる	生涯学習を支援する人材の育成や啓発	生涯学習の意義や必要性について啓発	地域コミュニティの維持、活性化へつながるようなボランティア団体・サークルを育成	指導者やまちづくりリーダーなどの人材を育成する講座を充実させる	学んだ成果を発表する機会を充実させる	その他	現状のままでよい	無回答
全体(n=1140)		37.7	32.8	25.4	23.6	22.3	21.3	16.6	16.3	16.1	15.3	15.0	13.2	9.4	5.8	2.9	10.4	7.5	
職業別	自営業(n=90)	40.0	33.3	28.9	20.0	22.2	12.2	11.1	14.4	10.0	17.8	17.8	13.3	13.3	6.7	1.1	14.4	7.8	
	会社員等(n=472)	39.8	33.1	22.2	34.3	26.3	20.8	19.7	21.0	15.5	13.6	16.1	12.3	8.7	5.7	3.6	8.3	1.3	
	アルバイト・パート(n=96)	40.6	42.7	24.0	20.8	22.9	24.0	22.9	15.6	19.8	16.7	18.8	9.4	11.5	6.3	-	6.3	4.2	
	派遣社員・契約社員(n=37)	40.5	45.9	40.5	51.4	37.8	37.8	27.0	32.4	18.9	13.5	8.1	10.8	21.6	2.7	-	10.8	2.7	
	学生・専門学校生(n=12)	58.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	25.0	-	25.0	8.3	-	8.3	-	8.3	-	
	家事専業(n=47)	38.3	42.6	25.5	17.0	17.0	27.7	19.1	12.8	17.0	17.0	8.5	12.8	12.8	6.4	-	14.9	12.8	
	無職(n=338)	32.2	29.3	28.4	9.5	16.0	20.4	11.5	9.5	17.5	17.2	13.3	16.9	7.1	5.6	3.8	12.7	14.5	
	地域別	西条地区(n=443)	41.8	35.2	22.1	29.3	22.6	24.4	14.9	22.3	15.3	12.4	16.0	13.1	9.5	4.7	2.7	10.2	4.5
八本松地区(n=190)	36.3	31.1	28.4	21.6	22.1	18.4	21.6	17.9	17.4	19.5	15.8	17.4	9.5	6.3	3.7	15.3	6.8		
志和地区(n=36)	22.2	36.1	30.6	19.4	22.2	22.2	5.6	5.6	-	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6	2.8	5.6	13.9		
高屋地区(n=205)	38.0	34.1	24.4	19.5	22.0	18.0	15.1	14.6	16.6	17.6	14.1	12.7	10.2	5.4	2.9	6.8	7.8		
黒瀬地区(n=114)	32.5	28.1	28.1	15.8	26.3	17.5	19.3	7.0	22.8	17.5	13.2	12.3	7.0	9.6	3.5	10.5	6.1		
福富地区(n=10)	10.0	10.0	30.0	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-	-	10.0	10.0	20.0	-	-	30.0	10.0		
豊栄地区(n=16)	43.8	37.5	31.3	43.8	43.8	37.5	6.3	12.5	12.5	25.0	6.3	25.0	25.0	25.0	-	12.5	12.5		
河内地区(n=31)	45.2	22.6	29.0	16.1	16.1	22.6	19.4	12.9	9.7	22.6	9.7	3.2	3.2	3.2	3.2	12.9	9.7		
安芸津地区(n=72)	34.7	34.7	31.9	25.0	15.3	22.2	19.4	5.6	22.2	12.5	19.4	13.9	11.1	4.2	2.8	6.9	12.5		

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

15. 防災について

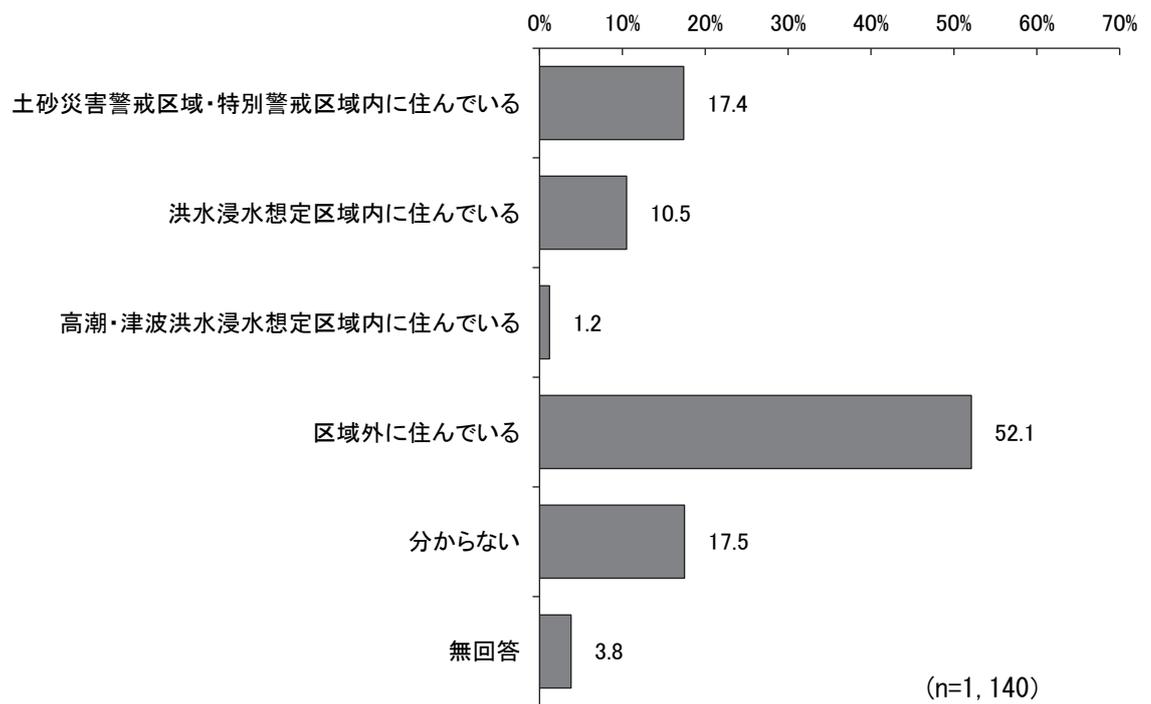
(1) 土砂災害警戒区域などへの居住状況

問29 土砂災害警戒区域など(※)にお住まいですか。
(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

土砂災害警戒区域などへの居住状況については、「土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に住んでいる」は17.4%、「洪水浸水想定区域内に住んでいる」は10.5%、「高潮・津波洪水浸水想定区域内に住んでいる」は1.2%、「分からない」は17.5%となっている。

図29-1 土砂災害警戒区域などへの居住状況<複数回答>

単位：%



【属性別の傾向】

性別では、「区域外に住んでいる」は『男性』が『女性』より8.3ポイント高く、「分からない」は『女性』が『男性』より6.0ポイント高くなっている。

年齢別では、「土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に住んでいる」は『70歳以上』が23.9%と6.5ポイント全体より高い。「分からない」は『20～29歳』が29.4%と11.9ポイント、『30～39歳』が28.7%と11.2ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

職業別では、「土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に住んでいる」は『自営業』が38.9%と21.5ポイント全体より高く、「分からない」は『アルバイト・パート』が26.0%と8.5ポイント全体より高い。

居住地別では、「土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に住んでいる」は『志和地区』、『福富地区』、『豊栄地区』、『河内地区』、『安芸津地区』が10ポイント以上全体より高く、「分からない」は『安芸津地区』が23.6%と6.1ポイント全体より高い。

表29-1 土砂災害警戒区域などへの居住状況<複数回答>

単位：%

		土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に住んでいる	洪水浸水想定区域内に住んでいる	高潮・津波洪水浸水想定区域内に住んでいる	区域外に住んでいる	分からない	無回答
全体(n=1140)		17.4	10.5	1.2	52.1	17.5	3.8
性別	男性(n=786)	17.9	10.2	1.1	55.0	15.8	2.3
	女性(n=330)	16.1	10.6	1.2	46.7	21.8	5.8
	その他(n=2)	-	-	-	50.0	50.0	-
年齢別	18～19歳(n=5)	20.0	20.0	-	20.0	40.0	-
	20～29歳(n=51)	3.9	5.9	-	60.8	29.4	-
	30～39歳(n=115)	8.7	13.0	-	49.6	28.7	0.9
	40～49歳(n=155)	11.0	11.0	0.6	58.1	20.0	1.3
	50～59歳(n=175)	15.4	8.0	0.6	57.1	19.4	0.6
	60～69歳(n=208)	18.8	9.1	1.0	57.7	13.9	1.9
	70歳以上(n=410)	23.9	11.2	2.2	46.3	12.9	6.8
職業別	自営業(n=90)	38.9	7.8	1.1	42.2	11.1	2.2
	会社員等(n=472)	12.3	11.4	0.4	58.7	18.0	0.4
	アルバイト・パート(n=96)	13.5	4.2	2.1	56.3	26.0	1.0
	派遣社員・契約社員(n=37)	8.1	10.8	2.7	40.5	35.1	2.7
	学生・専門学校生(n=12)	8.3	8.3	-	41.7	41.7	-
	家事専業(n=47)	21.3	14.9	-	46.8	10.6	8.5
	無職(n=338)	20.4	10.1	1.5	48.8	15.1	7.1
地域別	西条地区(n=443)	9.3	10.8	-	59.4	19.2	2.0
	八本松地区(n=190)	15.3	10.0	-	56.8	15.8	2.6
	志和地区(n=36)	41.7	2.8	-	30.6	13.9	13.9
	高屋地区(n=205)	17.6	5.9	-	59.0	14.1	3.9
	黒瀬地区(n=114)	17.5	12.3	-	47.4	21.1	5.3
	福富地区(n=10)	60.0	-	-	30.0	10.0	-
	豊栄地区(n=16)	37.5	12.5	6.3	37.5	12.5	6.3
	河内地区(n=31)	64.5	12.9	-	12.9	9.7	3.2
	安芸津地区(n=72)	29.2	20.8	16.7	23.6	23.6	2.8

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付きは全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が10未満はしない。

(2) 台風や大雨などの災害に関する情報の入手元

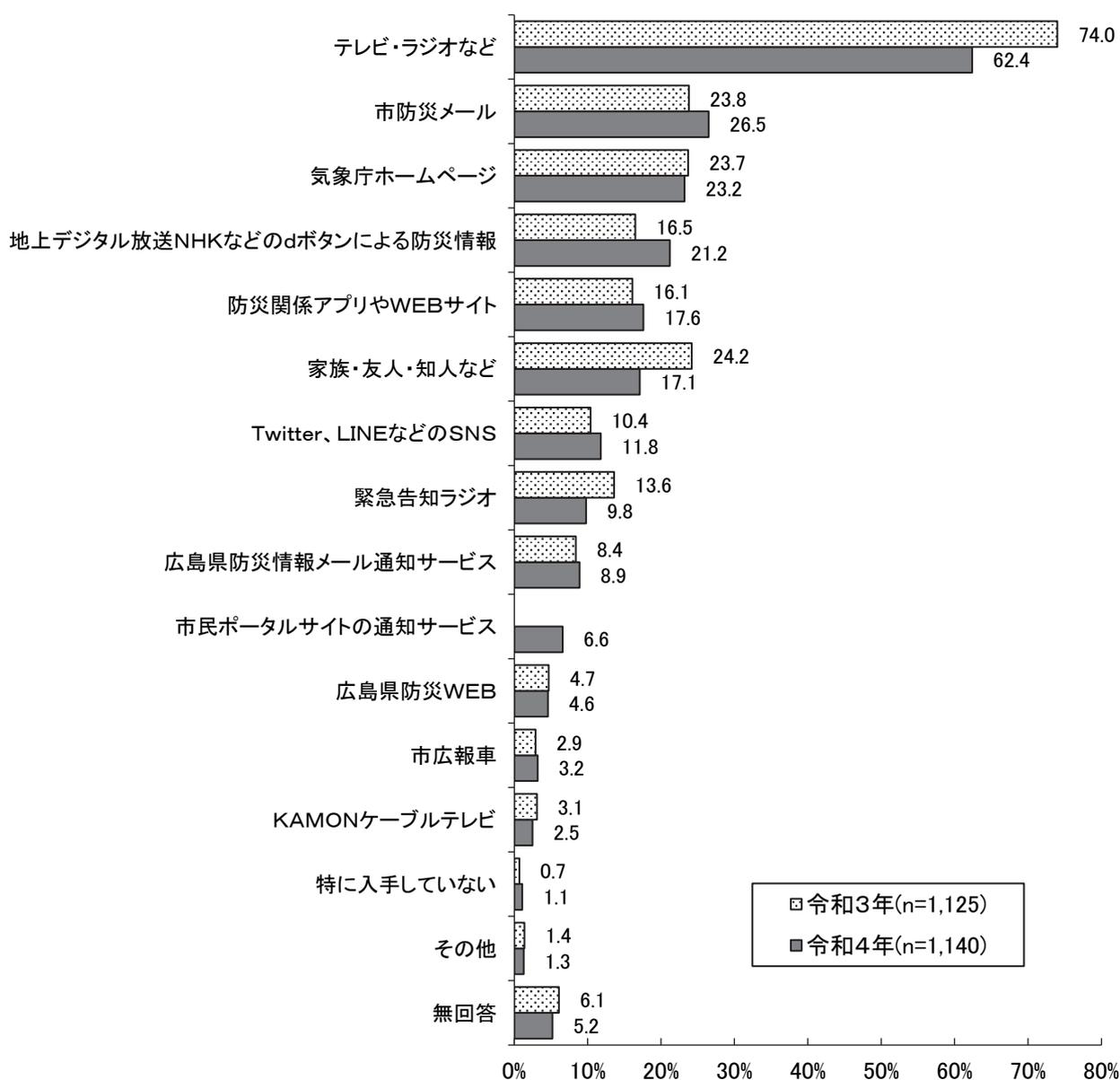
問30 台風や大雨などの災害に関する情報をどこから入手していますか。
(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

台風や大雨などの災害に関する情報の入手元については、「テレビ・ラジオなど」が62.4%と最も高く、次いで、「市防災メール」が26.5%と高く、「気象庁ホームページ」が23.2%、「地上デジタル放送NHKなどのdボタンによる防災情報」が21.2%と、それぞれ2割以上を占めている。

令和3年度調査(前回)との比較では、「テレビ・ラジオなど」は11.6ポイント、「家族・友人・知人など」は7.1ポイント、それぞれ低くなっている。

図30-1 台風や大雨などの災害に関する情報の入手元<複数回答>

単位：%



※「市民ポータルサイトの通知サービス」は令和4年より追加の項目

【属性別の傾向】＜性別＞

「家族・友人・知人など」は12.8ポイント『女性』が『男性』より高い。「気象庁ホームページ」は10.7ポイント、「広島県防災WEB」は5.5ポイント、それぞれ『男性』が『女性』より高くなっている。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「テレビ・ラジオなど」は『70歳以上』が11.3ポイント全体より高く、年齢が上がるほど高くなっている。「市防災メール」は『40～49歳』が9.0ポイント、「地上デジタル放送NHKなどのdボタンによる防災情報」は『70歳以上』が9.0ポイント、「家族・友人・知人など」は『70歳以上』が8.5ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「気象庁ホームページ」は70歳未満の年齢層、「防災関係アプリやWEBサイト」は30歳から60歳未満の各年齢層、「Twitter、LINEなどのSNS」は40歳未満の年齢層で、それぞれ全体より5ポイント以上高い。

「緊急告知ラジオ」は『70歳以上』が11.2ポイント全体より高くなっている。

表30-1 台風や大雨などの災害に関する情報の入手元／性別・年齢別＜複数回答＞

単位：%

		テレビ・ラジオなど	市防災メール	気象庁ホームページ	NHKなど地上デジタル放送のdボタンによる防災情報	防災関係アプリやWEBサイト	家族・友人・知人など	LINEなどのSNS	緊急告知ラジオ	広島県防災情報メール	市民ポータルサイトの通知サービス	広島県防災WEB	市広報車	KAMONケーブルテレビ	特に入手していない	その他	無回答
全体(n=1140)		62.4	26.5	23.2	21.2	17.6	17.1	11.8	9.8	8.9	6.6	4.6	3.2	2.5	1.1	1.3	5.2
性別	男性(n=786)	62.0	27.6	26.8	22.4	19.1	13.6	10.8	9.4	9.5	6.1	6.4	3.1	3.1	1.1	1.5	3.2
	女性(n=330)	66.4	24.8	16.1	19.4	14.8	26.4	14.5	11.5	7.3	8.2	0.9	3.9	1.5	1.2	0.9	5.5
	その他(n=2)	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	18～19歳(n=5)	60.0	40.0	-	20.0	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳(n=51)	39.2	31.4	37.3	3.9	21.6	11.8	54.9	-	3.9	2.0	3.9	-	2.0	2.0	2.0	-
	30～39歳(n=115)	47.0	20.0	30.4	9.6	26.1	11.3	23.5	-	7.0	20.0	3.5	1.7	1.7	3.5	2.6	5.2
	40～49歳(n=155)	51.0	35.5	33.5	16.1	28.4	13.5	16.1	1.9	9.0	12.9	9.0	0.6	-	0.6	3.9	1.9
	50～59歳(n=175)	64.6	27.4	28.6	16.6	26.9	15.4	15.4	4.0	12.6	7.4	7.4	1.7	3.4	1.1	-	1.7
	60～69歳(n=208)	65.9	29.8	28.8	23.6	20.2	10.6	4.8	7.7	13.5	4.8	7.7	1.4	1.4	1.4	1.0	3.8
	70歳以上(n=410)	73.7	23.4	11.7	30.2	6.3	25.6	3.7	21.0	6.3	2.0	1.0	6.8	4.1	0.5	0.7	5.4

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付き全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「テレビ・ラジオなど」は『無職』、『自営業』が5ポイント以上、「気象庁ホームページ」は『会社員等』が10.5ポイント、「地上デジタル放送NHKなどのdボタンによる防災情報」は『無職』が8.4ポイント、「防災関係アプリやWEBサイト」は『会社員等』が9.5ポイント、それぞれ全体より高い。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「市防災メール」は『河内地区』が12.2ポイント、「地上デジタル放送 NHKなどのdボタンによる防災情報」は『志和地区』と『安芸津地区』が9.4ポイント、『高屋地区』が5.1ポイント、「家族・友人・知人など」は『豊栄地区』が20.4ポイント、『安芸津地区』が13.5ポイント、それぞれ全体より高い。

「緊急告知ラジオ」は、『福富地区』が30.2ポイント『河内地区』が22.5ポイント、『豊栄地区』が21.5ポイント、『安芸津地区』が9.6ポイント、『志和地区』が6.9ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「KAMONケーブルテレビ」は『福富地区』が17.5ポイント、『河内地区』が10.4ポイント、それぞれ全体より高い。

表31-2 台風や大雨などの災害に関する情報の入手元／職業別・居住地別＜複数回答＞

単位：%

		テレビ・ラジオなど	市防災メール	気象庁ホームページ	NHKなどのdボタンによる防災情報	地上デジタル放送NHKなどのdボタン	防災関係アプリやWEBサイト	家族・友人・知人など	L I N EなどのSNS	緊急告知ラジオ	広島県防災情報メール	市民ポータルサイトの通知サービス	広島県防災WEB	市広報車	KAMONケーブルテレビ	特に入手していない	その他	無回答
全体 (n=1140)		62.4	26.5	23.2	21.2	17.6	17.1	11.8	9.8	8.9	6.6	4.6	3.2	2.5	1.1	1.3	5.2	
職業別	自営業 (n=90)	68.9	26.7	15.6	24.4	12.2	17.8	6.7	20.0	8.9	3.3	2.2	2.2	4.4	-	2.2	4.4	
	会社員等 (n=472)	56.1	28.4	33.7	15.7	27.1	12.9	16.9	1.9	10.0	9.3	8.7	0.4	2.1	1.7	1.3	3.0	
	アルバイト・パート (n=96)	65.6	28.1	15.6	25.0	10.4	11.5	12.5	7.3	10.4	9.4	-	6.3	1.0	1.0	-	3.1	
	派遣社員・契約社員 (n=37)	54.1	29.7	29.7	16.2	18.9	10.8	18.9	5.4	10.8	13.5	5.4	2.7	2.7	2.7	-	2.7	
	学生・専門学校生 (n=12)	41.7	25.0	16.7	8.3	25.0	8.3	58.3	-	-	-	-	-	-	-	8.3	-	
	家事専業 (n=47)	68.1	29.8	17.0	19.1	21.3	27.7	8.5	8.5	10.6	4.3	2.1	2.1	2.1	2.1	-	4.3	
	無職 (n=338)	72.2	24.6	14.2	29.6	8.6	24.9	3.8	20.7	7.1	3.3	1.8	6.8	3.3	0.3	1.5	5.0	
地域別	西条地区 (n=443)	58.0	26.6	26.4	18.7	20.3	14.0	17.8	5.2	7.9	9.9	4.7	2.3	1.8	1.6	2.0	3.6	
	八本松地区 (n=190)	68.4	27.9	24.7	23.2	13.7	23.7	9.5	8.9	10.0	7.4	5.8	5.8	1.6	2.1	0.5	3.2	
	志和地区 (n=36)	44.4	30.6	8.3	30.6	13.9	16.7	5.6	16.7	2.8	-	5.6	5.6	5.6	2.8	-	11.1	
	高屋地区 (n=205)	69.8	31.2	22.9	26.3	20.0	15.1	9.8	8.3	10.7	5.4	3.9	2.0	3.9	-	0.5	2.0	
	黒瀬地区 (n=114)	65.8	22.8	27.2	16.7	16.7	17.5	10.5	13.2	13.2	1.8	4.4	3.5	-	0.9	2.6	1.8	
	福富地区 (n=10)	70.0	10.0	-	10.0	10.0	10.0	-	40.0	10.0	-	10.0	-	20.0	-	-	10.0	
	豊栄地区 (n=16)	75.0	6.3	12.5	18.8	12.5	37.5	-	31.3	-	-	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	
	河内地区 (n=31)	48.4	38.7	19.4	16.1	12.9	6.5	-	32.3	6.5	3.2	6.5	-	12.9	-	3.2	9.7	
	安芸津地区 (n=72)	70.8	22.2	13.9	30.6	15.3	30.6	2.8	19.4	6.9	2.8	2.8	6.9	1.4	-	-	8.3	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付き全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

(3) 避難のきっかけとなる情報

問31-1 問31で回答された情報のうち、避難のきっかけとなる情報はどれですか。
1つだけ選んで、右の枠内に番号をお書きください。

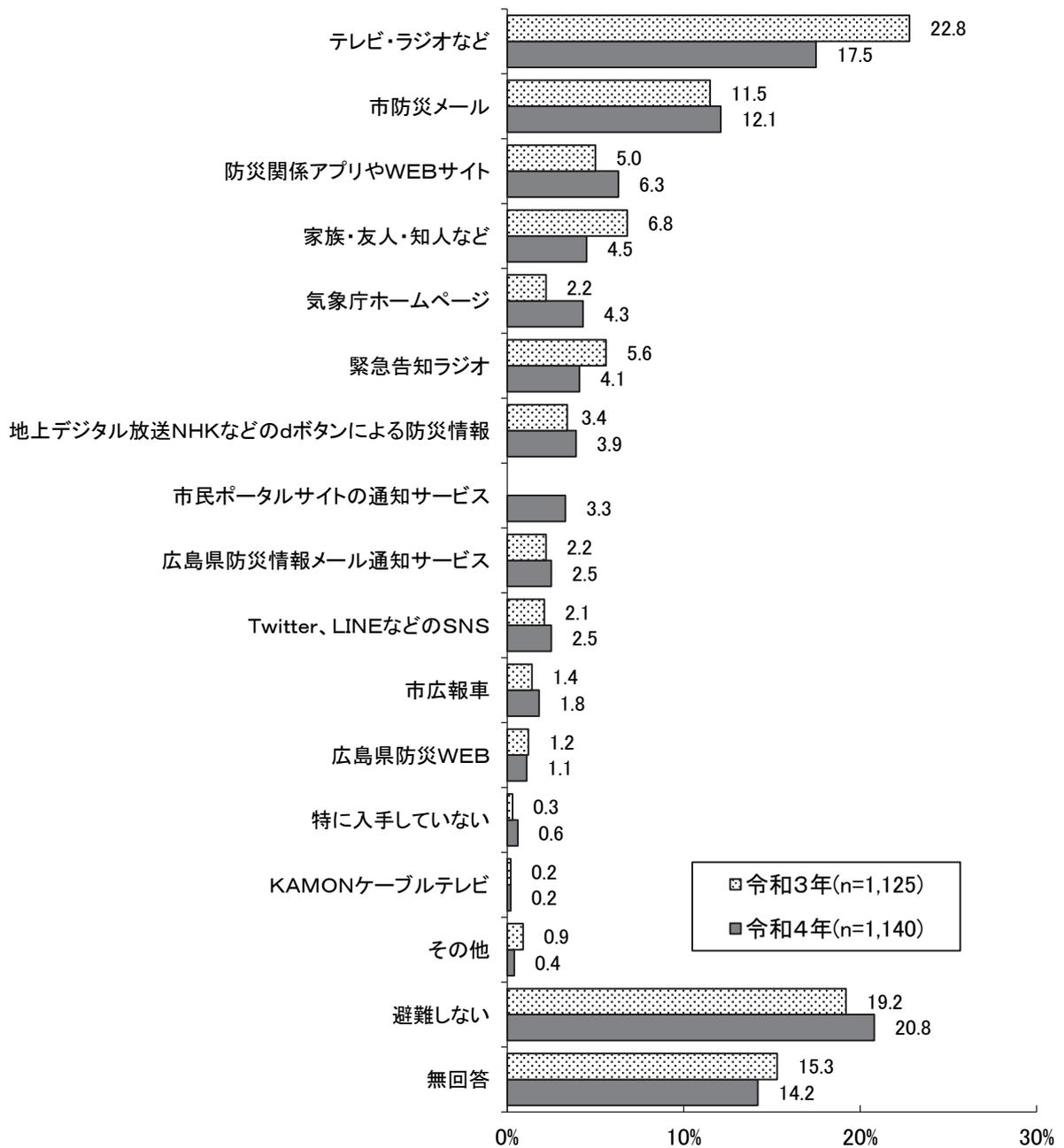
避難のきっかけとなる情報については、「テレビ・ラジオなど」が17.5%と最も高く、次いで、「市防災メール」が12.1%、その他の項目は1割を下回る。

「避難しない」は20.8%となっている。

令和3年度調査(前回)との比較では、「テレビ・ラジオなど」は5.3ポイント低くなっている。

図31-2 避難のきっかけとなる情報 [n=1,140]

単位：%



※「市民ポータルサイトの通知サービス」は令和4年より追加の項目

【属性別の傾向】＜性別＞

性別では、男女で顕著な差はない。

【属性別の傾向】＜年齢別＞

「テレビ・ラジオなど」は『50～59歳』が24.6%と7.1ポイント、「市防災メール」は『20～29歳』が19.6%と7.5ポイント、『40～49歳』が17.4%と5.3ポイント、「防災関係アプリやWEBサイト」は『40～49歳』が12.9%と6.6ポイント、『30～39歳』が12.2%と5.9ポイント、それぞれ全体より高い。

「気象庁ホームページ」は『20～29歳』が17.6%と13.3ポイント、「Twitter、LINEなどのSNS」についても『20～29歳』が17.6%と15.1ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

「市民ポータルサイトの通知サービス」は『40～49歳』が8.4%と5.1ポイント全体より高い。

「避難しない」は『60～69歳』が27.4%と6.6ポイント、『70歳以上』が26.8%と6.0ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表31-3 避難のきっかけとなる情報／性別・年齢別

単位：%

		テレビ・ラジオなど	市防災メール	防災関係アプリやWEBサイト	家族・友人・知人など	気象庁ホームページ	緊急告知ラジオ	NHKなどのdボタンによる防災情報	地上デジタル放送の通知サービス	市民ポータルサイトの通知サービス	広島県防災情報メール	LINEなどのSNS	Twitter、LINEなどのSNS	市広報車	広島県防災WEB	KAMONケーブルテレビ	特に入手していない	その他	避難しない	無回答
全体(n=1140)		17.5	12.1	6.3	4.5	4.3	4.1	3.9	3.3	2.5	2.5	1.8	1.1	0.2	0.6	0.4	20.8	14.2		
性別	男性(n=786)	18.4	13.4	6.7	3.4	5.1	4.5	3.4	2.9	2.9	2.7	1.8	1.7	0.1	0.8	0.5	20.0	11.7		
	女性(n=330)	16.1	9.4	5.5	7.3	2.7	3.6	4.8	4.5	1.5	2.1	1.8	-	0.3	0.3	0.3	23.9	15.8		
	その他(n=2)	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
年齢別	18～19歳(n=5)	40.0	40.0	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳(n=51)	15.7	19.6	9.8	2.0	17.6	-	2.0	-	2.0	17.6	-	-	-	2.0	-	11.8	-		
	30～39歳(n=115)	18.3	9.6	12.2	3.5	7.0	0.9	2.6	7.8	1.7	6.1	1.7	-	0.9	2.6	0.9	13.0	11.3		
	40～49歳(n=155)	19.4	17.4	12.9	1.9	5.2	0.6	2.6	8.4	3.9	4.5	0.6	1.3	-	-	1.3	14.8	5.2		
	50～59歳(n=175)	24.6	14.9	7.4	5.7	5.7	2.3	1.7	4.6	4.0	1.7	1.1	2.9	-	-	-	14.3	9.1		
	60～69歳(n=208)	16.8	12.5	7.7	1.4	2.9	3.8	3.8	2.9	2.4	1.0	1.0	2.9	0.5	1.0	-	27.4	12.0		
70歳以上(n=410)	14.4	8.8	0.7	7.3	2.0	8.0	5.9	0.5	1.7	-	3.2	-	-	0.2	0.5	26.8	20.0			

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付き全体より5～10ポイント未満の範囲で高いものを示す。但し、サンプル数が20未満はしない。

【属性別の傾向】＜職業別＞

「市防災メール」は『アルバイト・パート』が5.6ポイント、「緊急告知ラジオ」は『自営業』が8.1ポイント、それぞれ全体より高い。

「避難しない」は『無職』が5.5ポイント全体より高くなっている。

【属性別の傾向】＜居住地別＞

「市防災メール」は『河内地区』が13.7ポイント、「家族・友人・知人など」は『志和地区』が6.6ポイント、それぞれ全体より高い。

「緊急告知ラジオ」は『福富地区』が15.9ポイント、『豊栄地区』が14.7ポイント、『河内地区』が8.8ポイント、それぞれ全体より高い。

「避難しない」は『福富地区』が19.2ポイント、『豊栄地区』が10.5ポイント、『志和地区』が9.8ポイント、『安芸津地区』が7.0ポイント、『黒瀬地区』が6.4ポイント、それぞれ全体より高くなっている。

表31-4 避難のきっかけとなる情報／職業別・地域別

単位：%

		テレビ・ラジオなど	市防災メール	防災関係アプリやWEBサイト	家族・友人・知人など	気象庁ホームページ	緊急告知ラジオ	NHKなどのdポタタンによる防災情報	市民ポータルサイトの通知サービス	広島県防災情報メール通知サービス	L I N EなどのSNS	市広報車	広島県防災WEB	K A M O N ケーブルテレビ	特に入手していない	その他	避難しない	無回答	
全体(n=1140)		17.5	12.1	6.3	4.5	4.3	4.1	3.9	3.3	2.5	2.5	1.8	1.1	0.2	0.6	0.4	20.8	14.2	
職業別	自営業(n=90)	17.8	11.1	4.4	4.4	2.2	12.2	2.2	1.1	4.4	3.3	1.1	-	-	-	1.1	25.6	8.9	
	会社員等(n=472)	19.9	14.8	10.4	3.4	7.0	1.1	2.3	4.4	3.6	3.8	0.6	2.1	0.2	1.1	0.4	18.2	6.6	
	アルバイト・パート(n=96)	17.7	17.7	3.1	4.2	2.1	1.0	3.1	7.3	3.1	4.2	3.1	-	-	-	1.0	18.8	13.5	
	派遣社員・契約社員(n=37)	27.0	10.8	10.8	-	2.7	5.4	-	8.1	2.7	-	2.7	2.7	-	2.7	-	16.2	8.1	
	学生・専門学校生(n=12)	25.0	16.7	25.0	-	16.7	-	8.3	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	-	
	家事専業(n=47)	27.7	8.5	4.3	10.6	4.3	-	4.3	2.1	-	-	2.1	-	2.1	-	-	21.3	12.8	
	無職(n=338)	11.5	8.9	1.5	5.9	1.8	7.7	7.1	1.2	0.9	-	3.3	0.6	-	0.3	0.3	26.3	22.8	
地域別	西条地区(n=443)	19.9	12.6	7.2	2.7	5.9	2.7	4.1	5.4	2.5	3.6	1.6	1.1	0.2	0.9	0.5	16.5	12.6	
	八本松地区(n=190)	20.0	13.7	5.3	7.4	6.3	1.6	2.1	3.2	1.6	2.1	2.6	1.1	-	1.1	-	22.1	10.0	
	志和地区(n=36)	8.3	8.3	5.6	11.1	2.8	5.6	5.6	-	-	-	2.8	-	-	-	-	30.6	19.4	
	高屋地区(n=205)	17.6	14.1	7.3	4.9	3.4	4.9	5.9	2.0	2.4	2.4	1.5	1.0	0.5	0.5	-	21.0	10.7	
	黒瀬地区(n=114)	15.8	7.0	5.3	4.4	2.6	5.3	2.6	1.8	5.3	2.6	1.8	2.6	-	-	1.8	27.2	14.0	
	福富地区(n=10)	10.0	-	-	-	-	20.0	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	40.0	20.0
	豊栄地区(n=16)	18.8	-	-	-	-	18.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31.3	31.3
	河内地区(n=31)	6.5	25.8	3.2	3.2	-	12.9	6.5	3.2	-	-	-	3.2	-	-	3.2	19.4	12.9	
安芸津地区(n=72)	12.5	11.1	5.6	5.6	-	6.9	4.2	1.4	2.8	-	2.8	-	-	-	-	-	27.8	19.4	

※数値の太字は、属性における割合が最も高いものを示す。数値の薄い色付き全体より5～10ポイント未満の範囲で高いもの、数値の濃い色付きは全体より10ポイント以上高いものを示す。

<資料編>

令和4年度 東広島市市民満足度調査
調査票

令和4年度 東広島市市民満足度調査 ご協力のおねがい

～市民のみなさまのご意見をお聞かせください～

市民のみなさまには、日頃から本市の行政運営にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、少子高齢化など急激に変化する社会情勢の中、変化への対応と持続的な発展の両立を図りながら今後のまちづくりに取り組んでいくため、市の最上位計画である「第五次東広島市総合計画」を策定しました。

そこで、市の施策に対する満足度や重要度などについて、広く市民の皆様のお考えやご意見を伺い、今後の施策に反映していくため、「東広島市市民満足度調査」を実施することといたしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年7月

東広島市長 高垣 廣徳

■このアンケート調査について

- ・この調査は、東広島市に住民登録をされている18歳以上の方（令和4年5月31日現在）の中から無作為に抽出した2,500の方を対象に、アンケート調査を行うものです。
- ・回答内容は統計処理を行うため、個人が特定されることはありません。なお、ご回答いただいた内容は、本調査の目的以外には一切使用いたしません。
- ・お送りしたあて名のご本人がお答えください。
ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意思を反映してご家族の方などが記入してください。
- ・ご回答いただいた「調査票」は、同封の返信用封筒に入れて、令和4年7月28日（木）までに郵便ポストに投函してください。（切手は不要です）
- ・この「調査票」に記入する代わりに、インターネットからも回答ができます。
どちらかの方法で回答してください。

インターネットでの回答はこちらから

アドレス：

○ウェブブラウザのインターネットアドレス欄に、上記のアドレスを全て半角の英小文字で入力し、キーボードの「Enter」キーを押してください。

○スマートフォンの場合は、右記の二次元コードを読み取り、回答ページにアクセスして回答いただけます。

二次元コード



- ・ご不明な点などがありましたら、下記の担当までお問い合わせください。

■お問い合わせ先

東広島市役所 総務部 政策推進監（担当：上田）

〒739-8601 東広島市西条栄町8-29

TEL：082-420-0917 FAX：082-420-0402

E-mail：hgh200917@city.higashihiroshima.lg.jp

令和4年度 市民満足度調査 調査票

■ご記入上の注意点

- この「調査票」は、どなたのものか分からないようになっています。
回答内容は統計処理を行うため、個人が特定されることはありません。日頃、お考えのことやお感じになられていることなどをそのままご記入ください。
- ご回答は、当てはまるものの番号を指示された数だけ○で囲んでください。
- 「その他」に当てはまる場合は、具体的な内容を（ ）内にご記入ください。

1 現在の住環境についておたずねします。

問1 あなたは、東広島市にお住まいになって何年位になりますか。(1つだけ選んで○をお付けください)
※合併前の旧市・旧町を含めてお答えください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1 1年未満 | 2 1年以上5年未満 | 3 5年以上10年未満 |
| 4 10年以上20年未満 | 5 20年以上30年未満 | 6 30年以上 |

問2 あなたは、東広島市の住み心地についてどう感じていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------------|
| 1 大変住みやすい | 2 どちらかといえば住みやすい | 3 どちらかといえば住みにくい |
| 4 住みにくい | 5 どちらともいえない | |

問3 あなたは、今後も東広島市に住み続けたいと思いますか。

(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 2 当分の間住み続けたい |
| 3 市内の他の地域へ移りたい | 4 他市町村へ移りたい |
| 5 わからない | |

問3で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」とお答えの方におたずねします。

問3-1 住み続けたい理由は何ですか。(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 職場や学校に近く、通勤・通学が便利 | 2 移動環境(高速道路や空港、電車など)が整備されており便利 |
| 3 買いものなどの日常生活が便利 | 4 文化施設や遊ぶところがあり、充実した余暇を過ごせる |
| 5 医療機関や福祉サービスが充実している | 6 豊かな自然に恵まれている |
| 7 地域に愛着と誇りを持っている | 8 大学が立地し、成長を続けるなど都市のイメージがよい |
| 9 保育・教育環境が充実しているなど、子育て環境がよい | 10 地価や家賃が安い(広い家屋や敷地で暮らせる) |
| 11 騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい | 12 気候がよく、住みやすい |
| 13 犯罪や災害が少なく、暮らしていて安全 | 14 親や子、親戚が近くに住んでいる |
| 15 その他() | 16 特に理由はない |

問3で「3 市内の他の地域へ移りたい」「4 他市町村へ移りたい」とお答えの方におたずねします。

問3-2 移転・転出したい理由は何ですか。(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 通勤・通学が不便 | 2 移動環境(高速道路や空港、電車など)の整備が不足しており不便 |
| 3 買いものなどの日常生活が不便 | 4 文化施設や遊ぶところが少なく、充実した余暇を過ごせない |
| 5 医療機関や福祉サービスが充実していない | 6 都心など、もっと都会に住みたい |
| 7 地域に愛着を感じない(地域に溶け込めない) | 8 発展途上であるなど、都市のイメージがよくない |
| 9 保育・教育環境が充実しておらず、子育て環境がよくない | 10 地価や家賃が高い |
| 11 騒音・悪臭など公害があり、住環境がよくない | 12 気候が悪く(暑い、寒いなど)、住みにくい |
| 13 犯罪や災害が多く、暮らしていて不安 | 14 家庭の都合により、転居したい |
| 15 進学や転勤の都合により、当面居住しているだけである | |
| 16 その他() | 17 特に理由はない |

過去に、東広島市に転居して来られた方におたずねします。

※生まれてから、東広島市内にずっとお住まいの方は問5へお進みください。

問4 転居して来られる際に重視したことは何ですか。(主な理由を3つまで選んで○をお付けください)

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 職場や学校に近く、通勤・通学が便利 | 2 移動環境(高速道路や空港、電車など)が整備されており便利 |
| 3 買いものなどの日常生活が便利 | 4 文化施設や遊ぶところがあり、充実した余暇を過ごせる |
| 5 医療機関や福祉サービスが充実している | 6 豊かな自然に恵まれている |
| 7 地域に愛着と誇りを持っている | 8 大学が立地し、成長を続けるなど都市のイメージがよい |
| 9 保育・教育環境が充実しているなど、子育て環境がよい | 10 地価や家賃が安い(広い家屋や敷地で暮らせる) |
| 11 騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境がよい | 12 気候がよく、住みやすい |
| 13 犯罪や災害が少なく、暮らしていて安全 | 14 親や子、親戚が近くに住んでいる |
| 15 その他() | 16 特に理由はない |

2 市政運営についておたずねします。

問5 国をはじめとした全国的な財政状況の悪化に伴い、従来どおりの行政サービスの維持さえ難しくなることも予想されます。

あなたは、今後の行政サービスのあり方について、どのようにお考えですか。

(1つだけ選んで○をお付けください)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 行政サービスが向上するなら、負担が増えても構わない |
| 2 現行の行政サービスを維持するためには、現状程度の負担はやむを得ない |
| 3 行政サービスが低下しても、現状程度の負担より少ない方がよい |
| 4 その他() |

3 市が実施している施策の満足度と今後の重要度についておたずねします。

問6 次の表は、東広島市が実施している各施策を示しています。
 あなたは、次の各項目の施策について、現在、どれくらい満足されていますか。
 また、今後のまちづくりを進めていくうえで、どれくらい重要だと思われますか。
 (各項目の満足度・重要度それぞれ1つずつ選んで○をお付けください)

項目	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
5-1 防災の強化・推進 (取組み例) 「地域における防災体制の充実」、「災害に強い基盤整備の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

1 産業分野について

項目	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
1-1 産学金官の連携による新産業の創出 「共同研究等による新事業・新産業の創出」、「試験研究機関等の誘致・連携」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-2 地元企業の創出・強化 「地域資源を活かした新たな事業の創出促進」、「中小企業の経営基盤の強化」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-3 商業・サービス業の集積・強化 「商業・サービス業の集積」、「中小企業者の経営基盤強化」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-4 産業集積の推進 「企業誘致・留置活動の促進」、「産業用地の確保・創出」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-5 農業の強化 「農業の担い手育成」、「農業経営体制の強化」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-6 森林の保全・整備 「林業生産基盤の整備」、「森林の保全」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-7 漁業・養殖業の推進 「漁業経営体の育成・強化」、「水産資源・漁場環境の活用」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-8 地域資源を活かした観光地づくり 「魅力的な観光地づくり」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1-9 労働・雇用環境の充実 「多様な雇用・就業機会の創出」「働き方の改革による生産性の向上」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

2 生活・環境分野について

2-1 住みよい都市の形成 「良好な土地利用のための規制と誘導」、「良好な市街地の形成」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-2 緑あふれる環境整備 「安全で快適な公園、緑地空間の整備」、「斎場、墓地の利便性向上」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

項 目	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
2-3 良好な住宅ストックの形成 「良好な住宅・宅地の形成促進」、「市営住宅の整備」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-4 公共交通網の充実 「地域住民の移動手段の確保・充実」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-5 道路網の整備 「日常的な生活道の整備、維持管理」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-6 ごみ減量化・リサイクルの推進 「廃棄物処理体制の充実」、「ごみの減量化・リサイクルの推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-7 良質な水の供給・整備 「安全な水の供給」「災害に強い水道の整備」「水道サービスの持続性の確保」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-8 汚水処理の推進 「公共下水道の整備、更新」、「浄化槽設置と適切な維持管理の促進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-9 環境汚染の防止 「水や大気などの環境汚染対策」、「環境保全意識の向上」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-10 自然環境・動植物の保全 「環境や動植物の保全」、「まちの美化活動推進や不法投棄防止」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-11 地球温暖化防止の推進 「地球温暖化対策の推進」、「環境問題に対する意識啓発」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-12 市民主体の地域社会の形成 「地域コミュニティの活性化」、「市民主体のまちづくり活動の活性化」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-13 市民参画の推進 「市民協働の推進」、「行政情報の積極的な提供」「多様な市民参画手法の確立」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-14 多文化共生の推進 「外国人市民の生活環境の充実」、「国際交流の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-15 国際貢献・留学生支援 「国際協力」、「留生活活動支援」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

3 人権・教育・芸術・文化・スポーツ分野について

3-1 人権・平和行政の推進 「人権教育の推進」、「男女共同参画の推進」、「平和行政の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-2 保育サービスの充実 「利用者ニーズに応じた保育環境・サービスの充実」、「児童の活動拠点づくり」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-3 教育環境の整備・充実 「学校施設・設備の充実」、「就学・就園に関する経済的な支援」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-4 学校教育の充実 「学校教育内容の充実」、「教職員の指導力の向上」、「特別支援教育の充実」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-5 青少年健全育成の推進 「青少年の健全育成を支える環境づくり」、「青少年問題への的確な対応」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-6 生涯学習活動の充実 「生涯学習機会の充実や情報提供」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-7 芸術・文化の活性化 「芸術・文化活動の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-8 歴史・文化財の保護と活用 「文化財の保護と活用」「文化財歴史展示施設の整備・充実」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3-9 スポーツ環境の形成 「イベントによるスポーツ活動の活性化」、「スポーツ施設の整備・充実」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

4 都市機能・移住・定住分野について

項目	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
4-1 大学や学生との交流・連携推進 「大学との連携推進」「学生の地域活動の促進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4-2 移住・定住の促進 「移住・定住希望者への支援・情報発信」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4-3 都市拠点・地域拠点の機能強化 「市内の都市拠点・地域拠点それぞれの機能強化」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4-4 地域の景観の保全・形成 「地域の景観保全と形成」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4-5 広域・高速交通体系の強化 「高速道路・幹線道路などの利便性向上」「市内外への円滑な移動手段の更なる改善」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4-6 情報通信技術の整備・活用 「インターネット利用環境の整備」、「マイナンバー制度の活用」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

5 防災・健康・医療・福祉分野について

5-1 防災の強化・推進 「地域における防災体制の充実」、「災害に強い基盤整備の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-2 市民の安全・安心社会の形成 「地域ぐるみの防犯対策の推進」、「安心できる消費者生活の実現」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-3 消防・救急・救助体制の強化 「迅速に対応できる消防体制の強化」、「救急体制の強化」、「火災予防の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-4 地域医療の構築 「地域医療の充実」、「救急医療体制の構築」、「医療保険の健全な運営」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-5 健康づくりの推進 「健康づくりの支援」、「介護予防の取組み支援」、「感染症等の予防」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-6 高齢者支援の推進 「高齢者の在宅生活が継続できる環境づくり」、「認知症の地域支援の推進」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-7 障害者支援の推進 「障害者の地域生活支援体制の形成」、「障害者の雇用・就労機会の充実」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-8 地域福祉の形成 「地域福祉の推進体制の充実」、「生活困窮者への自立支援」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5-9 子育て支援の充実 「子育てに関する切れ目ない支援の充実」、「子育てに伴う経済的負担の軽減」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

6 行政運営分野について

6-1 市民本位のサービスの提供・充実 「市民本位のサービス提供」「インターネットを活用したサービス提供の充実」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6-2 行政経営の向上 「計画的な財政運営」、「公共施設の適正配置」「近隣市町との機能分担」など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

4 「SDGs」についておたずねします。

問7 東広島市では、SDGsの達成に向けた取組みを推進することとしています。あなたは、「SDGs」という言葉をどの程度知っていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- 1 詳しく知っている 2 少し知っている 3 ほとんど知らない 4 全く知らない

問7で「1 詳しく知っている」「2 少し知っている」とお答えの方におたずねします。

問7-1 あなたは、普段の生活の中で、SDGsの目標を意識した行動をしていますか。

(1つだけ選んで○をお付けください)

- 1 している 2 ある程度している 3 ほとんどしていない 4 全くしていない

5 人権・男女共同参画についておたずねします。

問8 あなたは、次の①～④について、どのように感じていますか。また、⑤の考え方に賛成ですか、反対ですか。(それぞれの項目ごとに、当てはまるものを1つだけ選んで○をお付けください。)

項 目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも 言えない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	わからない
① 日常生活の中で、人権が大切にされている。	1	2	3	4	5	6
② 差別をなくすために、全ての人が自分の問題として考える必要がある。	1	2	3	4	5	6
③ 自分は絶対に差別をしない自信がある。	1	2	3	4	5	6
④ 地域社会（職場を含む。）において、男女の地位は平等と感じる。	1	2	3	4	5	6
⑤ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。	1	2	3	4	5	6

6 東広島市の特産品についておたずねします。

問9 次の項目の中で、東広島市の特産品だと思うものがありますか。

(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1 米 | 2 安芸津産かき |
| 3 安芸津マル赤馬鈴しょ | 4 東広島青なす |
| 5 原産西条柿 | 6 なす坊 |
| 7 でかピー君 | 8 グリーンアスパラガス |
| 9 白ネギ | 10 こまい菜 |
| 11 サムライねぎ | 12 日本酒 |
| 13 ジビエ | 14 その他：具体的な内容を記入してください |
| | () |

問10 東広島市の名物料理だと思うものがありましたら、お教えてください。(自由記入)

7 消費生活についておたずねします。

問11 あなたは、消費者トラブルに遭ったときの相談窓口である「消費生活センター」が東広島市に設置されていることを知っていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | | |
|-------------|-------------------|--------|
| 1 利用したことがある | 2 知っているが利用したことはない | 3 知らない |
|-------------|-------------------|--------|

問12 食品ロス(本来食べられるのに捨てられた食品)についておたずねします。

食品ロスが問題となっていることを知っていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | | | |
|-----------|-------------|-----------|----------|
| 1 よく知っている | 2 ある程度知っている | 3 あまり知らない | 4 全く知らない |
|-----------|-------------|-----------|----------|

問13 あなたは、食品ロスを減らす取組みをしていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| 1 積極的に
取り組んでいる | 2 ある程度
取り組んでいる | 3 あまり
取り組んでいない | 4 ほとんど
取り組んでいない |
|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|

問14 賞味期限と消費期限の違いを知っていますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

8 ごみの減量、資源化についておたずねします。

問15 次の行動の中で、あなたの家でごみの減量・資源化のために実施していることはありますか。
(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- 1 食品トレイや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出している
- 2 生ごみを乾燥させてから捨てている
- 3 生ごみの水分を絞ってから捨てている
- 4 生ごみのたい肥化を行い利用している
- 5 その他 ()
- 6 特に実施していることはない

問16 ご家庭の生ごみを収集し、たい肥化を行うこととなった場合、次のどの場所であれば生ごみを出してみたいと思いますか。(1つだけを選んで○をお付けください)

- 1 市役所や支所、出張所などの公共施設
- 2 お住まいの地域の地域センター
- 3 普段利用しているごみステーション
- 4 利用したくない
- 5 その他 ()

9 地域コミュニティ活動の参加状況についておたずねします。

問17 あなたの地域コミュニティ活動について、項目ごとに参加状況を教えてください。
(それぞれの項目ごとに、当てはまるものを1つだけを選んで○をお付けください)

項 目	過去1年間 以内に 参加した	過去1年間以内 ではないが 参加したことが ある	活動は知って いるが、 参加したこと はない	活動がない・ 活動があるか どうか 知らない
① 健康・福祉・医療 (お年寄りのお世話や子育て支援など)	1	2	3	4
② ふれあい・親睦行事 (地域おこし・まつりなど)	1	2	3	4
③ 文化・芸術・スポーツ (催しの運営など)	1	2	3	4
④ 環境活動 (美化活動、資源回収、清掃活動など)	1	2	3	4
⑤ 災害救援 (災害予防、被災者への支援など)	1	2	3	4
⑥ 地域安全 (犯罪や事故の予防)	1	2	3	4
⑦ 児童・青少年の健全育成 (体験学習・学童保育など)	1	2	3	4
⑧ 情報共有 (地域情報誌の発行など)	1	2	3	4
⑨ 地域経済の活性化 (バザー、特産品開発など)	1	2	3	4

10 住民自治協議会についておたずねします。

問18 あなたは、各地域のまちづくりに取り組んでおられる住民自治協議会を知っていますか。

(1つだけ選んで○をお付けください)

※ 住民自治協議会 … 小学校区単位（一部、旧小学校区）を基本に、市内48の地域におけるまちづくりを推進する団体

- 1 活動内容まで知っている 2 存在は知っているが活動内容は知らない 3 全く知らない

11 困りごとがあったときの相談先(相談相手)についておたずねします。

問19 日常生活で困りごとが発生したとき、家族（親族）以外では、誰（どこ）に相談しますか。

(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- | | |
|----------------|------------------------------------|
| 1 友人、知人、職場の人 | 2 近所の人 |
| 3 自治会の役員 | 4 民生委員・児童委員 |
| 5 見守りサポーター | 6 病院などの医療機関、薬局 |
| 7 ケアマネジャー・ヘルパー | 8 市役所の各窓口 |
| 9 地域包括支援センター | 10 福祉施設 |
| 11 社会福祉協議会 | 12 生活支援センター |
| 13 保育所、幼稚園、学校 | 14 どこに相談したらよいかわからない
(相談する人がいない) |

12 市内の大学との連携についておたずねします。

問20 東広島市では、市内大学との連携推進や、学生の地域活動を促進していますが、「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」と感じることはありますか。

(1つだけ選んで○をお付けください)

※市内に立地する大学：広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学、エリザベト音楽大学

- 1 ある
2 どちらかといえばある
3 どちらかといえはない
4 ない
5 わからない

問21 あなたは、どのようにしたら東広島市が「大学や学生の力を活かしたまちづくりを行っているまち」になると思いますか。(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

- 1 地域の産業、福祉、教育等に必要な人材が育成されている
- 2 まちづくりや政策などに関する調査や提言が積極的に行われている
- 3 地域の教育・文化・産業の活性化や発展への貢献が積極的に行われている
- 4 大学や学生と地域との交流・連携事業（ボランティアを含む。）が積極的に行われている
- 5 学生の市内での消費活動が積極的に行われている
- 6 市民に対して大学施設などが開放されている
- 7 大学の市民向け講座、学生主催のイベントが積極的に行われている
- 8 その他（)

13 運動・スポーツについておたずねします。

問22 あなたは、運動やスポーツが好きですか？ (1つだけ選んで○をお付けください)

- 1 するのも観るのも好き
- 2 どちらかといえばする方が好き
- 3 どちらかといえば観る方が好き
- 4 するのも観るのも嫌い
- 5 どれでもない、関心がない

問23 あなたは、現在週に1日以上スポーツや運動を行っていますか？

(ウォーキングやラジオ体操、いきいき体操ひがしひろしまなどもスポーツ・運動に含みます。)
(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | |
|---------|----------|
| 1 行っている | 2 行っていない |
|---------|----------|

問23で、「2 行っていない」とした人のみ回答してください。

問23-1 今後、運動・スポーツを始めてみたいと思いますか？ (1つだけ選んで○をお付けください)

- | | | | |
|-----------|--------|-------------|----------|
| 1 大いにやりたい | 2 やりたい | 3 あまりやりたくない | 4 やりたくない |
|-----------|--------|-------------|----------|

問24 令和3年度に、市や地域の運動・スポーツ行事に参加したことがありますか？

(1つだけ選んで○をお付けください)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 参加したことがある | 2 参加したことがない |
|-------------|-------------|

問25 東広島市のスポーツ振興に関して重要と思うことは何ですか？

(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- 1 身近なところで、気軽につかえる公共施設を整備する
- 2 施設の使用料金を安くする
- 3 スポーツ施設やスポーツ行事・教室の情報提供を積極的に行う
- 4 スイミングクラブ、スケートリンク場などの商業スポーツ施設を増やす
- 5 総合運動場や市民体育館などの大型の公共施設を整備する
- 6 運動・スポーツの指導者を増やす
- 7 地域のスポーツ組織を整備する
- 8 その他 ()

14 生涯学習についておたずねします。

問26 あなたは、この1年間にどのような生涯学習を行いましたか。

(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- 1 市役所、地域センターなどの公共機関が行う講座・教室
- 2 民間の個人や、カルチャーセンター、スポーツクラブなどが行う講座・教室
- 3 学校（大学や各種学校など）が行う公開講座、社会人入学の講座
- 4 地域のサークルやグループでの活動
- 5 職場、学校のクラブやサークルでの活動
- 6 住民自治協議会、PTA、子ども会、女性会などの地域団体での活動
- 7 ボランティア活動
- 8 美術館・図書館などの公共施設の利用
- 9 本、テレビやラジオの番組、インターネットなどの個人学習
- 10 特に行っていない
- 11 その他 ()

問27 あなたは、問26の生涯学習に満足していますか。(1つだけ選んで○をお付けください)

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば、満足している
- 3 どちらかといえば、満足していない
- 4 満足していない

問28 あなたは、生涯学習を進めていくためには、東広島市はどのような取組みに力を入れるべきだと思いますか。(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- 1 生涯学習に関する講座やイベントの情報を、多様な手段を用いて提供する
- 2 生涯学習の意義や必要性について啓発する
- 3 超高齢化、少子化、防災など、地域が直面する課題解決のための講座を充実させる
- 4 大学、試験研究機関などと連携した講座を充実させる
- 5 生涯学習を始めるきっかけとなるような講座やイベントを充実させる
- 6 学んだ成果を発表する機会を充実させる
- 7 仕事や就職、資格取得に活かせる講座や講習会を充実させる
- 8 生涯学習を支援する人材の育成や配置を充実させる
- 9 地域コミュニティの維持、活性化へつながるようなボランティア団体・サークルを育成する
- 10 指導者やまちづくりリーダーなどの人材を育成する講座を充実させる
- 11 ボランティア活動に関する情報をもっと提供する
- 12 生涯学習センターや地域センターなど、生涯学習ができる場所を周知し、設備を充実させる
- 13 講座やイベントの開催時期や時間を市民のニーズに合わせる
- 14 生涯学習をするために要する費用を助成する
- 15 その他 ()
- 16 現状のままでよい

15 防災についておたずねします。

問29 土砂災害警戒区域など(※)にお住まいですか。
(当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)

- 1 土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に住んでいる
- 2 洪水浸水想定区域内に住んでいる
- 3 高潮・津波洪水浸水想定区域内に住んでいる
- 4 区域外に住んでいる
- 5 分からない

※土砂災害警戒区域など

山麓部でのがけ崩れや土石流による土砂災害、市街地などでの洪水(河川氾濫)や海岸付近での高潮による浸水の危険性がある区域は、法令に基づき、県が調査し、指定・公表されています。市が発令する避難指示などの避難情報は、基本的に、これら危険な区域に対して発令します。

問30 台風や大雨などの災害に関する情報をどこから入手していますか。

(主なものを3つまで選んで○をお付けください)

1 市防災メール	2 市民ポータルサイトの通知サービス
3 広島県防災情報メール通知サービス	4 広島県防災WEB
5 気象庁ホームページ	6 防災関係アプリやWEBサイト
7 Twitter、LINEなどのSNS	8 緊急告知ラジオ
9 地上デジタル放送NHKなどのdボタンによる防災情報	10 テレビ・ラジオなど
11 KAMONケーブルテレビ	12 市広報車
13 家族・友人・知人など	14 特に入手していない
15 その他 ()	

問30-1 問30で回答された情報のうち、避難のきっかけとなる情報はどれですか。

1つだけ選んで、右の枠内に番号をお書きください。

避難をされない方は「16」と回答して下さい。

16 最後に、あなた自身について教えてください。

それぞれの項目ごとに、当てはまるものを1つだけ選んで○をお付けください。

(1) あなたの性別は	1 男性	2 女性	3 その他	
(2) あなたの年齢は	1 18～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳	4 40～49歳
	5 50～59歳	6 60～69歳	7 70歳以上	
(3) あなたの家族構成は	1 1人世帯	2 1世代世帯(夫婦のみ)		
	3 2世代世帯(親と子)	4 3世代世帯(親と子と孫)		
	5 その他の世帯 ()			
(4) あなたの家族(同居)に18歳未満の子どもはいますか	1 はい	2 いいえ		
(5) あなたの家族(同居)に65歳以上の方はいますか	1 はい	2 いいえ		
(6) あなたのご職業は	1 自営業(農林水産業等従事者も含む)	2 会社員等(団体職員・公務員・会社役員・専門職も含む)		
	3 アルバイト・パート	4 派遣社員・契約社員		
	5 学生・専門学校生	6 家事専業		
	7 無職	8 その他 ()		

(7) あなたの居住地は	1 西条地区 4 高屋地区 7 豊栄地区	2 八本松地区 5 黒瀬地区 8 河内地区	3 志和地区 6 福富地区 9 安芸津地区
(8) あなたの通勤(職場)・通学(学校)先は	1 市内	2 市外	3 なし
(9) あなたの主な移動手段は	1 徒歩(車椅子を含む) 4 自動車 7 タクシー	2 自転車 5 家族の送迎 8 その他()	3 原付自動車・自動二輪車 6 バス・鉄道
(10) 現在のお住まいの種類は	1 戸建て持ち家 3 分譲マンション 5 社宅・官舎・寮 7 その他()	2 戸建て借家 4 賃貸マンション・アパート 6 公営住宅	
(11) あなたがお持ちの端末を教えてください。 (当てはまるもの全てを選んで○をお付けください)	1 スマートフォン 4 市が販売あるいは配布した緊急告知ラジオ 6 その他() 7 特に持っていない	2 携帯電話(従来型)	3 タブレット 5 パソコン

17 市政に対するご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて **令和4年7月28日(木)まで** に郵便ポストにご投函ください

令和4年度 東広島市市民満足度調査報告書

令和4年11月 発行

発行 東広島市
編集 総務部 政策推進監
〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号
TEL 082-420-0917
E-Mail hgh200917@city.higashihiroshima.lg.jp